

**宝塚市障害福祉計画（第7期計画）・
宝塚市障害児福祉計画（第3期計画）**

共通資料編

**令和6年（2024年）3月
宝 塚 市**

目次

アンケート調査結果	1
1. 調査概要	2
(1) 調査目的	2
(2) 調査方法	2
(3) 回収結果	2
(4) 報告書の見方	3
2. 調査結果の概要	6
(1) 相談	6
(2) 教育	7
(3) 啓発	8
(4) 就労	10
(5) 災害	11
(6) 医療	12
(7) 権利	13
(8) 生活	14
(9) バリアフリー	17
3. 調査結果	19
(1) 18 歳以上の障害者手帳非所持者向け調査結果	19
①基礎的事項	19
②障害者福祉への関心 ^が い	21
③障害のある人に対する理解 ^が い	22
④障害のある人への支援・ボランティアなど ^が い	25
⑤障害のある人の就労・教育 ^が い	29
⑥福祉のまちづくり	32
⑦宝塚市の障害者施策 ^が い	34
⑧自由意見	39
(2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者向け調査結果	41
①回答者の属性	41
②障害 ^が の状況	44
③介助の状況	48
④外出の状況	53
⑤日中の過ごし方	56
⑥通園・通学の状況	59
⑦仕事の状況や今後の希望	63

⑧サービスの利用	73
⑨情報の入手・相談	95
⑩権利擁護	101
⑪今後の暮らし	111
⑫保健・医療	126
⑬災害対策	130
⑭福祉全般	132
⑮自由意見	136
4. 資料編（調査票）	140
（1）18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査票	140
（2）障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者所証持者向け調査票	146
宝塚市 ^{がい} 障害者差別解消に関する条例	162
宝塚市手話言語条例	168

アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 調査目的

令和6年度を初年度とする「宝塚市障害福祉計画(第7期計画)・宝塚市障害児福祉計画(第3期計画)」の策定に当たり、市民の障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的とする。

(2) 調査方法

○対象者：18歳以上の障害者手帳非所持者 1,000人

障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者 3,000人

○抽出方法：無作為抽出

※障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者の抽出内容は以下のとおりです。

手帳所持者全体 (令和5年6月現在)		受給者証所持者	手帳のみ所持者	送付対象者	受給者証 所持者	手帳のみ 所持者
身体(※1)	7,353人	513人	6,840人	930人	80人	850人
療育	2,336人	1,539人	797人	930人	520人	410人
精神	2,067人	502人	1,565人	930人	190人	740人
手帳なし		938人		210人	210人	
合計	11,756人 (※2)	3,492人 (※2)	9,202人 (※2)	3,000人	1,000人	2,000人

※1 複数の部位で認定を受けている場合は、1人としてカウント。

※2 複数の手帳所持者については、重複してカウント。

○実施方法：郵送配布・郵送回収

○調査期間：令和5年8月2日(水)～8月15日(火)

(3) 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
【調査票①】 18歳以上の障害者手帳非所持者	1,000件	321件	32.1%
【調査票②】 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者	3,000件	1,284件	42.8%

(4) 報告書の見方

- 回答結果は、小数第2位を四捨五入した有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- 「n」（number of cases の略）は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示しています。
- 図表等の「身体」、「知的」、「精神」、「手帳なし」の表記については、アンケート設問の障害者手帳の所持状況（問4-1）の回答から算出した「身体障害者手帳所持者（身体障害者手帳を持っている人）」、「療育手帳所持者（療育手帳を持っている人）」、「精神障害者保健福祉手帳所持者（精神障害者保健福祉手帳を持っている人）」、「障害者手帳を持っていない（障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人）」をそれぞれ指します。なお、障害者手帳を複数所持している場合も含まれるため、合計と有効回収数は一致しません。
 - ・身 体：身体障害者手帳所持者
（身体障害者手帳を持っている人、身体障^{がい}碍のある人）
 - ・知 的：療育手帳所持者
（療育手帳を持っている人、知的障^{がい}碍のある人）
 - ・精 神：精神障害者保健福祉手帳所持者
（精神障害者保健福祉手帳を持っている人、精神障^{がい}碍のある人）
 - ・手帳なし：障害者手帳を持っていない
（障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人）

◎「障^{がい}」の表記について

平成31年(2019年)4月1日から、市で取り扱う公文書においては「障害」を「障^{がい}碍」と表記することとしており、法令や制度、個別の名称などを除いては、「障^{がい}碍」と表記しています。

「障^{がい}」には「さまたげ」や「バリア」の意義があり、このバリアは、個人の心身機能が原因で生じるのではなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な概念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。本市は、障^{がい}碍のある人の地域社会への参画の促進に取り組むなかで、この社会的障壁を取り除き、障^{がい}碍の有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う暮らしやすい社会の実現を図ります。

○障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者に対するアンケート調査においては地区別集計を実施しています。集計時の地区別住所及び地区担当事業所は以下の通りです。

また、今回のアンケートでは、下記の質問において地区別の集計も行っています。

(P.76) 問 14 の② 「使いたいときに使えないサービスはありますか。」

(P.86) 問 15 の② 「住んでいる地域に少ないと感じるサービスはどれですか。」

(P.114) 問 28 「あなたは、地域との関りに対してどのようにお考えですか。」

(P.119) 問 29 「地域との関りを持ちたくないのはなぜですか。」

地 区	住 所	地区担当事業所 ・ 委託相談支援事業所 ・ 地域包括支援センター
1 地区	伊子志 4 丁目 2～7、大吹町、小林、鹿塩、亀井町、光明町、御所の前町、駒の町、新明和町、末成町、大成町、高司、高松町、谷口町、塔の町、東洋町、中野町、仁川旭ガ丘、仁川うぐいす台、仁川北、仁川台、仁川高台、仁川高丸、仁川団地、仁川月見ガ丘、仁川宮西町、仁川清風台、福井町、美幸町、大字鹿塩	委：ななくさ育成園 地：小林地域包括支援センター
2 地区	青葉台、伊子志（4 丁目 2～7 を除く）、梅野町、逆瀬川、逆瀬台、寿楽荘、末広町、千種、長寿ガ丘、月見山、中州、野上、光ガ丘、宝松苑、宝梅、南口、武庫山、紅葉ガ丘、社町、ゆずり葉台、湯本町、大字伊子志、大字小林、大字蔵人	委：コミセン希望 地：逆瀬川地域包括支援センター
3 地区	旭町 1 丁目、泉ガ丘、川面、清荒神、御殿山、栄町、桜ガ丘、すみれガ丘、中山荘園、中山寺 3 丁目 4～6、米谷（1 丁目 13～14、21～40 を除く）、宮の町、武庫川町、売布、売布ガ丘、売布きよしガ丘、売布東の町、売布山手町、売布自由ガ丘、切畑字長尾山 11～13 番地、大字川面、大字米谷	委：ベルフラワー 地：御殿山地域包括支援センター
4 地区	安倉北、安倉中、安倉西、安倉南、旭町 2～3 丁目、泉町、今里町、金井町、向月町、寿町、小浜、鶴の荘、星の荘、米谷 1 丁目（13～14、21～40）、三笠町、美座、弥生町	委：スマレン 地：小浜地域包括支援センター
5 地区	中筋、中筋山手（7 丁目 4～20 を除く）、中山寺（3 丁目 4～6 を除く）、平井、南ひばりガ丘、山本中、山本西、山本野里、山本東、山本丸橋、山本南、長尾町、口谷西、口谷東、切畑字長尾山 4 番地	委：だんぼ 地：長尾地域包括支援センター

6地区	長尾台、中山桜台、中山五月台、中山台、花屋敷荘園、花屋敷つつじガ丘、花屋敷松ガ丘、花屋敷緑ガ丘、雲雀丘、雲雀丘山手、平井山荘、ふじガ丘、山手台西、山手台東、山本台、中筋山手7丁目4～20、中筋字長尾山9番地、切畑字長尾山（1～3、5～8、10、17番地）	委：聖隷はぐくみ花屋敷 地：花屋敷地域包括支援センター
7地区	上佐曽利、下佐曽利、香合新田、長谷、芝辻新田、大原野、波豆、境野、玉瀬、切畑、切畑字長尾山（1～8、10～13、17番地を除く）	委：コミセン希望 西谷 地：西谷地域包括支援センター

◎前回調査結果との比較について

令和3年度を初年度とする「宝塚市第5次障^{がい}碍者施策長期推進計画及び宝塚市障害福祉計画（第7期計画）・宝塚市障害児福祉計画（第3期計画）」の策定に当たり、令和元年度（2019年度）にアンケート調査を実施しています。

本アンケート調査の実施に当たっては、上記のアンケート調査における調査対象者の年代別の偏りを是正するために、調査対象者の抽出方法（年代別割合）を変更しています。

このため、調査対象者の抽出方法の変更によるアンケート調査結果全体の年齢構成が過年度調査と今年度調査で異なっています。過年度調査結果と今年度調査結果を比較する際には、この点に留意が必要です。

2. 調査結果の概要

調査票①→P.17～38 (1) 18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査結果

調査票②→P.39～137 (2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者向け調査結果

(1) 相談

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 障害^{がい}に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う身体障害^{がい}の人は 30.0%で、ふだんの情報の入手先は、「市の広報」が最も多く 42.5%となっています。(調査票②問 16・17)
- 身体障害^{がい}の人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 41.5%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「特にない」が最も多く 45.8%となっています。(調査票②問 18・19)

■ 療育手帳を持っている人

- 障害^{がい}に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う知的障害^{がい}の人は 27.0%で、ふだんの情報の入手先は、「友人・知人、近所の人」が最も多く 25.1%となっています。(調査票②問 16・17)
- 知的障害^{がい}の人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 45.7%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「特にない」が最も多く 36.4%となっています。(調査票②問 18・19)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 障害^{がい}に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う精神障害^{がい}の人は 18.6%で、ふだんの情報の入手先は、「市の広報」が最も多く 29.4%となっています。(調査票②問 16・17)
- 精神障害^{がい}の人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 46.6%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「どういった相談先があるかわからない」が最も多く 35.7%となっています。(調査票②問 18・19)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 障害^{がい}に関することや福祉サービスなどに関する情報を得られていると思う手帳なしの人は 28.8%で、ふだんの情報の入手先は、「インターネット（ホームページ）」が最も多く 33.3%となっています。(調査票②問 16・17)
- 手帳なしの人が悩みごとや困りごとがあったときの相談先は、「家族や親せき」が最も多く 53.0%で、悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることは、「どういった相談先があるかわからない」が最も多く 36.4%となっています。(調査票②問 18・19)

(2) 教育

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 障害のある人への市民の理解を深めるために必要なことは、「学校における福祉教育の充実」が最も多く 48.0%となっています。(調査票①問 11)
- 市民が思う障害のある子どもにとって望ましい就学環境は、「障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート」が最も多く 40.8%となっています。(調査票①問 19)

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 身体障害の人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「特になし」が最も多く 30.6%となっています。(調査票②問 21)
- 身体障害の人の通園・通学先は「小学校・中学校（特別支援学級）」「無回答」が最も多くそれぞれ 22.2%で、学校・園生活を送る上での課題は「通園・通学が大変」が最も多く 55.6%となっています。また、学校卒業後の進路は「働きたいとは思わない（働けない）」「無回答」が最も多く 22.2%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」「障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置」が最も多く 44.4%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

■ 療育手帳を持っている人

- 知的障害の人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 51.9%となっています。(調査票②問 21)
- 知的障害の人の通園・通学先は「小学校・中学校（特別支援学級）」が最も多く 32.1%で、学校・園生活を送る上での課題は「その他」が最も多く 35.2%となっています。また、学校卒業後の進路は「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 32.7%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置」が最も多く 45.7%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 精神障害の人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「小・中学校での福祉教育を充実させる」「特になし」が最も多くそれぞれ 26.0%となっています。(調査票②問 21)
- 精神障害の人の通園・通学先は「大学、専門学校、職業能力開発校」が最も多く 42.9%で、学校・園生活を送る上での課題は「学習サポート体制が不十分」「友達ができない」「特になし」「無回答」が最も多くそれぞれ 28.6%となっています。また、学校卒業後の進路は「会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）」が最も多く 42.9%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」「障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置」が最も多くそれぞれ 42.9%となっています。(調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 手帳なしの人が思う障害者に対する理解を深めるために今後力を入れるべきことは、「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 59.1%となっています。（調査票②問 21）
- 手帳なしの人の通園・通学先は「保育所、幼稚園、障害児通園施設」が最も多く 54.2%で、学校・園生活を送る上での課題は「その他」が最も多く 45.8%となっています。また、学校卒業後の進路は「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 47.9%で、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについては「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 52.1%となっています。（調査票②問 10-1・10-2・10-3・10-4）

（3）啓発

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 障害のある人の福祉に対して関心がある市民は 64.8%で、その理由としては「自分の身内や近所、知り合いに障害のある人がいる（いた）から」が最も多く 51.5%となっています。（調査票①問 5・6）
- 地域社会における障害のある人への対応や理解が足りないと思う市民は 46.1%で、対応や理解が足りないと思う具体的な場面は「交通機関や建築物の構造」が最も多く 60.8%となっています。（調査票①問 9・10）
- 障害のある人を対象とするボランティア活動をしたことがない（ないが関心はあるも含む）市民は 83.5%で、活動に参加するために必要なことは「時間の余裕」が最も多く 28.0%となっています。（調査票①問 14・15）
- 市民が思う障害のある人にしてみたい支援や活動内容は、「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）」が最も多く 17.4%となっています。（調査票①問 16）
- 市民に対する『宝塚市手話言語条例』の認知度は、3.7%となっています。（調査票①問 23）
- 宝塚市は障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思う市民は、16.8%となっています。（調査票①問 25）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 『宝塚市手話言語条例』について名前も内容も知っている身体障害者は 3.3%となっています。（調査票②問 36）
- 宝塚市が暮らしやすいと思う身体障害者は 56.9%で、障害のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「必要なサービスが、必要なときに利用できる」が最も多く 37.9%となっています。（調査票②問 37・38）

■ 療育手帳を持っている人

- 『宝塚市手話言語条例』について名前も内容も知っている知的障害^がい^いの人は2.7%となっています。(調査票②問 36)
- 宝塚市が暮らしやすいと思う知的障害^がい^いの人は 57.8%で、障害^がい^いのある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「必要なサービスが、必要なときに利用できる」「家族に何かあった時など、いざというときに利用できる施設がある」が最も多くそれぞれ 39.8%となっています。(調査票②問 37・38)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 『宝塚市手話言語条例』について名前も内容も知っている精神障害^がい^いの人は1.1%となっています。(調査票②問 36)
- 宝塚市が暮らしやすいと思う精神障害^がい^いの人は 55.7%で、障害^がい^いのある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「困ったことやわからないことを身近なところでいつでも気軽に相談できる」が最も多く 41.1%となっています。(調査票②問 37・38)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 『宝塚市手話言語条例』について名前も内容も知っている手帳なしの人は3.0%となっています。(調査票②問 36)
- 宝塚市が暮らしやすいと思う手帳なしの人は、が 56.1%で、障害^がい^いのある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことは、「療育・保育・就学など、障害^がい^い児に対する継続的な支援がある」が最も多く 53.0%となっています。(調査票②問 37・38)

(4) 就労

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 障害のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思う市民は 60.1%で、障害のある人が働くために必要な条件は「障害に合った仕事であること」が最も多く 60.1%となっています。(調査票①問 17・18)

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）身体障害者の人の就労形態は「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 46.8%で、現在の職場に就いたときの、障害や疾患の診断を受けた時期は「診断を受ける前」が最も多く 48.4%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「いずれも利用していない」が最も多く 64.5%となっています。(調査票②問 11-1・11-3・11-4)
- 現在、働いていない身体障害者の中で収入を得る仕事をしたい人は 8.1%で、希望する就労形態は「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 39.4%、職業訓練を受けたい人は 27.3%、働く際に必要な支援は「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が最も多く 33.3%、働く際に重視したい条件は「通勤にかかる時間、距離、交通手段」が最も多く 24.2%となっています。(調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5)
- 今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）身体障害者の人の理由は、「その他」が最も多く 40.9%となっています。(調査票②問 12-6)

■ 療育手帳を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）知的障害者の人の就労形態は「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 74.6%で、現在の職場に就いたときの、障害や疾患の診断を受けた時期は「前診断を受けた後」が最も多く 82.5%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「ハローワーク」が最も多く 42.9%となっています。(調査票②問 11-1・11-3・11-4)
- 現在、働いていない知的障害者の中で収入を得る仕事をしたい人は 40.9%で、希望する就労形態は「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 77.0%、職業訓練を受けたい人は 16.4%、働く際に必要な支援は「職場の障害への理解」が最も多く 42.6%、働く際に重視したい条件は「職場の障害への理解」が最も多く 32.8%となっています。(調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5)
- 今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）知的障害者の人の理由は、「障害が重い」が最も多く 51.9%となっています。(調査票②問 12-6)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）精神障害^がいの人の就労形態は「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 46.3%で、現在の職場に就いたときの、障害や疾患の診断を受けた時期は「前診断を受けた後」が最も多く 70.7%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「いずれも利用していない」が最も多く 42.7%となっています。（調査票②問 11-1・11-3・11-4）
- 現在、働いていない精神障害^がいの人で収入を得る仕事をしたい人は 38.7%で、希望する就労形態は「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 31.7%、職業訓練を受けたい人は 17.8%、働く際に必要な支援は「職場の障害^がいへの理解」が最も多く 53.5%、働く際に重視したい条件は「職場の障害^がいへの理解」が最も多く 23.8%となっています。（調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5）
- 今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）精神障害^がいの人理由は、「働くことが不安である」が最も多く 43.5%となっています。（調査票②問 12-6）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）手帳なしの人の就労形態は「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 100.0%で、現在の職場に就いたときの、障害^がいや疾患の診断を受けた時期は「無回答」が最も多く 100.0%となっています。また、現在の職場に就くために利用した支援機関は「いずれも利用していない」が最も多く 50.0%となっています。（調査票②問 11-1・11-3・11-4）
- 現在、働いていない手帳なしの人で収入を得る仕事をしたい人は 31.3%で、希望する就労形態は「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 60.0%、職業訓練を受けたい人は 20.0%、働く際に必要な支援は「職場の障害^がいへの理解」「自分に合った仕事をみつけられる支援（仕事探しや会社訪問への同行など）」がそれぞれ 40.0%、働く際に重視したい条件は「職場の障害^がいへの理解」「働く時間や休日、勤務形態（早出・常勤・遅出など）」「給料や賞与」「わからない」「無回答」が最も多くそれぞれ 20.0%となっています。（調査票②問 12-1・12-2・12-3・12-4・12-5）
- 今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）手帳なしの人の理由は、「その他」が最も多く 40.0%となっています。（調査票②問 12-6）

（５）災害

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 災害が起こったときに心配なことがある身体障害^がい人は 43.5%で、心配なことは、「避難所など、安全なところまで避難することができない」が最も多く 39.2%となっています。（調査票②問 34・35）

■ 療育手帳を持っている人

- 災害が起こったときに心配なことがある知的障害^がい人は 44.9%で、心配なことは、「自力で救助を求めることができない」が最も多く 42.3%となっています。（調査票②問 34・35）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○災害が起こったときに心配なことがある精神障害^{がいの}の人は 57.4%で、心配なことは、「必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない」が最も多く 42.3%となっています。(調査票②問 34・35)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○災害が起こったときに心配なことがある手帳なしの人は 47.0%で、心配なことは、「自力で救助を求めることができない」が最も多く 48.4%となっています。(調査票②問 34・35)

(6) 医療

■ 身体障害者手帳を持っている人

○宝塚市内のかかりつけの医師がいる身体障害^{がいの}の人は 73.5%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「その他」が最も多く 42.3%となっています。(調査票②問 30・31)

○身体障害^{がいの}の人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 40.4%で、障害^{がいの}のある人の保健・医療に必要なことは、「障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 47.3%となっています。(調査票②問 32・33)

■ 療育手帳を持っている人

○宝塚市内のかかりつけの医師がいる知的障害^{がいの}の人は 54.8%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 33.1%となっています。(調査票②問 30・31)

○知的障害^{がいの}の人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 38.8%で、障害^{がいの}のある人の保健・医療に必要なことは、「障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 49.5%となっています。(調査票②問 32・33)

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○宝塚市内のかかりつけの医師がいる精神障害^{がいの}の人は 65.4%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「その他」が最も多く 42.9%となっています。(調査票②問 30・31)

○精神障害^{がいの}の人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 38.3%で、障害^{がいの}のある人の保健・医療に必要なことは、「障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 47.7%となっています。(調査票②問 32・33)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○宝塚市内のかかりつけの医師がいる手帳なしの人は 75.8%で、宝塚市内にかかりつけの医師はいない人の理由は、「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 57.1%となっています。(調査票②問 30・31)

- 手帳なしの人が医療を受ける上で困っていることは、「特にない」が最も多く 60.6%で、^がい障害のある人の保健・医療に必要なことは、「早期発見・早期療育（治療）システムの確立」が最も多く 25.8%となっています。（調査票②問 32・33）

（7）権利

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- ^がい障害のある人に対して^がい障害を理由とする差別や偏見があると思う市民は 47.0%で、その中で以前と比べて改善されている市民は 66.9%となっています。（調査票①問 7・8）
- 市民に対する『宝塚市障害者差別解消に関する条例』の認知度は、1.6%となっています。（調査票①問 22）
- 市民に対する「成年後見制度」の認知度は、37.3%となっています。（調査票①問 24）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- ^がい障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある身体^がい障害の人は 24.8%で、場所（場面）としては、「電車やバスなどを利用するとき」が最も多く 36.1%で、その時の対応は、「親や家族に相談した」「泣き寝入りした（救済等をあきらめた）」が最も多く 33.0%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）
- 成年後見制度を詳しく知っている身体^がい障害の人は 30.2%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 16.5%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 69.2%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「親族が本人に必要な手続きや金銭管理をするため」が最も多く 31.7%となっています。（調査票②問 22-1・22-2・22-3・22-4）
- 『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を名前も内容も知っている身体^がい障害の人は 2.5%となっています。（調査票②問 23）

■ 療育手帳を持っている人

- ^がい障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある知的^がい障害の人は 55.1%で、場所（場面）としては、「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 56.3%で、その時の対応は、「親や家族に相談した」が最も多く 53.3%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）
- 成年後見制度を詳しく知っている知的^がい障害の人は 29.9%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 26.2%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 55.6%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「制度が分かりにくい」が最も多く 40.8%となっています。（調査票②問 22-1・22-2・22-3・22-4）
- 『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を名前も内容も知っている知的^がい障害の人は 4.5%となっています。（調査票②問 23）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

- 障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある精神障害^がい^いの人は 49.4%で、場所（場面）としては、「職場（仕事）」が最も多く 41.6%で、その時の対応は、「泣き寝入りした（救済等をあきらめた）」が最も多く 45.2%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）
- 成年後見制度を詳しく知っている精神障害^がい^いの人は 26.0%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 14.6%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 60.0%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「制度が分かりにくい」が最も多く 44.3%となっています。（調査票②問 22-1・22-2・22-3・22-4）
- 『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を名前も内容も知っている精神障害^がい^いの人は 0.9%となっています。（調査票②問 23）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

- 障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある手帳なしの人は 34.8%で、場所（場面）としては、手帳なしでは「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 65.2%で、その時の対応は、「親や家族に相談した」が最も多く 60.0%となっています。（調査票②問 20-1・20-2・20-3）
- 成年後見制度を詳しく知っている手帳なしの人は 30.3%で、今は必要としないが、将来は活用したい人は 1.5%となっています。また、現在、成年後見制度を活用している人の満足度は 25.0%で、成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）理由は、「制度が分かりにくい」が最も多く 34.5%となっています。（調査票②問 22-1・22-2・22-3・22-4）
- 『宝塚市障害者差別解消に関する条例』を名前も内容も知っている手帳なしの人は 0.0%となっています。（調査票②問 23）

（8）生活

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 市民の立場で、今後の宝塚市の障害者^がい^い施策において、行政以外で、障害のある人をサポートするのに望ましいと思う支援者は「専門機関や事業者等」が最も多く 35.2%で、強化することが望ましいと思う分野は「労働・雇用」が最も多く 42.4%となっています。（調査票①問 26・27）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している身体障害^がい^いの人は 43.1%で、介助や支援が必要な場面は「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く 68.1%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）
- 身体障害^がい^いの人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に 5 日以上）」が最も多く 30.2%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 37.0%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）
- 身体障害^がい^いの人の平日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 35.4%で、休日の主な外出目的は、「買い物」が最も多く 64.2%となっています。（調査票②問 9-1・9-2・9-3）

- 身体障害^{がい}の人における現在利用中のサービスは「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く 7.8%、使いたいときに使えないサービスは「短期入所」が最も多く 6.8%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「短期入所」が最も多く 6.1%となっています。（調査票②問 14(1)・14(2)・14(3)）
- 身体障害^{がい}の人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「何が利用できるか分からない」が最も多く 46.5%となっています。（調査票②問 15-1）
- 身体障害^{がい}の人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 55.2%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「家族の理解・支援」が最も多く 36.9%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「特にない」が最も多く 37.3%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「急病時などへの病院連絡等の対応」が最も多く 33.1%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）
- 身体障害^{がい}の人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 42.9%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「自分の生活や時間を大切にしたいから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 25.0%となっています。（調査票②問 28・29）

■ 療育手帳を持っている人

- ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している知的障害^{がい}の人は 59.9%で、介助や支援が必要な場面は「お金の管理」が最も多く 82.1%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）
- 知的障害^{がい}の人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に 5 日以上）」が最も多く 81.6%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 46.2%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）
- 知的障害^{がい}の人の平日の日中の主な過ごし方は、「通園・通学している」が最も多く 43.3%で、休日の主な外出目的は、「買い物」が最も多く 52.1%となっています。（調査票②問 9-1・9-2・9-3）
- 知的障害^{がい}の人における現在利用中のサービスは「放課後等デイサービス」が最も多く 9.1%、使いたいときに使えないサービスは「放課後等デイサービス」「移動支援」が最も多く 6.9%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「放課後等デイサービス」が最も多く 8.9%となっています。（調査票②問 14(1)・14(2)・14(3)）
- 知的障害^{がい}の人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「何が利用できるか分からない」が最も多く 32.5%となっています。（調査票②問 15-1）
- 知的障害^{がい}の人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 35.6%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「経済的な負担の軽減」が最も多く 35.6%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「趣味やサークル活動」が最も多く 33.7%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援」が最も多く 38.2%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）

○知的障^{がい}碍の人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 35.0%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 48.7%となっています。（調査票②問 28・29）

■ 精神障^{がい}害者保健福祉手帳を持っている人

○ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している精神障^{がい}害の人は 43.1%で、介助や支援が必要な場面は「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く 70.2%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）

○精神障^{がい}害の人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に 5 日以上）」が最も多く 41.1%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 22.1%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）

○精神障^{がい}害の人の平日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が最も多く 33.4%で、休日の主な外出目的は、「買い物」が最も多く 65.7%となっています。（調査票②問 9-1・9-2・9-3）

○精神障^{がい}害の人における現在利用中のサービスは「就労継続支援（B型）」が最も多く 9.9%、使いたいときに使えないサービスは「移動支援」が最も多く 11.3%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「就労継続支援（B型）」が最も多く 7.5%となっています。（調査票②問 14(1)・14(2)・14(3)）

○精神障^{がい}害の人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「何が利用できるか分からない」が最も多く 47.4%となっています。（調査票②問 15-1）

○精神障^{がい}害の人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 47.1%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「経済的な負担の軽減」が最も多く 40.0%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「特になし」が最も多く 38.6%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「悩み事の相談や話し相手」が最も多く 33.7%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）

○精神障^{がい}害の人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 26.9%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 35.2%となっています。（調査票②問 28・29）

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要している手帳なしの人は 45.5%で、介助や支援が必要な場面は「外出（通学・通勤、通院を含む）」が最も多く 70.0%となっています。（調査票②問 7-1・7-2）

○手帳なしの人の外出の頻度は、「ほぼ毎日（週に 5 日以上）」が最も多く 83.3%で、外出する際に付き添ってくれる人が必要な人は 53.1%となっています。（調査票②問 8-1・8-2）

○手帳なしの人の平日の日中の主な過ごし方は、「通園・通学している」が最も多く 72.7%で、休日の主な外出目的は、「買い物」が最も多く 45.5%となっています。（調査票②問 9-1・9-2・9-3）

- 手帳なしの人における現在利用中のサービスは「児童発達支援」が最も多く 87.4%、使いたいときに使えないサービスは「児童発達支援」が最も多く 86.6%、今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）は、「児童発達支援」「放課後等デイサービス」が最も多く 82.6%となっています。（調査票②問 14(1)・14(2)・14(3)）
- 手帳なしの人がサービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 57.1%となっています。（調査票②問 15-1）
- 手帳なしの人が思う将来の暮らし方は、「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く 37.9%で、地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）は、「経済的な負担の軽減」が最も多く 34.8%、地域で生活する上で参加したい地域活動や行事は、「盆踊り、夏祭り、地蔵まつりなどの地域のおまつり」が最も多く 33.3%、地域で生活していく上であってほしい支え合い活動は、「急病時などへの病院連絡等の対応」が最も多く 28.8%となっています。（調査票②問 24・25・26・27）
- 手帳なしの人と地域との関わりは、「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く 42.4%で、地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている理由は、「自分の生活や時間を大切にしたいから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 50.0%となっています。（調査票②問 28・29）

（９）バリアフリー

■ 18 歳以上の障害者手帳非所持者

- 市民が障害のある人に対して行った支援は、「車いすを押すなど、移動を手伝った」が最も多く 36.4%となっています。（調査票①問 12）
- 身体障害のある人の支援に関する市民の考えは、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 69.5%、知的障害のある人の支援に関する市民の考えについて、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 49.2%、精神障害のある人の支援に関する市民の考えについて、「その他（支援方法がわからないなど）」が最も多く 52.6%となっています。（調査票①問 13）
- 以前と比較して、まちの環境は、障害のある人が外出しやすく改善されていると思う市民は 49.2%で、特に問題のある市民の行動は「誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている」が最も多く 28.3%となっています。（調査票①問 20・21）

■ 身体障害者手帳を持っている人

- 身体障害の人が外出する時に困ることは「特にない」が最も多く 35.6%となっています。（調査票②問 8-3）

■ 療育手帳を持っている人

- 知的障害の人が外出する時に困ることは「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く 40.8%となっています。（調査票②問 8-3）

■ 精神障害者保健福祉手帳を持っている人

○精神障害^{がい}の人が外出する時に困ることは「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く 31.3%となっています。(調査票②問 8-3)

■ 障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

○手帳なしの人が外出する時に困ることは「特にない」が最も多く 51.6%となっています。(調査票②問 8-3)

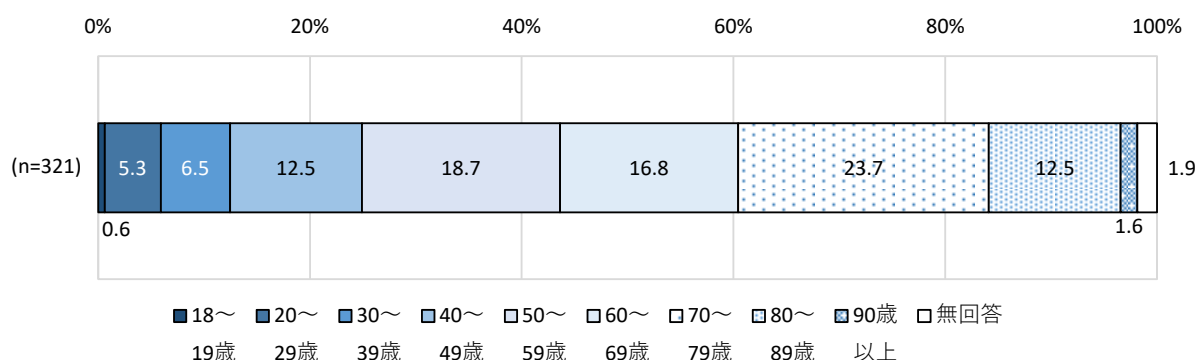
3. 調査結果

(1) 18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査結果

①基礎的事項

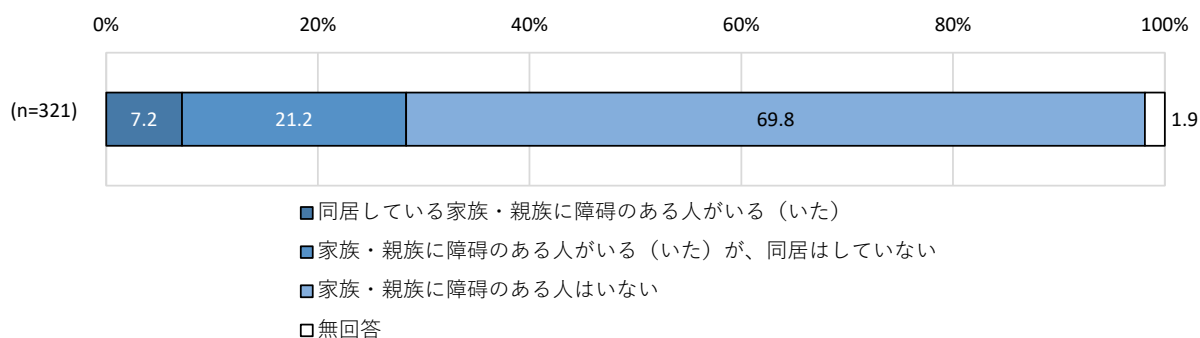
問1	あなたの年齢をお答えください。	数値記入
----	-----------------	------

回答者の年齢について、「70～79歳」が最も多く23.7%、次いで「50～59歳」が18.7%、「60～69歳」がそれぞれ16.8%となっています。



問2	あなたの家族・親族に、 ^が 障害のある人がいますか。	1つに○
----	---------------------------------------	------

^が障害のある家族・親族の有無について、「家族・親族に^が障害のある人はいない」が最も多く69.8%、次いで「家族・親族に^が障害のある人がいる（いた）が、同居はしていない」が21.2%、「同居している家族・親族に^が障害のある人がいる（いた）」が7.2%となっています。



		単位：%			
	n	同居している家族・親族に障害のある人がいる（いた）	家族・親族に障害のある人がいる（いた）が、同居はしていない	家族・親族に障害のある人はいない	無回答
全体	321	7.2	21.2	69.8	1.9
18～39歳	40	0.0	27.5	72.5	0.0
40～64歳	125	8.0	22.4	69.6	0.0
65歳以上	151	8.6	18.5	69.5	3.3

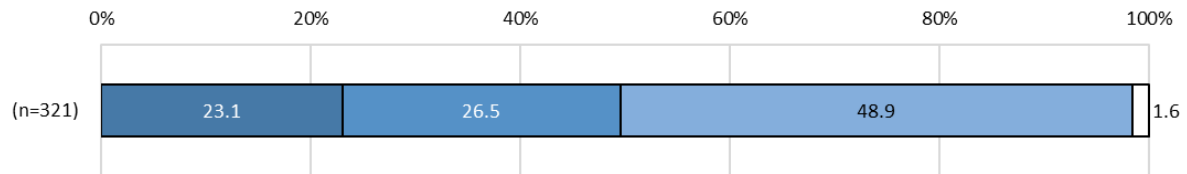
※「家族・親族」とは、おおむね、父母・祖父母・子・孫・きょうだい・おじ・おば・いとことします。

問 3

あなたは、障害^{がい}のある人の知り合いがいますか。

1 つに○

障害^{がい}のある人の知り合いの有無について、「いない」が最も多く 48.9%、次いで「いるが、自分の住んでいる地域にはいない」が 26.5%、「自分が住んでいる地域にいる」が 23.1%となっています。



- 自分が住んでいる地域にいる
- いるが、自分の住んでいる地域にはいない
- いない
- 無回答

単位：%

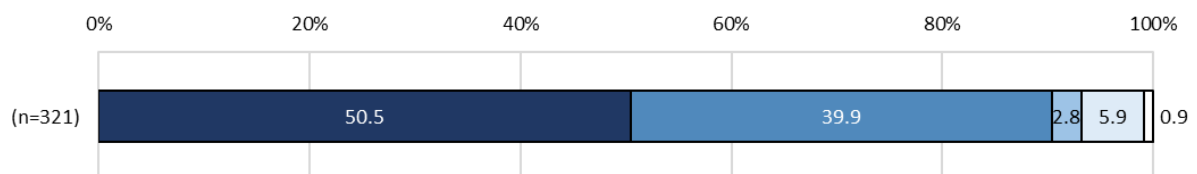
	n	自分が住 んでいる 地域に いる	いるが、 自分の住 んでいる 地域には いない	いない	無回答
全体	321	23.1	26.5	48.9	1.6
18～39歳	40	25.0	27.5	47.5	0.0
40～64歳	125	24.8	32.0	41.6	1.6
65歳以上	151	21.9	21.2	55.6	1.3

問 4

あなたは働いていますか。

1 つに○

就労状況について、「働いている」が最も多く 50.5%、次いで「働いていない（学生以外）」が 39.9%、「その他」が 5.9%となっています。



- 働いている
- 働いていない（学生以外）
- 学生
- その他
- 無回答

単位：%

	n	働いて いる	働いてい ない（学 生以外）	学生	その他	無回答
全体	321	50.5	39.9	2.8	5.9	0.9
18～39歳	40	72.5	7.5	20.0	0.0	0.0
40～64歳	125	80.8	18.4	0.0	0.8	0.0
65歳以上	151	19.9	66.9	0.0	11.9	1.3

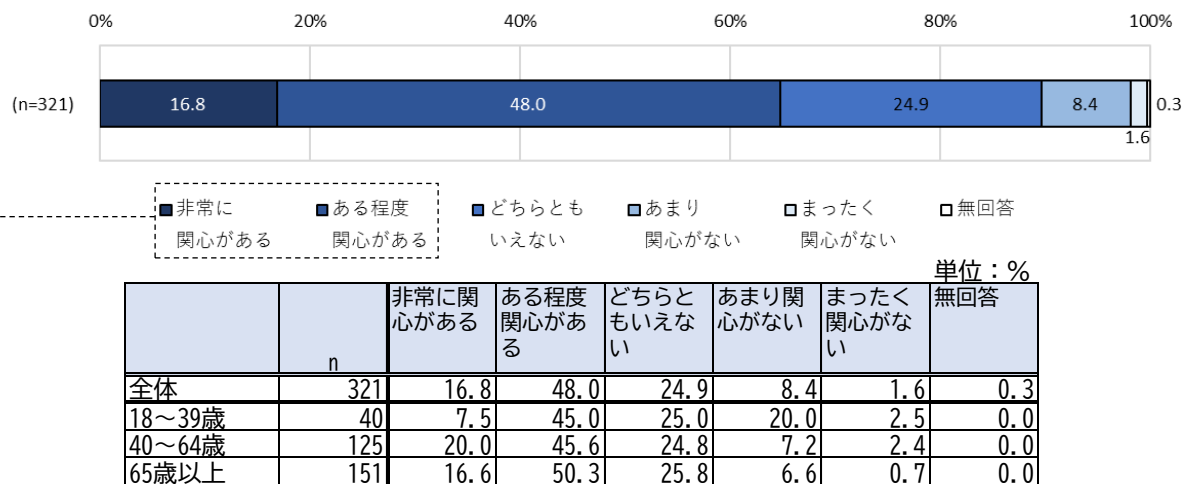
②障害者福祉への関心

問 5

あなたは、障害のある人の福祉について関心をお持ちですか。

1 つに○

障害のある人の福祉に対する関心について、「ある程度関心がある」が最も多く 48.0%、次いで「どちらともいえない」が 24.9%、「非常に関心がある」が 16.8%となっています。



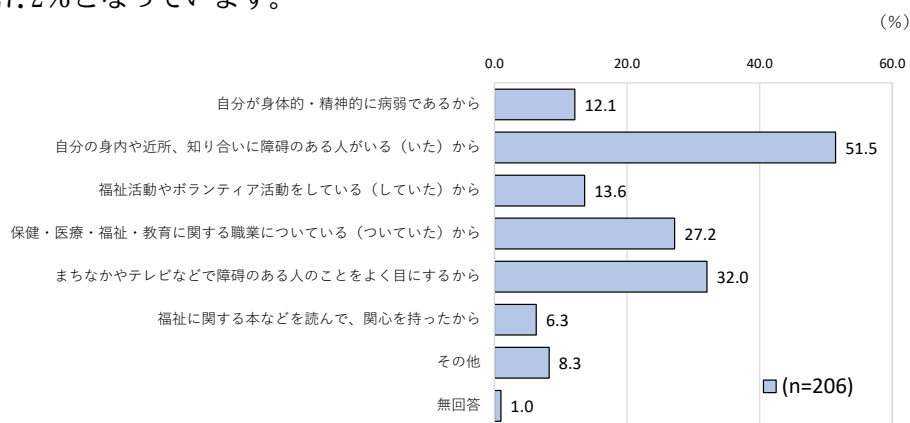
《問 5 で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします。》

問 6

どのような理由から、関心をお持ちですか。

すべてに○

障害のある人の福祉に関心がある人に、その理由について聞いたところ、「自分の身内や近所、知り合いに障害のある人がいる（いた）から」が最も多く 51.5%、次いで「まちなかやテレビなどで障害のある人のことをよく目にするから」が 32.0%、「保健・医療・福祉・教育に関する職業についている（ついていた）から」が 27.2%となっています。

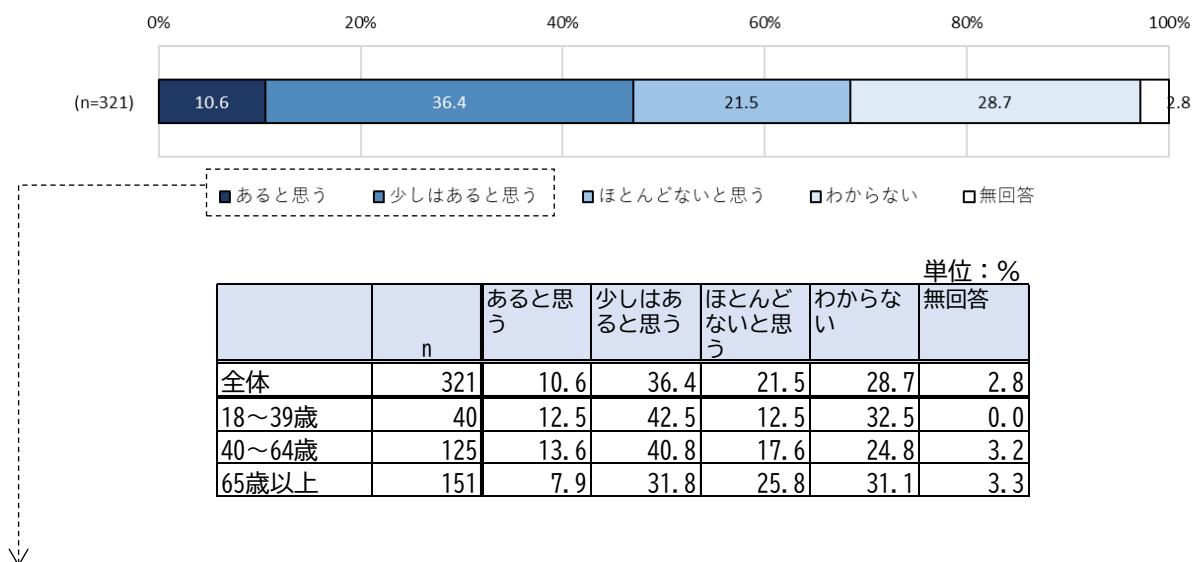


	n	自分が身 体的・精 神的に病 弱である から	自分の身 内や近 所、知り 合いに障 害のある 人がいる （いた） から	福祉活動 やボラン ティア活 動をして いる（し ていた） から	保健・医 療・福 祉・教育 に関する 職業につ いていて いる（つ いていた） から	まちなか やテレビ などで障 害のある 人のこと をよく目 にするか ら	福祉に関 する本な どを読んで、 関心を持 ったから	その他	無回答
全体	206	12.1	51.5	13.6	27.2	32.0	6.3	8.3	1.0
18～39歳	21	9.5	47.6	4.8	38.1	42.9	9.5	9.5	0.0
40～64歳	81	8.6	53.1	9.9	38.3	17.3	6.2	8.6	1.2
65歳以上	100	15.0	53.0	17.0	17.0	42.0	5.0	7.0	1.0

③障害のある人に対する理解

問7	あなたは、あなたが住む地域社会には障害のある人に対し、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。	1つに○
----	--	------

障害のある人に対して障害を理由とする差別や偏見について、「少しはあると思う」が最も多く 36.4%、次いで「わからない」が 28.7%、「ほとんどないと思う」が 21.5%となっています。

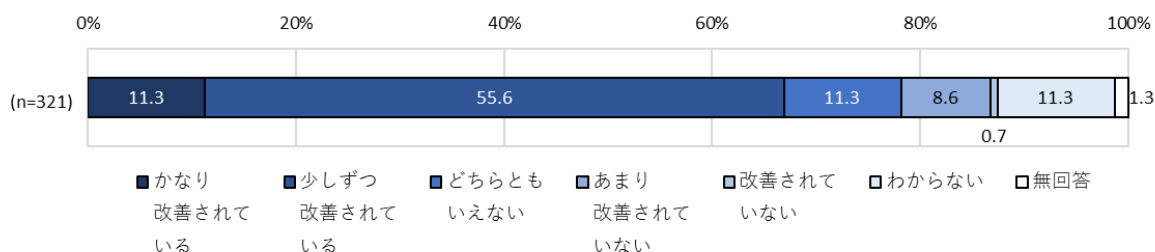


《問7で「1. あると思う」「2. 少しはあると思う」と回答した方にお聞きします。》

問8	以前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は、改善されていると思いますか。	1つに○
----	--	------

障害のある人に対して障害を理由とする差別や偏見があると思う人に、以前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は、改善されていると思うかについて聞いたところ、「少しずつ改善されている」が最も多く 55.6%、次いで「かなり改善されている」「どちらともいえない」「わからない」がそれぞれ 11.3%、「あまり改善されていない」が 8.6%となっています。

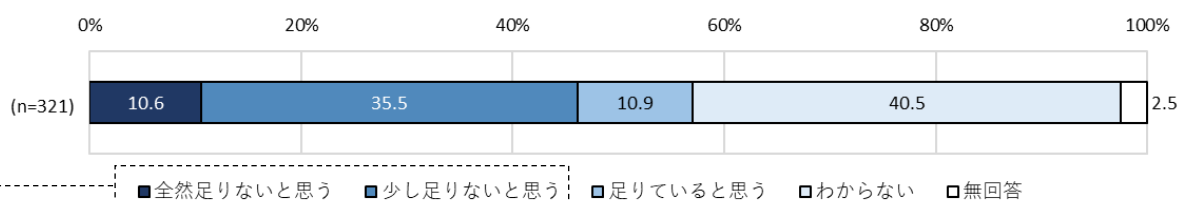
また、「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」を『改善されている』、「あまり改善されていない」と「改善されていない」を『改善されていない』とすると、『改善されている』が 66.9%、『改善されていない』が 9.3%で、『改善されている』が 57.6 ポイント多くなっています。



	n	かなり改善されている	少しずつ改善されている	どちらともいえない	あまり改善されていない	改善されていない	わからない	無回答
全体	151	11.3	55.6	11.3	8.6	0.7	11.3	1.3
18～39歳	22	4.5	50.0	13.6	0.0	0.0	31.8	0.0
40～64歳	68	11.8	58.8	11.8	8.8	1.5	5.9	1.5
65歳以上	60	13.3	53.3	10.0	11.7	0.0	10.0	1.7

問 9	あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域社会には障 ^{がい} 碍のある人への対応や理解が足りないと思いますか。	1 つに○
-----	--	-------

地域社会における障^{がい}碍のある人への対応や理解について、「わからない」が最も多く 40.5%、次いで「少し足りないと思う」が 35.5%、「足りていると思う」が 10.9%となっています。



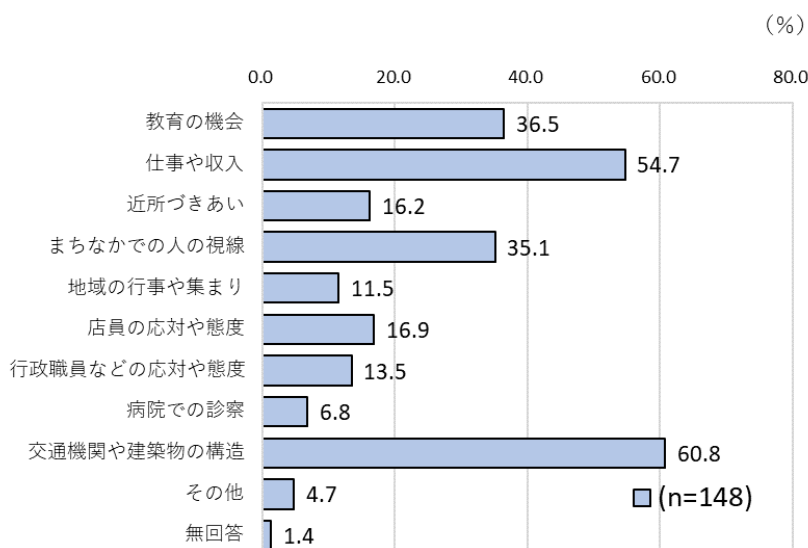
単位：%

	n	全然足りないと思う	少し足りないと思う	足りていると思う	わからない	無回答
全体	321	10.6	35.5	10.9	40.5	2.5
18～39歳	40	7.5	45.0	2.5	45.0	0.0
40～64歳	125	15.2	37.6	8.8	35.2	3.2
65歳以上	151	7.9	31.1	15.2	43.0	2.6

《問 9 で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と回答した方にお聞きします。》

問 10	それはどんな場合ですか。	すべてに○
------	--------------	-------

地域社会における障^{がい}碍のある人への対応や理解が足りないと思う人に、具体的な場面について聞いたところ、「交通機関や建築物の構造」が最も多く 60.8%、次いで「仕事や収入」が 54.7%、「教育の機会」が 36.5%となっています。



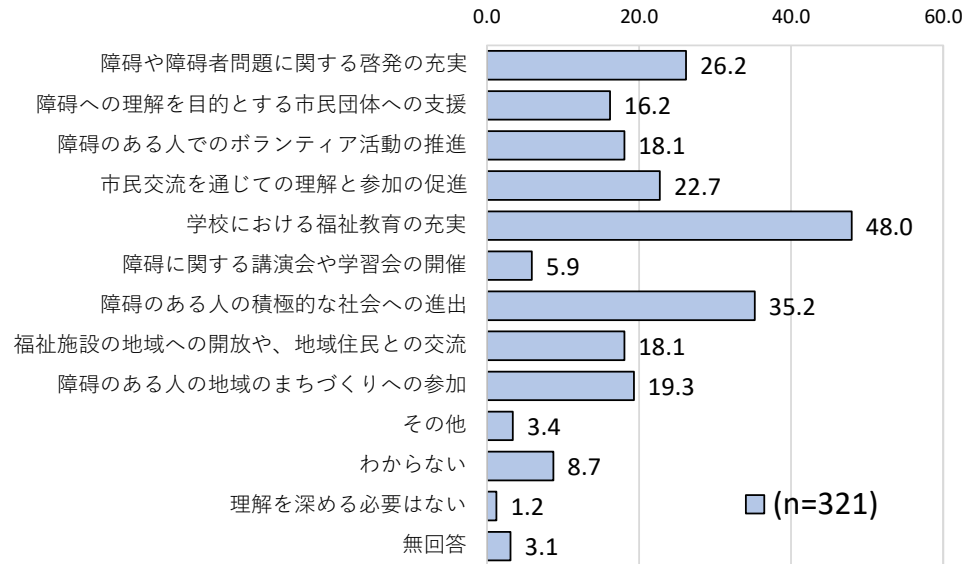
単位：%

	n	教育の機会	仕事や収入	近所づきあい	まちなかでの人の視線	地域の行事や集まり	店員の応対や態度	行政職員などの応対や態度	病院での診察	交通機関や建築物の構造	その他	無回答
全体	148	36.5	54.7	16.2	35.1	11.5	16.9	13.5	6.8	60.8	4.7	1.4
18～39歳	21	28.6	38.1	4.8	33.3	9.5	38.1	23.8	4.8	66.7	4.8	4.8
40～64歳	66	43.9	56.1	13.6	33.3	9.1	16.7	18.2	4.5	65.2	3.0	0.0
65歳以上	59	32.2	61.0	22.0	37.3	15.3	10.2	5.1	10.2	52.5	6.8	1.7

問 11	あなたは、 ^が い障害のある人への市民の理解を深めるためには、何が必要であると思いますか。	3 つまで○
------	--	--------

^がい障害のある人への市民の理解を深めるために必要なことについて、「学校における福祉教育の充実」が最も多く 48.0%、次いで「^がい障害のある人の積極的な社会への進出」が 35.2%、「^がい障害や障害者問題に関する啓発の充実」が 26.2%となっています。

(%)



	n	障害や障害者問題に関する啓発の充実	障害への理解を目的とする市民団体への支援	障害のある人でのボランティア活動の推進	市民交流を通じての理解と参加の促進	学校における福祉教育の充実	障害に関する講演会や学習会の開催	障害のある人の積極的な社会への進出	福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流	障害のある人の地域のまちづくりへの参加	その他	わからない	理解を深める必要はない	無回答
全体	321	26.2	16.2	18.1	22.7	48.0	5.9	35.2	18.1	19.3	3.4	8.7	1.2	3.1
18～39歳	40	15.0	12.5	15.0	17.5	70.0	7.5	37.5	17.5	20.0	7.5	10.0	0.0	2.5
40～64歳	125	28.0	14.4	14.4	20.8	51.2	6.4	40.0	18.4	22.4	2.4	8.8	0.0	1.6
65歳以上	151	27.8	18.5	20.5	26.5	39.1	4.6	30.5	18.5	17.2	3.3	8.6	2.6	4.6

単位：%

	n	障害や障害者問題に関する啓発の充実	障害への理解を目的とする市民団体への支援	障害のある人でのボランティア活動の推進	市民交流を通じての理解と参加の促進	学校における福祉教育の充実	障害に関する講演会や学習会の開催	障害のある人の積極的な社会への進出	福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流	障害のある人の地域のまちづくりへの参加	その他	わからない	理解を深める必要はない	無回答
全体	321	26.2	16.2	18.1	22.7	48.0	5.9	35.2	18.1	19.3	3.4	8.7	1.2	3.1
問9 全然足りないと思う	34	38.2	26.5	29.4	29.4	41.2	2.9	35.3	8.8	23.5	11.8	5.9	0.0	0.0
少し足りないと思う	114	27.2	21.1	14.0	19.3	59.6	6.1	37.7	21.9	19.3	1.8	4.4	0.9	2.6
足りていると思う	35	31.4	14.3	20.0	22.9	42.9	5.7	31.4	22.9	22.9	0.0	11.4	2.9	0.0
わからない	130	21.5	10.8	18.5	24.6	43.1	6.9	35.4	16.9	18.5	3.8	12.3	1.5	1.5

単位：%

④障^{がい}碍のある人への支援・ボランティアなど

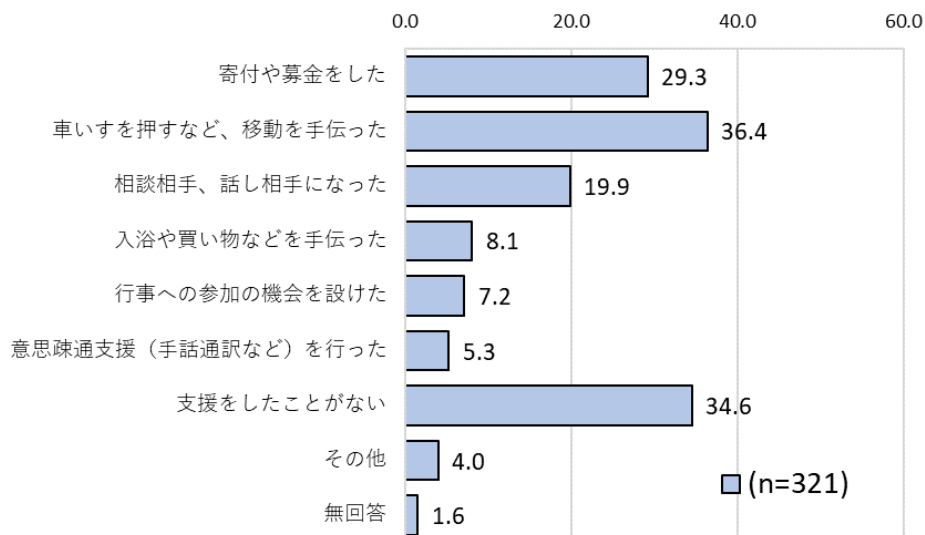
問 12

あなたは、今まで障^{がい}碍のある人へ、どのような支援を行ったことがありますか。

すべてに○

障^{がい}碍のある人に対して行った支援について、「車いすを押すなど、移動を手伝った」が最も多く 36.4%、次いで「支援をしたことがない」が 34.6%、「寄付や募金をした」が 29.3%となっています。

(%)



単位：%

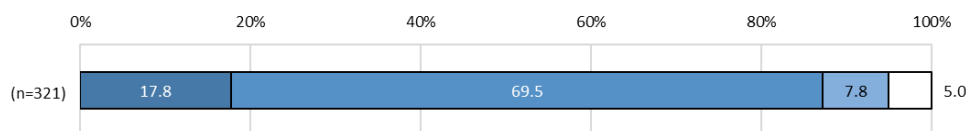
	n	寄付や募金をした	車いすを押すなど、移動を手伝った	相談相手、話し相手になった	入浴や買い物などを手伝った	行事への参加の機会を設けた	意思疎通支援（手話通訳など）を行った	支援をしたことがない	その他	無回答
全体	321	29.3	36.4	19.9	8.1	7.2	5.3	34.6	4.0	1.6
18～39歳	40	27.5	40.0	15.0	15.0	12.5	5.0	35.0	7.5	0.0
40～64歳	125	34.4	44.0	22.4	8.0	8.8	8.0	34.4	4.0	0.0
65歳以上	151	25.2	29.8	19.2	6.6	4.6	2.6	34.4	3.3	3.3

問 13①

あなたは、身体障^{がい}碍のある人の支援に関してどのような考えですか。

1つに○

身体障^{がい}碍のある人の支援に関する考えについて、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 69.5%、次いで「困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う」が 17.8%、「その他（支援方法がわからないなど）」が 7.8%となっています。



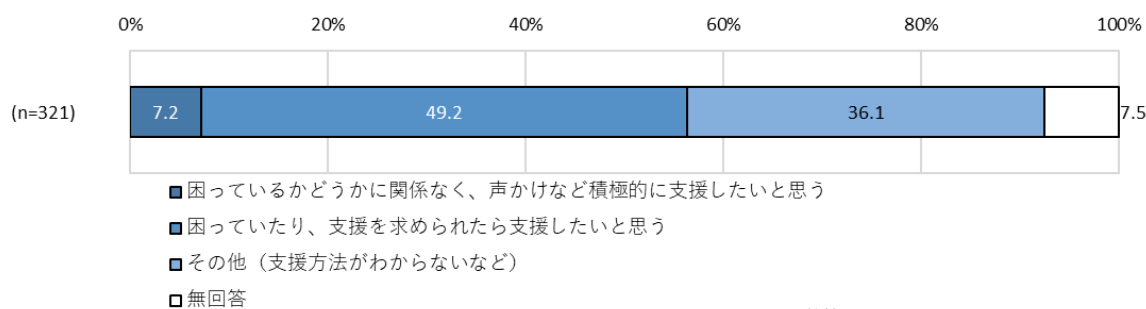
- 困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う
- 困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う
- その他（支援方法がわからないなど）
- 無回答

単位：%

	n	困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う	困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う	その他（支援方法がわからないなど）	無回答
全体	321	17.8	69.5	7.8	5.0
18～39歳	40	15.0	77.5	7.5	0.0
40～64歳	125	20.8	74.4	4.8	0.0
65歳以上	151	16.6	63.6	9.3	10.6

問 13②	あなたは、知的障害 ^が のある人の支援に関してどのような考えですか。	1 つに○
--------------	---	-------

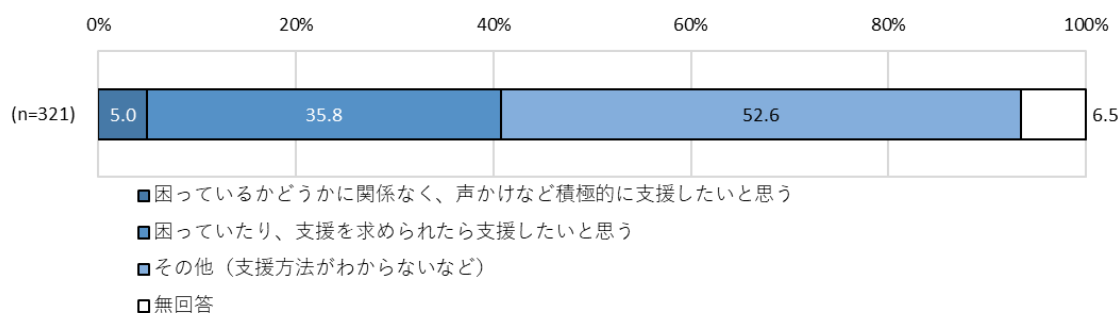
知的障害^がのある人の支援に関する考えについて、「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が最も多く 49.2%、次いで「その他（支援方法がわからないなど）」が 36.1%、「困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う」が 7.2%となっています。



		単位：%			
	n	困っている かどうかに関 係なく、声 かけなど積 極的に支 援したい と思う	困ってい たり、支 援を求め られたら 支援した いと思う	その他 （支援方 法がわか らないな ど）	無回答
全体	321	7.2	49.2	36.1	7.5
18～39歳	40	7.5	60.0	32.5	0.0
40～64歳	125	10.4	51.2	37.6	0.8
65歳以上	151	4.6	44.4	35.8	15.2

問 13③	あなたは、精神障害 ^が のある人の支援に関してどのような考えですか。	1 つに○
--------------	---	-------

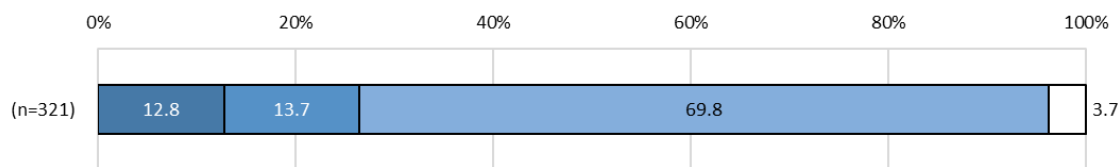
精神障害^がのある人の支援に関する考えについて、「その他（支援方法がわからないなど）」が最も多く 52.6%、次いで「困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う」が 35.8%、「困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う」が 5.0%となっています。



		単位：%			
	n	困っている かどうかに関 係なく、声 かけなど積 極的に支 援したい と思う	困ってい たり、支 援を求め られたら 支援した いと思う	その他 （支援方 法がわか らないな ど）	無回答
全体	321	5.0	35.8	52.6	6.5
18～39歳	40	5.0	50.0	45.0	0.0
40～64歳	125	7.2	38.4	54.4	0.0
65歳以上	151	2.6	29.8	53.6	13.9

問 14	あなたは、 ^が 障害のある人を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。	1 つに○
------	---	-------

^が障害のある人を対象とするボランティア活動の有無について、「ない」が最も多く 69.8%、次いで「ないが関心はある」が 13.7%、「ある」が 12.8%となっています。



■ある ■ないが関心はある ■ない □無回答

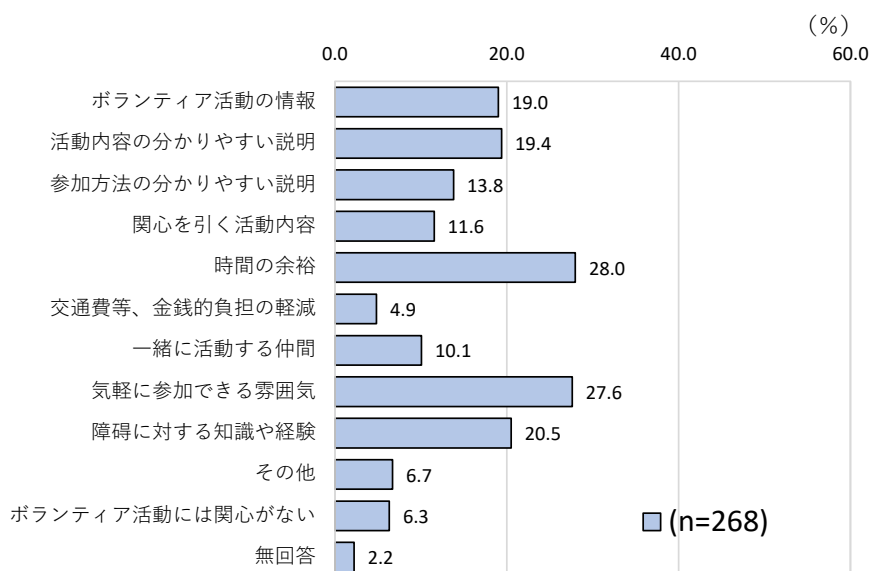
単位：%

	n	ある	ないが関心はある	ない	無回答
全体	321	12.8	13.7	69.8	3.7
18～39歳	40	25.0	12.5	62.5	0.0
40～64歳	125	13.6	18.4	64.8	3.2
65歳以上	151	7.9	9.9	76.8	5.3

《問 14 で「2. ないが関心はある」または「3. ない」と回答した方にお聞きします。》

問 15	活動に参加するためには何が必要ですか。	2 つまで○
------	---------------------	--------

^が障害のある人を対象とするボランティア活動をしたことがない（ないが関心はあるを含む）人に、活動に参加するために必要なことについて聞いたところ、「時間の余裕」が最も多く 28.0%、次いで「気軽に参加できる雰囲気」が 27.6%、「^が障害に対する知識や経験」が 20.5%となっています。



単位：%

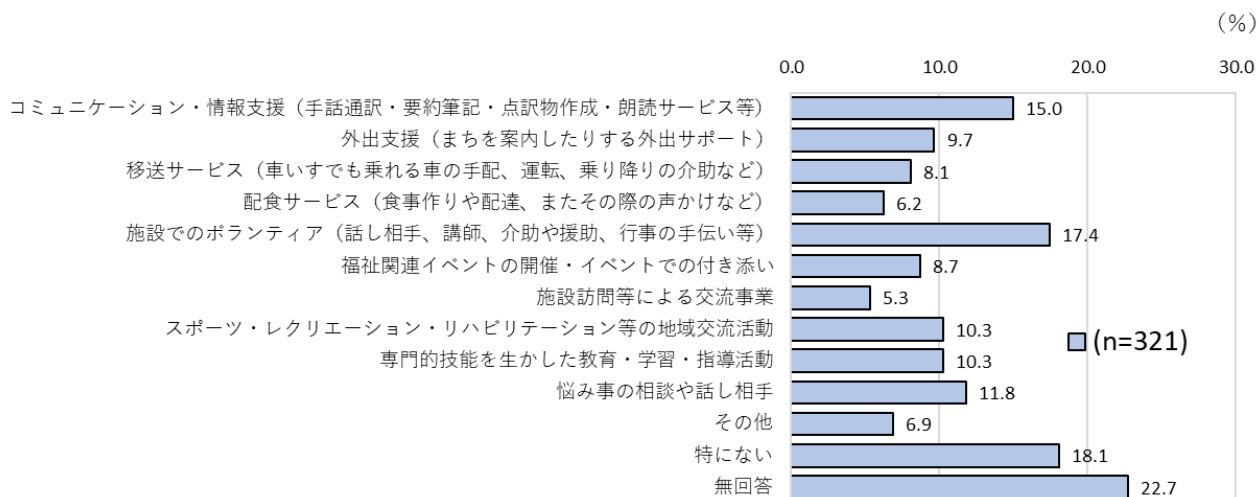
	n	ボランティア活動の情報	活動内容の分かりやすい説明	参加方法の分かりやすい説明	関心を引く活動内容	時間の余裕	交通費等、金銭的負担の軽減	一緒に活動する仲間	気軽に参加できる雰囲気	障害に対する知識や経験	その他	ボランティア活動には関心がない	無回答
全体	268	19.0	19.4	13.8	11.6	28.0	4.9	10.1	27.6	20.5	6.7	6.3	2.2
18～39歳	30	10.0	20.0	3.3	16.7	43.3	6.7	10.0	30.0	20.0	3.3	13.3	0.0
40～64歳	104	23.1	22.1	13.5	11.5	41.3	3.8	9.6	25.0	18.3	3.8	7.7	0.0
65歳以上	131	18.3	16.8	16.8	10.7	14.5	5.3	9.9	29.0	21.4	9.9	3.8	4.6

問 16

あなたは、^が障害のある人に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。

3 つまで○

障害のある人にしてみたい支援や活動内容について、無回答が最も多く 22.7%、次いで「特にない」が 18.1%、「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）」が 17.4%となっています。



単位：%

	n	コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等）	外出支援（まちを案内したりする外出サポート）	移送サービス（車いすでも乗れる車の手配、運転、乗り降りの介助など）	配食サービス（食事作りや配達、またその際の声かけなど）	施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）	福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い	施設訪問等による交流事業	スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動	専門的スキルを生かした教育・学習・指導活動	悩み事の相談や話し相手	その他	特にない	無回答
全体	321	15.0	9.7	8.1	6.2	17.4	8.7	5.3	10.3	10.3	11.8	6.9	18.1	22.7
18～39歳	40	22.5	7.5	10.0	5.0	15.0	15.0	5.0	7.5	17.5	7.5	7.5	20.0	5.0
40～64歳	125	20.0	14.4	9.6	6.4	22.4	10.4	3.2	10.4	14.4	11.2	4.0	12.8	20.8
65歳以上	151	8.6	6.0	6.0	6.6	13.9	4.6	7.3	9.3	5.3	13.9	9.3	21.9	29.8

単位：%

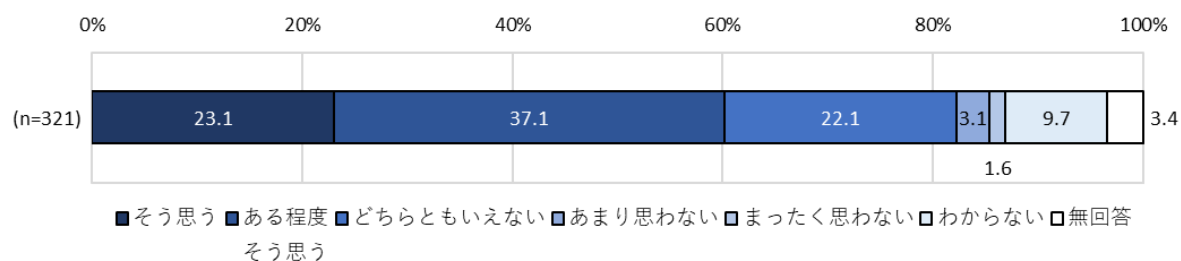
	n	コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等）	外出支援（まちを案内したりする外出サポート）	移送サービス（車いすでも乗れる車の手配、運転、乗り降りの介助など）	配食サービス（食事作りや配達、またその際の声かけなど）	施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）	福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い	施設訪問等による交流事業	スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動	専門的スキルを生かした教育・学習・指導活動	悩み事の相談や話し相手	その他	特にない	無回答
全体	321	15.0	9.7	8.1	6.2	17.4	8.7	5.3	10.3	10.3	11.8	6.9	18.1	22.7
ある	41	29.3	9.8	12.2	4.9	39.0	17.1	7.3	17.1	26.8	14.6	7.3	7.3	4.9
ないが関心はある	44	22.7	20.5	2.3	15.9	29.5	25.0	11.4	18.2	11.4	9.1	4.5	0.0	22.7
ない	224	11.6	7.6	8.5	4.5	12.1	4.5	4.0	7.1	7.1	11.2	7.1	24.6	25.0

⑤障害のある人の就労・教育

問 17	あなたは、障害のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思いますか。	1 つに○
------	--	-------

障害のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思うかについて、「ある程度そう思う」が最も多く 37.1%、次いで「そう思う」が 23.1%、「どちらともいえない」が 22.1%となっています。

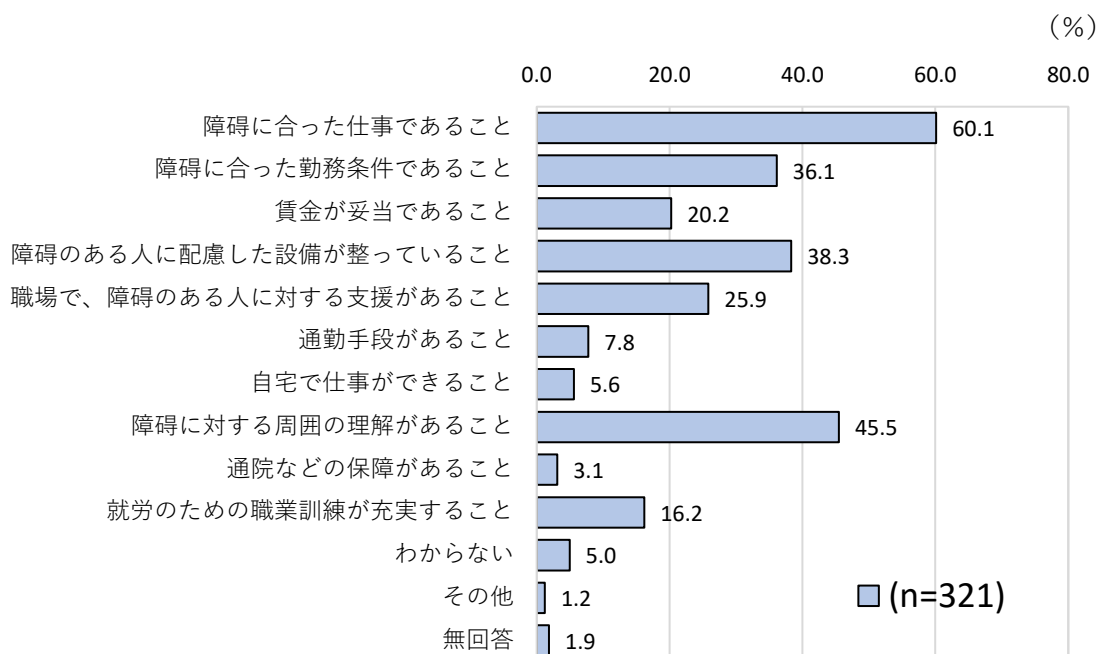
また、「そう思う」と「ある程度そう思う」を『思う』、「あまり思わない」と「全く思わない」を『思わない』とすると、『思う』が 60.2%、『思わない』が 4.7%で、『思う』が 55.5 ポイント多くなっています。



		単位：%						
	n	そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも いえない	あまり思 わない	まったく 思わない	わからな い	無回答
全体	321	23.1	37.1	22.1	3.1	1.6	9.7	3.4
18～39歳	40	20.0	30.0	27.5	5.0	7.5	10.0	0.0
40～64歳	125	23.2	43.2	19.2	5.6	0.8	7.2	0.8
65歳以上	151	23.8	33.1	23.2	0.7	0.7	11.9	6.6

問 18	現在、障害のある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、障害のある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。	3 つまで○
------	---	--------

障害のある人が働くために必要な条件について、「障害に合った仕事であること」が最も多く 60.1%、次いで「障害に対する周囲の理解があること」が 45.5%、「障害のある人に配慮した設備が整っていること」が 38.3%となっています。



単位：%

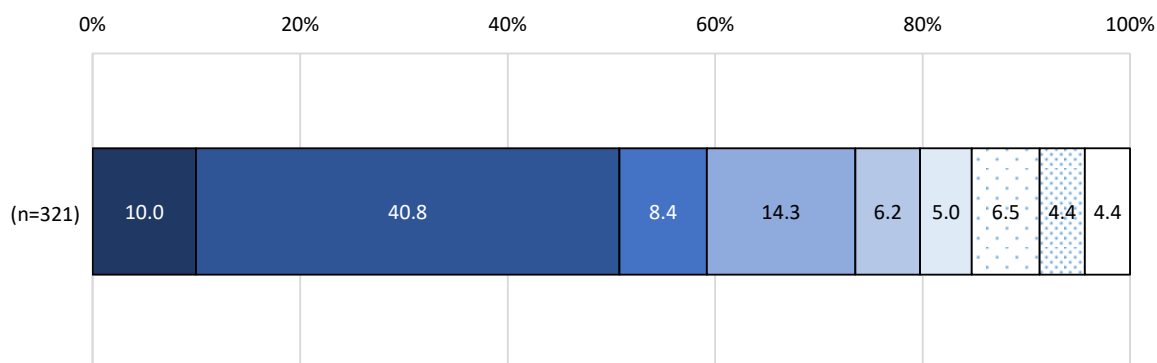
	n	障害に合った仕事であること	障害に合った勤務条件であること	賃金が妥当であること	障害のある人に配慮した設備が整っていること	職場で、障害のある人に対する支援があること	通勤手段があること	自宅で仕事ができること	障害に対する周囲の理解があること	通院などの保障があること	就労のための職業訓練が充実すること	わからない	その他	無回答
全体	321	60.1	36.1	20.2	38.3	25.9	7.8	5.6	45.5	3.1	16.2	5.0	1.2	1.9
18～39歳	40	40.0	37.5	12.5	42.5	25.0	10.0	5.0	57.5	5.0	15.0	7.5	0.0	0.0
40～64歳	125	65.6	40.8	22.4	44.8	24.0	7.2	4.8	46.4	4.0	18.4	3.2	1.6	0.0
65歳以上	151	61.6	32.5	20.5	33.1	25.2	7.3	6.6	41.1	2.0	14.6	6.0	1.3	4.0

単位：%

	n	障害に合った仕事であること	障害に合った勤務条件であること	賃金が妥当であること	障害のある人に配慮した設備が整っていること	職場で、障害のある人に対する支援があること	通勤手段があること	自宅で仕事ができること	障害に対する周囲の理解があること	通院などの保障があること	就労のための職業訓練が充実すること	わからない	その他	無回答
全体	321	60.1	36.1	20.2	38.3	25.9	7.8	5.6	45.5	3.1	16.2	5.0	1.2	1.9
問17 そう思う	74	55.4	44.6	20.3	31.1	39.2	8.1	8.1	52.7	2.7	20.3	0.0	0.0	0.0
ある程度そう思う	119	66.4	42.0	28.6	45.4	26.9	10.1	1.7	44.5	3.4	13.4	1.7	0.0	0.0
どちらともいえない	71	70.4	26.8	11.3	45.1	19.7	5.6	4.2	49.3	2.8	25.4	4.2	2.8	0.0
あまり思わない	10	60.0	30.0	20.0	20.0	20.0	20.0	10.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
まったく思わない	5	80.0	60.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
わからない	31	29.0	16.1	16.1	25.8	6.5	3.2	19.4	32.3	6.5	3.2	32.3	6.5	0.0
思う	193	62.2	43.0	25.4	39.9	31.6	9.3	4.1	47.7	3.1	16.1	1.0	0.0	0.0
思わない	15	66.7	40.0	20.0	26.7	26.7	13.3	6.7	40.0	0.0	13.3	6.7	0.0	0.0

問 19	障害のある子どもの就学環境は、次のどれが望ましいと思いますか。	1 つに○
------	---------------------------------	-------

障害のある子どもにとって望ましい就学環境について、「障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート」が最も多く 40.8%、次いで「障害に応じた特別支援学校での専門的な教育」が 14.3%、「障害の有無にかかわらず共に学べる環境」が 10.0%となっています。



- ☒ 障害の有無にかかわらず共に学べる環境
- ☒ 障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート
- ☒ 普通学校の特別支援学級などでの、障害に応じたサポート
- ☒ 障害に応じた特別支援学校での専門的な教育
- ☐ 障害有無に関わらず共に学び合える場（インクルーシブ教育）
- ☐ 進路（就労・進学）のサポート
- ☐ わからない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

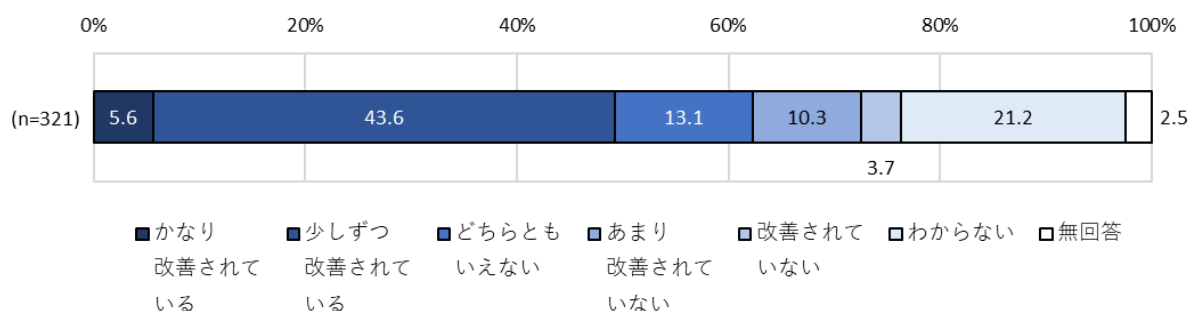
		単位：%								
	n	障害の有無にかかわらず共に学べる環境	障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート	普通学校の特別支援学級などでの、障害に応じたサポート	障害に応じた特別支援学校での専門的な教育	障害有無に関わらず共に学び合える場（インクルーシブ教育）※	進路（就労・進学）のサポート※	わからない	その他	無回答
全体	321	10.0	40.8	8.4	14.3	6.2	5.0	6.5	4.4	4.4
18～39歳	40	0.0	50.0	7.5	12.5	10.0	10.0	5.0	2.5	2.5
40～64歳	125	9.6	39.2	5.6	15.2	5.6	7.2	6.4	8.0	3.2
65歳以上	151	12.6	39.7	10.6	13.9	6.0	2.0	7.3	2.0	6.0

⑥福祉のまちづくり

問 20	以前と比較して、まちの環境は、 ^が 障 ^{がい} 碍のある人が外出しやすく改善されていると思いますか。	1 つに○
------	---	-------

以前と比較して、まちの環境は、障^{がい}碍のある人が外出しやすく改善されていると思うかについて、「少しずつ改善されている」が最も多く 43.6%、次いで「わからない」が 21.2%、「どちらともいえない」が 13.1%となっています。

また、「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」を『改善されている』、「あまり改善されていない」と「改善されていない」を『改善されていない』とすると、『改善されている』が 49.2%、『改善されていない』が 14.0%で、『改善されている』が 35.2 ポイント多くなっています。



単位：%

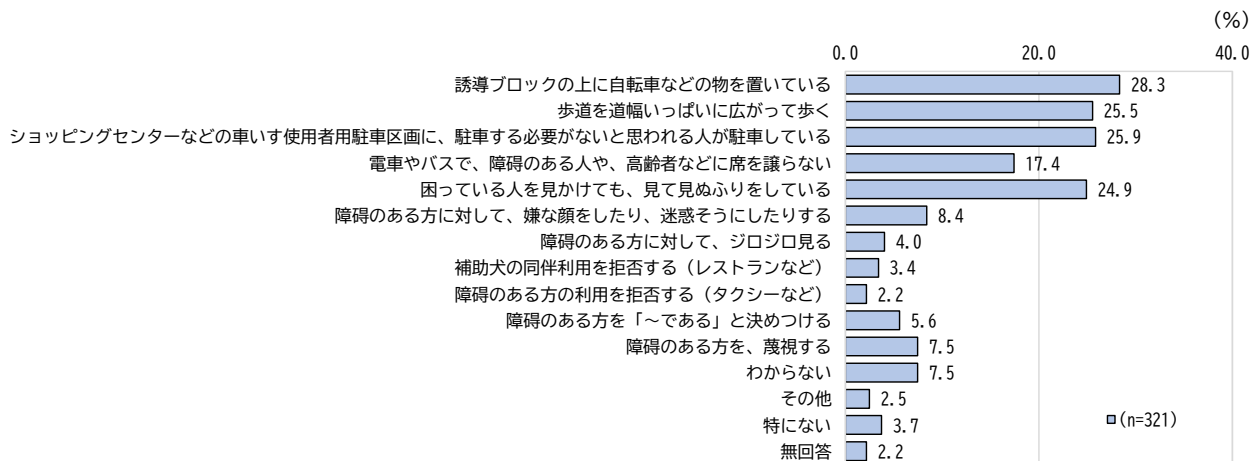
	n	かなり改善されている	少しずつ改善されている	どちらともいえない	あまり改善されていない	改善されていない	わからない	無回答
全体	321	5.6	43.6	13.1	10.3	3.7	21.2	2.5
18～39歳	40	2.5	45.0	12.5	7.5	2.5	30.0	0.0
40～64歳	125	5.6	42.4	15.2	11.2	7.2	17.6	0.8
65歳以上	151	6.6	45.0	11.9	9.3	1.3	21.2	4.6

問 21

まちで見かける人の行動で、特に問題があると思うことは何ですか。

2 つまで○

まちで見かける人で、特に問題のある行動について、「誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている」が最も多く 28.3%、次いで「ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している」が 25.9%、「歩道を道幅いっぱいに広がって歩く」が 25.5%となっています。



単位：%

	n	誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている	歩道を道幅いっぱいに広がって歩く	ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している	電車やバスで、障害のある人や、高齢者などに席を譲らない	困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている	障害のある方に対して、嫌な顔をしたり、迷惑そうにしたりする	障害のある方に対して、ジロジロ見る	補助犬の同伴利用を拒否する（レストランなど）	障害のある方の利用を拒否する（タクシーなど）	障害のある方を「～である」と決めつける	障害のある方を、蔑視する	わからない	その他	特にない	無回答
全体	321	28.3	25.5	25.9	17.4	24.9	8.4	4.0	3.4	2.2	5.6	7.5	7.5	2.5	3.7	2.2
18～39歳	40	22.5	25.0	25.0	22.5	17.5	7.5	7.5	0.0	10.0	10.0	10.0	2.5	2.5	2.5	0.0
40～64歳	122	29.5	26.2	32.0	13.9	25.4	9.8	5.7	5.7	1.6	7.4	10.7	5.7	1.6	2.5	0.8
65歳以上	148	29.1	24.3	22.3	18.9	27.0	6.8	2.0	1.4	0.7	3.4	4.7	9.5	3.4	4.7	4.1

単位：%

	n	誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている	歩道を道幅いっぱいに広がって歩く	ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している	電車やバスで、障害のある人や、高齢者などに席を譲らない	困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている	障害のある方に対して、嫌な顔をしたり、迷惑そうにしたりする	障害のある方に対して、ジロジロ見る	補助犬の同伴利用を拒否する（レストランなど）	障害のある方の利用を拒否する（タクシーなど）	障害のある方を「～である」と決めつける	障害のある方を、蔑視する	わからない	その他	特にない	無回答
全体	321	28.3	25.5	25.9	17.4	24.9	8.4	4.0	3.4	2.2	5.6	7.5	7.5	2.5	3.7	2.2
かなり改善されている	18	38.9	27.8	22.2	11.1	33.3	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	22.2	0.0	5.6	5.6	0.0
少しずつ改善されている	140	32.9	25.7	24.3	19.3	30.7	9.3	2.1	3.6	1.4	9.3	4.3	2.1	1.4	2.9	0.7
どちらともいえない	42	23.8	23.8	40.5	23.8	23.8	4.8	4.8	0.0	0.0	4.8	14.3	11.9	2.4	0.0	0.0
あまり改善されていない	33	24.2	30.3	18.2	15.2	33.3	12.1	12.1	0.0	3.0	9.1	9.1	6.1	3.0	3.0	3.0
改善されていない	12	25.0	41.7	0.0	16.7	8.3	16.7	16.7	8.3	8.3	0.0	33.3	8.3	0.0	8.3	0.0
わからない	68	22.1	23.5	29.4	13.2	13.2	8.8	2.9	5.9	2.9	0.0	1.5	19.1	4.4	7.4	0.0
改善されている	158	33.5	25.9	24.1	18.4	31.0	8.2	1.9	3.8	1.9	8.2	6.3	1.9	1.9	3.2	0.6
改善されていない	45	24.4	33.3	13.3	15.6	26.7	13.3	13.3	2.2	4.4	6.7	15.6	6.7	2.2	4.4	2.2

問20

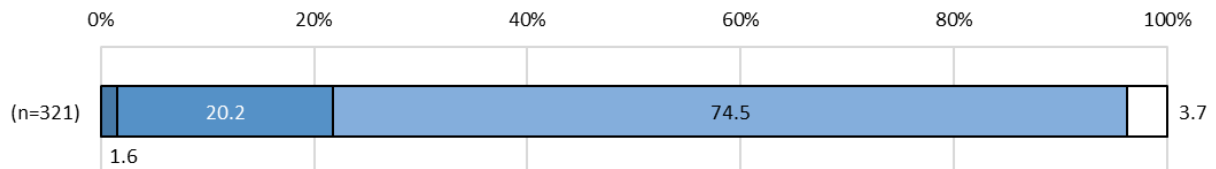
⑦宝塚市の障^{がい}害者施策

問 22

あなたは、『宝塚市障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。

1つに○

『宝塚市障害者差別解消に関する条例』の認知度について、「名前も内容も知らない」が最も多く 74.5%、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 20.2%、「名前も内容も知っている」が 1.6%となっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

単位：%

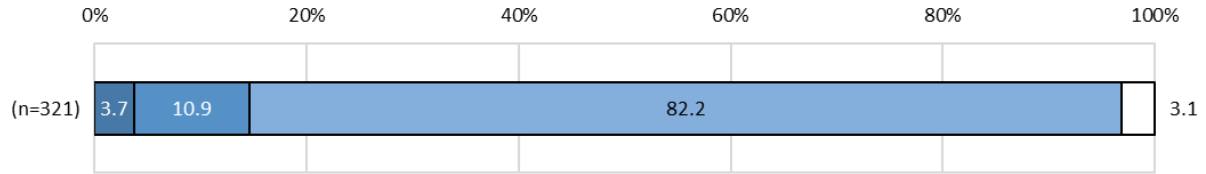
	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	321	1.6	20.2	74.5	3.7
18～39歳	40	2.5	5.0	90.0	2.5
40～64歳	125	3.2	14.4	80.8	1.6
65歳以上	151	0.0	29.1	65.6	5.3

単位：%

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	321	1.6	20.2	74.5	3.7
問5 非常に関心がある	54	3.7	42.6	53.7	0.0
ある程度関心がある	154	1.9	20.1	73.4	4.5
どちらともいえない	80	0.0	11.3	86.3	2.5
あまり関心がない	27	0.0	7.4	85.2	7.4
まったく関心がない	5	0.0	0.0	100.0	0.0
関心がある	208	2.4	26.0	68.3	3.4
関心がない	32	0.0	6.3	87.5	6.3

問 23	あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。	1 つに○
------	-----------------------------	-------

『宝塚市手話言語条例』の認知度について、「名前も内容も知らない」が最も多く 82.2%、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 10.9%、「名前も内容も知っている」が 3.7%となっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

単位：％

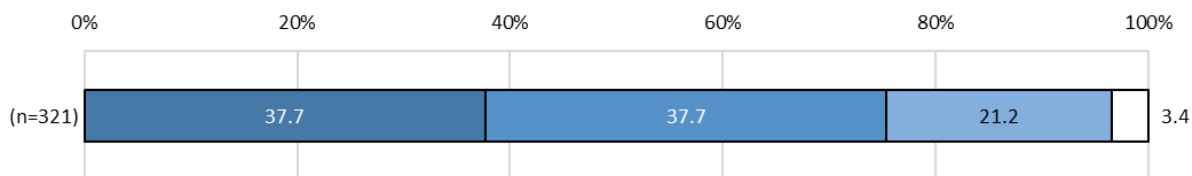
	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	321	3.7	10.9	82.2	3.1
18～39歳	40	2.5	5.0	90.0	2.5
40～64歳	125	5.6	6.4	88.0	0.0
65歳以上	151	2.0	16.6	76.2	5.3

単位：％

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	321	3.7	10.9	82.2	3.1
問5 非常に興味がある	54	7.4	20.4	72.2	0.0
ある程度興味がある	154	5.2	10.4	81.2	3.2
どちらともいえない	80	0.0	8.8	88.8	2.5
あまり興味がない	27	0.0	3.7	88.9	7.4
まったく興味がない	5	0.0	0.0	100.0	0.0
興味がある	208	5.8	13.0	78.8	2.4
興味がない	32	0.0	3.1	90.6	6.3

問 24	あなたは、成年後見制度についてご存じですか。	1 つに○
------	------------------------	-------

成年後見制度の認知度について、「名前も内容も知っている」「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」がそれぞれ最も多く 37.7%、「名前も内容も知らない」が 21.2%となっています。



■ 名前も内容も知っている ■ 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない ■ 名前も内容も知らない □ 無回答

単位：％

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	321	37.7	37.7	21.2	3.4
18～39歳	40	45.0	32.5	20.0	2.5
40～64歳	125	38.4	41.6	20.0	0.0
65歳以上	151	36.4	35.8	21.9	6.0

単位：％

	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体	321	37.7	37.7	21.2	3.4
問5 非常に興味がある	54	46.3	31.5	20.4	1.9
ある程度興味がある	154	40.9	39.6	16.2	3.2
どちらともいえない	80	28.8	38.8	30.0	2.5
あまり興味がない	27	29.6	40.7	22.2	7.4
まったく興味がない	5	40.0	20.0	40.0	0.0
興味がある	208	42.3	37.5	17.3	2.9
興味がない	32	31.3	37.5	25.0	6.3

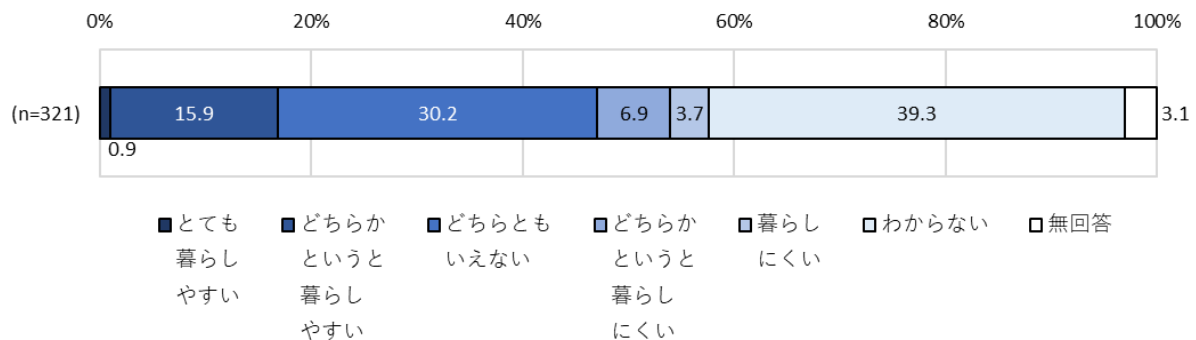
問 25

あなたは、宝塚市は^{がい}障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。

1 つに○

宝塚市は^{がい}障害のある人にとって暮らしやすいまちだと思うかについて、「わからない」が最も多く 39.3%、次いで「どちらともいえない」が 30.2%、「どちらかという暮らしやすい」が 15.9%となっています。

また、「とても暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を『暮らしやすい』、「どちらかという暮らしにくい」と『暮らしにくい』とすると、『暮らしやすい』が 16.8%、『暮らしにくい』が 10.6%で、『暮らしやすい』が 6.2 ポイント多くなっています。



単位：%

	n	とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答
全体	321	0.9	15.9	30.2	6.9	3.7	39.3	3.1
18～39歳	40	0.0	15.0	27.5	7.5	5.0	40.0	5.0
40～64歳	125	0.8	15.2	40.0	4.8	5.6	33.6	0.0
65歳以上	151	0.7	16.6	23.2	8.6	2.0	44.4	4.6

単位：%

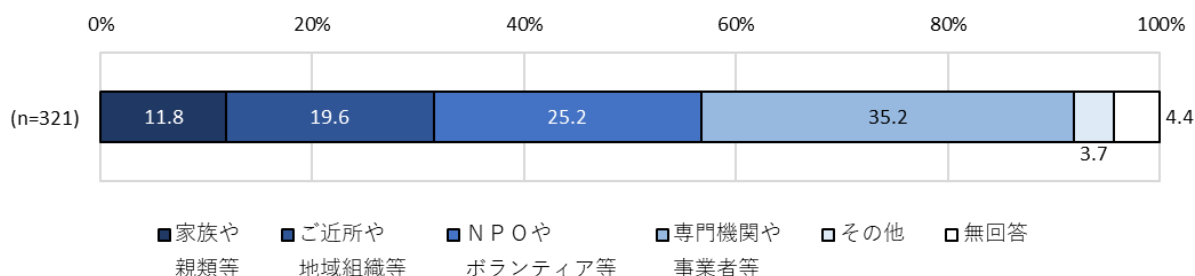
	n	とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答
全体	321	0.9	15.9	30.2	6.9	3.7	39.3	3.1
問7 あると思う	34	0.0	8.8	35.3	11.8	11.8	29.4	2.9
少しはあると思う	117	1.7	19.7	36.8	4.3	3.4	33.3	0.9
ほとんどないと思う	69	1.4	21.7	26.1	8.7	1.4	36.2	4.3
わからない	92	0.0	8.7	22.8	5.4	2.2	56.5	4.3

単位：%

	n	とても暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	わからない	無回答
全体	321	0.9	15.9	30.2	6.9	3.7	39.3	3.1
問9 全然足りないと思う	34	0.0	2.9	29.4	14.7	17.6	32.4	2.9
少し足りないと思う	114	0.0	21.1	42.1	7.0	2.6	25.4	1.8
足りていると思う	35	5.7	31.4	22.9	5.7	2.9	25.7	5.7
わからない	130	0.8	10.8	22.3	4.6	0.8	57.7	3.1

問 26	今後の宝塚市の障害者施策において、障害のある人をサポートする支援者は、行政以外では、次のうちどれが望ましいと思いますか。	1 つに○
------	--	-------

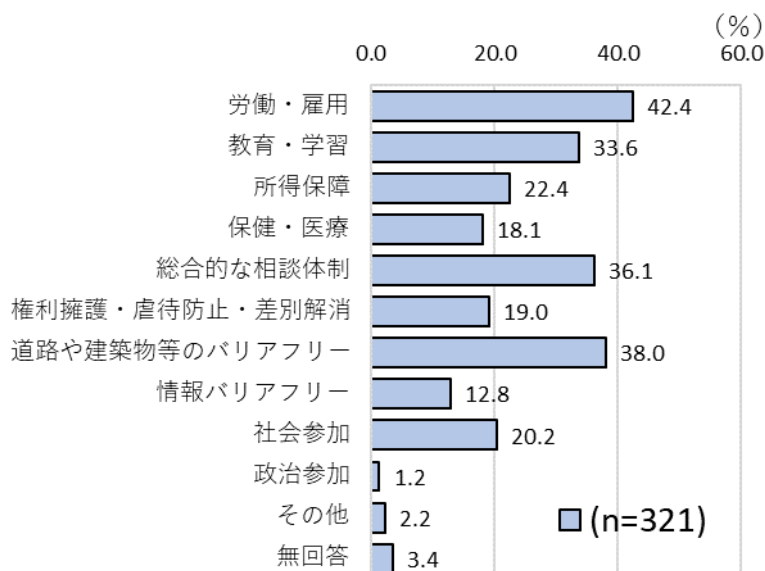
今後の宝塚市の障害者施策において、行政以外で、障害のある人をサポートするのに望ましい支援者について、「専門機関や事業者等」が最も多く 35.2%、次いで「NPO やボランティア等」が 25.2%、「ご近所や地域組織等」が 19.6%となっています。



	n	家族や親類等	ご近所や地域組織等	NPO やボランティア等	専門機関や事業者等	その他	無回答
全体	321	11.8	19.6	25.2	35.2	3.7	4.4
18～39歳	40	15.0	17.5	17.5	42.5	5.0	2.5
40～64歳	125	13.6	12.8	20.8	47.2	4.0	1.6
65歳以上	151	9.3	26.5	31.1	23.2	3.3	6.6

問 27	今後の宝塚市の障害者施策において、強化することが望ましい分野は、次のうちどれだと思いますか。	3 つまで○
------	--	--------

今後の宝塚市の障害者施策において、強化することが望ましい分野について、「労働・雇用」が最も多く 42.4%、次いで「道路や建築物等のバリアフリー」が 38.0%、「総合的な相談体制」が 36.1%となっています。



	n	労働・雇用	教育・学習	所得保障	保健・医療	総合的な相談体制	権利擁護・虐待防止・差別解消	道路や建築物等のバリアフリー	情報バリアフリー	社会参加	政治参加	その他	無回答
全体	321	42.4	33.6	22.4	18.1	36.1	19.0	38.0	12.8	20.2	1.2	2.2	3.4
18～39歳	40	35.0	47.5	12.5	7.5	27.5	27.5	30.0	17.5	22.5	0.0	5.0	2.5
40～64歳	125	48.8	34.4	26.4	16.0	32.0	15.2	43.2	18.4	20.8	0.8	1.6	0.8
65歳以上	151	39.7	29.8	21.9	22.5	42.4	19.9	36.4	7.3	18.5	2.0	2.0	4.6

⑧自由意見

問 28	障害者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。	自由記述
------	--	------

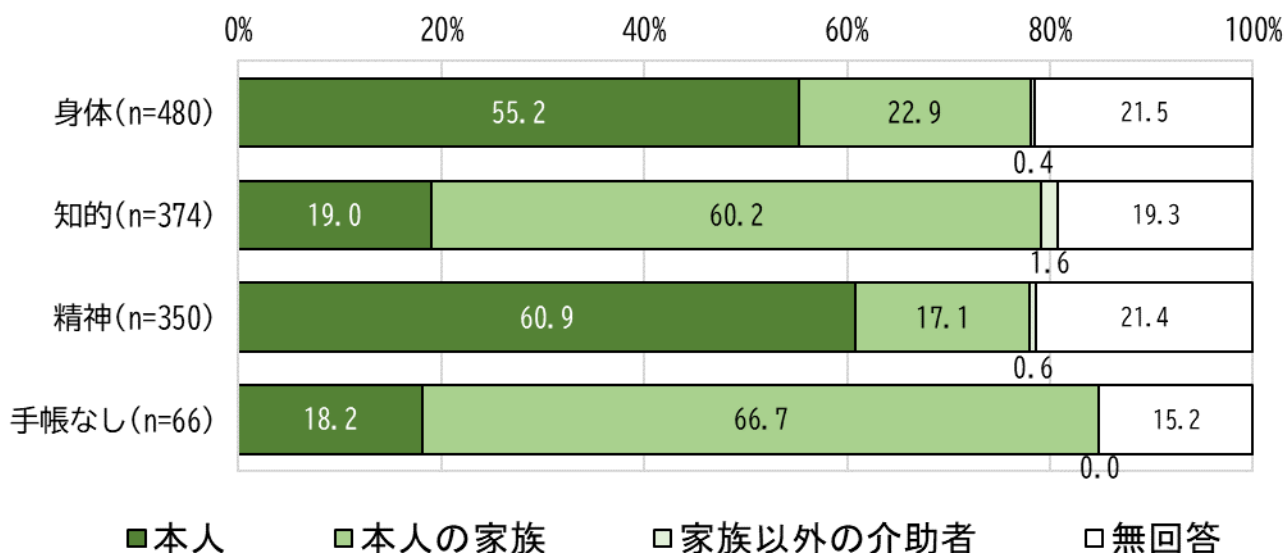
No	内容
1	普段何気なく生活しているだけでは、市の障害者対策について知ることが少ないです。特別に知ろうとせずとも、生活しているだけで知ることができるようになればいいと思います。
2	障害児の教育的環境は、50 年前に比べると良くなっていると思います。放課後等デイサービスもあり、学校を出てからはグループホームもあり、自立もしやすくなっていると思います。就労がうまくいってほしいと思います。
3	市の障害者施策に関する条例について知識が全くないことを知りました。広報等で教えていただく機会があれば、市民として認識を持つ助けになるかなと思いました。
4	将来、自分や家族に障害を持つ可能性はゼロではないので、自治体でサポートしてくれたら心強いと思います。大変なお仕事と思いますが、よろしくお願いします。
5	歩道の整備、バリアフリー化を進めていただけると助かります。
6	市内小学校に子どもが通っています。大人より子どもの方が多様な性や障害等への理解があり、学校で他者への理解に対する教育がされているように感じます。
7	障害者が電車、バス等で移動するのを時々見かけます。企業等では援助体制が整いつつあるような気がします。我々にとっては行政等が啓発活動を強化してもらいたいです。地域で助け合えるような合意ができれば、さらに良い社会になると思います。
8	学校や社会等、広い意味で教育と福祉における行政の支援を強化して欲しいです。
9	初等教育から、障害者理解を進めるべきと考えます。成人への啓発活動は、YouTube 等のメディアも活用してみたいかと思っています。
10	親族に知的障害者がいますが、その両親が他界した後はきょうだい達が支援をしています。本人は家族の支えがあり暮らす事ができていますが、高齢化社会という背景を考えると、様々な障害を持つ方々が家族亡き後でも、安心して生きていける社会づくりが必要だと感じています。
11	街中等で困っている人を助けた際、声をかけ手助けをする心の準備はあるが、どうしても躊躇してしまいます。こうした考えの人が積極的にできる方法を思いつかないので、行動として提案してほしいです。
12	特に知的障害者の労働の種類が少なく、それに対する賃金が低いです。行政が雇用者に対する助成金だけでなく、その用途を明確に把握して、足らざる部分については直接障害者に補助的賃金を交付する等の支援をしてもらいたいです。
13	「障害者がいるのは当たり前」という環境の中で育つことが必要だと思います。私は親族に小児麻痺の人がいるので、子どもの頃から認識の大切さを実感してきました。
14	地域での見守りや声かけ等が必要と思われます。障害のある方が取り残されないようにするために、その方の家族だけでは対応しきれない問題があると思うので、必要な時はいつでも支援できるか、または相談窓口を紹介する等、地域全体で関わって行くことができれば良いと思います。

No	内容
15	同居の家族に障害者がいるため、病院内は事前予約にて車いすサポート等をしてほしいです。
16	小さい頃から共に過ごすことが大切だと考えます。社会に共に過ごす環境が無さすぎます。
17	特別支援教育での小中学校の連携や、共有をすることが大切になってくるのではと思います。個々にあった支援をしっかりとしていくことで、子どもや生徒たちの未来も変わってくるのではないかと考えます。
18	障害者の両親が亡くなった後のことまで考えた施設運営等をもっと考えてみる必要があるのではないのでしょうか。グループホームの数が少ないと聞いたことがあります。
19	歩道が狭い上に自転車も走っており、車椅子やベビーカーを押している人の横を自転車がすり抜けるのを見るとゾッとします。狭い道を車がすごいスピードで通りすぎるのも危なく、車椅子の方や杖をついた片が、狭い歩道ですれ違い、やむをえず車道に出てしまうこともあり、その横をレースでもしているかのように走って行く車をしばしば見かけるので、注意喚起が必要と感じます。
20	障害者が生きやすい社会作りへ、行政が頑張られるのは当然と思いますが、市民の力を活用して、共生が実っていくような環境を作り出していかれたらいいと思います。

(2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者向け調査結果

このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。	1つに○
---------------------------	------

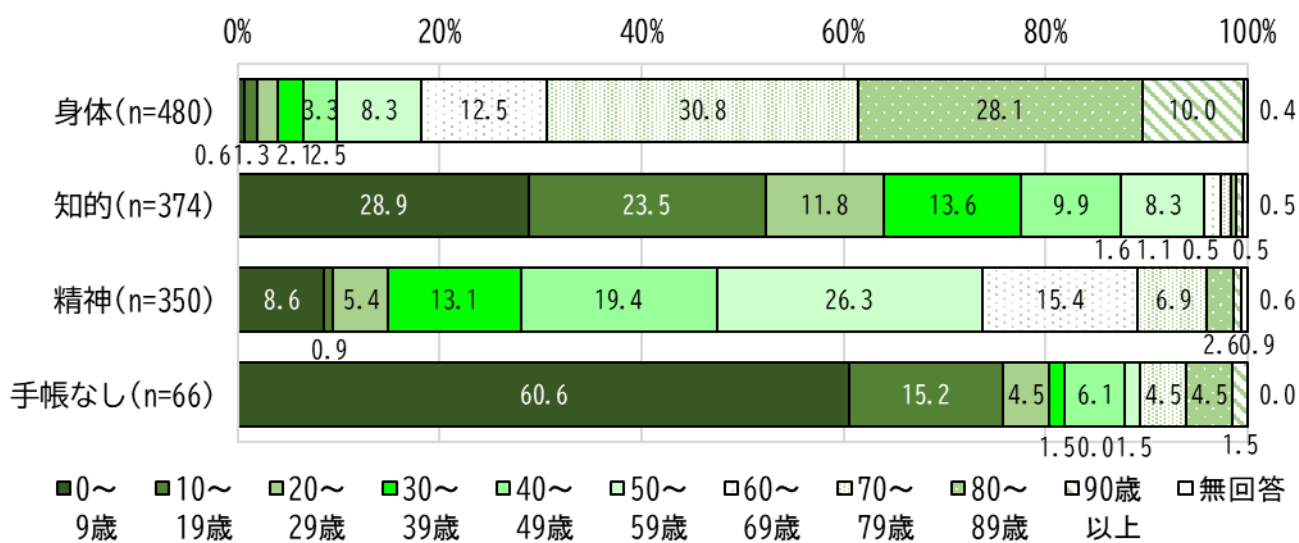
記入者について、身体では「本人」が最も多く 55.2%、知的では「本人の家族」が最も多く 60.2%、精神では「本人」が最も多く 60.9%、手帳なしでは「本人の家族」が最も多く 66.7%となっています。



① 回答者の属性

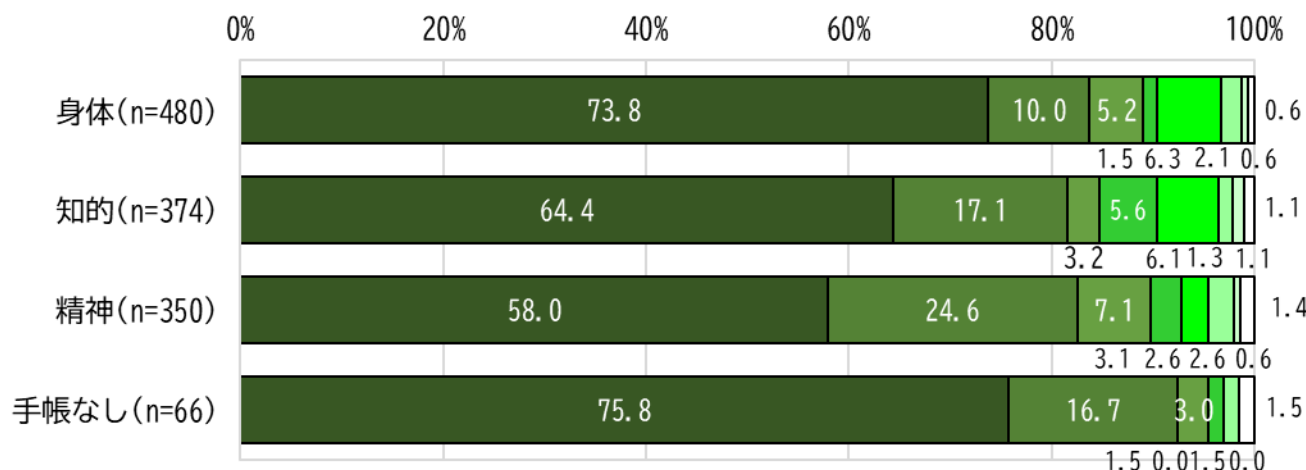
問1	あなたの年齢をお答えください。	数値記入
----	-----------------	------

回答者の年齢について、身体では「70～79 歳」が最も多く 30.8%、知的では「0～9 歳」が最も多く 28.9%、精神では「50～59 歳」が最も多く 26.3%、手帳なしでは「0～9 歳」が最も多く 60.6%となっています。



問 2	現在、あなたはどこで生活していますか。	1 つに○
-----	---------------------	-------

生活している場所について、すべてにおいて「自宅（持ち家：戸建、分譲マンションなど）」が最も多く、身体が 73.8%、知的が 64.4%、精神が 58.0%、手帳なしが 75.8%となっています。



- 自宅（持ち家：戸建、分譲マンションなど）
- 自宅（民間の賃貸住宅：戸建、マンション、アパートなど）
- 自宅（公営賃貸住宅）
- グループホーム
- 入所施設（入所中）
- 病院（入院中）
- その他
- 無回答

単位：%

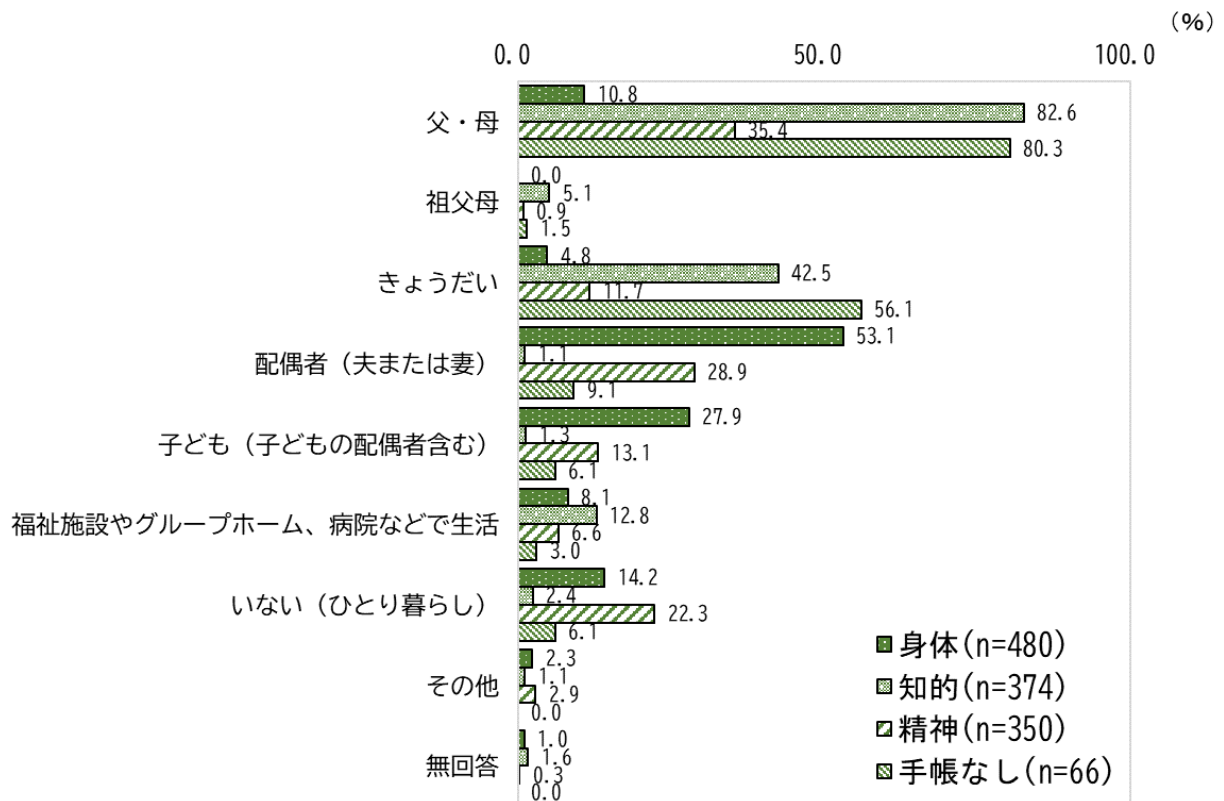
		n	自宅（持ち家：戸建、分譲マンションなど）※家族の所有含む	自宅（民間の賃貸住宅：戸建、マンション、アパートなど）	自宅（公営賃貸住宅）	グループホーム	入所施設（入所中）	病院（入院中）	その他	無回答
	全体	1,284	66.0	16.3	5.0	3.1	4.8	1.9	0.7	1.0
身体	0～17歳	8	62.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	18～39歳	25	76.0	12.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	87	64.4	14.9	4.6	3.4	6.9	4.6	1.1	0.0
	65歳以上	360	76.1	8.3	5.6	0.6	6.7	1.7	0.6	0.6
知的	0～17歳	152	69.1	25.7	2.6	0.0	0.0	0.7	2.0	0.0
	18～39歳	126	71.4	12.7	4.0	5.6	4.8	0.0	0.0	1.6
	40～64歳	85	49.4	9.4	2.4	16.5	17.6	2.4	1.2	1.2
	65歳以上	11	36.4	9.1	9.1	0.0	18.2	18.2	0.0	9.1
精神	0～17歳	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	18～39歳	73	60.3	28.8	4.1	1.4	1.4	1.4	0.0	2.7
	40～64歳	205	57.1	27.3	8.3	3.9	1.5	0.5	0.5	1.0
	65歳以上	68	60.3	10.3	7.4	2.9	7.4	10.3	1.5	0.0
手帳なし	0～17歳	49	81.6	16.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	18～39歳	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問3

現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。

すべてに○

同居している人について、身体では「配偶者（夫または妻）」が最も多く 53.1%、知的では「父・母」が最も多く 82.6%、精神では「父・母」が最も多く 35.4%、手帳なしでは「父・母」が最も多く 80.3% となっています。



単位：％

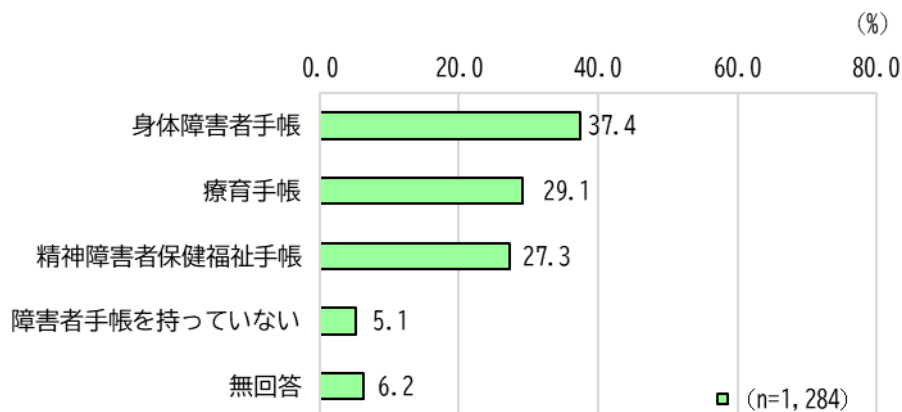
		n	父・母	祖父母	きょうだい	配偶者（夫または妻）	子ども（子どもの配偶者含む）	福祉施設やグループホーム、病院などで生活	いない（ひとり暮らし）	その他	無回答
	全体	1,284	41.9	1.8	20.2	28.5	14.7	8.7	12.4	1.9	0.9
身体	0～17歳	8	75.0	0.0	50.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	18～39歳	25	68.0	0.0	28.0	12.0	4.0	8.0	8.0	0.0	0.0
	40～64歳	87	28.7	0.0	8.0	42.5	23.0	13.8	13.8	2.3	1.1
	65歳以上	360	1.1	0.0	1.4	59.4	31.4	6.9	14.7	2.5	1.1
知的	0～17歳	152	97.4	7.2	67.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	2.0
	18～39歳	126	86.5	6.3	32.5	1.6	1.6	11.1	3.2	2.4	0.0
	40～64歳	85	60.0	0.0	16.5	2.4	1.2	36.5	2.4	1.2	2.4
	65歳以上	11	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1	27.3	27.3	0.0	9.1
精神	0～17歳	4	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	64.4	4.1	23.3	13.7	5.5	1.4	13.7	5.5	0.0
	40～64歳	205	35.1	0.0	10.2	26.3	15.1	5.4	26.3	2.4	0.5
	65歳以上	68	4.4	0.0	1.5	51.5	16.2	16.2	20.6	1.5	0.0
手帳なし	0～17歳	49	98.0	2.0	69.4	4.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	5	80.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	20.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	57.1	0.0	0.0

② 障^{がい}碍の状況

問 4-1 現在お持ちの障害者手帳および等級（判定）をお答えください。

すべてに○

障害者手帳の種類について、「身体障害者手帳」が最も多く 37.4%、次いで「療育手帳」が 29.1%、「精神障害者保健福祉手帳」が 27.3%となっています。



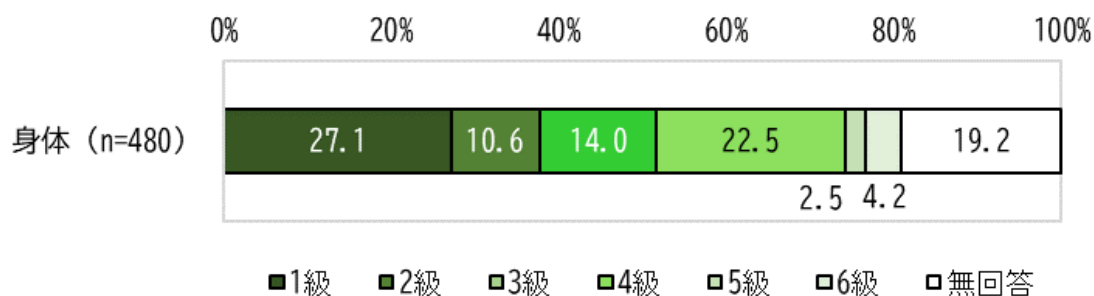
	n	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	障害者手帳を持っていない	無回答
全体	1,284	37.4	29.1	27.3	5.1	6.2
0～17歳	224	3.6	67.9	1.8	21.9	4.9
18～39歳	239	10.5	52.7	30.5	2.1	4.2
40～64歳	405	21.5	21.0	50.6	1.2	5.7
65歳以上	482	74.7	2.3	14.1	1.5	7.5

《問 4-1 で「身体障害者手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-1① 等級をお答えください。

1 つに○

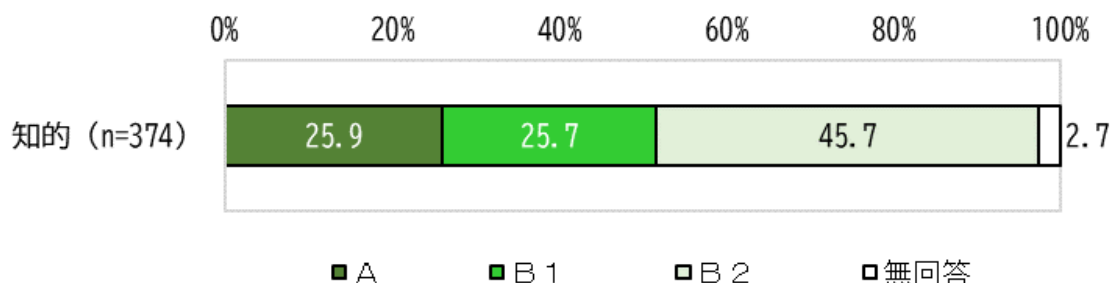
身体障害者手帳を持っている人に、等級について聞いたところ、「1 級」が最も多く 27.1%、次いで「4 級」が 22.5%、「3 級」が 14.0%となっています。



《問 4-1 で「療育手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-1②	判定をお答えください。	1 つに○
--------	-------------	-------

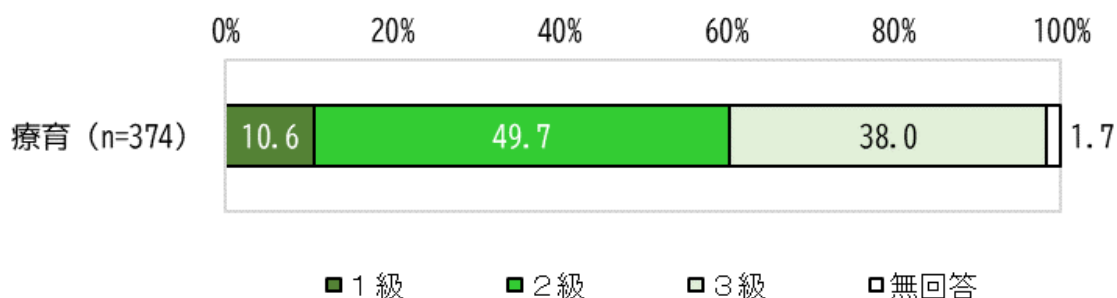
療育手帳を持っている人に、判定について聞いたところ、「B2」が最も多く 45.7%、次いで「A」が 25.9%、「B1」が 25.7%となっています。



《問 4-1 で「精神障害者保健福祉手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-1③	等級をお答えください。	1 つに○
--------	-------------	-------

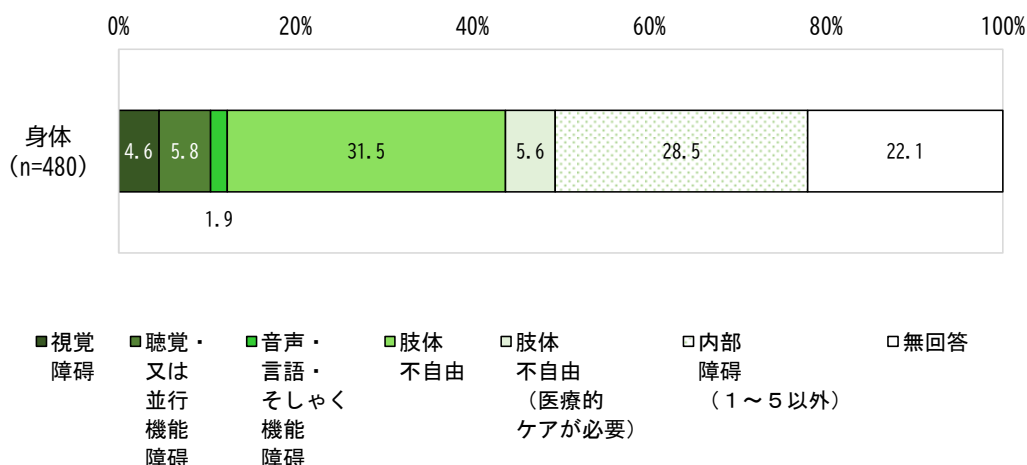
精神障害者保健福祉手帳を持っている人に、等級について聞いたところ、「2 級」が最も多く 49.7%、次いで「3 級」が 38.0%、「1 級」が 10.6%となっています。



《問 4-1 で「身体障害者手帳」と回答した方にお聞きします。》

問 4-2	主たる障害は何ですか。	1 つに○
-------	-------------	-------

身体障害者手帳を持っている人に、主たる障害について聞いたところ、「肢体不自由」が最も多く 31.5%、次いで「内部障害」が 28.5%、「聴覚・又は平行機能障害」が 5.8%となっています。

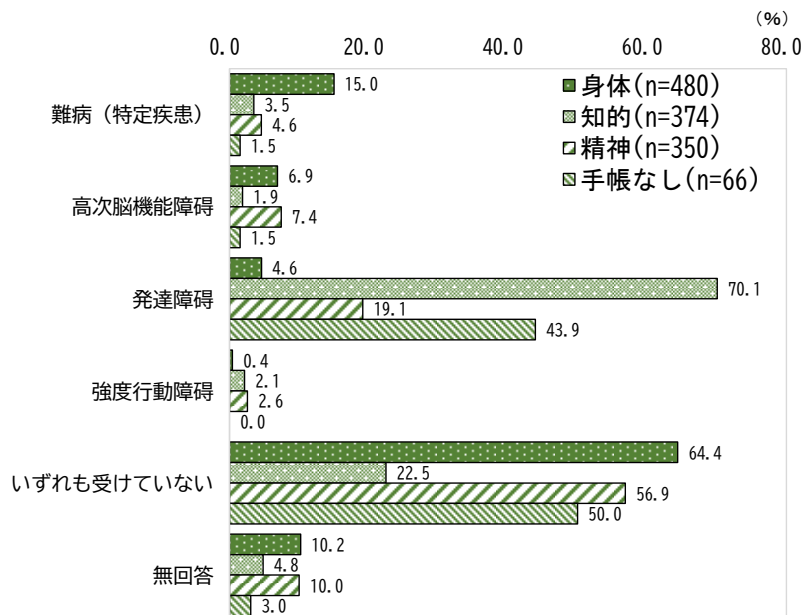


問5

あなたは、医師等から次の診断を受けていますか。

すべてに○

医師等から受けている診断について、身体では「いずれも受けていない」が最も多く 64.4%、知的では「発達障碍^{がいの}」が最も多く 70.1%、精神では「いずれも受けていない」が最も多く 56.9%、手帳なしでは「いずれも受けていない」が最も多く 50.0%となっています。



単位：%

		n	難病（特定疾患）	高次脳機能障碍	発達障碍	強度行動障碍	いずれも受けていない	無回答
	全体	1,284	41.9	1.8	20.2	28.5	28.5	14.7
身体	0～17歳	8	12.5	12.5	12.5	75.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	16.0	4.0	48.0	36.0	0.0	4.0
	40～64歳	87	18.4	9.2	9.2	56.3	0.0	10.3
	65歳以上	360	14.2	6.4	0.3	68.1	0.6	10.8
知的	0～17歳	152	3.9	0.7	85.5	10.5	0.7	1.3
	18～39歳	126	4.8	3.2	70.6	23.0	3.2	4.0
	40～64歳	85	0.0	2.4	44.7	41.2	3.5	11.8
	65歳以上	11	9.1	0.0	45.5	36.4	0.0	9.1
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	1.4	4.1	37.0	47.9	2.7	6.8
	40～64歳	205	4.4	4.9	16.1	61.5	2.4	11.7
	65歳以上	68	8.8	19.1	5.9	54.4	2.9	8.8
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	51.0	46.9	0.0	2.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	71.4	0.0	14.3

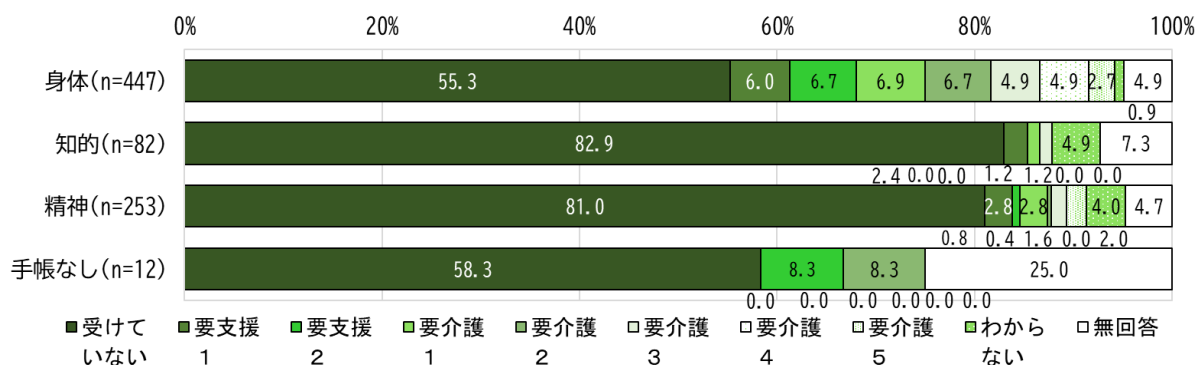
- ※1 難病（特定疾患）とは、関節リウマチやギラン・バレー症候群などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。
- ※2 高次脳機能障碍^{がいの}とは、一般に外傷性脳損傷、脳血管障碍^{がいの}等により、脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障碍、注意障碍、社会的行動障碍^{がいの}などの認知障碍^{がいの}等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」などの症状があります。
- ※3 発達障碍^{がいの}とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障碍^{がいの}、学習障碍^{がいの}、注意欠陥多動性障碍^{がいの}などをいいます。
- ※2 強度行動障碍^{がいの}とは、直接的な他害（噛み付き、頭突き等）や、間接的な他害（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が著しい頻度と形式で出現している状態をいいます。

《40 歳以上の方にお聞きします。》

問 6	あなたは現在、介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方は、 あてはまる要介護度をお答えください	1 つに○
-----	---	-------

40 歳以上の方に、介護保険の要介護認定について聞いたところ、すべてにおいて「受けていない」が最も多く、身体が 55.3%、知的が 82.9%、精神が 81.0%、手帳なしが 58.3%となっています。

また、介護保険の要介護認定を受けている（要支援 1～要介護 5）人は、身体が 38.9%、知的が 4.9%、精神が 10.3%、手帳なしが 16.7%となっています。



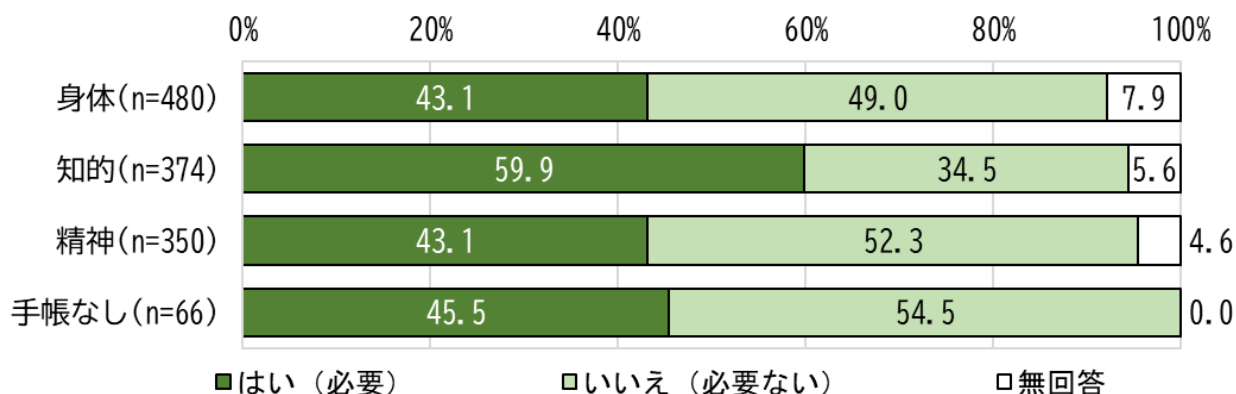
		n	受けていない	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	わからない	無回答	受けている
全体		849	62.1	4.2	3.9	4.6	3.8	3.2	2.6	2.0	2.1	5.1	24.3
身体	40～64歳	87	81.6	0.0	1.1	1.1	4.6	1.1	1.1	1.1	1.1	6.9	10.3
	65歳以上	360	48.9	7.5	8.1	8.3	7.2	5.8	5.8	3.1	0.8	4.4	45.8
知的	40～64歳	73	87.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	8.2	1.4
	65歳以上	9	44.4	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	33.3
精神	40～64歳	195	89.7	0.5	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	4.6	4.1	1.5
	65歳以上	58	51.7	10.3	1.7	12.1	1.7	5.2	0.0	8.6	1.7	6.9	39.7
なし手帳	40～64歳	5	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	65歳以上	7	57.1	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6

単位：%

③ 介助の状況

問 7-1	あなたは、ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。	1 つに○
-------	-------------------------------------	-------

ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要しているかについて、身体では「はい（必要）」の方が多く 43.1%、知的では「はい（必要）」の方が多く 59.9%、精神では「いいえ（必要ない）」の方が多く 52.3%、手帳なしでは「いいえ（必要ない）」の方が多く 54.5%となっています。

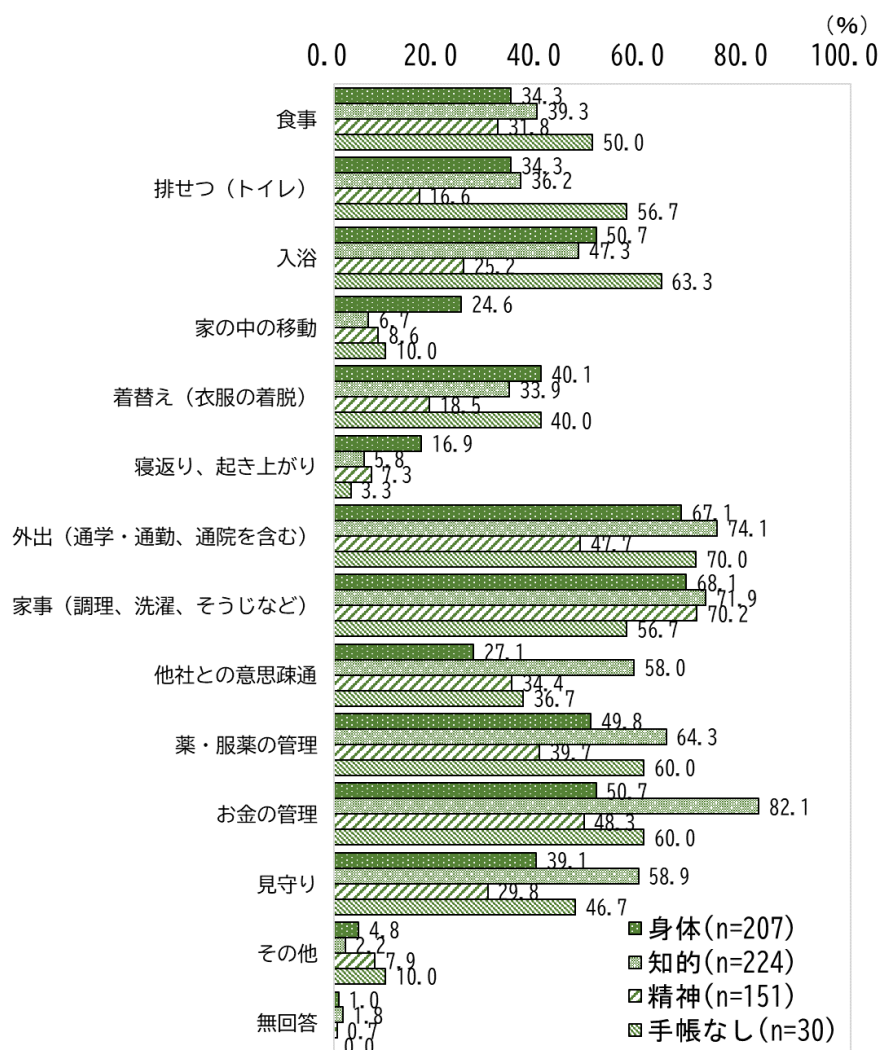


		単位：%			
		n	はい（必要）	いいえ（必要ない）	無回答
身体	全体	1,284	47.7	45.4	5.8
	0～17歳	8	75.0	12.5	12.5
	18～39歳	25	88.0	12.0	0.0
	40～64歳	87	35.6	57.5	6.9
	65歳以上	360	41.1	50.3	8.6
知的	0～17歳	152	58.6	34.2	7.2
	18～39歳	126	57.9	39.7	2.4
	40～64歳	85	63.5	30.6	5.9
	65歳以上	11	72.7	9.1	18.2
精神	0～17歳	4	25.0	75.0	0.0
	18～39歳	73	41.1	56.2	2.7
	40～64歳	205	40.5	54.6	4.9
	65歳以上	68	54.4	39.7	5.9
手帳なし	0～17歳	49	49.0	51.0	0.0
	18～39歳	5	20.0	80.0	0.0
	40～64歳	5	60.0	40.0	0.0
	65歳以上	7	28.6	71.4	0.0

《問 7-1 で「はい（必要）」と回答した方にお聞きます。》

問 7-2	どのような場面で介助や支援が必要ですか。	すべてに○
-------	----------------------	-------

ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要としている人に、介助や支援が必要な場面について聞いたところ、身体では「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く 68.1%、知的では「お金の管理」が最も多く 82.1%、精神では「家事（調理、洗濯、そうじなど）」が最も多く 70.2%、手帳なしでは「外出（通学・通勤、通院を含む）」が最も多く 70.0%となっています。



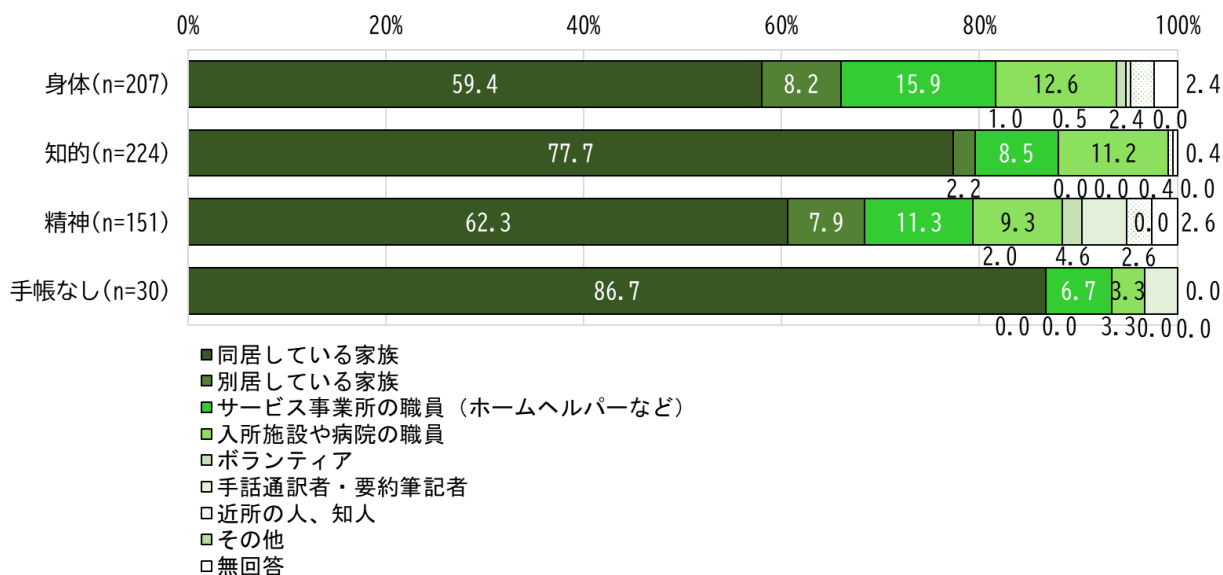
単位：%

		n	食事	排せつ (トイレ)	入浴	家の中の移動	着替え (衣服の着脱)	寝返り、起き上がり	外出 (通学・通勤、通院を含む)	家事 (調理、洗濯、そうじなど)	他社との意思疎通	薬・服薬の管理	お金の管理	見守り	その他	無回答
	全体	594	222.0	194.0	268.0	82.0	199.0	60.0	398.0	425.0	249.0	325.0	380.0	272.0	30.0	7.0
身体	0～17歳	6	66.7	50.0	33.3	33.3	66.7	16.7	83.3	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0
	18～39歳	22	72.7	63.6	72.7	36.4	59.1	31.8	90.9	86.4	68.2	72.7	77.3	54.5	0.0	0.0
	40～64歳	31	38.7	35.5	51.6	16.1	35.5	19.4	48.4	67.7	51.6	54.8	58.1	45.2	3.2	0.0
	65歳以上	148	26.4	29.1	48.0	24.3	37.2	14.2	66.9	65.5	15.5	44.6	44.6	34.5	6.1	1.4
知的	0～17歳	89	38.2	39.3	53.9	4.5	34.8	3.4	79.8	61.8	52.8	58.4	73.0	65.2	2.2	1.1
	18～39歳	73	41.1	37.0	42.5	8.2	35.6	6.8	72.6	83.6	65.8	69.9	94.5	56.2	1.4	1.4
	40～64歳	54	38.9	33.3	46.3	9.3	31.5	7.4	68.5	75.9	57.4	66.7	81.5	57.4	3.7	3.7
	65歳以上	8	37.5	12.5	25.0	0.0	25.0	12.5	62.5	50.0	50.0	62.5	75.0	25.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	18～39歳	30	20.0	6.7	3.3	3.3	3.3	0.0	46.7	70.0	40.0	43.3	50.0	23.3	13.3	0.0
	40～64歳	83	25.3	4.8	14.5	1.2	8.4	1.2	34.9	65.1	27.7	26.5	37.3	22.9	8.4	1.2
	65歳以上	37	56.8	51.4	64.9	29.7	54.1	27.0	78.4	83.8	43.2	64.9	73.0	48.6	2.7	0.0
手帳なし	0～17歳	24	54.2	58.3	66.7	4.2	41.7	0.0	75.0	58.3	37.5	66.7	62.5	54.2	8.3	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	66.7	66.7	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
	65歳以上	2	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

《問 7-1 で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。》

問 7-3	あなたを介助・支援してくれる主な人はどなたですか。	1 つに○
-------	---------------------------	-------

ふだんの生活の中で、何らかの介助や支援を必要としている人に、介助・支援してくれる主な人について聞いたところ、すべてにおいて「同居している家族」が最も多く、身体が 59.4%、知的が 77.7%、精神が 62.3%、手帳なしが 86.7%となっています。

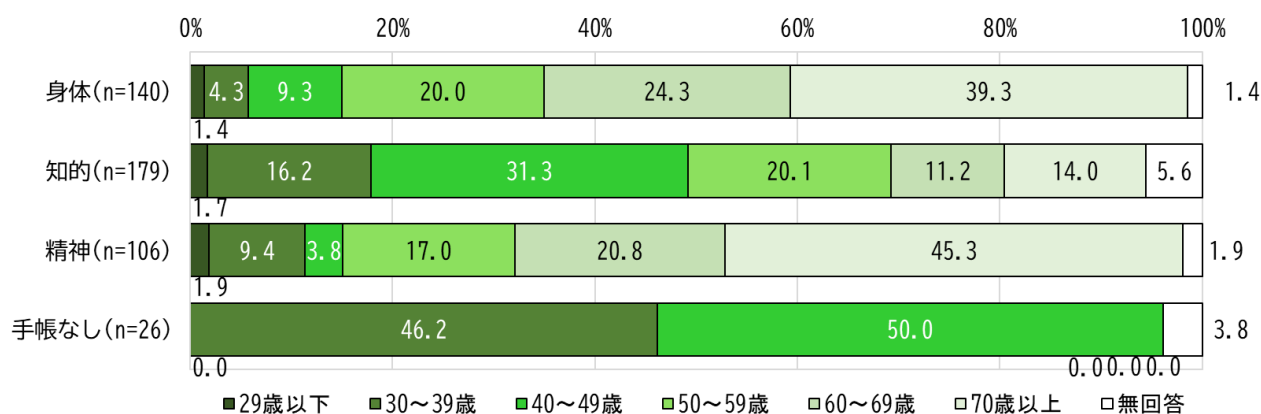


単位：%											
		n	同居して いる家族	別居して いる家族	サービス 事業所の 職員 (ホーム ヘルパー など)	入所施設 や病院の 職員	ボラン ティア	手話通訳 者・要約 筆記者	近所の 人、知人	その他	無回答
	全体	594	70.2	5.7	12.0	11.1	0.0	0.0	0.8	1.5	1.7
身 体	0～17歳	7	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	24	75.0	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	33	42.4	0.0	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0
	65歳以上	148	58.1	10.1	16.2	11.5	0.0	0.0	1.4	0.0	2.7
知 的	0～17歳	90	98.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	75	78.7	1.3	6.7	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	56	42.9	3.6	21.4	26.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
	65歳以上	12	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精 神	0～17歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	31	71.0	12.9	0.0	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2
	40～64歳	83	57.8	7.2	15.7	3.6	0.0	0.0	3.6	8.4	3.6
	65歳以上	41	56.1	4.9	9.8	19.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手 帳 な し	0～17歳	25	96.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	6	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

《問 7-3 で「同居している家族」または「別居している家族」と回答した方にお聞きします。》

問 7-4	主にあなたを介助・支援してくれる方は何歳ですか。	1 つに○
-------	--------------------------	-------

介助・支援してくれる主な人が、同居・別居している家族の人に、主に介助・支援してくれる方の年齢について聞いたところ、身体では「70 歳以上」が最も多く 39.3%、知的では「40～49 歳」が最も多く 31.3%、精神では「70 歳以上」が最も多く 45.3%、手帳なしでは「40～49 歳」が最も多く 50.0%となっています。



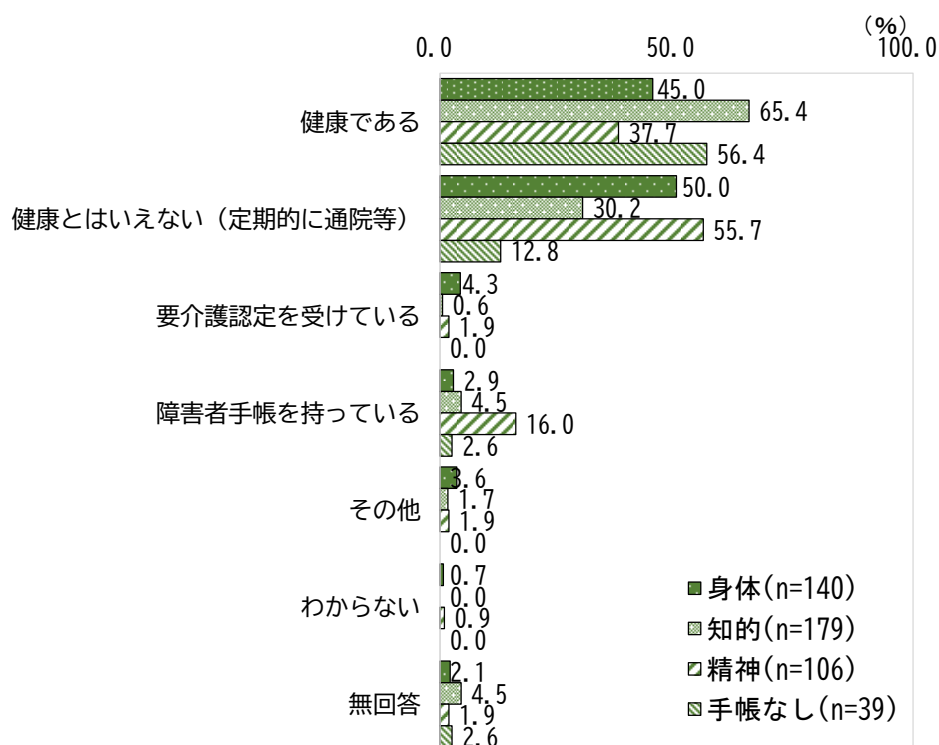
単位：%

	n	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全体	443	1.6	12.9	19.4	18.5	17.2	28.9	3.4
身体								
0～17歳	6	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
18～39歳	19	0.0	5.3	15.8	36.8	36.8	0.0	5.3
40～64歳	14	14.3	0.0	0.0	42.9	28.6	14.3	0.0
65歳以上	101	0.0	2.0	7.9	13.9	22.8	52.5	1.0
知的								
0～17歳	89	1.1	29.2	57.3	7.9	0.0	0.0	4.5
18～39歳	60	3.3	5.0	6.7	43.3	28.3	6.7	6.7
40～64歳	26	0.0	0.0	3.8	11.5	3.8	73.1	7.7
65歳以上	4	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
精神								
0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～39歳	26	3.8	30.8	3.8	23.1	34.6	3.8	0.0
40～64歳	54	1.9	3.7	3.7	18.5	13.0	55.6	3.7
65歳以上	25	0.0	0.0	0.0	8.0	24.0	68.0	0.0
手帳なし								
0～17歳	24	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～39歳	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
40～64歳	8	0.0	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0
65歳以上	5	0.0	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0

《問 7-3 で「同居している家族」または「別居している家族」と回答した方にお聞きします。》

問 7-5	主にあなたを介助・支援してくれる方の健康状態や身体状況について伺います。	すべてに○
-------	--------------------------------------	-------

介助・支援してくれる主な人が、同居・別居している家族の人に、主に介助・支援してくれる方の健康状態や身体状況について聞いたところ、身体では「健康とはいえない（定期的に通院等）」が最も多く 50.0%、知的では「健康である」が最も多く 65.4%、精神では「健康とはいえない（定期的に通院等）」が最も多く 55.7%、手帳なしでは「健康である」が最も多く 56.4%となっています。

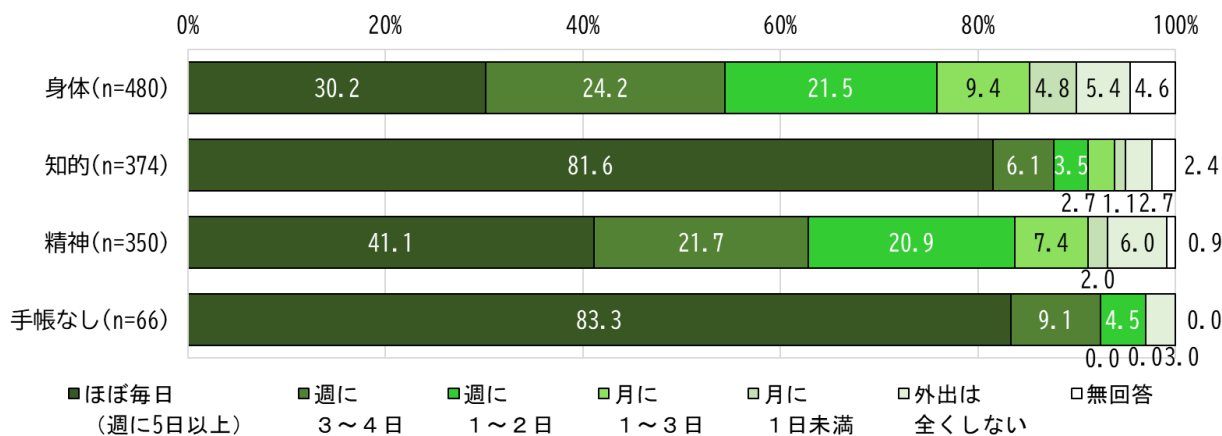


			単位：%						
		n	健康である	健康とはいえない（定期的に通院等）	要介護認定を受けている	障害者手帳を持っている	その他	わからない	無回答
	全体	443	54.6	42.4	2.0	6.8	2.3	0.5	3.2
身体	0～17歳	6	66.7	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	18～39歳	19	31.6	63.2	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
	40～64歳	14	50.0	42.9	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1
	65歳以上	101	45.5	49.5	5.0	3.0	4.0	1.0	1.0
知的	0～17歳	89	84.3	10.1	0.0	4.5	2.2	0.0	3.4
	18～39歳	60	48.3	48.3	0.0	1.7	1.7	0.0	6.7
	40～64歳	26	38.5	57.7	3.8	11.5	0.0	0.0	3.8
	65歳以上	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	26	53.8	34.6	0.0	11.5	0.0	3.8	3.8
	40～64歳	54	37.0	55.6	3.7	18.5	1.9	0.0	1.9
	65歳以上	25	20.0	80.0	0.0	16.0	4.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	24	91.7	16.7	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	40～64歳	8	87.5	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

④ 外出の状況

問 8-1	あなたはふだん、どのくらいの頻度で外出していますか。 ※通勤・通学、病院への通院、施設への通所も含みます。	1 つに○
-------	--	-------

外出の頻度について、すべてにおいて「ほぼ毎日（週に 5 日以上）」が最も多く、身体が 30.2%、知的が 81.6%、精神が 41.1%、手帳なしが 83.3%となっています。



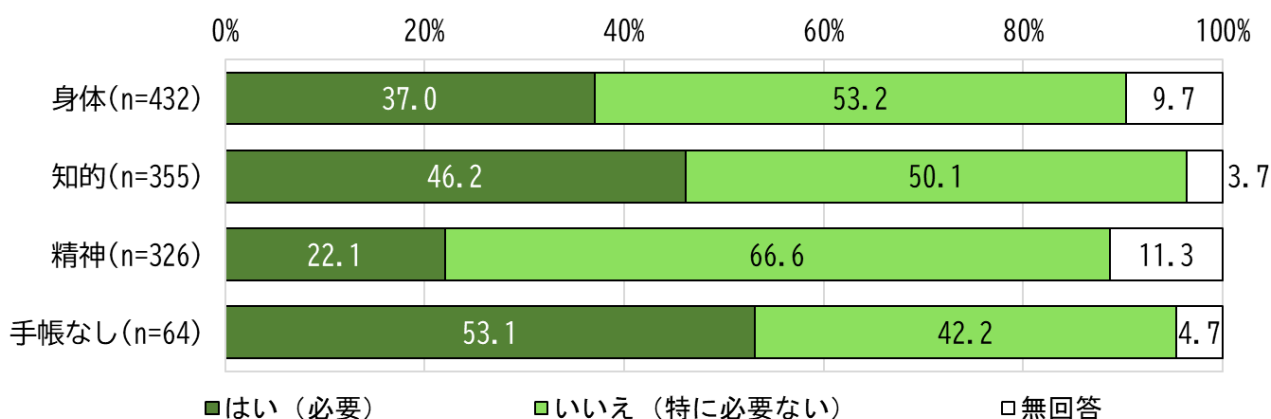
単位：%

		n	ほぼ毎日 (週に5日 以上)	週に3~4 日	週に1~2 日	月に1~3 日	月に1日未 満	外出は全 くしない	無回答
	全体	1,284	50.5	17.2	15.0	6.3	2.6	4.6	2.6
身 体	0~17歳	8	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	18~39歳	25	68.0	8.0	20.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	40~64歳	87	54.0	13.8	11.5	3.4	2.3	5.7	9.2
	65歳以上	360	20.8	28.1	24.4	11.7	5.6	5.6	3.9
知 的	0~17歳	152	92.8	5.3	0.7	0.7	0.0	0.0	0.7
	18~39歳	126	84.9	6.3	3.2	2.4	0.0	1.6	1.6
	40~64歳	85	62.4	7.1	8.2	5.9	3.5	7.1	5.9
	65歳以上	11	36.4	9.1	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1
精 神	0~17歳	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18~39歳	73	47.9	15.1	24.7	4.1	1.4	4.1	2.7
	40~64歳	205	42.9	24.9	19.0	8.3	2.4	2.4	0.0
	65歳以上	68	27.9	19.1	22.1	8.8	1.5	19.1	1.5
手 帳 な し	0~17歳	49	93.9	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18~39歳	5	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40~64歳	5	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	65歳以上	7	28.6	14.3	42.9	0.0	0.0	14.3	0.0

《問 8-1 で「ほぼ毎日」～「月に 1 日未満」のいずれかに回答した方にお聞きます。》

問 8-2	外出する際に、付き添ってくれる人は必要ですか。	1 つに○
-------	-------------------------	-------

ふだん外出している人に、外出する際に付き添ってくれる人の必要性について聞いたところ、身体では「いいえ（特に必要ない）」の方が多く 53.2%、知的では「いいえ（特に必要ない）」の方が多く 50.1%、精神では「いいえ（特に必要ない）」の方が多く 66.6%、手帳なしでは「はい（必要）」の方が多く 53.1% となっています。



単位：％

		n	はい（必要）	いいえ（特に必要ない）	無回答
	全体	1,197	35.9	54.5	7.9
身体	0～17歳	7	85.7	14.3	0.0
	18～39歳	25	68.0	24.0	8.0
	40～64歳	74	21.6	70.3	8.1
	65歳以上	326	37.1	52.5	10.4
知的	0～17歳	151	60.3	36.4	3.3
	18～39歳	122	34.4	61.5	4.1
	40～64歳	74	36.5	59.5	4.1
	65歳以上	8	50.0	50.0	0.0
精神	0～17歳	4	0.0	50.0	50.0
	18～39歳	68	19.1	69.1	11.8
	40～64歳	200	18.0	70.5	11.5
	65歳以上	54	42.6	50.0	7.4
手帳なし	0～17歳	49	69.4	30.6	0.0
	18～39歳	5	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	4	0.0	75.0	25.0
	65歳以上	6	0.0	66.7	33.3

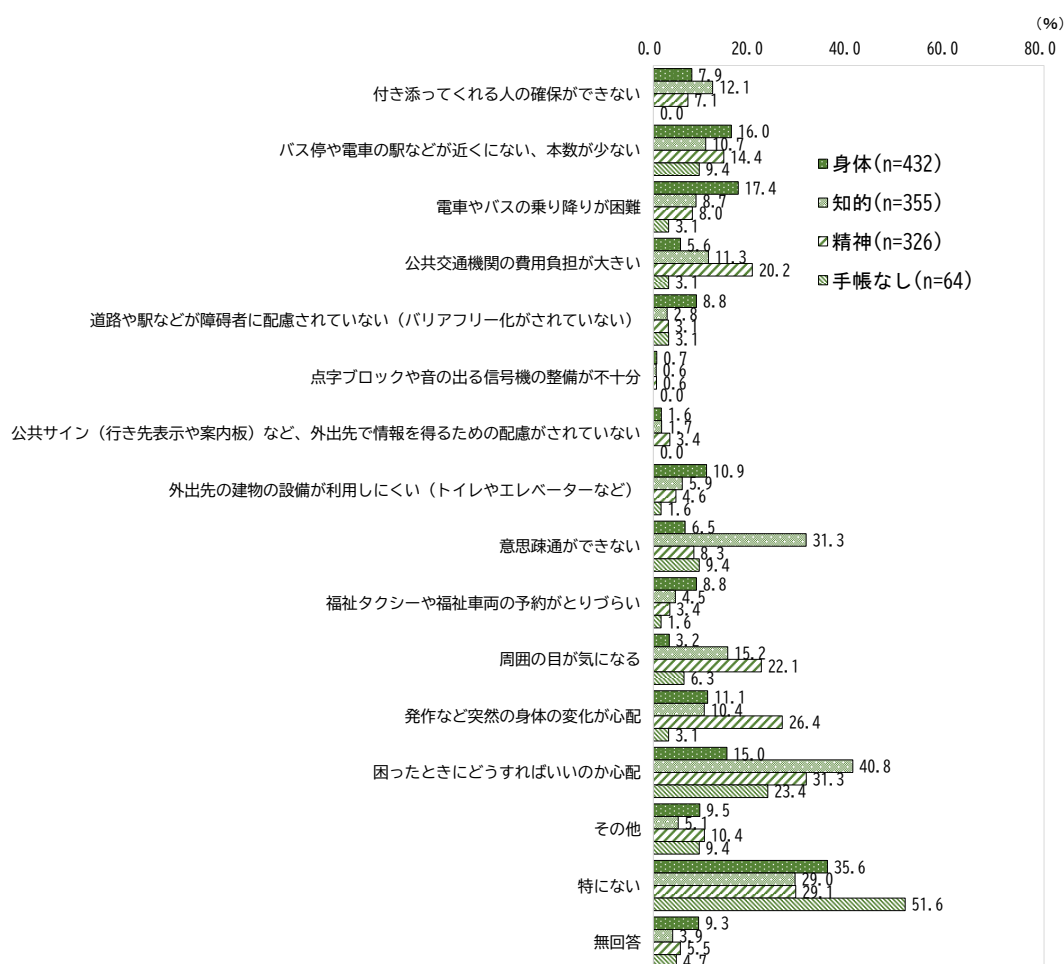
《問 8-1 で「ほぼ毎日」～「月に 1 日未満」のいずれかに回答した方にお聞きます。》

問 8-3

外出する時に困ることは何ですか。

すべてに○

ふだん外出している人に、外出する時に困ることについて聞いたところ、身体では「特にない」が最も多く 35.6%、知的では「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く 40.8%、精神では「困った時にどうすればいいのか心配」が最も多く 31.3%、手帳なしでは「特にない」が最も多く 51.6%となっています。



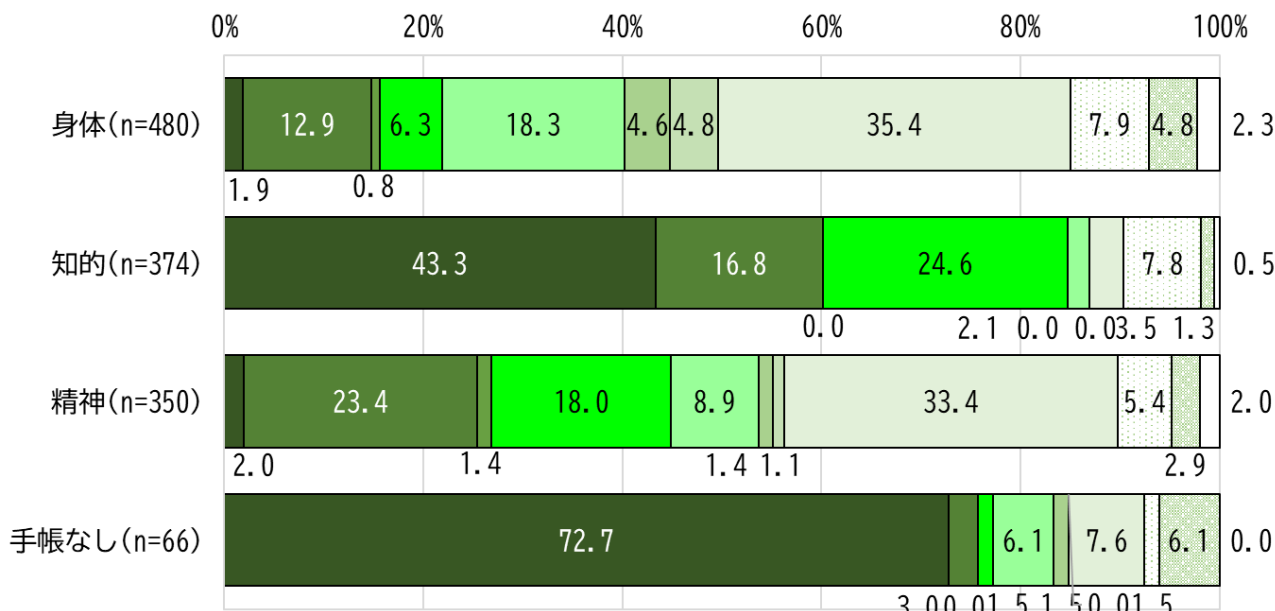
単位：%

		n	付き添ってくれる人の確保ができない	バス停や電車の駅などが近くにない、本数が少ない	電車やバスの乗り降りが困難	公共交通機関の費用負担が大きい	道路や駅などが障害者に配慮されていない（バリアフリー化がされていない）	点字ブロックや音の出る信号機の整備が不十分	公共サイン（行き先表示や案内板）など、外出先で情報を得るための配慮がされていない	外出先の建物の設備が利用しにくい（トイレやエレベーターなど）	意思疎通ができない	福祉タクシーや福祉車両の予約がとりづらい	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	困ったときにどうすればいいのか心配	その他	特にない	無回答
全体		1,197	8.4	13.4	11.2	11.0	5.0	0.6	2.0	7.0	14.4	5.5	12.0	14.5	27.3	8.3	32.2	6.3
身体	0～17歳	7	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3
	18～39歳	25	28.0	20.0	24.0	8.0	20.0	0.0	4.0	36.0	32.0	24.0	12.0	36.0	52.0	4.0	12.0	0.0
	40～64歳	74	5.4	18.9	9.5	9.5	14.9	1.4	5.4	9.5	12.2	2.7	5.4	21.6	16.2	6.8	27.0	6.8
	65歳以上	326	6.7	15.0	18.4	4.6	6.4	0.6	0.6	8.6	3.1	8.6	1.8	7.1	12.0	10.7	39.6	10.4
知的	0～17歳	151	8.6	7.9	7.3	7.9	0.7	0.7	0.7	6.0	26.5	3.3	15.9	2.6	33.1	4.6	31.1	4.0
	18～39歳	122	13.9	9.8	7.4	16.4	3.3	0.0	3.3	7.4	33.6	6.6	16.4	13.1	49.2	3.3	28.7	2.5
	40～64歳	74	16.2	16.2	12.2	8.1	4.1	0.0	1.4	2.7	37.8	2.7	12.2	21.6	43.2	8.1	28.4	5.4
	65歳以上	8	12.5	25.0	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5	0.0	12.5
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	68	4.4	5.9	2.9	16.2	2.9	0.0	2.9	5.9	7.4	1.5	32.4	30.9	41.2	14.7	29.4	1.5
	40～64歳	200	8.5	19.5	7.5	21.5	1.5	1.0	3.0	4.5	7.0	3.5	23.5	27.5	30.5	9.5	29.5	5.5
	65歳以上	54	5.6	7.4	16.7	22.2	9.3	0.0	5.6	3.7	14.8	5.6	5.6	18.5	20.4	9.3	25.9	11.1
手帳なし	0～17歳	49	0.0	8.2	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	10.2	2.0	8.2	2.0	28.6	10.2	49.0	6.1
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0
	40～64歳	4	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	65歳以上	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0

⑤ 日中の過ごし方

問 9-1	あなたはふだん、日中は主にどのように過ごしていますか。	1 つに○
-------	-----------------------------	-------

日中の主な過ごし方について、身体では「自宅で過ごしている」が最も多く 35.4%、知的では「通園・通学している」が最も多く 43.3%、精神では「自宅で過ごしている」が最も多く 33.4%、手帳なしでは「通園・通学している」が最も多く 72.7%となっています。



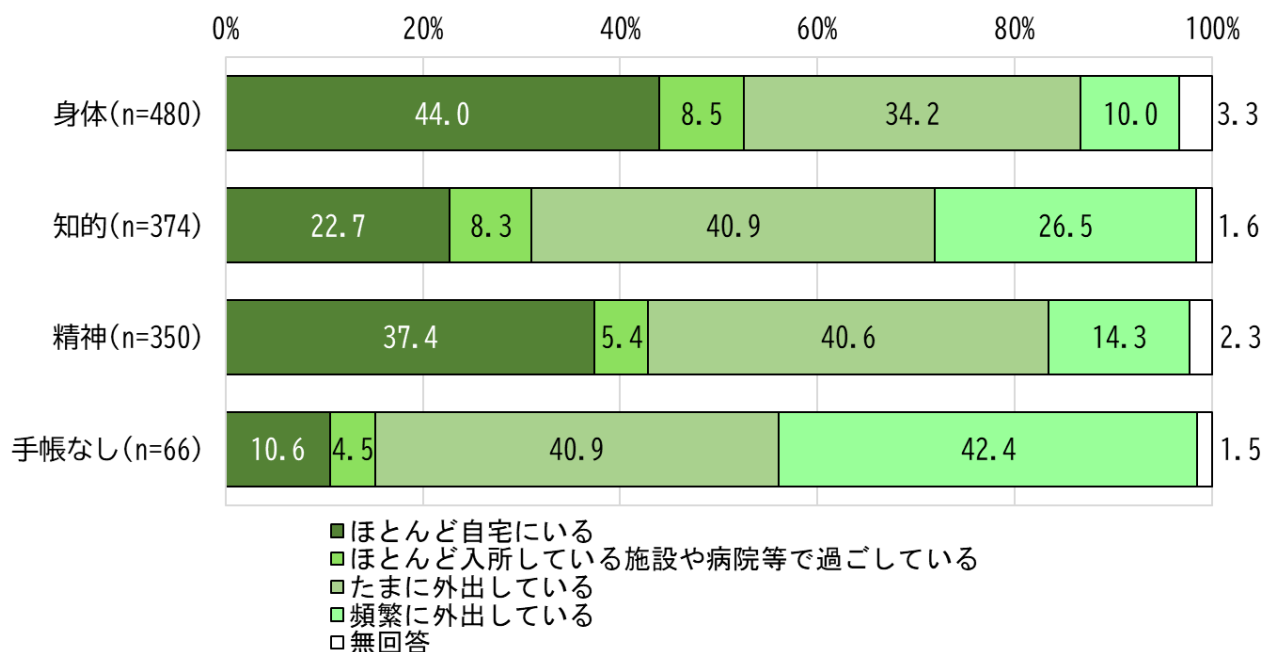
- 通園・通学している
- 一般就労している（会社勤め、自営業、パート・アルバイトなどで収入を得ている）
- ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
- 福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）
- 家事等をしている
- 病院などのデイケアに通っている
- リハビリテーションを受けている
- 自宅で過ごしている
- 入所している施設や病院等で過ごしている
- その他
- 無回答

単位：％

		n	通園・通学している	一般就労している（会社勤め、自営業、パート・アルバイトなどで収入を得ている）	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）	家事等をしている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている（※1～7以外）	入所している施設や病院等で過ごしている	その他	無回答
	全体	1,284	17.6	16.3	0.7	14.5	10.2	2.2	2.1	23.8	6.8	3.3	1.6
身体	0～17歳	8	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	8.0	16.0	0.0	52.0	4.0	0.0	0.0	16.0	0.0	4.0	0.0
	40～64歳	87	0.0	37.9	0.0	14.9	12.6	3.4	2.3	12.6	9.2	6.9	0.0
	65歳以上	360	0.3	6.7	1.1	1.1	21.1	5.0	5.8	43.1	8.3	4.4	3.1
知的	0～17歳	152	96.1	0.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	126	11.9	34.1	0.0	43.7	0.0	0.0	0.0	3.2	4.8	2.4	0.0
	40～64歳	85	1.2	18.8	0.0	41.2	7.1	0.0	0.0	4.7	22.4	2.4	2.4
	65歳以上	11	0.0	27.3	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	9.1	36.4	0.0	0.0
精神	0～17歳	4	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	5.5	34.2	1.4	16.4	5.5	0.0	0.0	31.5	2.7	2.7	0.0
	40～64歳	205	0.0	25.9	2.0	21.0	10.2	1.5	1.0	31.7	2.4	2.4	2.0
	65歳以上	68	1.5	4.4	0.0	11.8	7.4	2.9	2.9	42.6	17.6	4.4	4.4
手帳なし	0～17歳	49	91.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	4.1	0.0
	18～39歳	5	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0

問 9-2	あなたはふだん、休日の日中は主にどのように過ごしていますか。	1 つに○
-------	--------------------------------	-------

休日の日中の主な過ごし方について、身体では「ほとんど自宅にいる」が最も多く 44.0%、知的では「たまに外出している」が最も多く 40.9%、精神では「たまに外出している」が最も多く 40.6%、手帳なしでは「頻繁に外出している」が最も多く 42.4%となっています。



単位：％

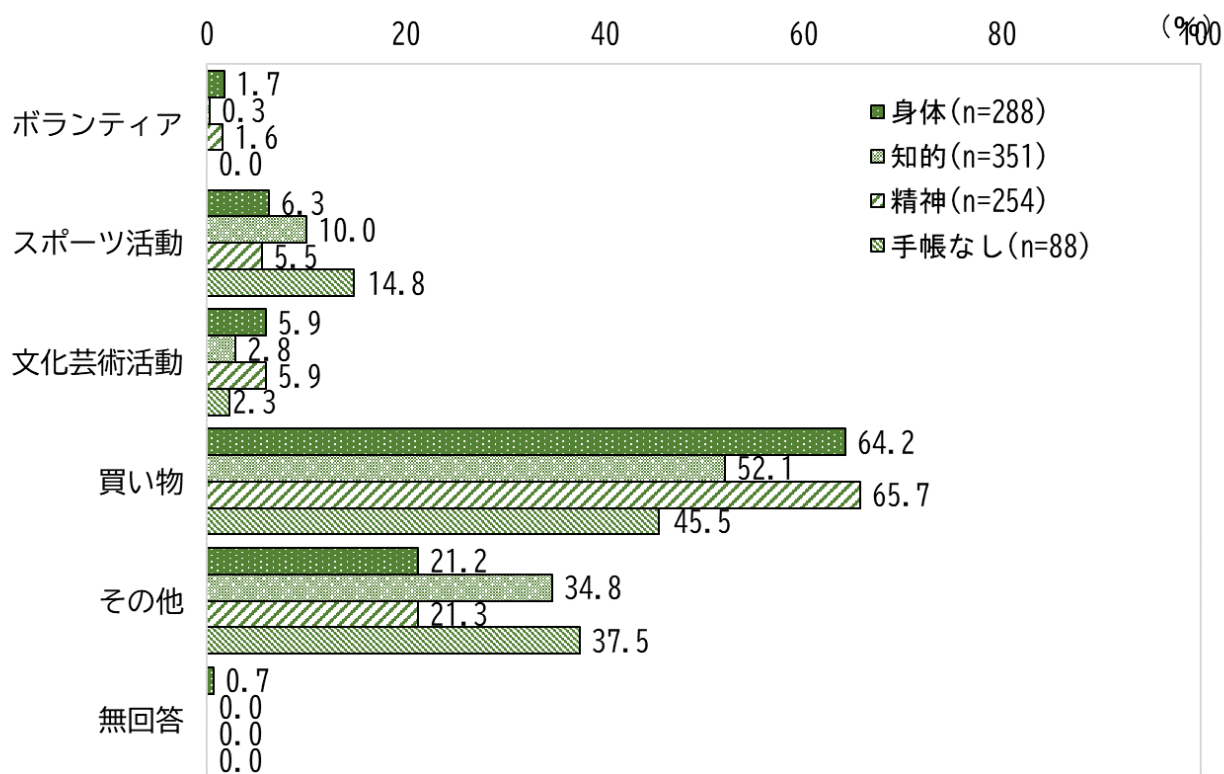
		n	ほとんど 自宅に いる	ほとんど 入所して いる施設 や病院等 で過ごし ている	たまに外 出してい る	頻繁に外 出してい る	無回答
	全体	1,284	33.8	7.3	37.9	17.5	2.4
身 体	0～17歳	8	37.5	0.0	37.5	25.0	0.0
	18～39歳	25	44.0	0.0	48.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	31.0	12.6	40.2	16.1	0.0
	65歳以上	360	47.2	8.3	31.7	8.6	4.2
知 的	0～17歳	152	16.4	0.7	45.4	37.5	0.0
	18～39歳	126	26.2	4.8	46.0	21.4	1.6
	40～64歳	85	29.4	24.7	24.7	17.6	3.5
	65歳以上	11	18.2	27.3	45.5	0.0	9.1
精 神	0～17歳	4	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	39.7	2.7	42.5	13.7	1.4
	40～64歳	205	34.6	2.4	42.4	18.0	2.4
	65歳以上	68	44.1	17.6	30.9	4.4	2.9
手 帳 な し	0～17歳	49	4.1	0.0	42.9	53.1	0.0
	18～39歳	5	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0

《問 9-2 で「たまに外出している」「頻繁に外出している」と回答した方にお聞きします。》

問 9-3 主な外出の目的は何ですか。

2 つまで○

主な外出の目的について、すべてにおいて「買い物」が最も多く、身体が 64.2%、知的が 52.1%、精神が 65.7%、手帳なしが 45.5%となっています。



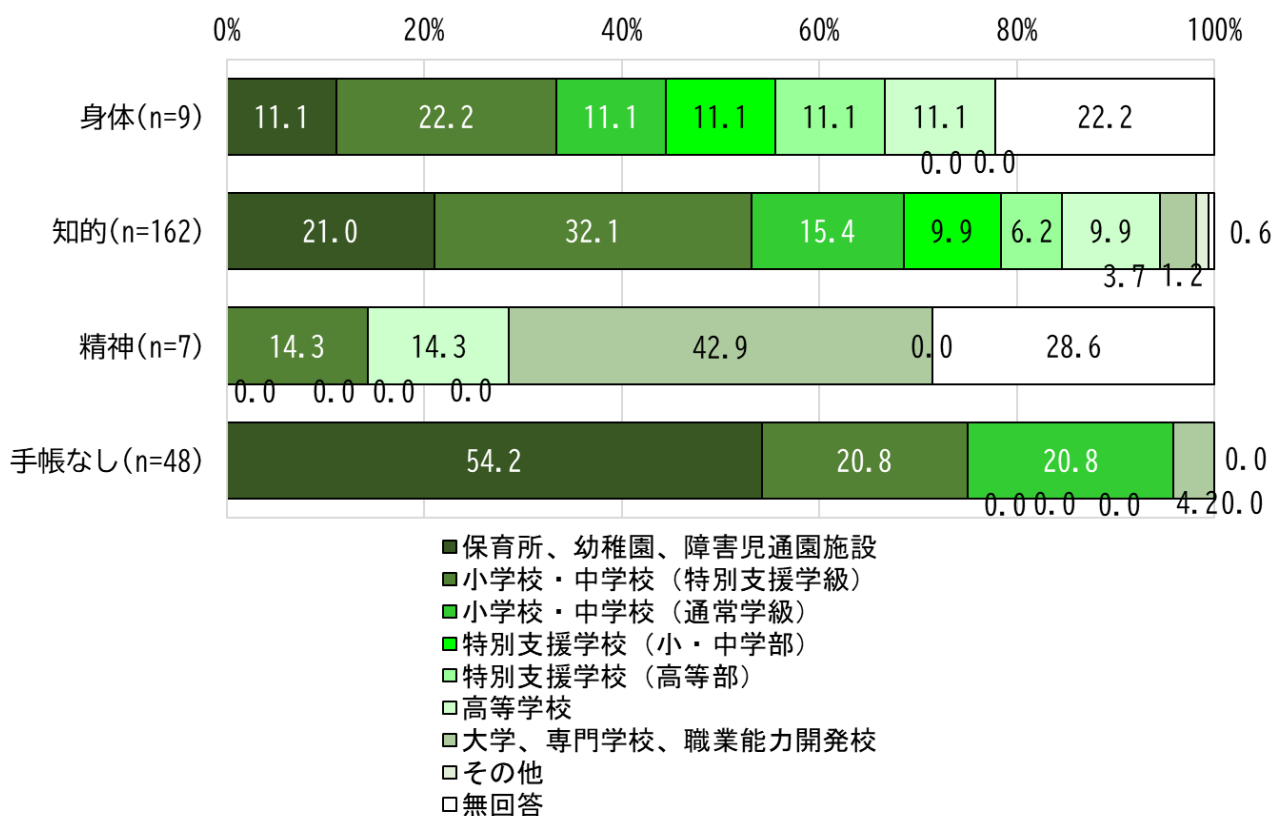
		単位：%						
		n	ボラン ティア	スポーツ 活動	文化芸術 活動	買い物	その他	無回答
	全体	759	1.3	10.5	5.8	75.8	35.6	0.3
身体	0～17歳	8	0.0	25.0	0.0	62.5	12.5	0.0
	18～39歳	17	0.0	0.0	0.0	70.6	29.4	0.0
	40～64歳	66	1.5	6.1	7.6	66.7	15.2	3.0
	65歳以上	197	2.0	6.1	6.1	62.9	22.8	0.0
知的	0～17歳	177	0.0	14.7	1.1	44.6	39.5	0.0
	18～39歳	115	0.0	2.6	4.3	57.4	35.7	0.0
	40～64歳	54	1.9	11.1	5.6	61.1	20.4	0.0
	65歳以上	5	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	5	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0
	18～39歳	54	0.0	7.4	7.4	70.4	14.8	0.0
	40～64歳	165	2.4	6.1	4.8	64.8	21.8	0.0
	65歳以上	30	0.0	0.0	10.0	63.3	26.7	0.0
手帳なし	0～17歳	76	0.0	14.5	1.3	46.1	38.2	0.0
	18～39歳	3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	40～64歳	3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0
	65歳以上	6	0.0	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0

⑥ 通園・通学の状況

《問 9-1 で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問 10-1	現在、通園・通学しているところはどこですか。	1 つに○
--------	------------------------	-------

現在、通園・通学している人に、通園・通学先について聞いたところ、身体では「小学校・中学校（特別支援学級）」「無回答」が最も多くそれぞれ 22.2%、知的では「小学校・中学校（特別支援学級）」が最も多く 32.1%、精神では「大学、専門学校、職業能力開発校」が最も多く 42.9%、手帳なしでは「保育所、幼稚園、障害児通園施設」が最も多く 54.2%となっています。



単位：%

		n	保育所、幼稚園、障害児通園施設	小学校・中学校（特別支援学級）	小学校・中学校（通常学級）	特別支援学校（小・中学部）	特別支援学校（高等部）	高等学校	大学、専門学校、職業能力開発校	その他	無回答
	全体	239	25.5	27.2	15.1	7.1	4.6	7.5	4.6	0.8	2.1
身体	0～17歳	6	16.7	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
知的	0～17歳	146	22.6	34.9	17.1	10.3	4.8	8.2	0.0	1.4	0.7
	18～39歳	15	0.0	6.7	0.0	6.7	20.0	26.7	40.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	25.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
手帳なし	0～17歳	45	57.8	22.2	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

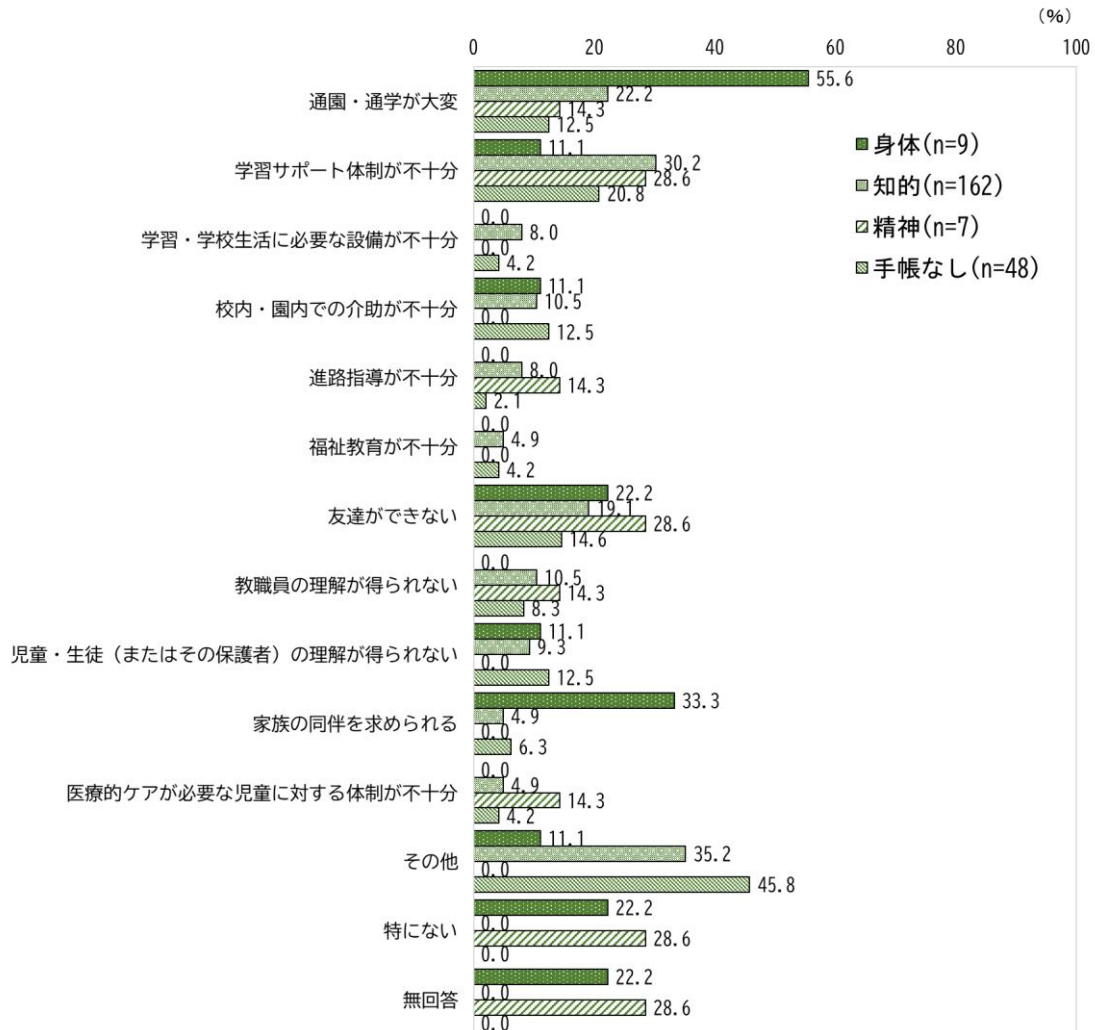
《問 9-1 で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問 10-2

学校・園生活を送る上での課題は、次のどれですか。

3 つまで○

現在、通園・通学している人に、学校・園生活を送る上での課題について聞いたところ、身体では「通園・通学が大変」が最も多く 55.6%、知的では「その他」が最も多く 35.2%、精神では「学習サポート体制が不十分」「友達ができない」「特にない」が最も多くそれぞれ 28.6%、手帳なしでは「その他」が最も多く 45.8%となっています。

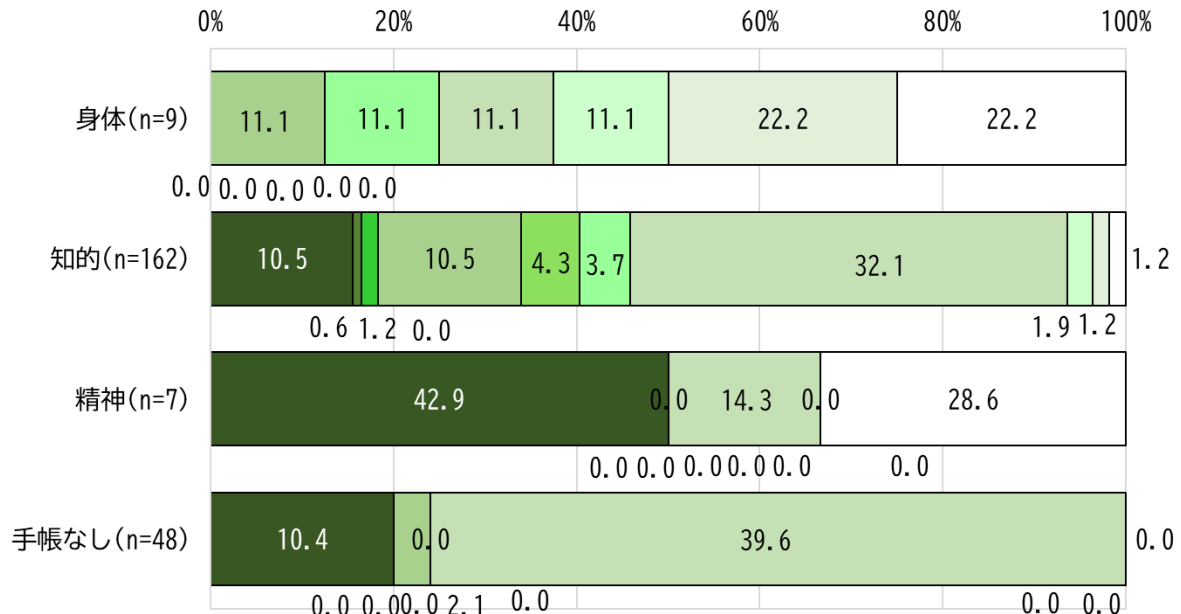


単位：％																
		n	通園・通学が大変	学習サポート体制が不十分	学習・学校生活に必要な設備が不十分	校内・園内での介助が不十分	進路指導が不十分	福祉教育が不十分	友達ができない	教職員の理解が得られない	児童・生徒（またはその保護者）の理解が得られない	家族の同伴を求められる	医療的ケアが必要な児童に対する体制が不十分	その他	特にない	無回答
身体	全体	239	20.1	25.9	6.3	10.0	6.3	4.2	17.6	9.2	9.2	5.9	4.6	33.5	1.7	1.7
	0～17歳	6	83.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
知的	0～17歳	146	22.6	30.1	8.2	11.6	7.5	4.8	17.1	8.9	9.6	5.5	5.5	34.2	0.0	0.0
	18～39歳	15	13.3	33.3	6.7	0.0	13.3	6.7	40.0	26.7	6.7	0.0	0.0	46.7	0.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0～17歳	2	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	18～39歳	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	0～17歳	45	11.1	20.0	4.4	11.1	2.2	4.4	11.1	8.9	13.3	6.7	4.4	48.9	0.0	0.0
	18～39歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	40～64歳	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 9-1 で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問 10-3	学校卒業後の進路はどうお考えですか。	1 つに○
--------	--------------------	-------

現在、通園・通学している人に、学校卒業後の進路について聞いたところ、身体では「働きたいとは思わない（働けない）」が最も多く 22.2%、知的では「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 32.7%、精神では「会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）」が最も多く 42.9%、手帳なしでは「わからない（まだ考えられない）」が最も多く 47.9%となっています。



- 会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）
- パート・アルバイト、派遣・契約社員などとして働きたい（非正規雇用）
- 自営業（家族従業者など）で働きたい
- 自宅でできる仕事がしたい（内職・インターネットを活用したものなど）
- 作業所や就労継続支援を利用して働きたい（福祉的就労）
- 就労移行支援を利用して働きたい（福祉的就労）
- 職業訓練校等で就労のための訓練を受けたい
- 進学したい
- その他
- 働きたいとは思わない（働けない）
- 無回答

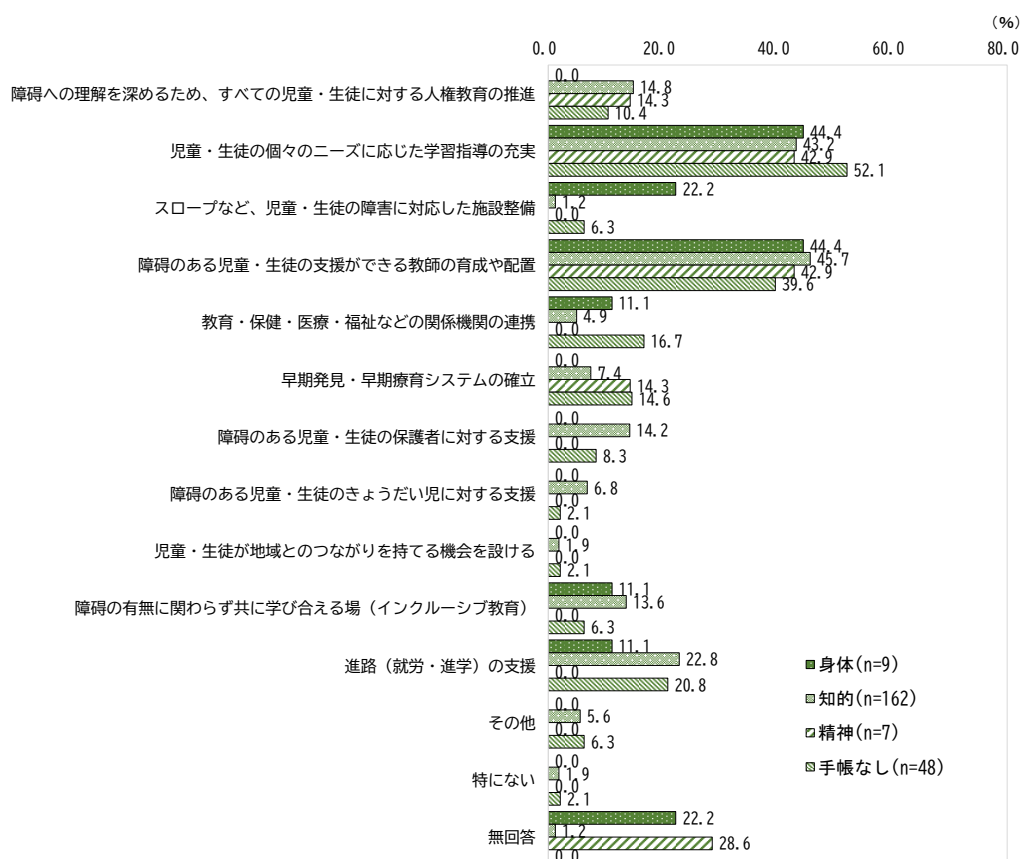
		n	会社員、 団体職員 などとして働きたい（正規雇用）	パート・ アルバイト、 派遣・契約 社員などとして働きたい（非正規雇用）	自営業（家族従業者など）で働きたい	自宅でできる仕事がしたい（内職・インターネットを活用したものなど）	作業所や就労継続支援を利用して働きたい（福祉的就労）	就労移行支援を利用して働きたい（福祉的就労）	職業訓練校等で就労のための訓練を受けたい	進学したい	その他	働きたいとは思わない（働けない）	わからない（まだ考えられない）	無回答
身体	全体	239	10.5	0.4	0.8	7.9	2.9	2.9	30.5	1.7	1.7	32.6	2.5	2.5
	0～17歳	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
知的	0～17歳	146	8.2	0.7	1.4	11.6	2.7	3.4	32.9	1.4	1.4	35.6	0.7	0.7
	18～39歳	15	33.3	0.0	0.0	0.0	20.0	6.7	26.7	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
手帳なし	0～17歳	45	6.7	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	51.1	0.0	0.0
	18～39歳	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

《問 9-1 で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。》

問 10-4	あなたは、障害のある児童・生徒の教育・育成に関し、どのようなことが必要であると思いますか。	2 つまで○
--------	---	--------

現在、通園・通学している人に、障害のある児童・生徒の教育・育成に関して必要なことについて聞いたところ、身体では「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」「障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置」が最も多くそれぞれ 44.4%、知的では「障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置」が最も多く 45.7%、精神では「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」「障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置」が最も多く 42.9%、手帳なしでは「児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実」が最も多く 52.1%となっています。



単位：%

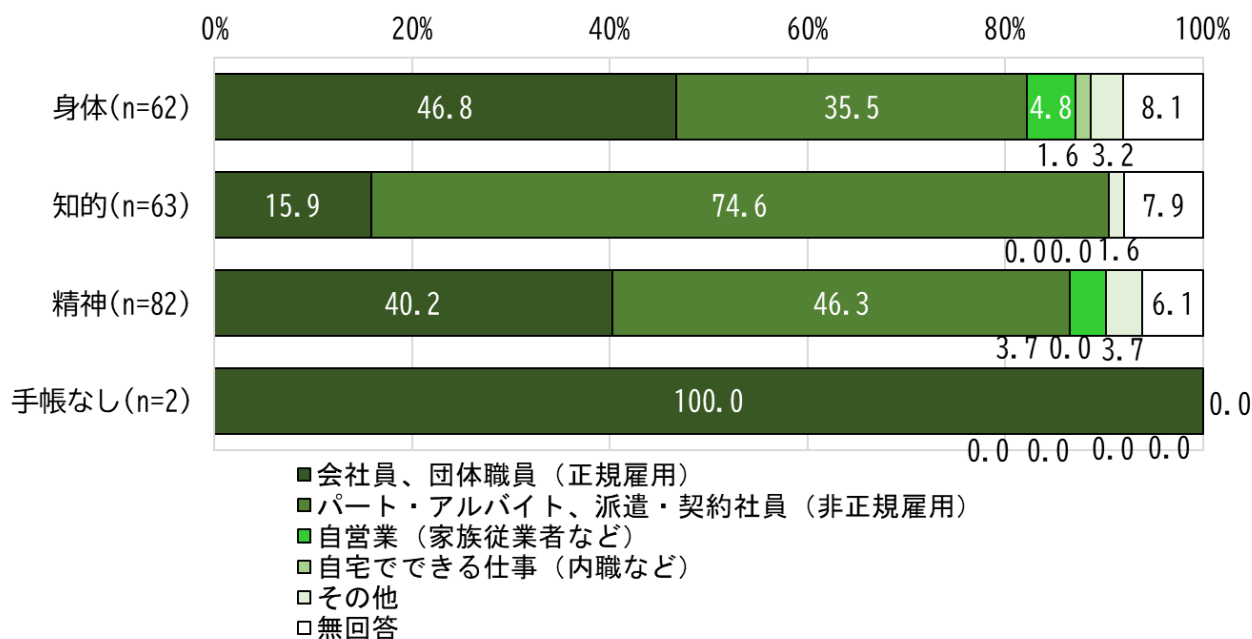
		n	障害への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進	児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実	スロープなど、児童・生徒の障害に対応した施設整備	障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置	教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携	早期発見・早期療育システムの確立	障害のある児童・生徒の保護者に対する支援	障害のある児童・生徒のきょうだい児に対する支援	児童・生徒が地域とのつながりを持てる機会を設ける	障害の有無に関わらず共に学び合える場（インクルーシブ教育）	進路（就労・進学）の支援	その他	特にない	無回答
	全体	239	12.6	42.7	2.9	41.8	7.1	8.4	11.3	5.0	1.7	10.9	20.1	5.0	1.7	2.5
身体	0～17歳	6	0.0	50.0	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
知的	0～17歳	146	14.4	44.5	1.4	45.9	4.8	7.5	15.1	6.8	1.4	14.4	21.9	6.2	1.4	0.7
	18～39歳	15	20.0	33.3	0.0	46.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	33.3	0.0	0.0	6.7	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	2	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	4	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
手帳なし	0～17歳	45	8.9	51.1	6.7	40.0	15.6	15.6	8.9	2.2	2.2	6.7	20.0	6.7	2.2	0.0
	18～39歳	2	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑦ 仕事の状況や今後の希望

《問 9-1 で「一般就労している」と回答した方にお聞きします。》

問 11-1	あなたは現在、どのように働いていますか。	1 つに○
--------	----------------------	-------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人に、就労形態について聞いたところ、身体では「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 46.8%、知的では「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 74.6%、精神では「パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）」が最も多く 46.3%、手帳なしでは「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 100.0%となっています。



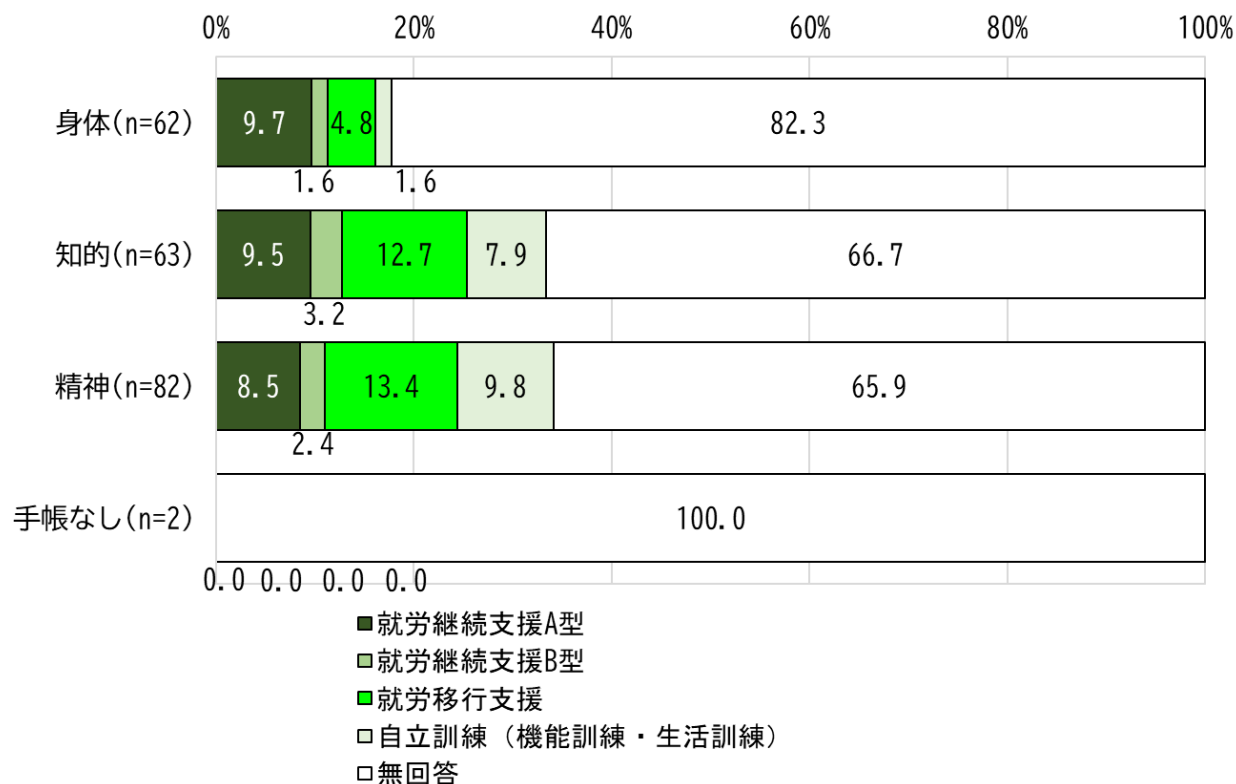
単位：％

		n	会社員、 団体職員 （正規雇 用）	パート・ アルバイト、 派遣・契約 社員（非 正規雇 用）	自営業 （家族従 業者な ど）	自宅で できる 仕事 （内職 など）	その他	無回答
	全体	216	34.3	49.5	2.8	0.5	2.8	6.9
身 体	0～17歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	33	66.7	24.2	0.0	0.0	3.0	6.1
	65歳以上	24	16.7	50.0	12.5	4.2	4.2	12.5
知 的	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	43	16.3	79.1	0.0	0.0	0.0	4.7
	40～64歳	16	12.5	68.8	0.0	0.0	6.3	12.5
	65歳以上	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
精 神	0～17歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	48.0	40.0	0.0	0.0	8.0	4.0
	40～64歳	53	37.7	49.1	3.8	0.0	1.9	7.5
	65歳以上	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
手 帳 な し	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 9-1 で「一般就労している」と回答した方にお聞きます。》

問 11-2	一般就労しながら利用したい就労系サービス等がありますか。	1 つに○
--------	------------------------------	-------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人に、一般就労しながら利用したい就労系サービス等について聞いたところ、すべてにおいて「無回答」が最も多く、身体が 82.3%、知的が 66.7%、精神が 65.9%、手帳なしが 100.0%となっています。



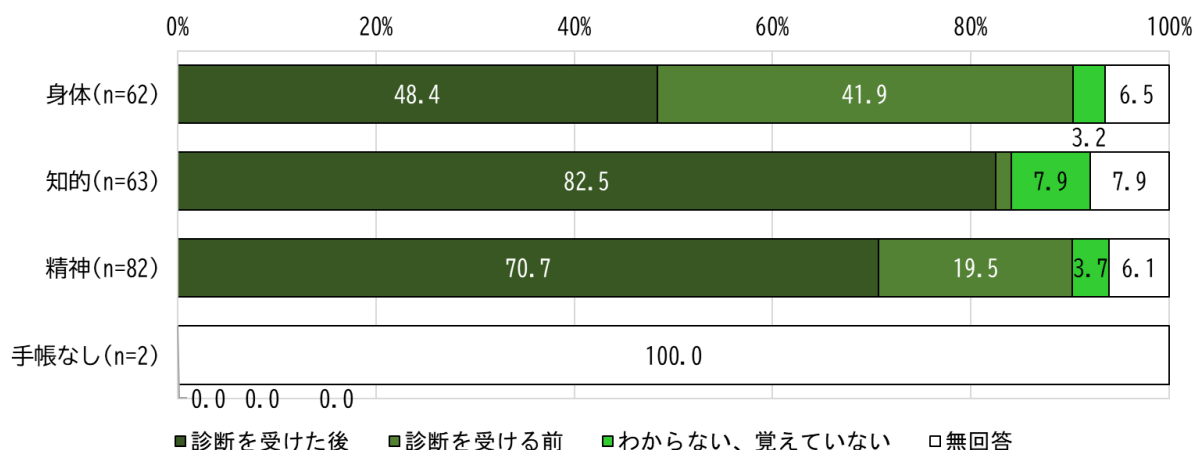
単位：％

		n	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	自立訓練 (機能訓練・生活訓練)	無回答
	全体	216	8.8	2.3	10.2	6.5	69.0
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	4	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	40～64歳	33	9.1	0.0	9.1	0.0	81.8
	65歳以上	24	8.3	4.2	0.0	4.2	83.3
知的	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	43	7.0	2.3	14.0	9.3	67.4
	40～64歳	16	12.5	6.3	12.5	6.3	62.5
	65歳以上	3	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	25	8.0	0.0	24.0	0.0	68.0
	40～64歳	53	9.4	3.8	7.5	13.2	66.0
	65歳以上	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
手帳なし	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 9-1 で「一般就労している」と回答した方にお聞きします。》

問 11-3	現在の職場に就いたのは、障害 ^{がい} や疾患の診断を受けた後でしたか。	すべてに○
--------	---	-------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人に、現在の職場に就いたのは、障害（がい）や疾患の診断を受けた後かについて聞いたところ、身体では「診断を受けた後」が最も多く 48.4%、知的では「診断を受けた後」が最も多く 82.5%、精神では「診断を受けた後」が最も多く 70.7%、手帳なしでは「無回答」が最も多く 100.0%となっています。



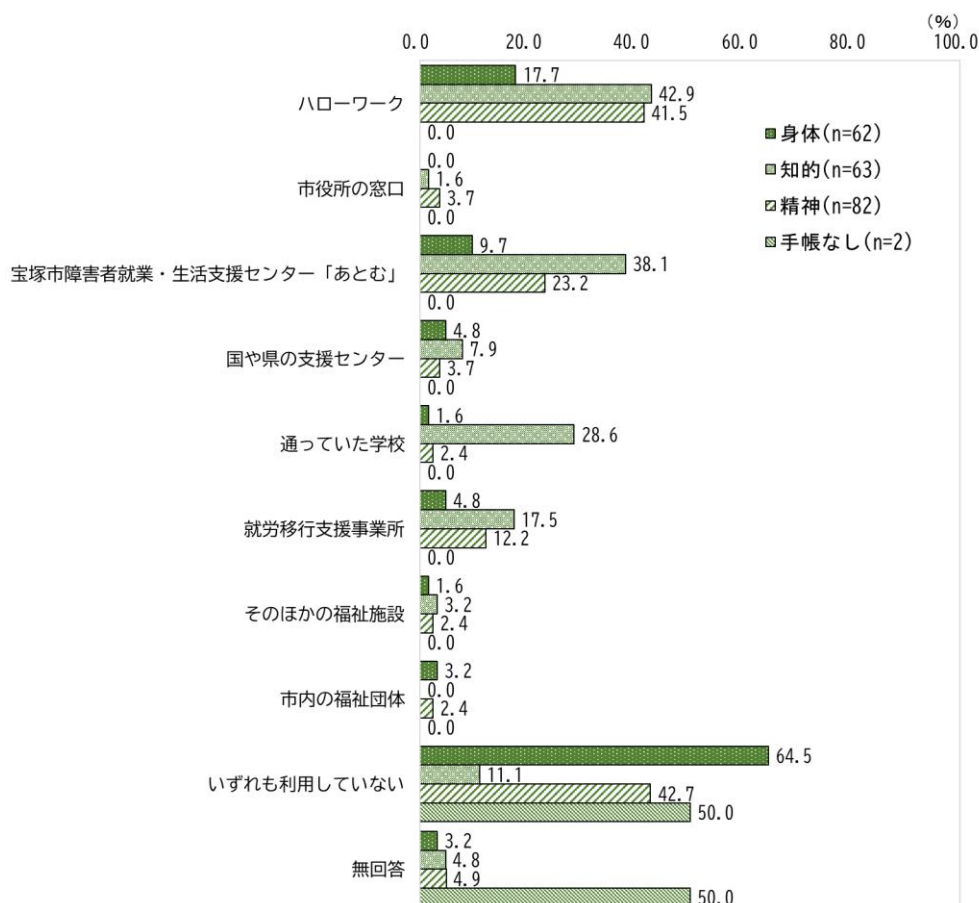
単位：%

		n	診断を受けた後	診断を受ける前	わからない、覚えていない	無回答
	全体	216	0.0	0.0	0.0	0.0
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	4	75.0	0.0	25.0	0.0
	40～64歳	33	54.5	39.4	0.0	6.1
	65歳以上	24	37.5	54.2	0.0	8.3
知的	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	43	86.0	2.3	9.3	2.3
	40～64歳	16	75.0	0.0	6.3	18.8
	65歳以上	3	100.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	72.0	16.0	4.0	8.0
	40～64歳	53	67.9	22.6	3.8	5.7
	65歳以上	3	100.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 9-1 で「一般就労している」と回答した方にお聞きします。》

問 11-4	現在の職場に就くために、次の機関の支援を利用しましたか。	すべてに○
--------	------------------------------	-------

現在、働いている（会社勤めや自営業などで収入を得ている）人が、現在の職場に就くために利用した支援機関について、身体では「いずれも利用していない」が最も多く 64.5%、知的では「ハローワーク」が最も多く 42.9%、精神では「いずれも利用していない」が最も多く 42.7%、手帳なしでは「いずれも利用していない」が最も多く 50.0%となっています。



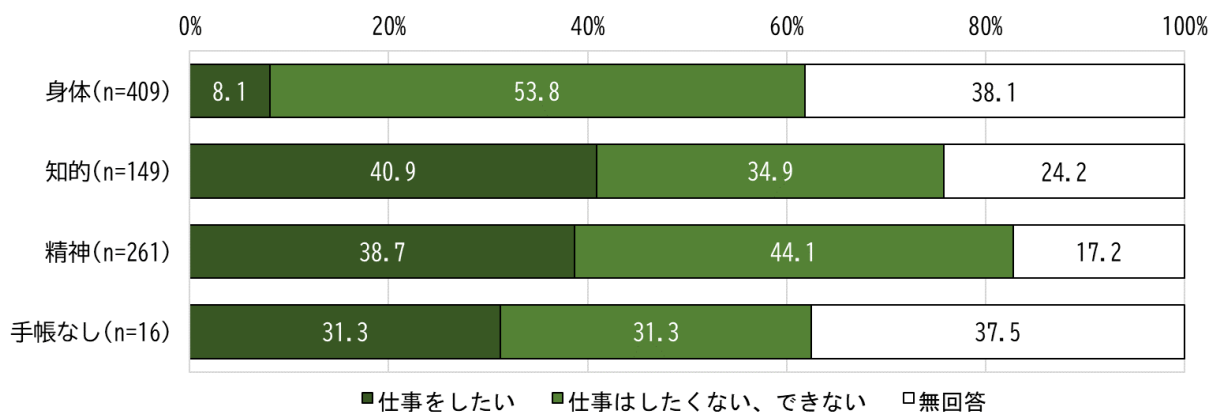
単位：%

		n	ハローワーク	市役所の窓口	宝塚市障害者就業・生活支援センター「あとむ」	国や県の支援センター	通っていた学校	就労移行支援事業所	そのほかの福祉施設	市内の福祉団体	いずれも利用していない	無回答
身体	全体	216	33.3	1.9	22.7	5.1	9.7	11.1	2.3	1.9	38.4	4.6
	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	4	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	33	18.2	0.0	9.1	9.1	3.0	6.1	3.0	6.1	63.6	0.0
	65歳以上	24	12.5	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	8.3
知的	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	43	46.5	2.3	41.9	9.3	32.6	20.9	4.7	0.0	7.0	0.0
	40～64歳	16	37.5	0.0	25.0	6.3	25.0	12.5	0.0	0.0	18.8	12.5
	65歳以上	3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	25	32.0	4.0	16.0	0.0	4.0	12.0	0.0	0.0	44.0	8.0
	40～64歳	53	47.2	3.8	26.4	5.7	1.9	11.3	3.8	3.8	41.5	3.8
	65歳以上	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
手帳なし	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 9-1 で「通園・通学している」または「働いている」以外のいずれかに回答した方にお聞きします。》

問 12-1	あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。	1 つに○
--------	---------------------------	-------

現在、働いていない人に、収入を得る仕事への希望について聞いたところ、身体では「仕事はしたくない、できない」の方が多く 53.8%、知的では「仕事をしたい」の方が多く 40.9%、精神では「仕事はしたくない、できない」の方が多く 44.1%、手帳なしでは「無回答」の方が多く 37.5%となっています。



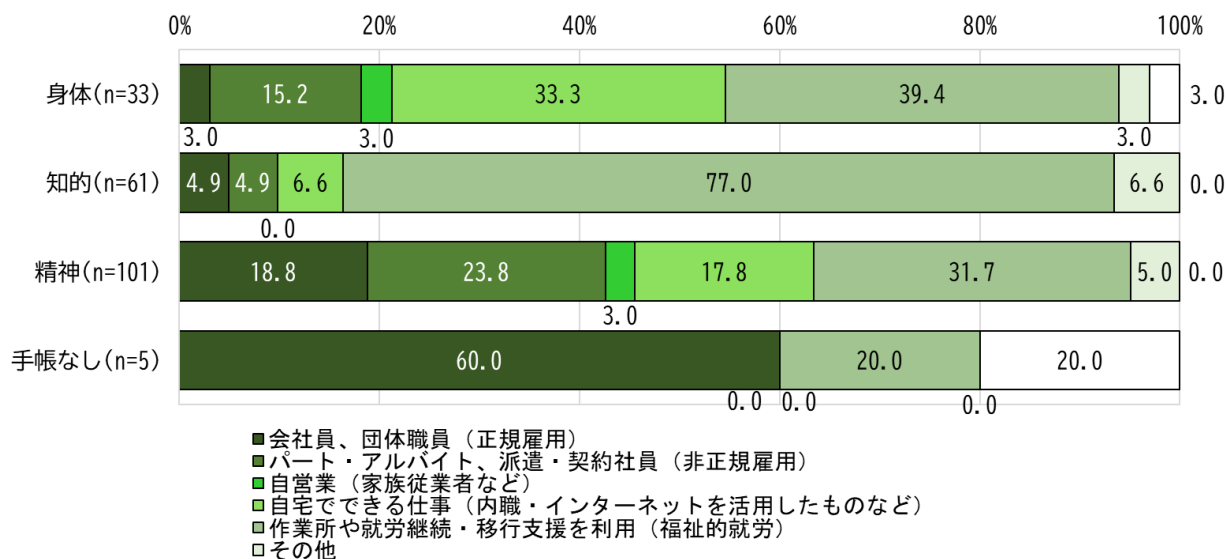
単位：％

		n	仕事をしたい	仕事はしたくない、できない	無回答
	全体	872	22.9	45.0	27.9
身体	0～17歳	1	100.0	0.0	0.0
	18～39歳	19	36.8	47.4	15.8
	40～64歳	54	29.6	35.2	35.2
	65歳以上	335	2.7	57.3	40.0
知的	0～17歳	5	40.0	0.0	60.0
	18～39歳	68	58.8	27.9	13.2
	40～64歳	68	27.9	41.2	30.9
	65歳以上	8	0.0	62.5	37.5
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	44	59.1	34.1	6.8
	40～64歳	152	46.7	40.1	13.2
	65歳以上	64	6.3	60.9	32.8
手帳なし	0～17歳	4	50.0	0.0	50.0
	18～39歳	2	100.0	0.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	33.3	66.7
	65歳以上	7	14.3	57.1	28.6

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-2	どのような形で働きたいと思いますか。	1 つに○
--------	--------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、希望する就労形態について聞いたところ、身体では「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 39.4%、知的では「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 77.0%、精神では「作業所や就労継続・移行支援を利用（福祉的就労）」が最も多く 31.7%、手帳なしでは「会社員、団体職員（正規雇用）」が最も多く 60.0%となっています。

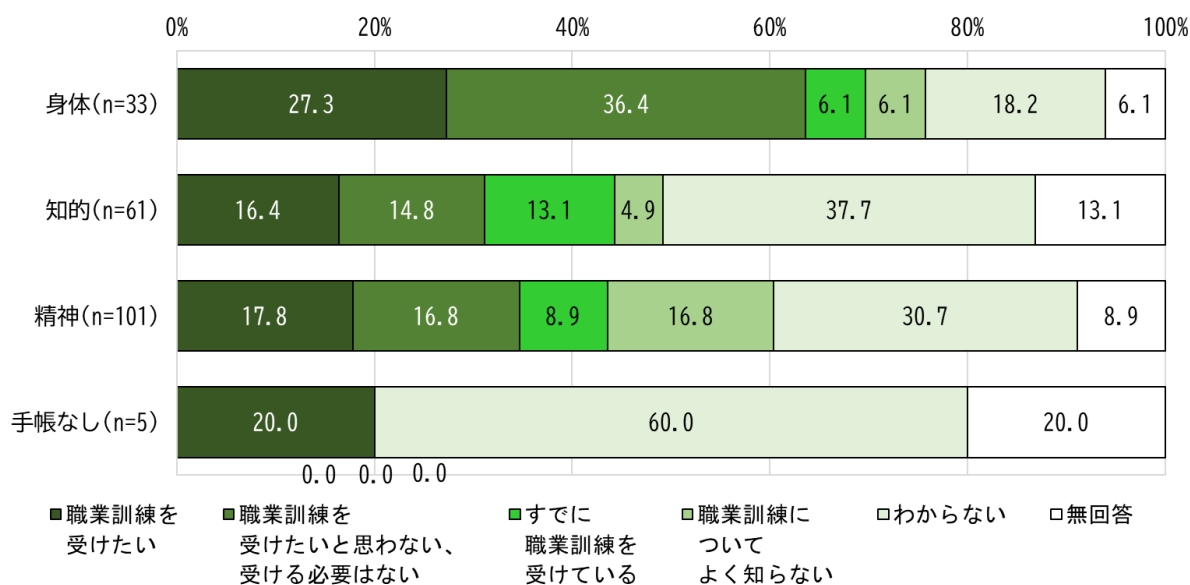


			単位：%						
		n	会社員、 団体職員 （正規雇 用）	パート・ アルバイト、 派遣・契約 社員（非 正規雇 用）	自営業 （家族従 業者な ど）	自宅でで きる仕事 （内職・ インター ネットを 活用した ものな ど）	作業所や 就労継 続・移行 支援を利 用（福祉 的就労）	その他	無回答
	全体	211	12.3	15.2	1.9	15.6	44.1	4.7	0.9
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	7	0.0	14.3	0.0	0.0	85.7	0.0	0.0
	40～64歳	16	6.3	18.8	6.3	25.0	43.8	0.0	0.0
	65歳以上	9	0.0	11.1	0.0	77.8	0.0	0.0	11.1
知的	0～17歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	18～39歳	40	7.5	7.5	0.0	5.0	72.5	7.5	0.0
	40～64歳	19	0.0	0.0	0.0	10.5	89.5	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	26	26.9	19.2	3.8	19.2	23.1	7.7	0.0
	40～64歳	71	15.5	23.9	2.8	18.3	35.2	4.2	0.0
	65歳以上	4	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-3	働くにあたって、職業訓練を受けたいと思いますか。	1 つに○
--------	--------------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、職業訓練の希望について聞いたところ、身体では「職業訓練を受けたいと思わない、受ける必要はない」が最も多く 36.4%、知的では「わからない」が最も多く 37.7%、精神では「わからない」が最も多く 30.7%、手帳なしでは「わからない」が最も多く 60.0%となっています。



単位：％

		n	職業訓練を受けたい	職業訓練を受けたいと思わない、受ける必要はない	すでに職業訓練を受けている	職業訓練についてよく知らない	わからない	無回答
	全体	213	17.8	17.8	8.9	10.3	29.6	9.4
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	7	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0
	40～64歳	16	31.3	37.5	0.0	0.0	25.0	6.3
	65歳以上	9	22.2	55.6	11.1	11.1	0.0	0.0
知的	0～17歳	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	40	12.5	12.5	15.0	7.5	40.0	12.5
	40～64歳	19	15.8	21.1	10.5	0.0	36.8	15.8
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	26	19.2	15.4	15.4	23.1	23.1	3.8
	40～64歳	71	16.9	18.3	7.0	15.5	33.8	8.5
	65歳以上	4	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0
手帳なし	0～17歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

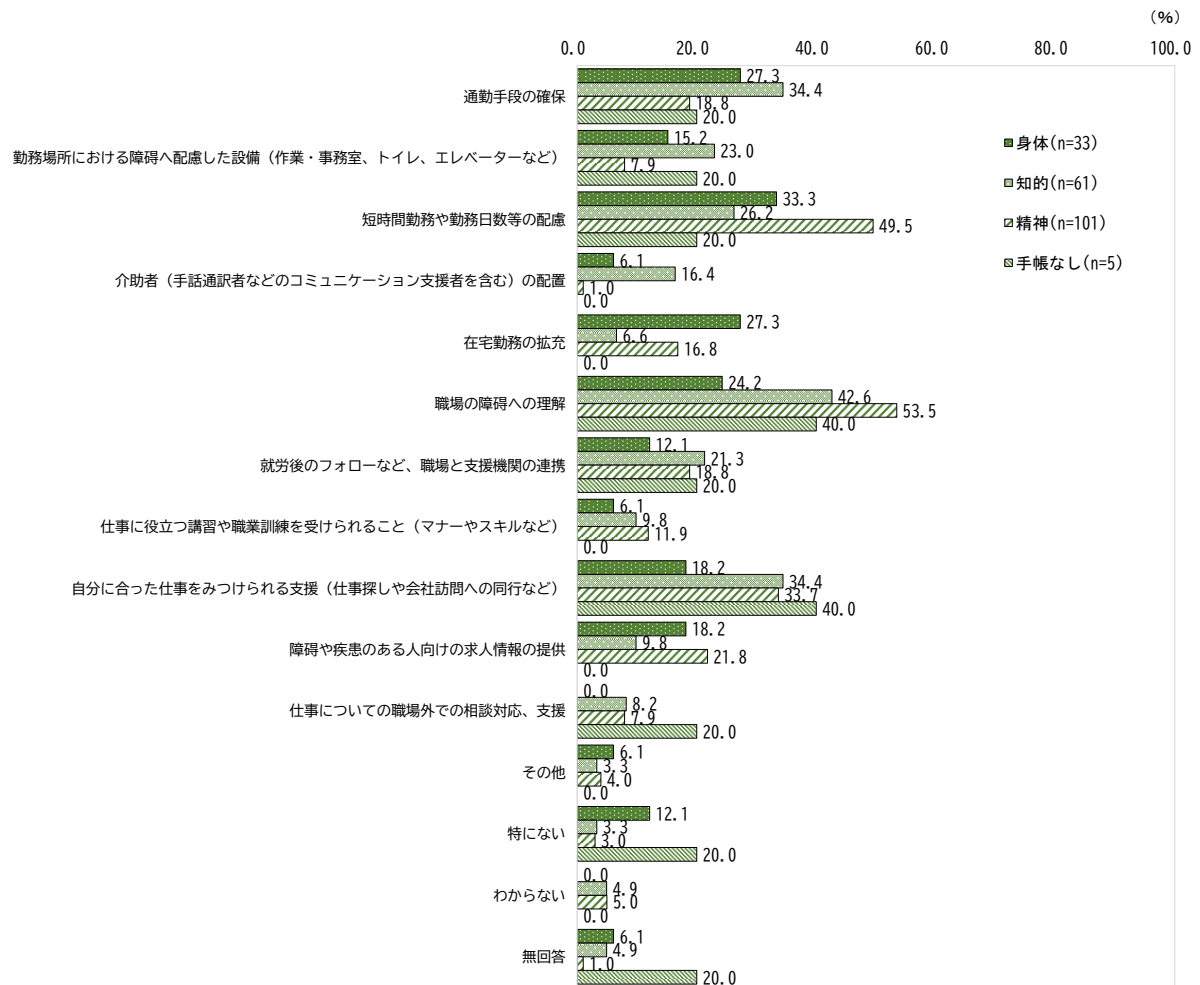
《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-4

あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。

3 つまで○

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、働く際に必要な支援について聞いたところ、身体では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が最も多く 33.3%、知的では「職場の障^がいへの理解」が最も多く 42.6%、精神では「職場の障^がいへの理解」が最も多く 53.5%、手帳なしでは「職場の障^がいへの理解」「自分に合った仕事をみつけられる支援」が最も多くそれぞれ 40.0%となっています。



			通手段の確保	勤務場所における障がい配慮した設備 (作業・事務室、トイレ、エレベーターなど)	短時間勤務や勤務日数等の配慮	介助者 (手話通訳者などのコミュニケーション支援者を含む) の配置	在宅勤務の拡充	職場の障がいへの理解	就労後のフォローなど、職場と支援機関の連携	仕事に役立つ講習や職業訓練を受けられること (マナーやスキルなど)	自分に合った仕事をみつけられる支援 (仕事探しや会社訪問への同行など)	障がいや疾患のある人向けの求人情報の提供	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	特にない	わからない	無回答
		n															
	全体	213	23.5	13.1	36.6	6.1	14.1	42.3	17.4	9.4	29.6	16.0	6.6	3.8	4.7	3.8	3.3
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	7	42.9	28.6	28.6	14.3	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	16	31.3	18.8	43.8	0.0	31.3	25.0	12.5	0.0	12.5	18.8	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3
	65歳以上	9	11.1	0.0	22.2	0.0	33.3	11.1	0.0	11.1	22.2	22.2	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1
知的	0～17歳	2	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	40	37.5	25.0	22.5	22.5	5.0	45.0	22.5	10.0	30.0	12.5	5.0	2.5	2.5	5.0	5.0
	40～64歳	19	31.6	15.8	31.6	5.3	5.3	36.8	21.1	10.5	42.1	5.3	15.8	0.0	5.3	5.3	5.3
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	26	15.4	7.7	57.7	3.8	19.2	50.0	23.1	11.5	26.9	7.7	7.7	7.7	3.8	3.8	0.0
	40～64歳	71	19.7	8.5	47.9	0.0	16.9	56.3	16.9	12.7	38.0	26.8	8.5	1.4	2.8	5.6	0.0
	65歳以上	4	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
手帳なし	0～17歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

単位：%

《問 12-1 で「仕事をしたい」と回答した方にお聞きします。》

問 12-5	あなたが働く際に、こういった条件を重視したいと思いますか。	1 つに○
--------	-------------------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたいと思う人に、働く際に重視したい条件について聞いたところ、身体では「通勤にかかる時間、距離、交通手段」が最も多く 24.2%、知的では「職場の障^{がい}碍への理解」が最も多く 32.8%、精神では「職場の障^{がい}碍への理解」が最も多く 23.8%、手帳なしでは「職場の障^{がい}碍への理解」「働く時間や休日、勤務形態（早出・常勤・遅出など）」「給料や賞与」「わからない」「無回答」が最も多くそれぞれ 20.0%となっています。



- 通勤にかかる時間、距離、交通手段
- 勤務場所における環境（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）
- 職場の障^{がい}碍への理解
- 気のあう同僚や仲間の存在
- やりがいの持てる仕事内容
- 働く時間や休日、勤務形態（早出・常勤・遅出など）
- 給料や賞与
- その他
- わからない
- 無回答

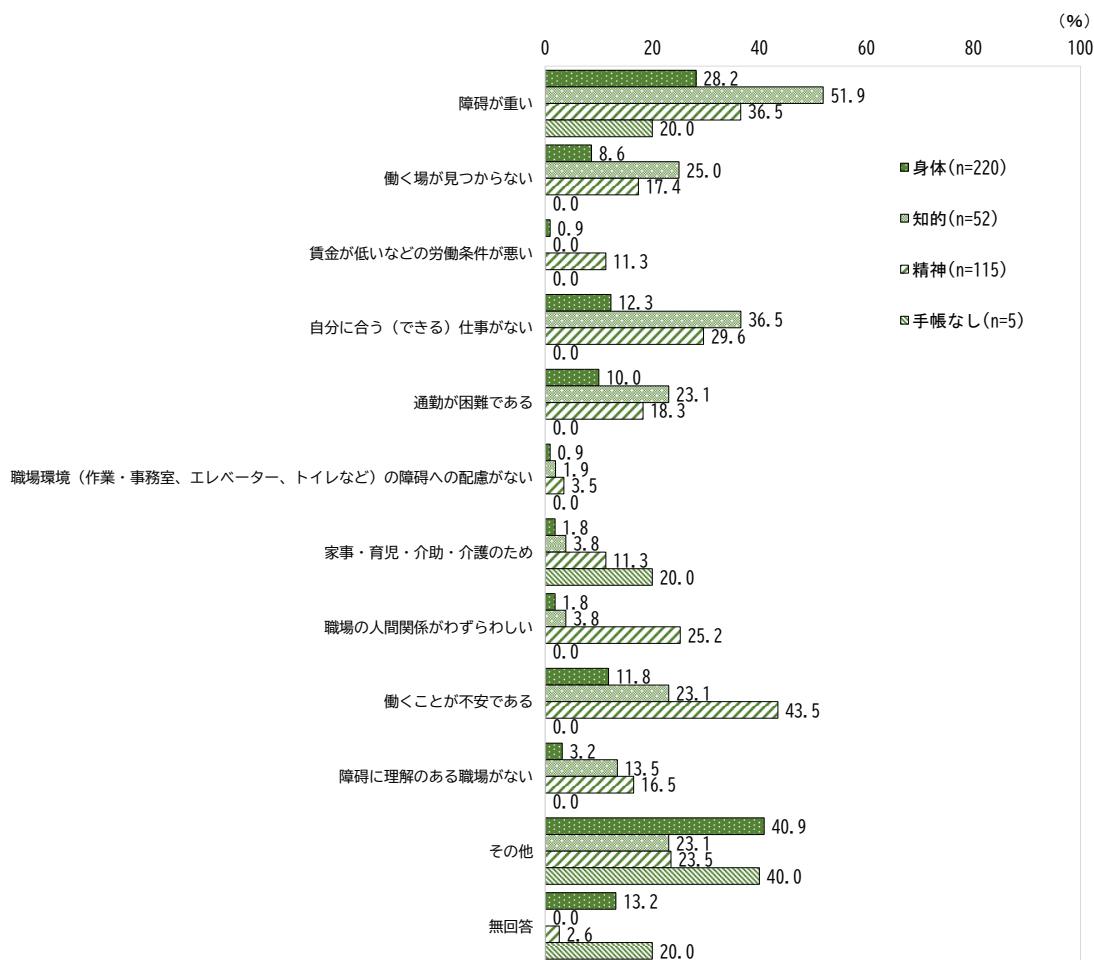
単位：%

		n	通勤にかかる時間、距離、交通手段	勤務場所における環境（作業・事務室、トイレ、エレベーターなど）	職場の障 ^{がい} 碍への理解	気のあう同僚や仲間の存在	やりがいの持てる仕事内容	働く時間や休日、勤務形態（早出・常勤・遅出など）	給料や賞与	その他	わからない	無回答
	全体	211	16.6	2.4	26.5	13.7	11.4	10.9	6.2	6.6	2.8	0.0
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	7	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
	40～64歳	16	31.3	6.3	25.0	12.5	6.3	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0
	65歳以上	9	11.1	0.0	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0
知的	0～17歳	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	40	22.5	2.5	35.0	7.5	7.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	40～64歳	19	0.0	5.3	26.3	15.8	21.1	10.5	10.5	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	26	23.1	0.0	23.1	11.5	15.4	11.5	0.0	7.7	3.8	3.8
	40～64歳	71	15.5	1.4	23.9	18.3	8.5	18.3	7.0	5.6	0.0	1.4
	65歳以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《問 12-1 で「仕事はしたくない、できない」と回答した方にお聞きます。》

問 12-6	仕事をしたくない、できない理由は何ですか。	すべてに○
--------	-----------------------	-------

今後、収入を得る仕事をしたくないと思う（できないを含む）人に、その理由について聞いたところ、身体では「その他」が最も多く 40.9%、知的では「^{がたい}障害が重い」が最も多く 51.9%、精神では「働くことが不安である」が最も多く 43.5%、手帳なしでは「その他」が最も多く 40.0%となっています。



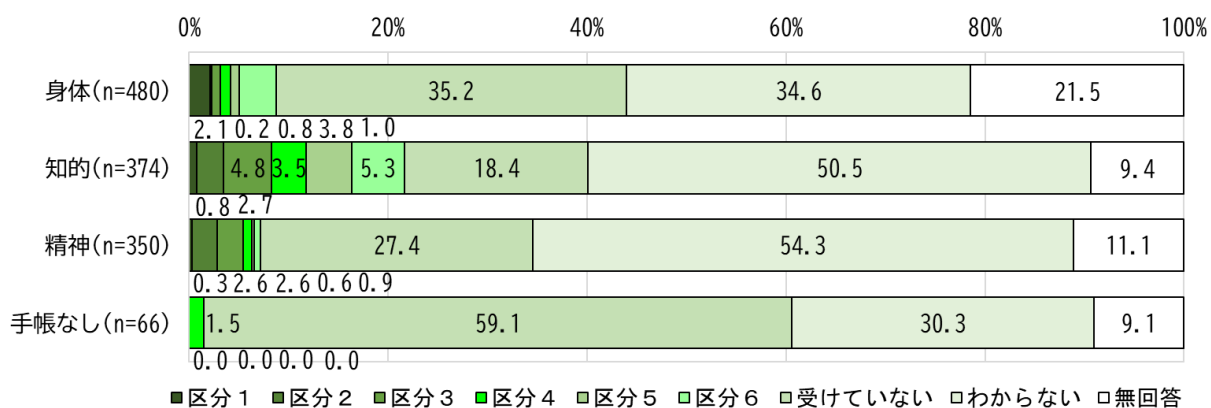
単位：%

		n	障害が重い	働く場が見つからない	賃金が低いなどの労働条件が悪い	自分に合う（できる）仕事がない	通勤が困難である	職場環境（作業・事務室、エレベーター、トイレなど）の障害への配慮がない	家事・育児・介護のため	職場の人間関係がわずらわしい	働くことが不安である	障害に理解のある職場がない	その他	無回答
身体	全体	404	33.9	13.6	4.2	20.8	15.1	2.0	5.2	9.7	23.3	8.4	32.7	8.4
	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	9	77.8	33.3	0.0	11.1	44.4	11.1	0.0	0.0	0.0	33.3	22.2	0.0
	40～64歳	19	52.6	0.0	0.0	5.3	26.3	0.0	0.0	0.0	26.3	15.8	21.1	5.3
	65歳以上	192	23.4	8.3	1.0	13.0	6.8	0.5	2.1	2.1	10.9	0.5	43.8	14.6
知的	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	19	73.7	21.1	0.0	26.3	31.6	5.3	0.0	0.0	10.5	21.1	15.8	0.0
	40～64歳	28	39.3	32.1	0.0	46.4	21.4	0.0	3.6	7.1	35.7	10.7	21.4	0.0
	65歳以上	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	15	33.3	20.0	20.0	26.7	26.7	0.0	6.7	46.7	73.3	20.0	26.7	6.7
	40～64歳	61	36.1	19.7	11.5	31.1	26.2	4.9	18.0	31.1	52.5	16.4	21.3	0.0
	65歳以上	39	38.5	12.8	7.7	28.2	2.6	2.6	2.6	7.7	17.9	15.4	25.6	5.1
手帳なし	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0

⑧サービスの利用

問 13	あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。	1 つに○
------	-------------------------	-------

障害支援区分の認定について、身体では「受けていない」が最も多く 35.2%、知的では「わからない」が最も多く 50.5%、精神では「わからない」が最も多く 54.3%、手帳なしでは「分からない」が最も多く 59.1%となっています。



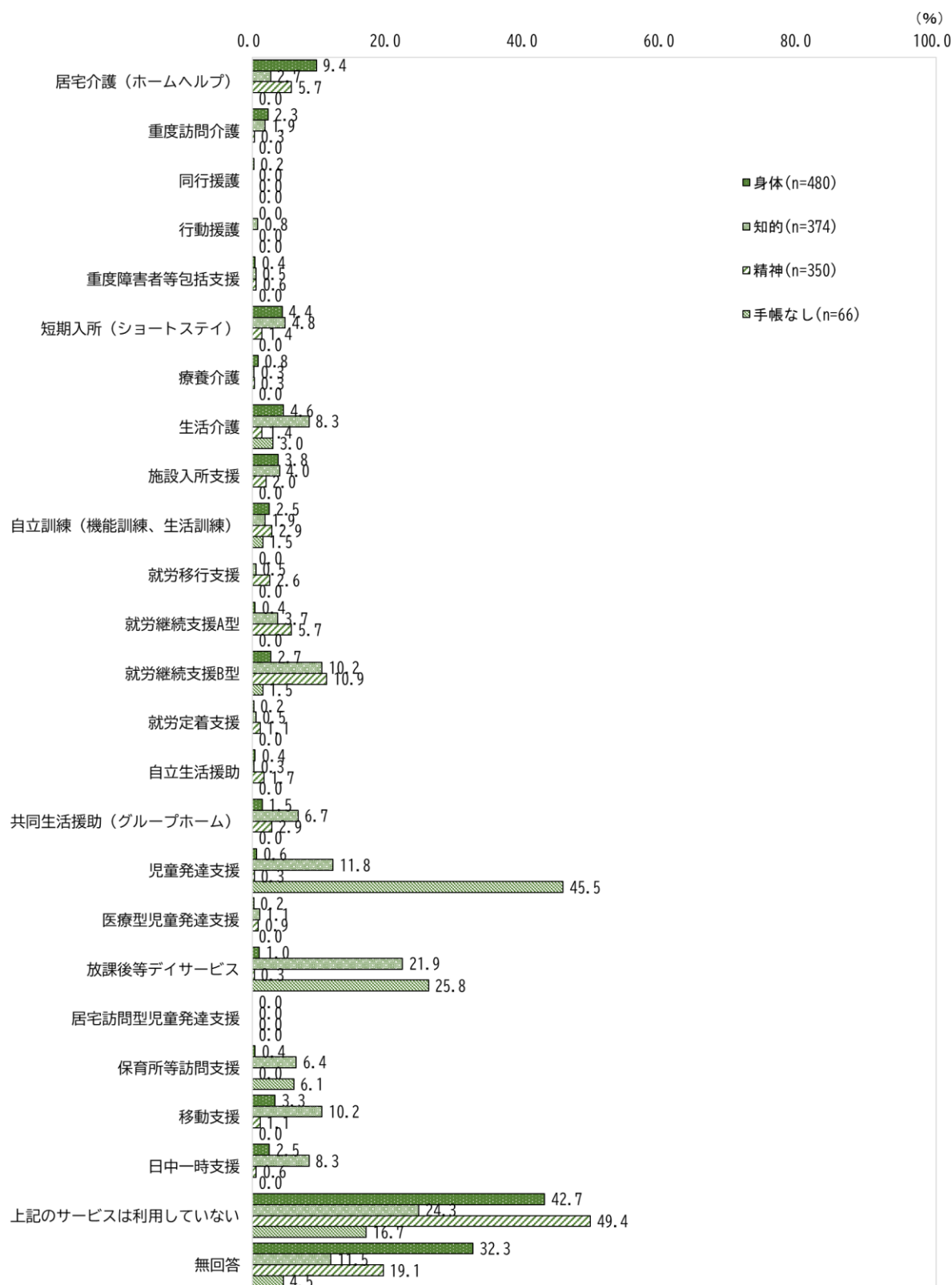
単位：％

		n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	わからない	無回答
	全体	1,284	1.1	1.6	2.4	1.7	1.7	3.1	29.0	44.0	14.3
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	50.0	12.5
	18～39歳	25	0.0	0.0	12.0	0.0	8.0	36.0	8.0	32.0	4.0
	40～64歳	87	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	6.9	28.7	47.1	14.9
	65歳以上	360	2.8	0.3	0.3	1.4	0.0	0.8	38.6	31.4	24.4
知的	0～17歳	152	0.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	20.4	70.4	7.2
	18～39歳	126	0.8	3.2	9.5	5.6	7.1	7.9	20.6	38.9	6.3
	40～64歳	85	1.2	5.9	5.9	7.1	9.4	9.4	11.8	34.1	15.3
	65歳以上	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	18.2	36.4	27.3
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	0.0
	18～39歳	73	0.0	2.7	0.0	0.0	1.4	0.0	28.8	61.6	5.5
	40～64歳	205	0.0	2.4	4.4	0.5	0.0	0.5	27.8	54.1	10.2
	65歳以上	68	1.5	2.9	0.0	2.9	0.0	1.5	25.0	45.6	20.6
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	59.2	36.7	4.1
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	57.1

《サービスの利用状況および利用意向についてお聞きします。》

問 14(1)	現在利用中のサービスはありますか。	すべてに○
---------	-------------------	-------

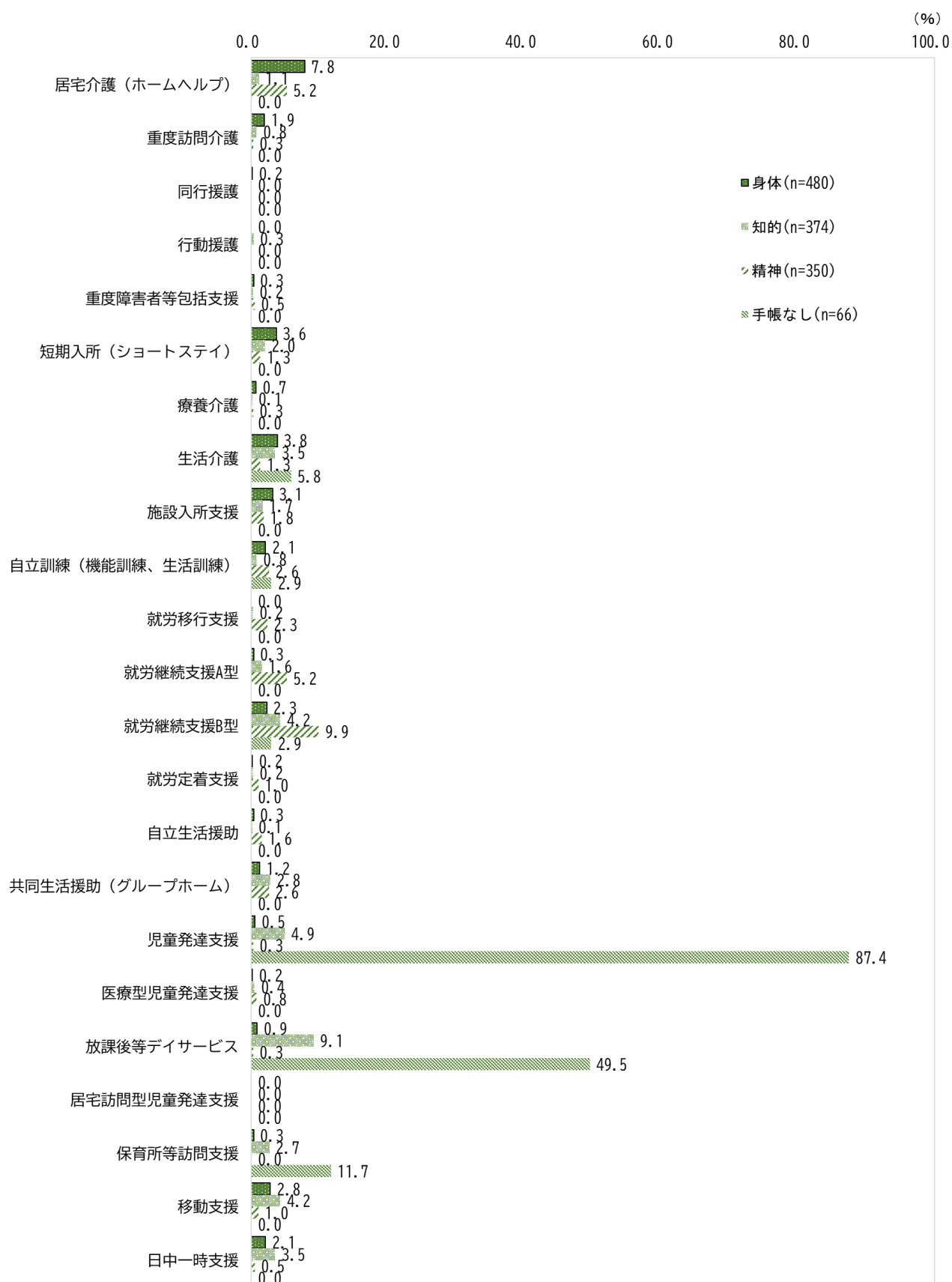
現在利用中のサービスについて、身体では「サービスは利用していない」が最も多く 42.7%、知的では「サービスは利用していない」が最も多く 24.3%、精神では「サービスは利用していない」が最も多く 49.4%、手帳なしでは「児童発達支援」が最も多く 45.5%となっています。



単位：％

		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショートステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
	全体	1,284	5.8	1.5	0.1	0.2	0.5	3.4	0.5	4.7	3.1	2.3	0.9	2.8	7.0
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	20.0	32.0	0.0	0.0	8.0	32.0	0.0	36.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0
	40～64歳	87	6.9	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	2.3	4.6	1.1	0.0	0.0	2.3	8.0
	65歳以上	360	9.4	0.6	0.3	0.0	0.0	3.3	0.6	2.5	4.7	3.3	0.0	0.0	0.0
知的	0～17歳	152	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	0.0
	18～39歳	126	2.4	4.8	0.0	0.8	1.6	11.9	0.0	15.9	3.2	3.2	0.8	4.8	19.0
	40～64歳	85	5.9	1.2	0.0	2.4	0.0	2.4	1.2	11.8	9.4	1.2	1.2	8.2	16.5
	65歳以上	11	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	1.4	1.4	2.7	8.2	5.5	11.0
	40～64歳	205	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	1.5	1.5	6.8	14.1
	65歳以上	68	10.3	1.5	0.0	0.0	1.5	5.9	1.5	4.4	5.9	7.4	0.0	2.9	1.5
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		n	就労定着 支援	自立生活 援助	共同生活 援助（グ ループ ホーム）	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	移動支援	日中一時 支援	1～23 のサービ スは利用 していな い	無回答	
	全体	1,284	0.5	0.7	3.3	6.1	0.6	8.2	0.0	2.3	4.5	3.5	37.4	20.9	
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	0.0	37.5	12.5	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	37.5	
	18～39歳	25	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	40.0	28.0	16.0	8.0	
	40～64歳	87	1.1	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	1.1	44.8	28.7	
	65歳以上	360	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.8	45.0	34.7	
知的	0～17歳	152	0.0	0.0	0.0	28.3	2.6	49.3	0.0	14.5	0.0	9.9	25.0	2.6	
	18～39歳	126	0.8	0.0	7.1	0.8	0.0	5.6	0.0	1.6	19.8	10.3	31.7	12.7	
	40～64歳	85	1.2	1.2	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	2.4	14.1	22.4	
	65歳以上	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	9.1	36.4	
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	
	18～39歳	73	2.7	2.7	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	54.8	16.4	
	40～64歳	205	1.0	2.0	3.9	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	1.5	0.0	48.3	19.5	
	65歳以上	68	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	45.6	22.1	
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	59.2	0.0	32.7	0.0	8.2	0.0	0.0	6.1	0.0	
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6	

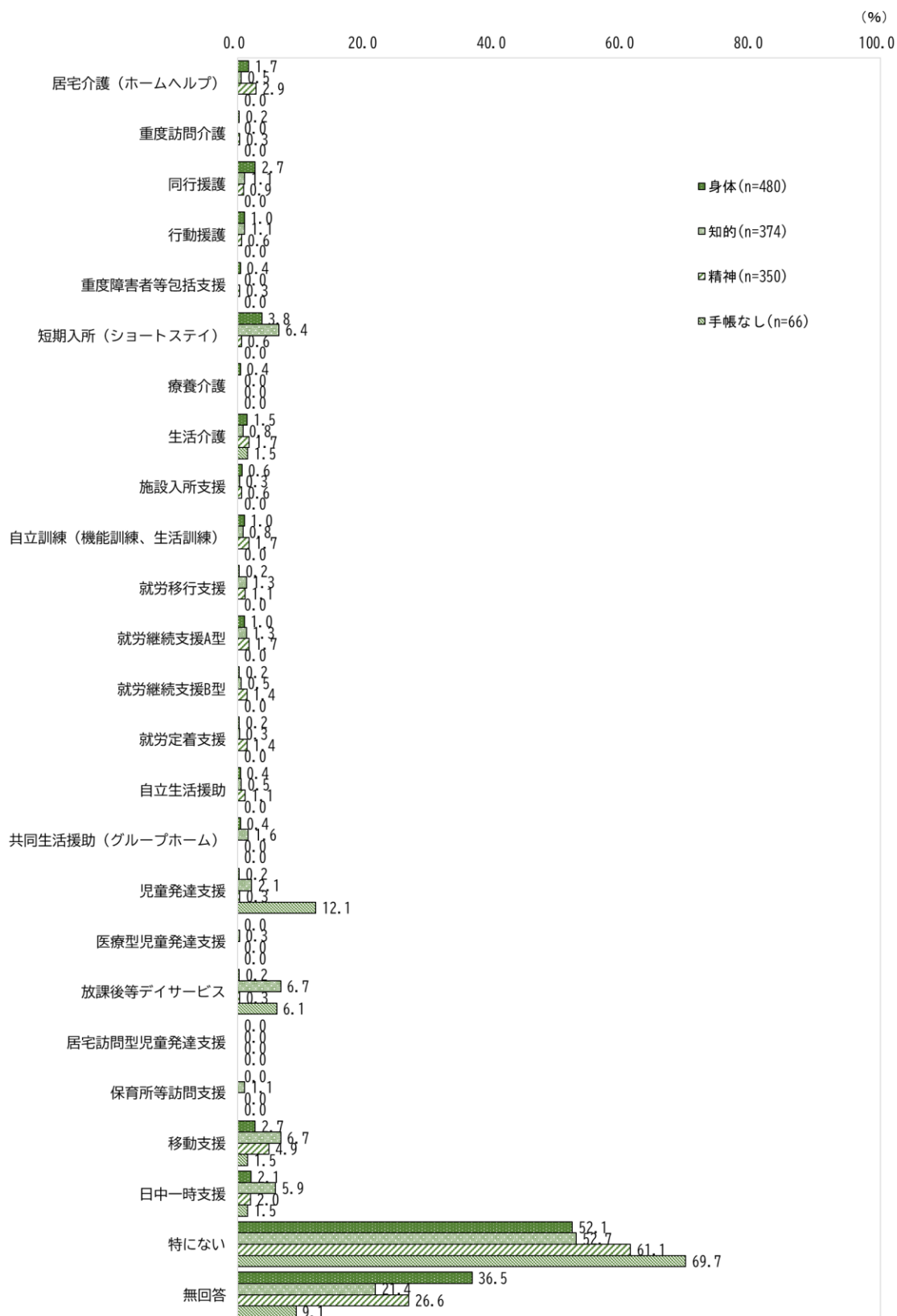
また、「サービスは利用していない」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「居宅介護（ホームヘルプ）」が最も多く 7.8%、知的では「放課後等デイサービス」が最も多く 9.1%、精神では「就労継続支援 B 型」が最も多く 9.9%、手帳なしでは「児童発達支援」が最も多く 87.4%となっています。



《サービスの利用状況および利用意向についてお聞きします。》

問 14(2)	使いたいときに使えないサービスはありますか。	すべてに○
---------	------------------------	-------

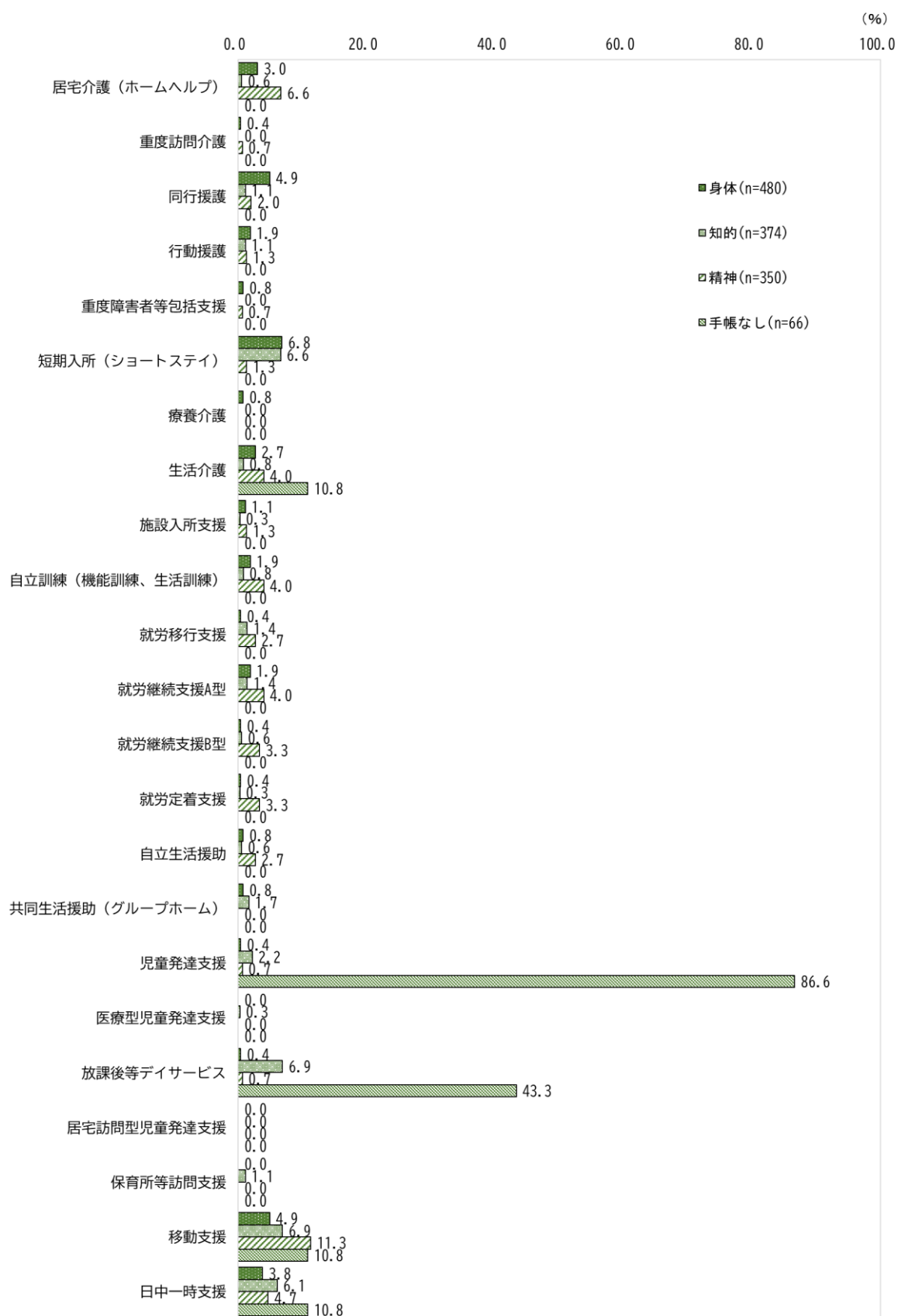
使いたいときに使えないサービスについて、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 52.1%、知的が 52.7%、精神が 61.1%、手帳なしが 69.7%となっています。



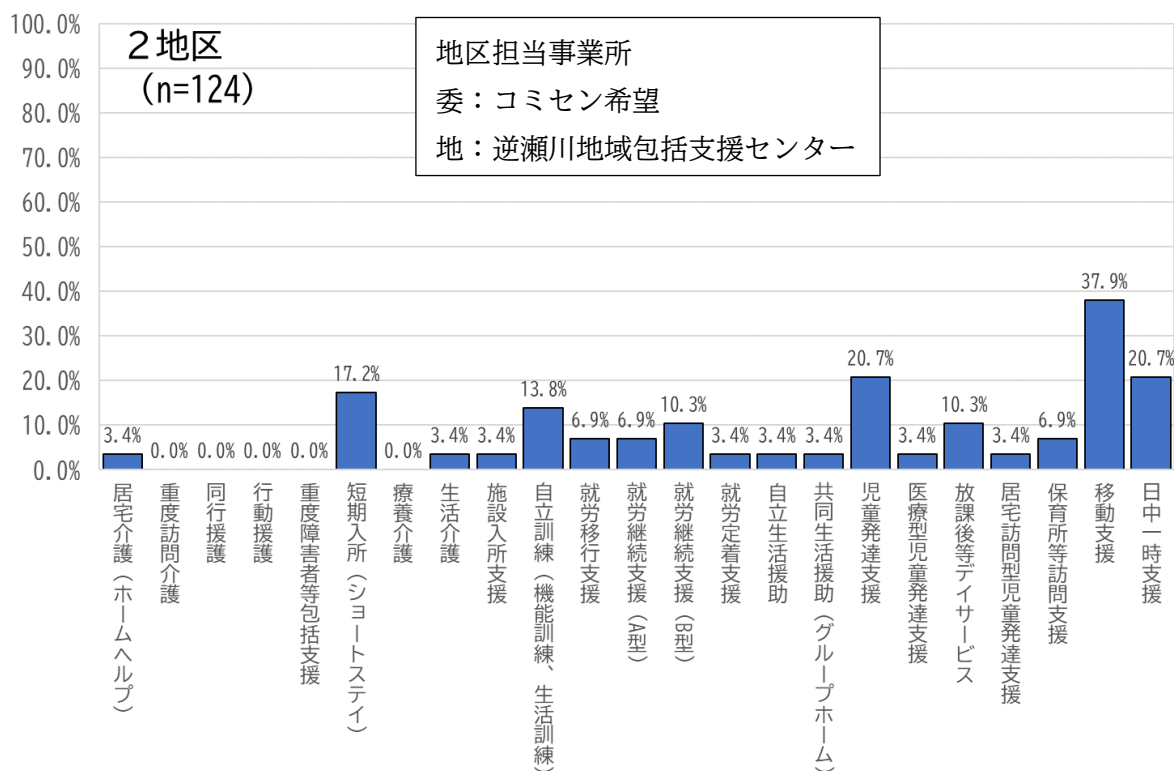
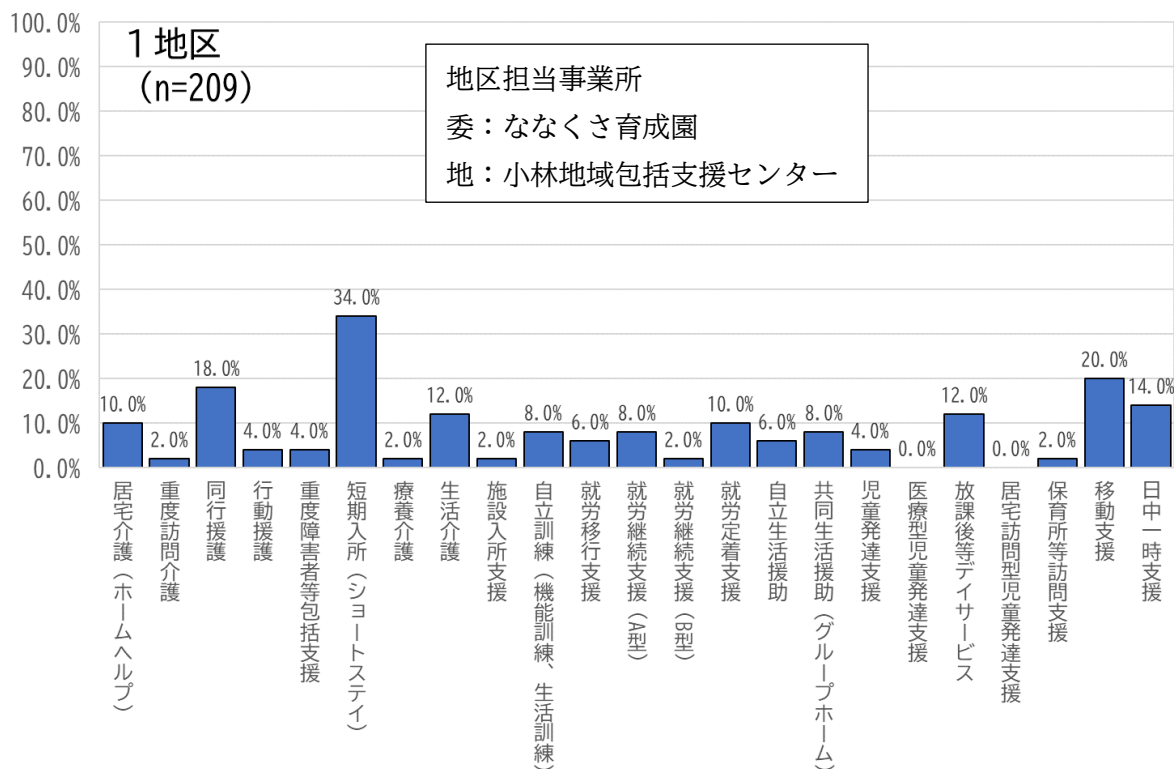
単位：%

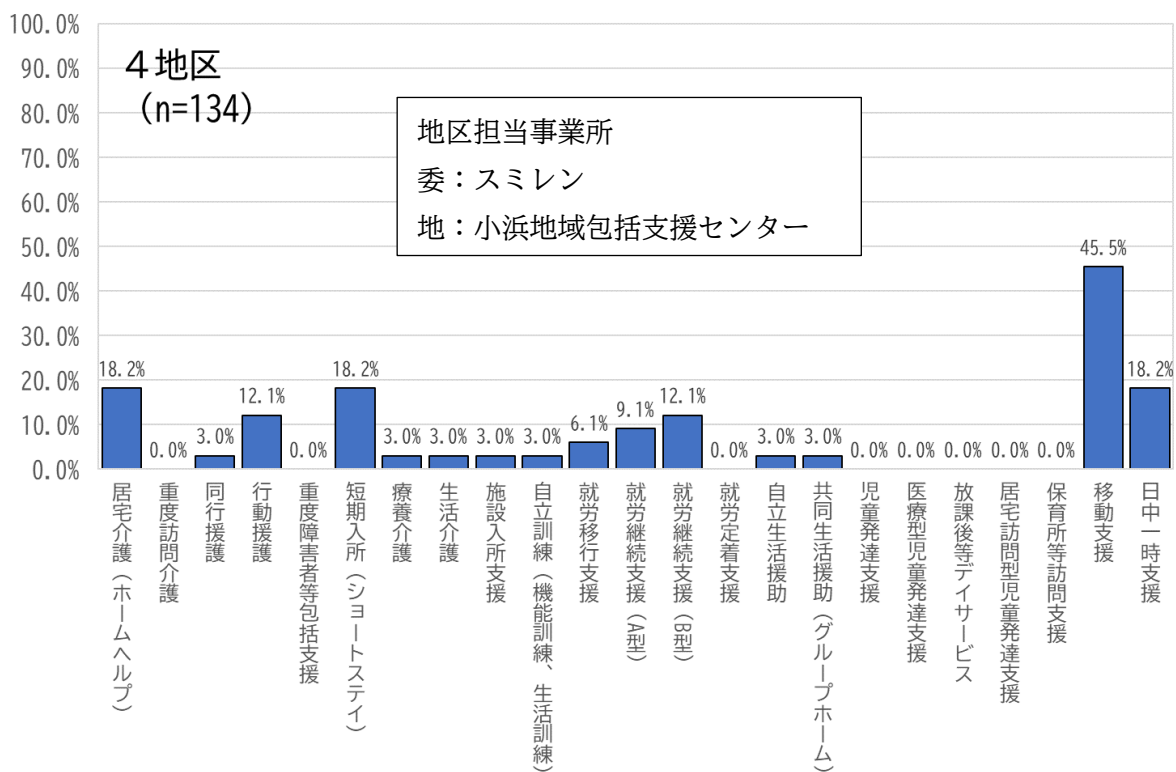
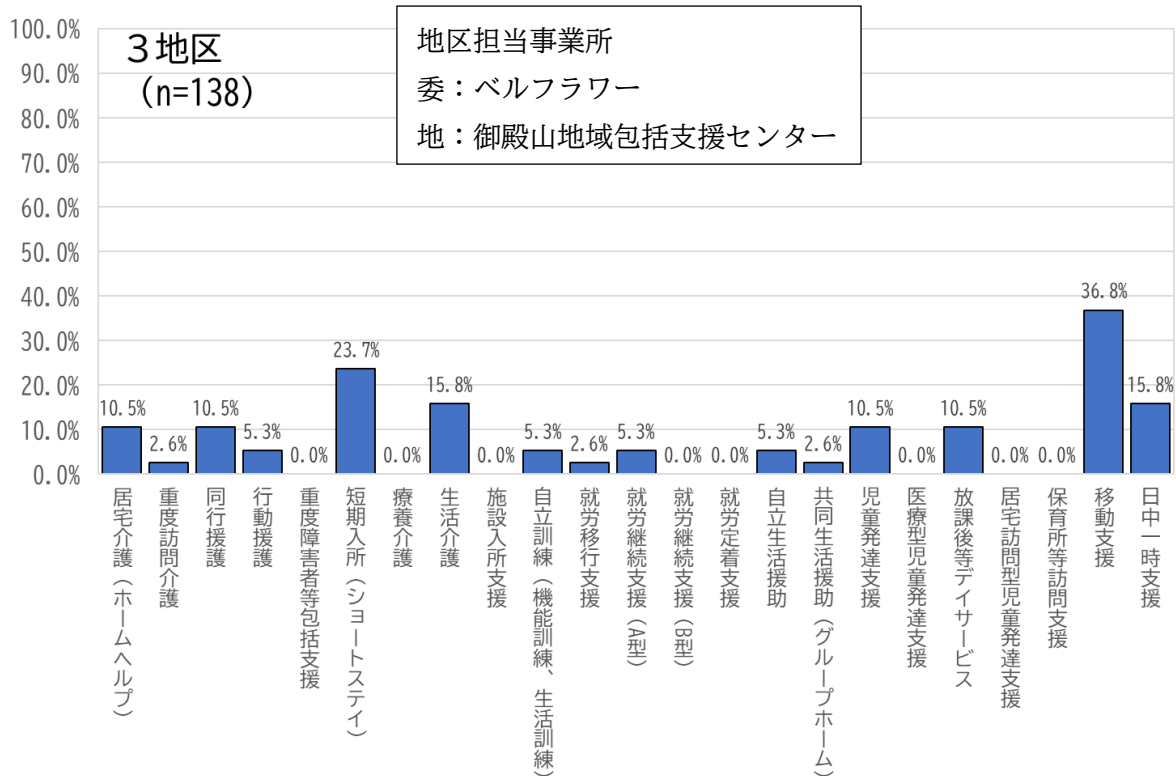
		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショートステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
	全体	1,284	1.6	0.2	1.6	0.9	0.2	3.4	0.2	1.3	0.5	1.1	0.8	1.2	0.6
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	32.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	87	1.1	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0	4.6	0.0
	65歳以上	360	1.9	0.3	2.8	1.4	0.6	2.2	0.6	1.4	0.8	1.1	0.3	0.3	0.3
知的	0～17歳	152	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.7	1.3	1.3	0.0
	18～39歳	126	0.0	0.0	0.8	1.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.6	0.0
	40～64歳	85	1.2	0.0	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	2.4	1.2	1.2	2.4	1.2	2.4
	65歳以上	11	0.0	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	2.7	1.4	1.4
	40～64歳	205	3.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	2.0	0.5	2.0	1.0	2.0	1.5
	65歳以上	68	4.4	0.0	1.5	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	1.5	1.5	0.0	1.5	1.5
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	全体	1,284	0.5	0.6	0.6	1.4	0.1	2.4	0.0	0.3	4.4	3.1	55.1	27.6	
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	
	18～39歳	25	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	52.0	12.0	
	40～64歳	87	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	59.8	28.7	
	65歳以上	360	0.3	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	1.9	50.3	40.3	
知的	0～17歳	152	0.0	0.7	0.0	5.3	0.7	15.1	0.0	2.6	3.3	9.2	55.3	14.5	
	18～39歳	126	0.8	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	11.1	5.6	54.0	19.0	
	40～64歳	85	0.0	1.2	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	1.2	47.1	35.3	
	65歳以上	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	45.5	36.4	
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	
	18～39歳	73	1.4	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	75.3	17.8	
	40～64歳	205	2.0	1.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	4.4	2.0	61.0	25.9	
	65歳以上	68	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	4.4	45.6	38.2	
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	8.2	0.0	0.0	0.0	2.0	73.5	4.1	
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0	
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	42.9	

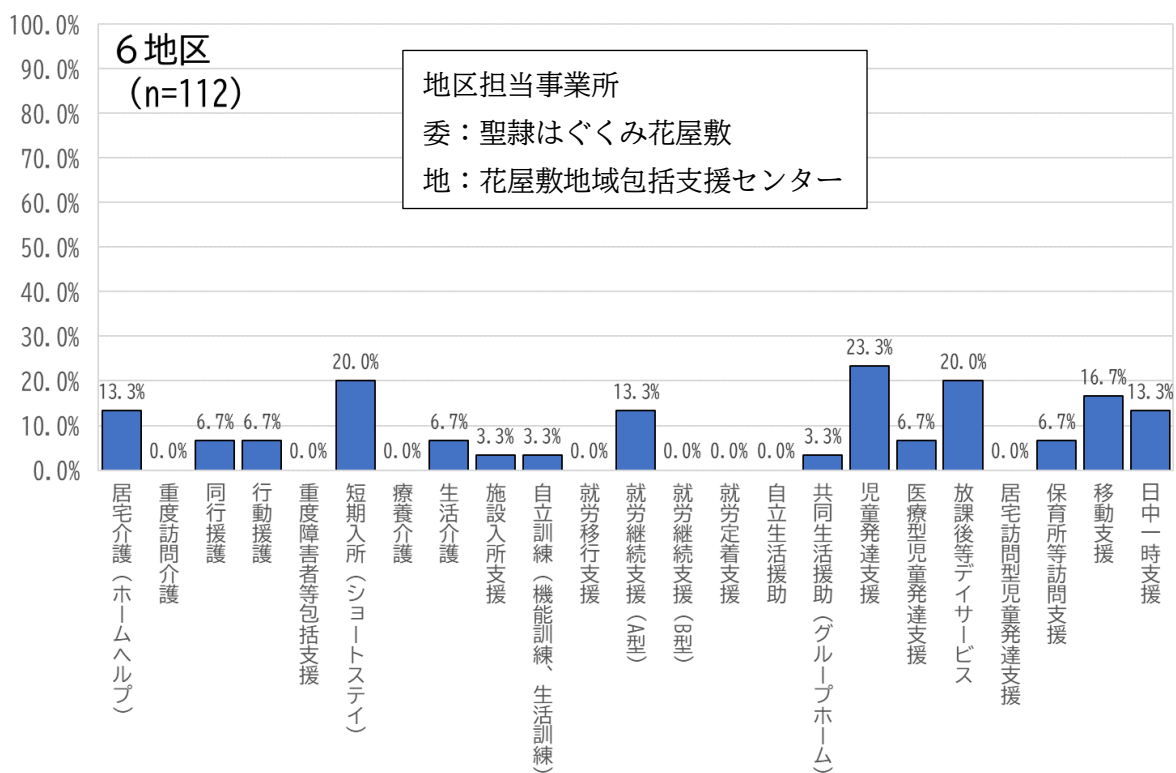
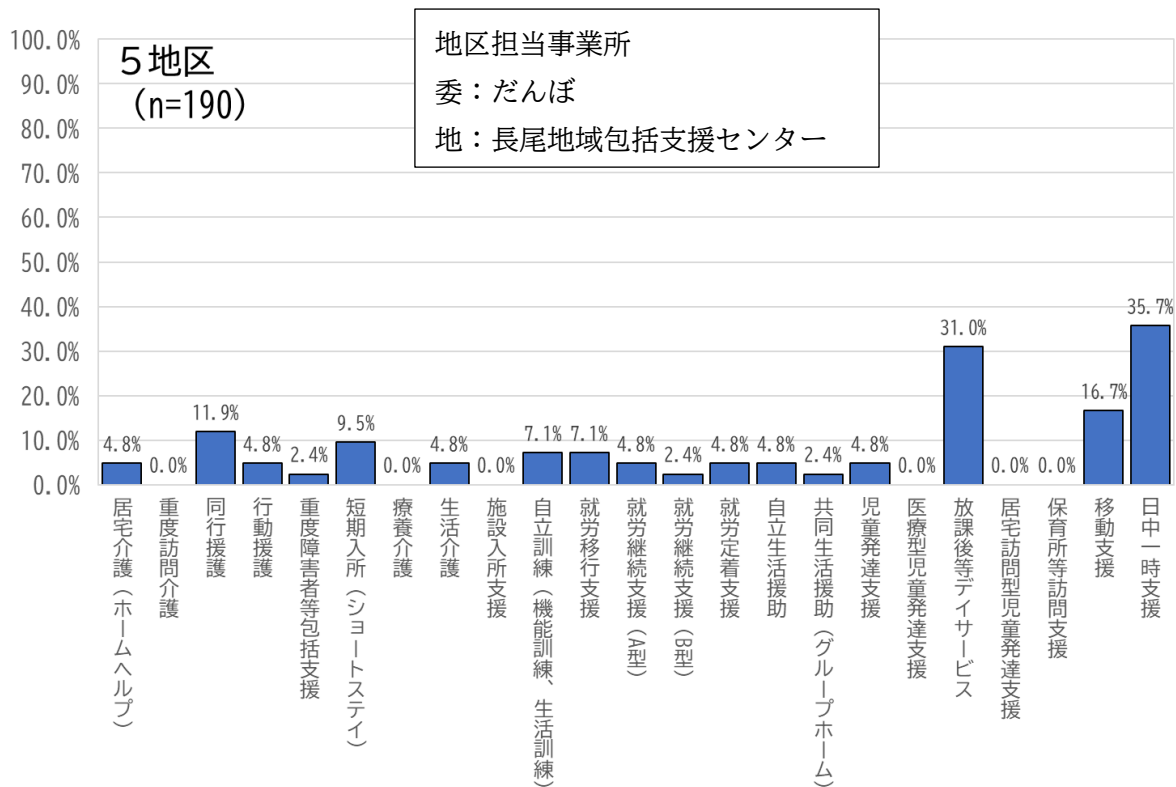
また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「短期入所」が最も多く 6.8%、知的では「放課後等デイサービス」「移動支援」が最も多く 6.9%、精神では「移動支援」が最も多く 11.3%、手帳なしでは「児童発達支援」が最も多く 86.6%となっています。

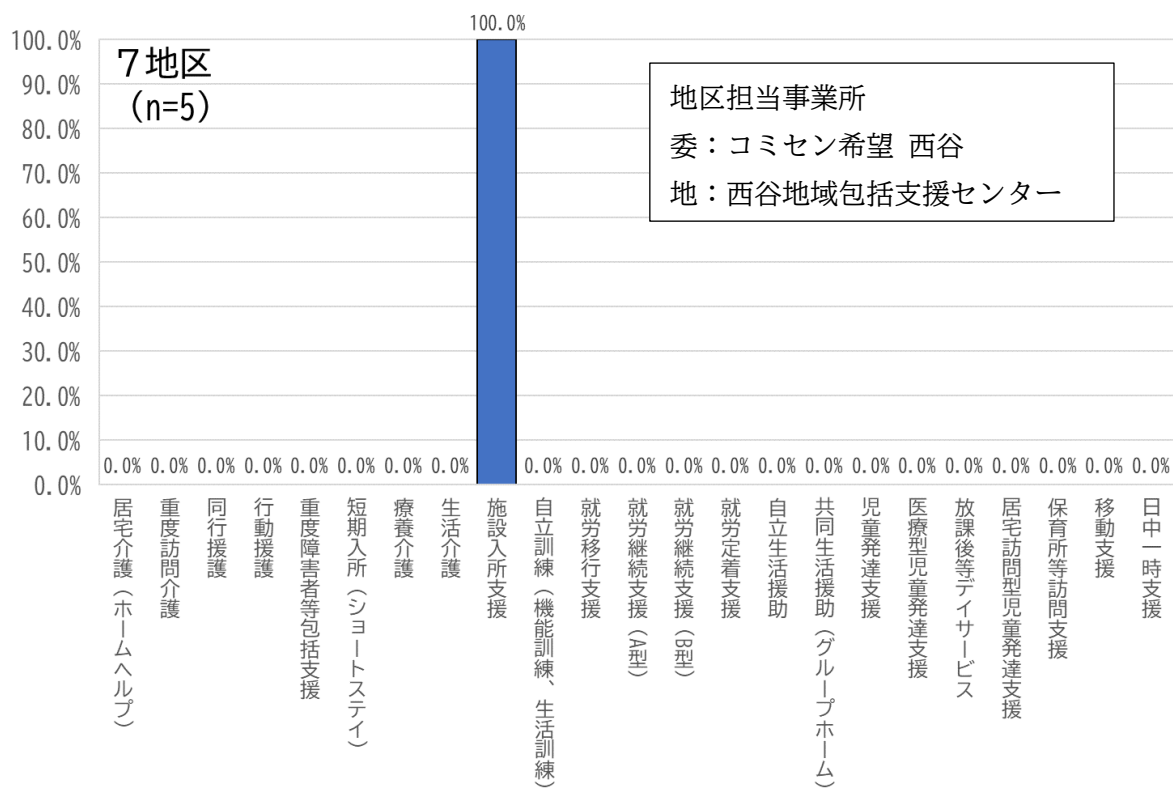


地域別に「特にない」及び「無回答」を除いた場合は、1地区では「短期入所」が最も多く34.0%、2地区、3地区、4地区では「移動支援」が最も多くそれぞれ37.9%、36.8%、45.5%、5地区では「日中一時支援」が最も多く35.7%、6地区では「児童発達支援」が最も多く23.3%、7地区では「施設入所支援」が最も多く100.0%となっています。





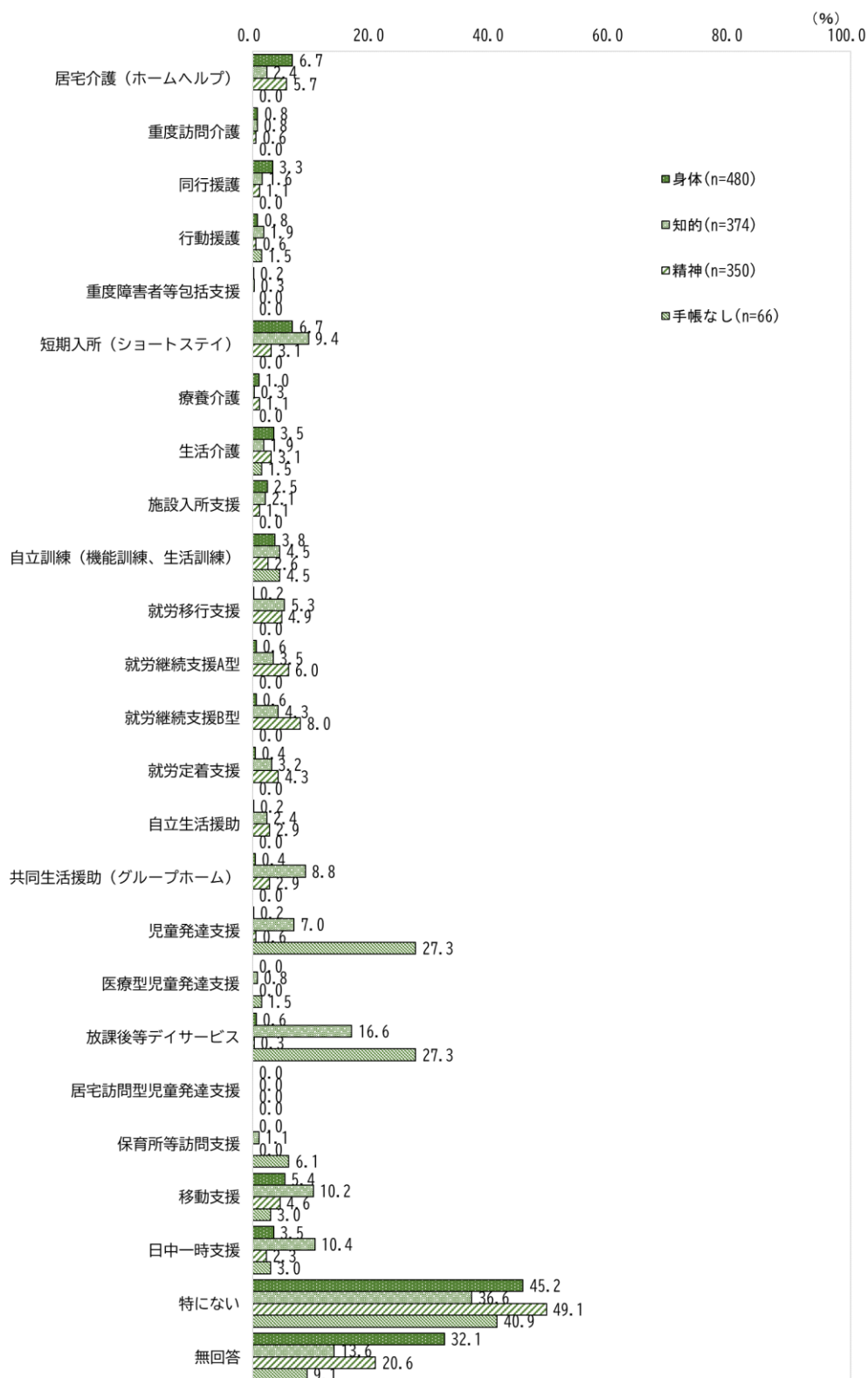




《サービスの利用状況および利用意向についてお聞きます。》

問 14(3)	今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）はどれですか。	すべてに○
---------	---	-------

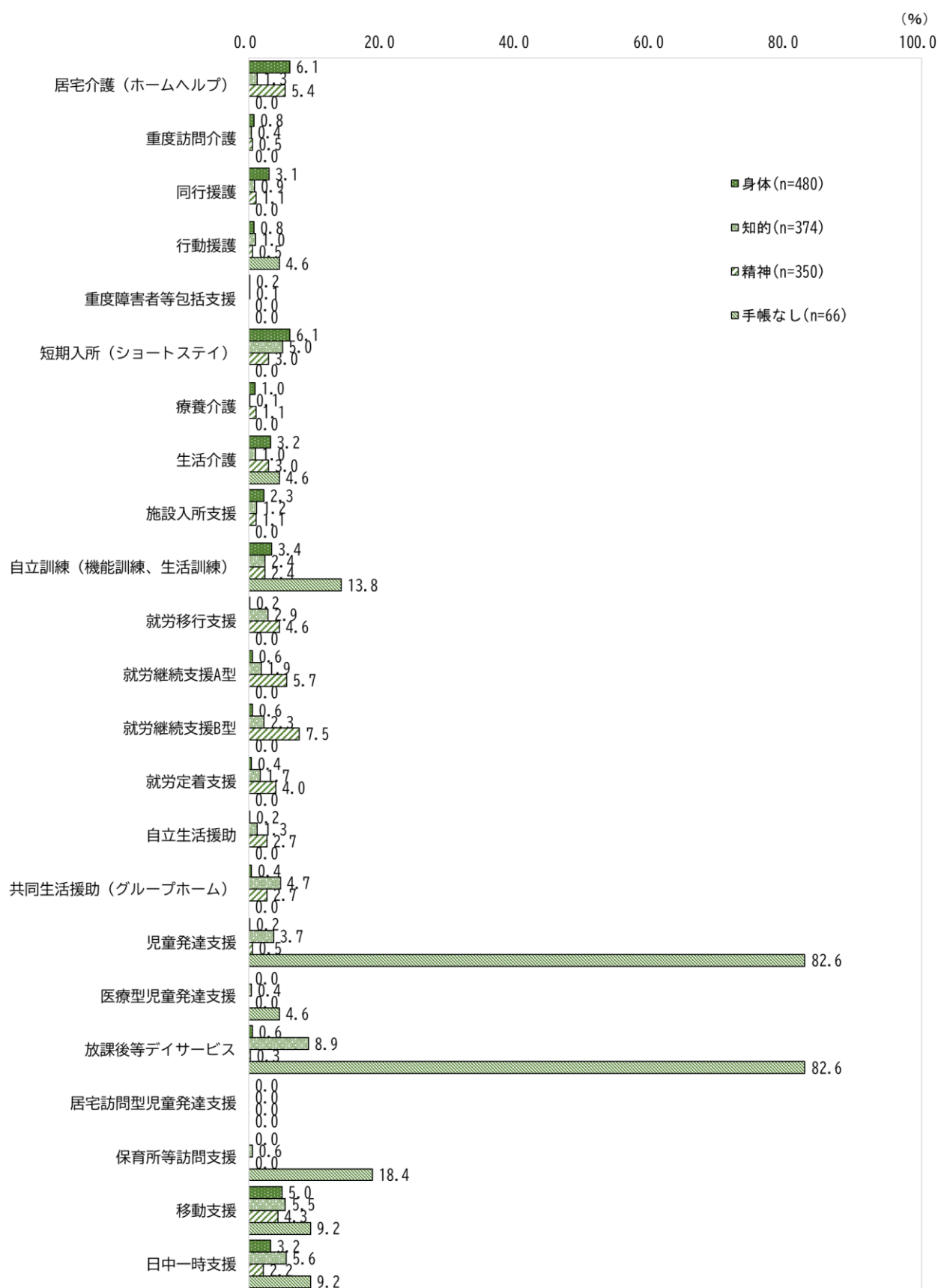
今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス（現在利用中を含む）について、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 45.2%、知的が 36.6%、精神が 49.1%、手帳なしが 40.9%となっています。



単位：%

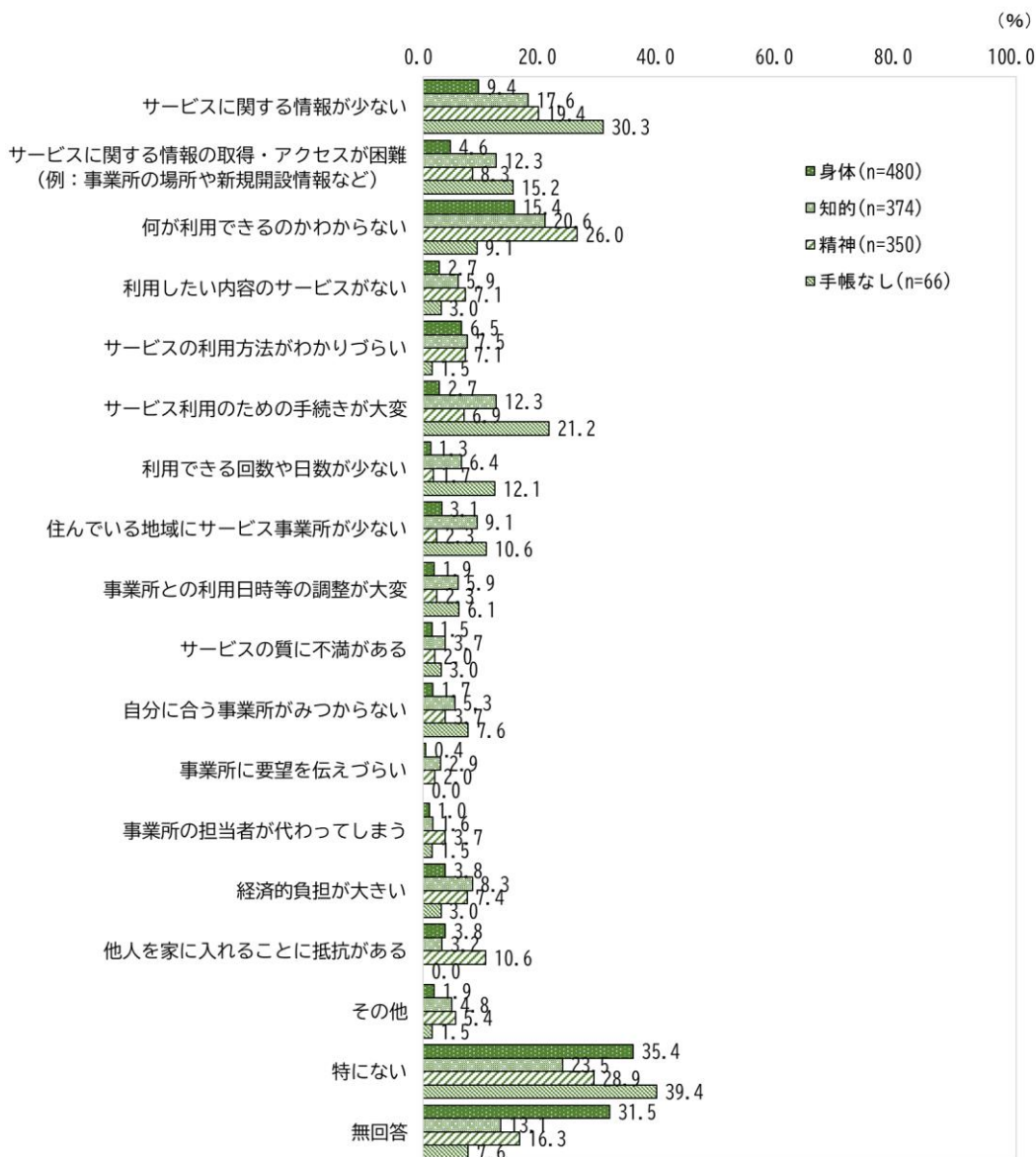
		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショートステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援A型	就労継続 支援B型
	全体	1,284	4.8	0.7	2.0	1.1	0.2	6.1	0.8	2.8	1.9	3.7	3.0	2.9	3.7
身体	0～17歳	8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	25	8.0	12.0	4.0	0.0	0.0	32.0	0.0	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	1.1	0.0	3.4	0.0	0.0	4.6	0.0	1.1	1.1	1.1	0.0	2.3	2.3
	65歳以上	360	7.8	0.3	3.3	1.1	0.3	5.3	1.4	3.9	2.8	4.2	0.0	0.0	0.0
知的	0～17歳	152	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.7	1.3	0.7	4.6	5.9	0.0	2.0
	18～39歳	126	1.6	2.4	2.4	3.2	0.0	16.7	0.0	2.4	1.6	4.8	7.9	5.6	5.6
	40～64歳	85	5.9	0.0	2.4	1.2	1.2	5.9	0.0	1.2	5.9	3.5	1.2	7.1	7.1
	65歳以上	11	9.1	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	2.7	1.4	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	4.1	13.7	6.8	9.6
	40～64歳	205	4.4	0.5	1.5	0.0	0.0	1.5	1.0	3.9	0.5	2.0	3.4	6.8	9.3
	65歳以上	68	13.2	0.0	1.5	2.9	0.0	10.3	2.9	4.4	4.4	2.9	0.0	2.9	2.9
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	全体	1,284	2.3	1.6	3.5	3.7	0.3	6.5	0.0	0.6	6.4	5.1	43.1	22.0	
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	25.0	
	18～39歳	25	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	44.0	4.0	
	40～64歳	87	1.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	3.4	52.9	33.3	
	65歳以上	360	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	2.5	43.9	33.9	
知的	0～17歳	152	2.6	2.0	2.0	17.1	2.0	39.5	0.0	2.6	8.6	14.5	31.6	7.9	
	18～39歳	126	5.6	4.0	16.7	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	11.1	9.5	42.9	10.3	
	40～64歳	85	1.2	1.2	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	4.7	35.3	27.1	
	65歳以上	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	45.5	27.3	
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	
	18～39歳	73	6.8	2.7	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	1.4	50.7	12.3	
	40～64歳	205	4.9	3.4	2.0	1.0	0.0	0.5	0.0	0.0	3.4	2.0	48.3	22.9	
	65歳以上	68	0.0	1.5	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	4.4	48.5	22.1	
手帳なし	0～17歳	49	0.0	0.0	0.0	34.7	2.0	36.7	0.0	8.2	2.0	4.1	38.8	4.1	
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0	0.0	
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	
	65歳以上	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	42.9	

また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「短期入所」が最も多く 6.1%、知的では「放課後等デイサービス」が最も多く 8.9%、精神では「就労継続支援B型」が最も多く 7.5%、手帳なしでは「児童発達支援」「放課後等デイサービス」が最も多く 82.6%となっています。



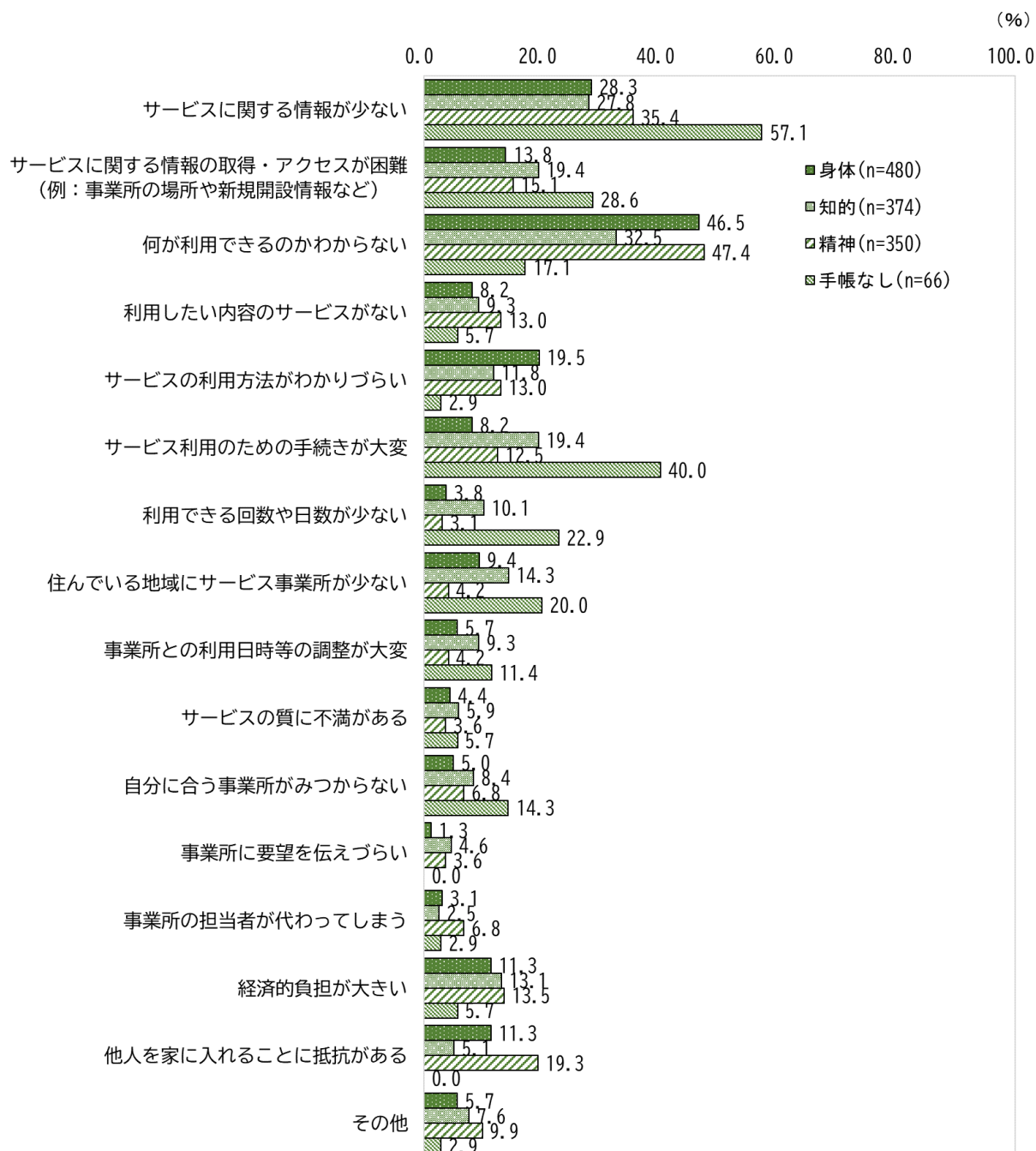
問 15①	サービスを利用する際、または利用しようとした際に、あなたは、困ったり、不便だと思うことはありますか。	3 つまで○
-------	--	--------

サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことについて、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 35.4%、知的が 23.5%、精神が 28.9%、手帳なしが 39.4% となっています。



		サービスに関する情報が少ない																			単位：%	
		n	サービスに関する情報が少ない	サービスに関する情報の取得・アクセスが困難 (例：事業所の場所や新規開設情報など)	何が利用できるのかわからない	利用したい内容のサービスがない	サービスの利用方法がわかりづらい	サービス利用のための手続きが大変	利用できる回数や日数が少ない	住んでいる地域にサービス事業所が少ない	事業所との利用日時等の調整が大変	サービスの質に不満がある	自分に合う事業所が見つからない	事業所に要望を伝えづらい	事業所の担当者が代わってしまう	経済的負担が大きい	他人を家に入れることに抵抗がある	その他	特にない	無回答		
身体	全体	1,284	15.5	8.3	19.3	4.8	6.6	7.6	3.4	5.0	3.3	2.3	3.6	1.6	1.9	6.0	5.2	3.7	30.0	20.4		
	0～17歳	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	25.0	25.0		
	18～39歳	25	24.0	20.0	16.0	4.0	4.0	8.0	4.0	24.0	24.0	12.0	4.0	0.0	4.0	4.0	8.0	0.0	16.0	4.0		
	40～64歳	87	9.2	2.3	21.8	3.4	8.0	5.7	1.1	2.3	1.1	0.0	0.0	0.0	1.1	4.6	0.0	3.4	36.8	24.1		
	65歳以上	360	8.3	3.9	14.2	2.5	6.4	1.4	1.1	1.7	0.6	1.1	1.9	0.6	0.8	3.3	3.9	1.7	36.7	35.3		
知的	0～17歳	152	24.3	17.8	22.4	5.3	7.9	18.4	8.6	11.2	9.2	4.6	5.3	1.3	2.6	15.1	3.9	6.6	19.1	5.3		
	18～39歳	126	17.5	12.7	23.8	9.5	9.5	11.1	7.1	10.3	6.3	4.8	7.1	2.4	0.8	2.4	4.0	3.2	25.4	9.5		
	40～64歳	85	7.1	3.5	14.1	2.4	4.7	4.7	1.2	4.7	0.0	1.2	2.4	7.1	1.2	4.7	1.2	3.5	27.1	30.6		
	65歳以上	11	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	36.4	27.3		
精神	0～17歳	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0		
	18～39歳	73	16.4	6.8	23.3	2.7	8.2	8.2	1.4	1.4	4.1	1.4	0.0	1.4	2.7	6.8	8.2	9.6	35.6	12.3		
	40～64歳	205	20.0	9.3	30.7	8.8	8.8	6.8	1.5	2.9	1.0	1.5	4.4	2.4	3.9	5.9	11.7	3.9	26.8	17.1		
	65歳以上	68	20.6	7.4	16.2	7.4	1.5	5.9	2.9	1.5	4.4	2.9	5.9	1.5	4.4	13.2	10.3	5.9	27.9	17.6		
手帳なし	0～17歳	49	36.7	20.4	12.2	4.1	2.0	22.4	14.3	14.3	8.2	4.1	8.2	0.0	2.0	2.0	0.0	2.0	36.7	0.0		
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0		
	40～64歳	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0		
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	57.1		

また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「何が利用できるのかわからない」が最も多く 46.5%、知的では「何が利用できるのかわからない」が最も多く 32.5%、精神では「何が利用できるのかわからない」が最も多く 47.4%、手帳なしでは「サービスに関する情報が少ない」が最も多く 57.1%となっています。

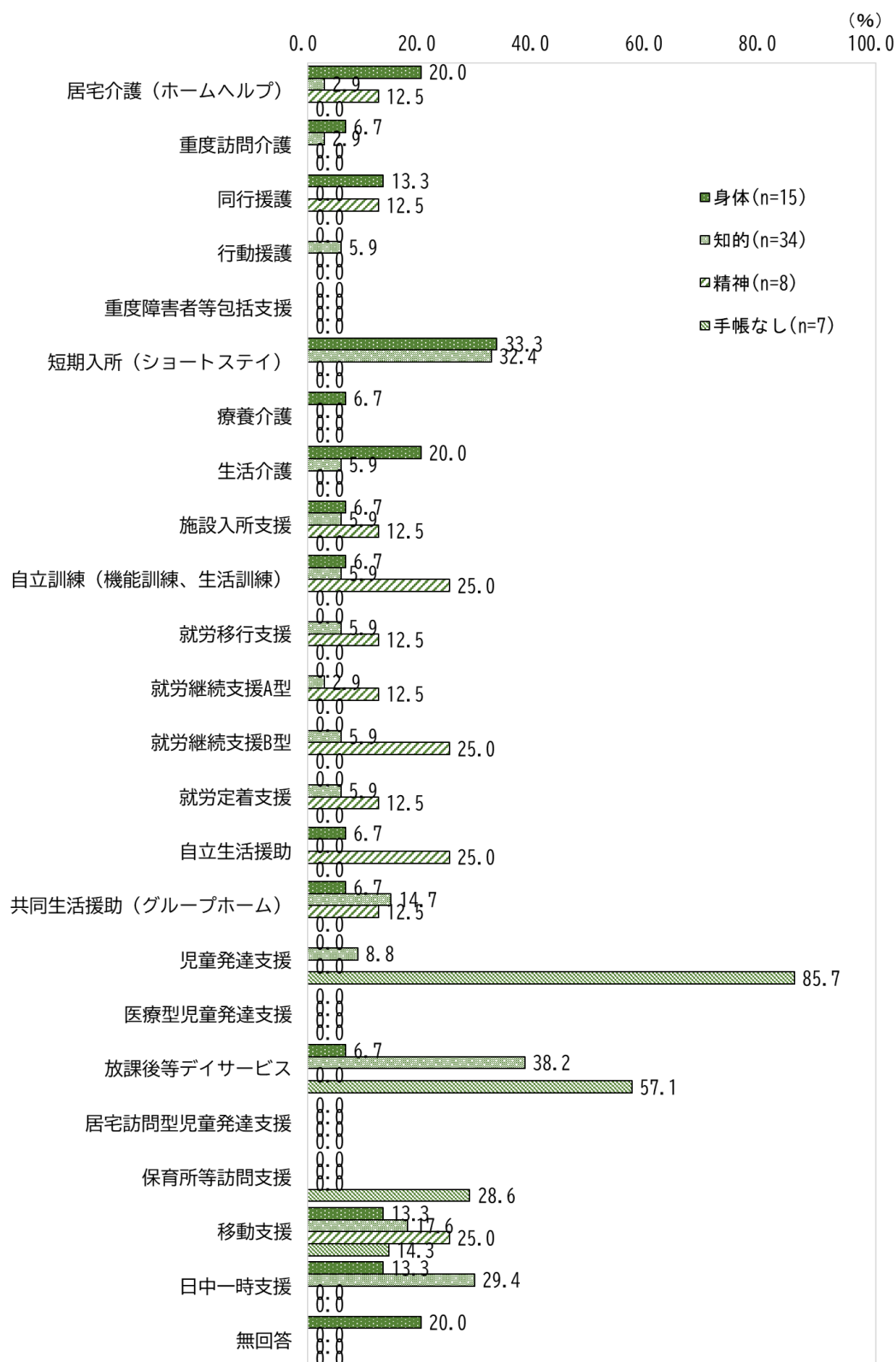


《問 15-1 で「住んでいる地域にサービス事業所が少ない」と回答した方にお聞きします。》

問 15② 住んでいる地域に少ないと感じるサービスはどれですか。

3 つまで○

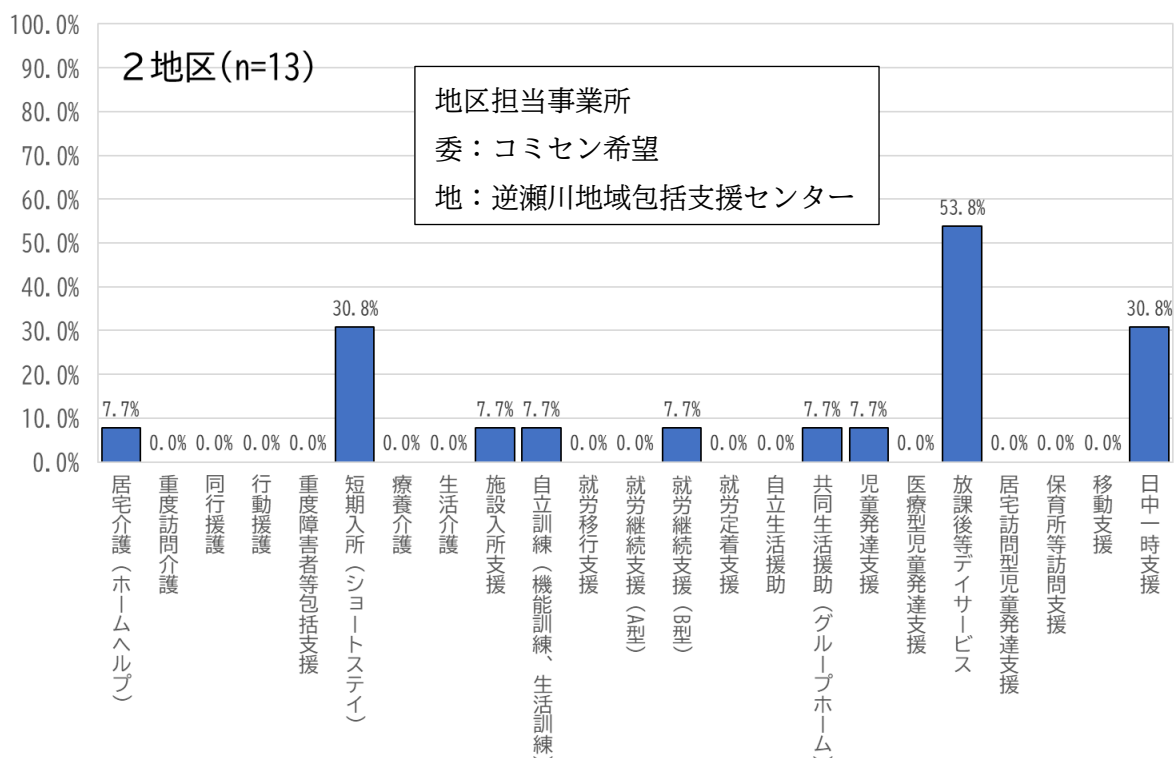
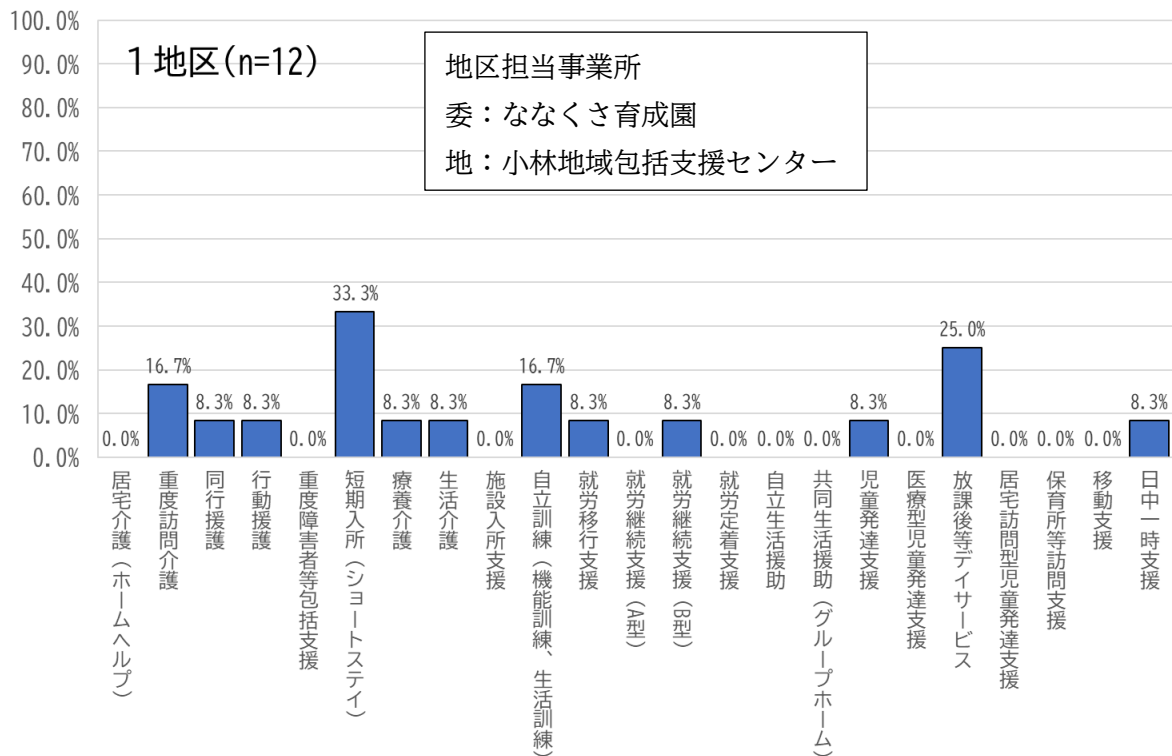
住んでいる地域に少ないと感じるサービスはどれですか。身体では「短期入所」が最も多く 33.3%、知的では「放課後等デイサービス」が最も多く 38.2%、精神では「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」「就労継続支援 B 型」「自立生活援助」「移動支援」が最も多くそれぞれ 25.0%、「児童発達支援」が最も多く 85.7%となっています。



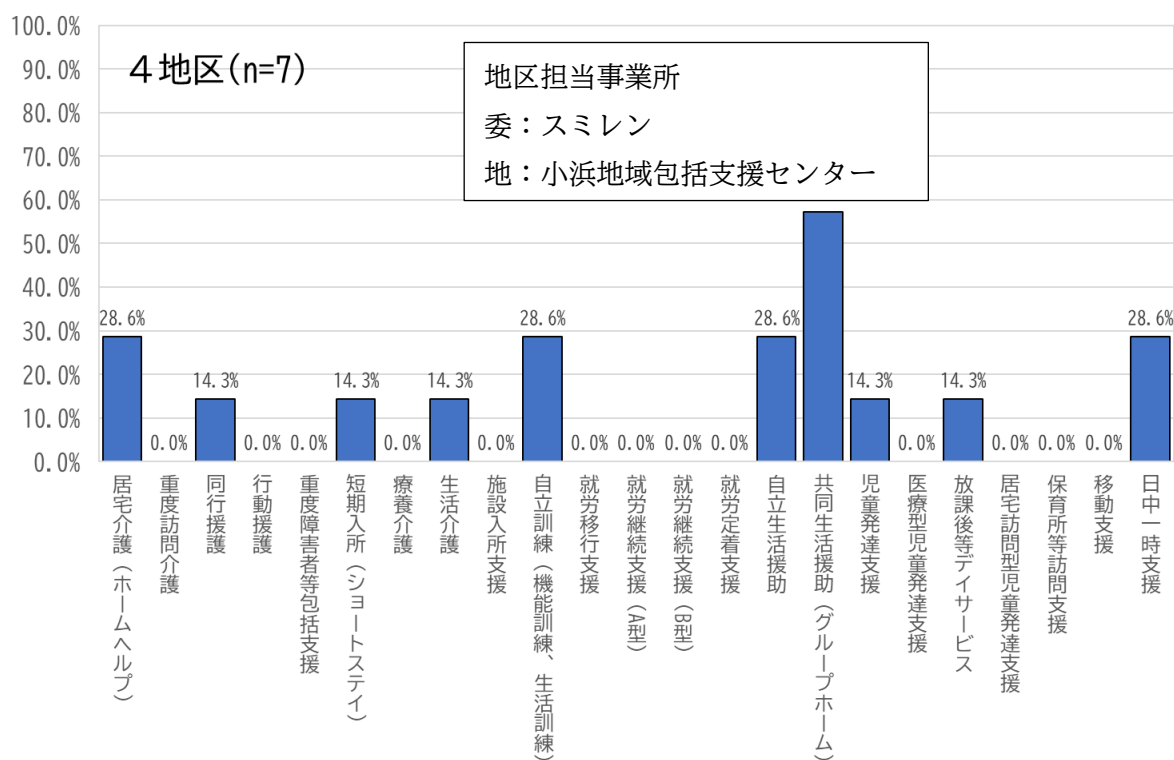
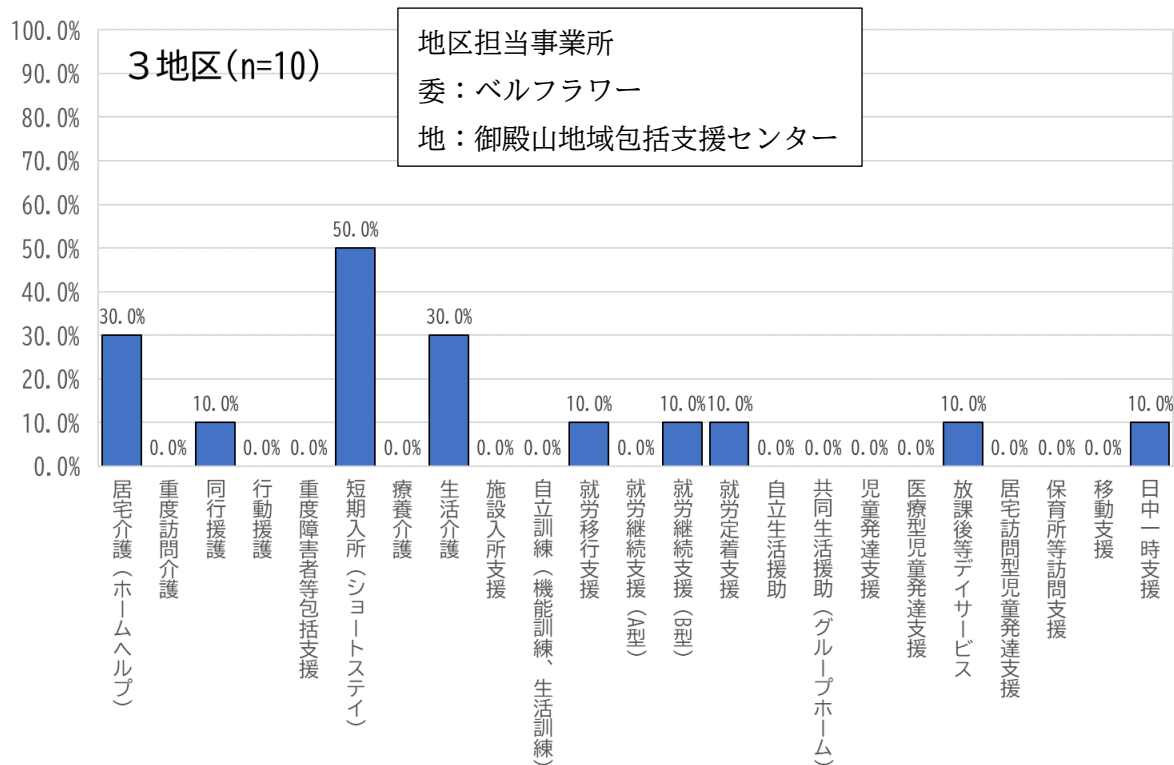
単位：％

		n	居宅介護 (ホームヘルプ)	重度訪問 介護	同行援護	行動援護	重度障害 者等包括 支援	短期入所 (ショート ステイ)	療養介護	生活介護	施設入所 支援	自立訓練 (機能訓 練、生活 訓練)	就労移行 支援	就労継続 支援A型
	全体	69	7.2	2.9	4.3	2.9	0.0	23.2	1.4	7.2	5.8	7.2	4.3	2.9
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	6	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
	40～64歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	6	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
知的	0～17歳	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	13	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	61.5	0.0	15.4	7.7	15.4	7.7	7.7
	40～64歳	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	6	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		n	就労継続 支援B型	就労定着 支援	自立生活 援助	共同生活 援助(グ ループ ホーム)	児童発達 支援	医療型児 童発達支 援	放課後等 デイサー ビス	居宅訪問 型児童発 達支援	保育所等 訪問支援	移動支援	日中一時 支援	無回答
	全体	69	5.8	4.3	4.3	10.1	13.0	0.0	26.1	0.0	2.9	15.9	17.4	4.3
身体	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7
	40～64歳	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	65歳以上	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
知的	0～17歳	17	5.9	0.0	0.0	5.9	17.6	0.0	76.5	0.0	0.0	11.8	41.2	0.0
	18～39歳	13	0.0	7.7	0.0	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	23.1	0.0
	40～64歳	4	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	6	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手帳なし	0～17歳	7	0.0	0.0	0.0	0.0	85.7	0.0	57.1	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

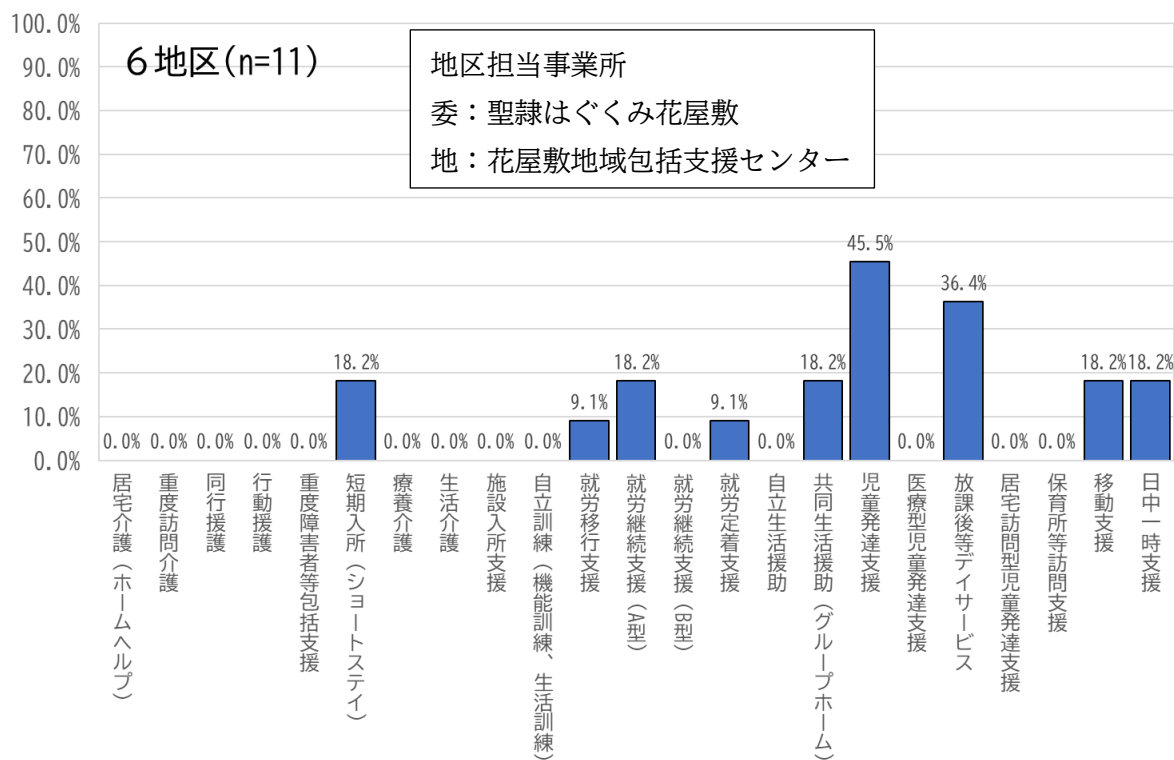
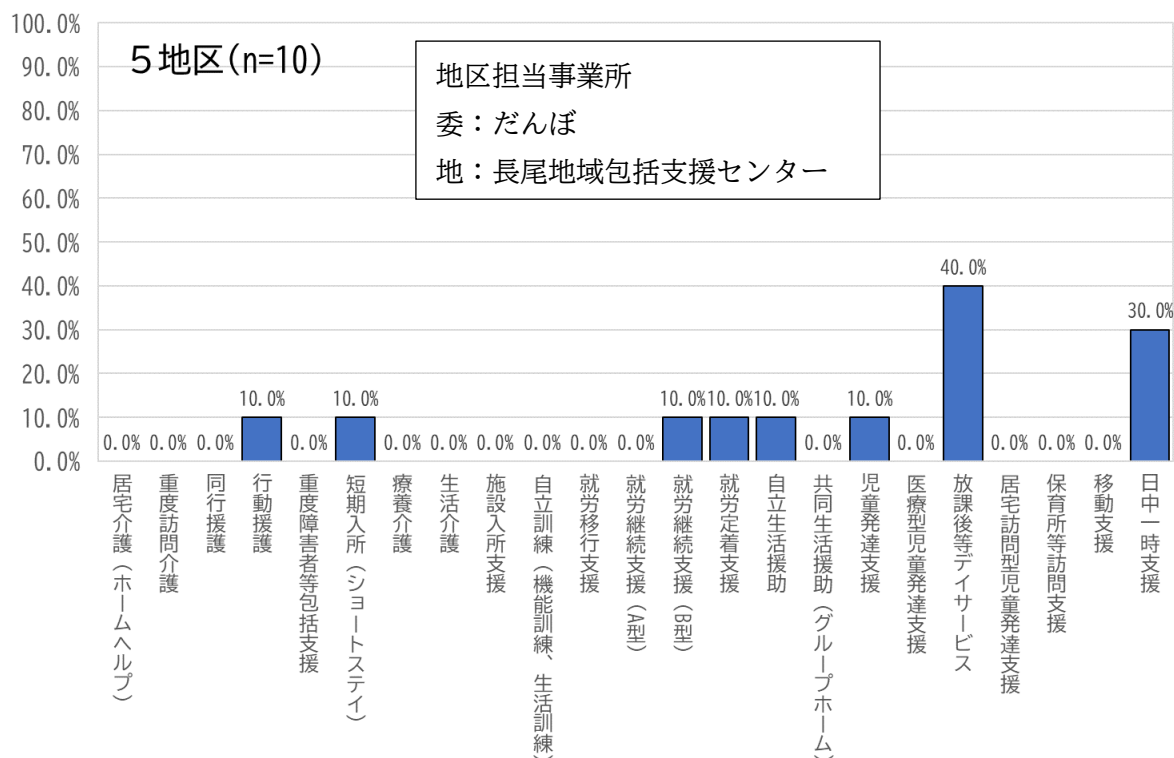
地域別に「特にない」及び「無回答」を除いた場合は、1地区では「短期入所」が最も多く 33.3%、2地区では「放課後等デイサービス」が最も多く 53.8%となっています。



地域別に「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、3地区では、「短期入所」が最も多く 50.0%、4地区では「共同生活援助」が最も多くそれぞれ 57.1%となっています。



地域別に「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、5地区では「放課後等デイサービス」が最も多く40.0%、6地区では「児童発達支援」が最も多く45.5%、7地区では回答がありませんでした。



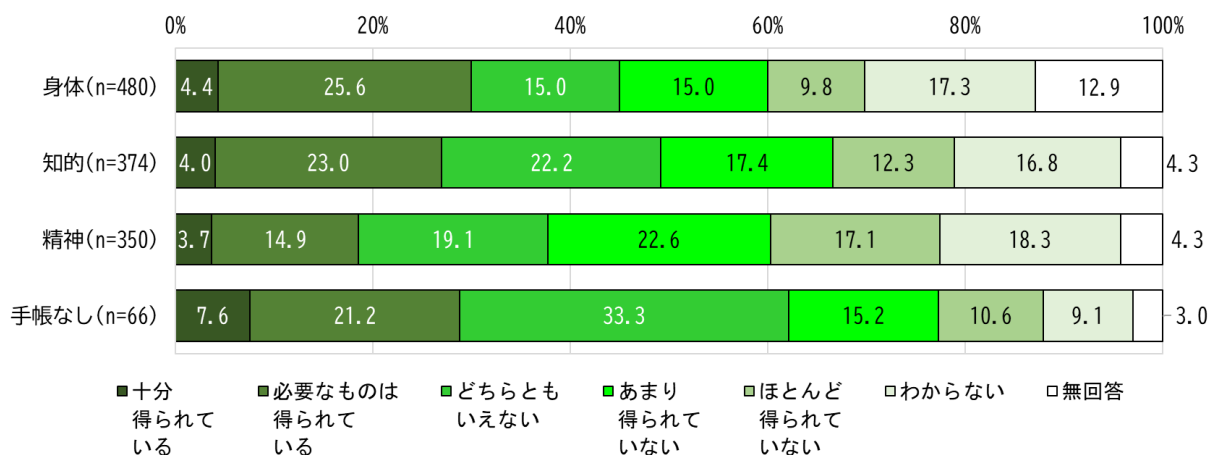


⑨情報の入手・相談

問 16	あなたはふだん、 ^が 障害に関することや福祉サービスなどに関する情報について、十分に得られていると思いますか。	1 つに○
------	--	-------

障害に関することや福祉サービスなどに関する情報について、身体では「必要なものは得られている」が最も多くそれぞれ 25.6%、知的では「必要なものは得られている」が最も多くそれぞれ 23.0%、精神では「あまり得られていない」が最も多く 22.6%、手帳なしでは「どちらともいえない」が最も多く 33.3% となっています。

また、「十分得られている」と「必要なものは得られている」を『得られている』、「あまり得られていない」と「ほとんど得られていない」を『得られていない』とすると、身体では『得られている』が 30.0%、『得られていない』が 24.8%で、『得られている』が 5.2 ポイント多く、知的では『得られている』が 27.0%、『得られていない』が 29.7%で、『得られていない』が 2.7 ポイント多く、精神では『得られている』が 18.6%、『得られていない』が 39.7%で、『得られていない』が 21.1 ポイント多く、手帳なしでは『得られている』が 28.8%、『得られていない』が 25.8%で、『得られている』が 3.0 ポイント多くなっています。



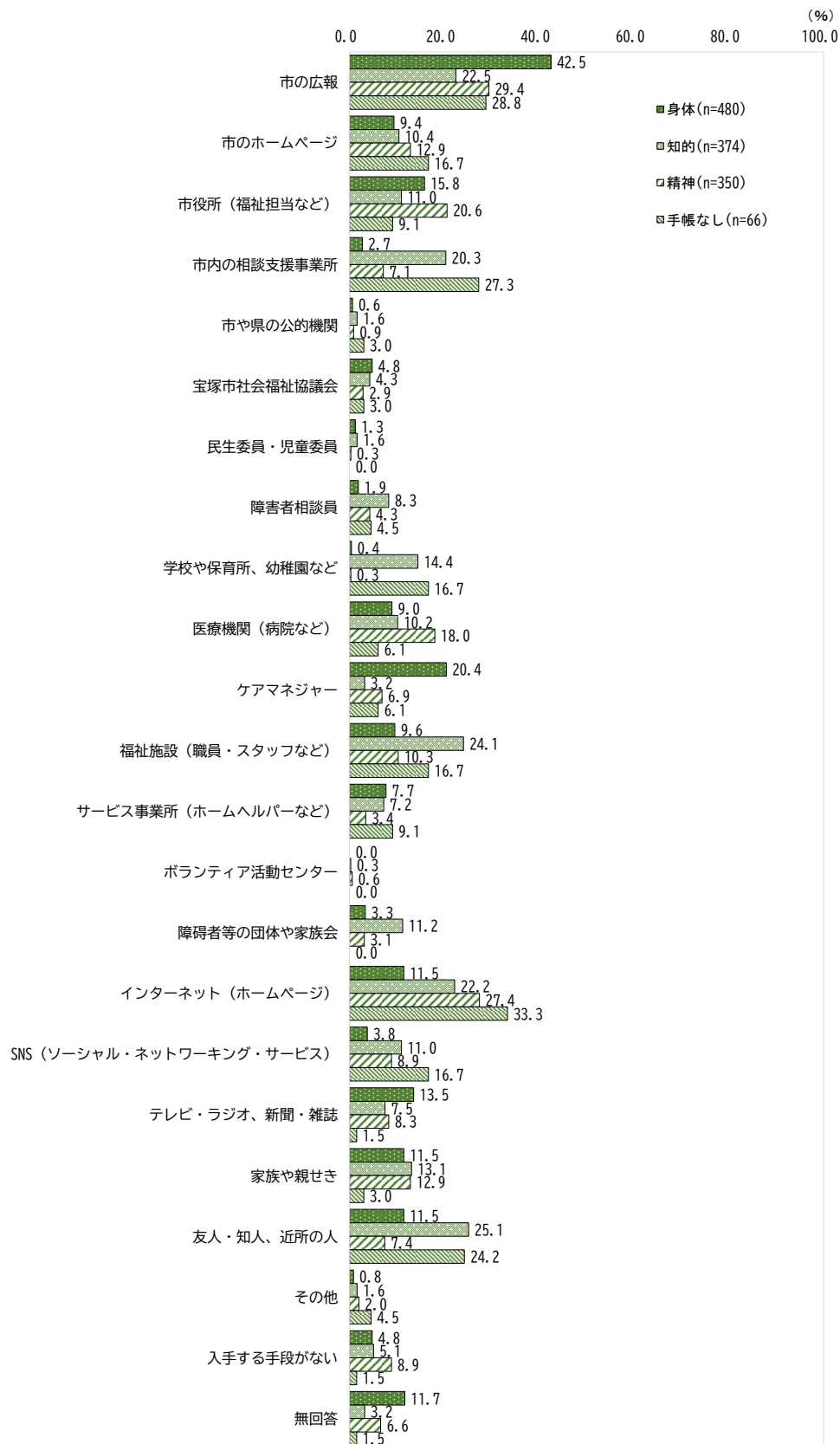
		n	十分得られている	必要なものは得られている	どちらともいえない	あまり得られていない	ほとんど得られていない	わからない	無回答
全体		1,284	4.2	21.4	19.0	17.6	12.5	16.8	7.4
身体	0～17歳	8	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0
	18～39歳	25	4.0	32.0	28.0	12.0	8.0	4.0	12.0
	40～64歳	87	3.4	23.0	11.5	20.7	13.8	17.2	10.3
	65歳以上	360	4.7	25.8	15.3	13.1	9.2	18.6	13.3
知的	0～17歳	152	2.0	23.7	27.0	24.3	11.2	9.9	2.0
	18～39歳	126	6.3	20.6	22.2	13.5	13.5	19.0	4.8
	40～64歳	85	3.5	25.9	15.3	11.8	14.1	22.4	7.1
	65歳以上	11	9.1	18.2	9.1	9.1	0.0	45.5	9.1
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	6.8	16.4	23.3	24.7	9.6	19.2	0.0
	40～64歳	205	2.9	14.1	19.5	22.0	19.0	16.6	5.9
	65歳以上	68	2.9	16.2	13.2	20.6	19.1	23.5	4.4
手帳なし	0～17歳	49	6.1	22.4	34.7	16.3	12.2	8.2	0.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	40～64歳	5	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	65歳以上	7	28.6	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3

問 17

ふだん、どこから情報を得ていますか。

すべてに○

ふだんの情報の入手先について、身体では「市の広報」が最も多く 42.5%、知的では「友人・知人、近所の人」が最も多く 25.1%、精神では「市の広報」が最も多く 29.4%、手帳なしでは「インターネット（ホームページ）」が最も多く 33.3%となっています。

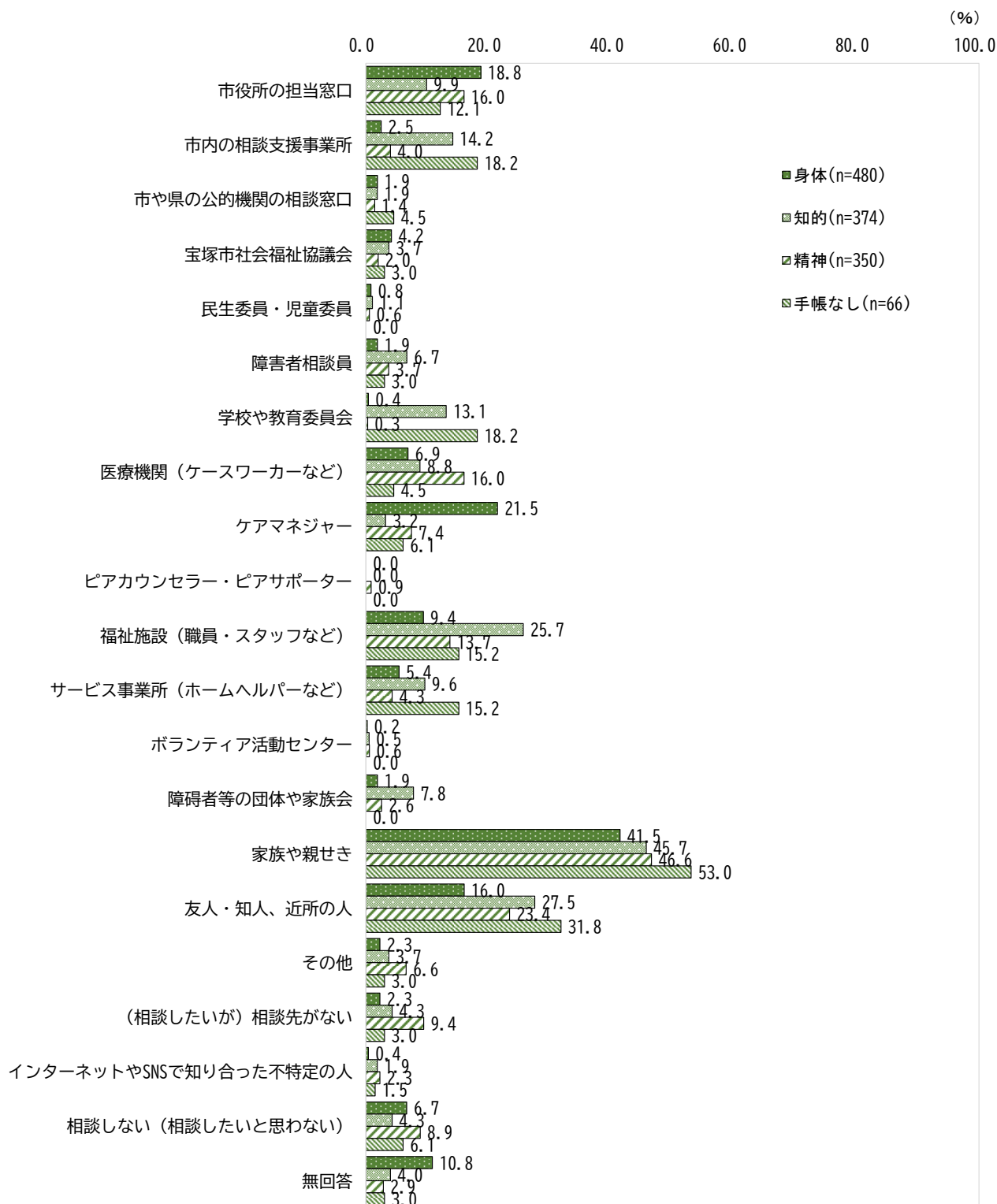


単位：％

		n	市の広報	市のホームページ	市役所 (福祉担当など)	市内の相談支援事業所	市や県の公的機関	宝塚市社会福祉協議会	民生委員・児童委員	障害者相談員	学校や保育所、幼稚園など	医療機関 (病院など)	ケアマネジャー	福祉施設 (職員・スタッフなど)
	全体	1,284	31.9	10.9	15.2	10.3	1.1	4.0	1.0	4.5	5.3	11.5	10.7	14.3
身体	0～17歳	8	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	25.0
	18～39歳	25	28.0	16.0	16.0	20.0	0.0	4.0	0.0	16.0	4.0	8.0	12.0	28.0
	40～64歳	87	29.9	16.1	23.0	4.6	1.1	3.4	0.0	4.6	0.0	10.3	9.2	10.3
	65歳以上	360	47.5	7.2	14.4	0.6	0.6	5.3	1.7	0.3	0.0	8.3	24.2	7.8
知的	0～17歳	152	24.3	12.5	10.5	26.3	2.0	1.3	1.3	7.9	32.2	13.8	1.3	15.8
	18～39歳	126	20.6	11.9	11.9	23.8	2.4	4.8	1.6	9.5	3.2	10.3	3.2	22.2
	40～64歳	85	21.2	5.9	10.6	5.9	0.0	9.4	2.4	8.2	1.2	4.7	3.5	41.2
	65歳以上	11	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	27.3
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	12.3	12.3	20.5	4.1	0.0	1.4	0.0	4.1	0.0	20.5	0.0	11.0
	40～64歳	205	32.2	14.1	22.9	9.8	1.0	2.4	0.5	5.9	0.5	19.0	5.9	10.2
	65歳以上	68	41.2	10.3	14.7	2.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	17.6	10.3
手帳なし	0～17歳	49	24.5	18.4	10.2	34.7	4.1	2.0	0.0	4.1	20.4	8.2	4.1	20.4
	18～39歳	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	40～64歳	5	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
	全体	n	サービス事業所 (ホームヘルパーなど)	ボランティア活動センター	障害者等の団体や家族会	インターネット (ホームページ)	SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	テレビ・ラジオ、新聞・雑誌	家族や親せき	友人・知人、近所の人	その他	入手する手段がない	無回答	
	全体	1,284	6.4	0.2	5.4	19.9	7.9	9.6	11.8	14.9	1.6	5.8	7.2	
身体	0～17歳	8	12.5	0.0	25.0	25.0	37.5	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	
	18～39歳	25	28.0	0.0	12.0	12.0	4.0	28.0	20.0	0.0	0.0	8.0	4.0	
	40～64歳	87	3.4	0.0	3.4	27.6	10.3	10.3	12.6	6.9	0.0	6.9	6.9	
	65歳以上	360	7.2	0.0	2.2	7.2	0.8	15.3	10.3	11.1	1.1	4.2	13.1	
知的	0～17歳	152	7.2	0.0	9.2	33.6	18.4	4.6	11.8	37.5	1.3	2.0	0.7	
	18～39歳	126	8.7	0.8	11.1	22.2	9.5	7.1	14.3	21.4	1.6	7.1	2.4	
	40～64歳	85	3.5	0.0	16.5	3.5	1.2	14.1	12.9	10.6	2.4	8.2	8.2	
	65歳以上	11	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	9.1	
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	18～39歳	73	1.4	1.4	1.4	37.0	17.8	5.5	24.7	11.0	2.7	6.8	6.8	
	40～64歳	205	3.9	0.5	2.4	27.8	7.3	8.8	10.7	5.9	2.0	9.3	6.3	
	65歳以上	68	4.4	0.0	7.4	16.2	2.9	10.3	4.4	7.4	1.5	10.3	7.4	
手帳なし	0～17歳	49	10.2	0.0	0.0	40.8	20.4	2.0	2.0	28.6	2.0	2.0	2.0	
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	

問 18	あなたは、悩みごとや困りごとがあったとき、だれに（どこに）相談していますか。	すべてに○
------	--	-------

悩みごとや困りごとがあったときの相談先について、すべてにおいて「家族や親せき」が最も多く、身体が41.5%、知的が45.7%、精神が46.6%、手帳なしが53.0%となっています。



単位：％

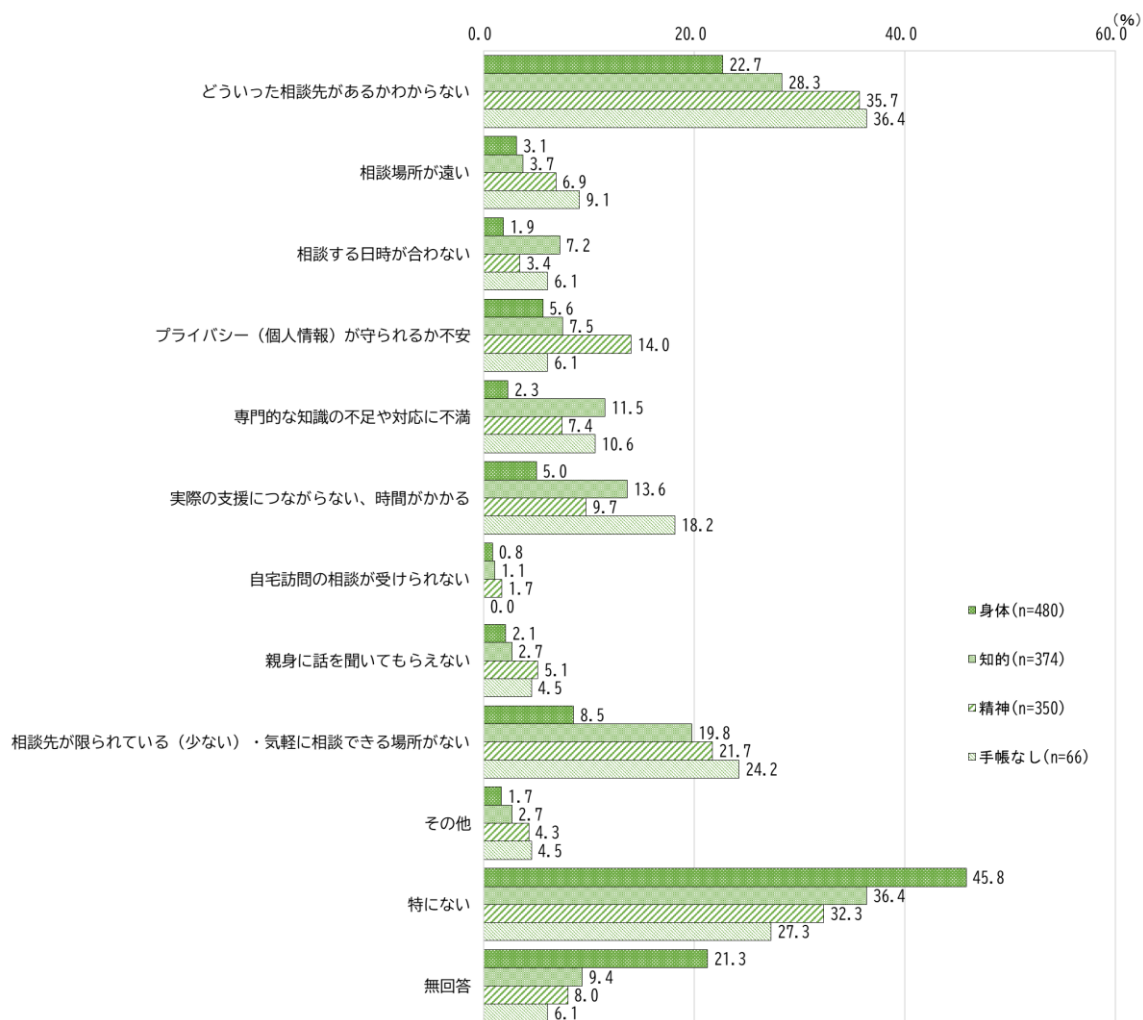
		n	市役所の 担当窓口	市内の相 談支援事 業所	市や県の 公的機関 の相談窓 口	宝塚市社 会福祉協 議会	民生委 員・児童 委員	障害者相 談員	学校や教 育委員会	医療機関 (ケース ワーカー など)	ケアマネ ジャー	ピアカウ ンセー ラー・ピア サポーター	福祉施設 (職員・ スタッフ など)
	全体	1,284	14.9	7.1	1.9	3.3	0.8	3.8	5.0	9.7	11.3	0.2	15.5
身体	0～17歳	8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	18～39歳	25	8.0	16.0	0.0	12.0	0.0	4.0	0.0	8.0	12.0	0.0	28.0
	40～64歳	87	26.4	2.3	1.1	3.4	0.0	3.4	0.0	8.0	12.6	0.0	13.8
	65歳以上	360	17.8	1.7	2.2	3.9	1.1	1.4	0.0	6.1	24.7	0.0	6.7
知的	0～17歳	152	11.2	16.4	2.6	0.7	0.0	5.9	28.9	11.2	2.0	0.0	15.1
	18～39歳	126	6.3	16.7	2.4	6.3	1.6	7.1	4.0	9.5	4.0	0.0	28.6
	40～64歳	85	12.9	7.1	0.0	5.9	1.2	8.2	0.0	4.7	3.5	0.0	38.8
	65歳以上	11	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	36.4
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	4.1	4.1	2.7	1.4	0.0	2.7	0.0	17.8	0.0	1.4	11.0
	40～64歳	205	18.5	3.9	0.5	2.4	0.0	4.4	0.0	17.1	5.4	0.5	14.6
	65歳以上	68	22.1	4.4	1.5	1.5	2.9	2.9	0.0	11.8	22.1	1.5	14.7
手帳なし	0～17歳	49	10.2	22.4	2.0	4.1	0.0	4.1	24.5	6.1	4.1	0.0	16.3
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
		n	サービス 事業所 (ホーム ヘルパー など)	ボラン ティア活 動セン ター	障害者等 の団体や 家族会	家族や親 せき	友人・知 人、近所 の人	その他	(相談し たいが) 相談先が ない	インター ネットや SNSで知 り合った 不特定の 人	相談しな い(相談 したいと 思わない)	無回答	
	全体	1,284	6.8	0.4	3.7	44.2	22.0	3.9	4.8	1.4	6.5	6.2	
身体	0～17歳	8	0.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	
	18～39歳	25	32.0	0.0	4.0	36.0	12.0	12.0	0.0	0.0	8.0	8.0	
	40～64歳	87	3.4	1.1	2.3	39.1	16.1	2.3	2.3	1.1	4.6	5.7	
	65歳以上	360	4.2	0.0	1.1	42.2	15.6	1.7	2.5	0.3	7.2	12.2	
知的	0～17歳	152	11.8	0.0	6.6	46.1	38.2	1.3	5.9	3.9	4.6	1.3	
	18～39歳	126	10.3	0.8	7.9	53.2	26.2	7.1	2.4	0.0	5.6	4.8	
	40～64歳	85	3.5	1.2	10.6	36.5	12.9	3.5	4.7	1.2	2.4	7.1	
	65歳以上	11	18.2	0.0	0.0	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
	18～39歳	73	1.4	0.0	1.4	61.6	26.0	11.0	5.5	5.5	13.7	1.4	
	40～64歳	205	5.4	1.0	2.4	48.3	22.4	6.3	10.7	1.0	8.3	2.4	
	65歳以上	68	4.4	0.0	4.4	26.5	22.1	2.9	10.3	1.5	5.9	5.9	
手帳なし	0～17歳	49	18.4	0.0	0.0	57.1	38.8	4.1	4.1	2.0	4.1	0.0	
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

問 19

悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることはありますか。

3 つまで○

悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることにについて、身体では「特にない」が最も多く 45.8%、知的では「特にない」が最も多く 36.4%、精神では「どういった相談先があるかわからない」が最も多く 35.7%、手帳なしでは「どういった相談先があるかわからない」が最も多く 36.4%となっています。



単位：%

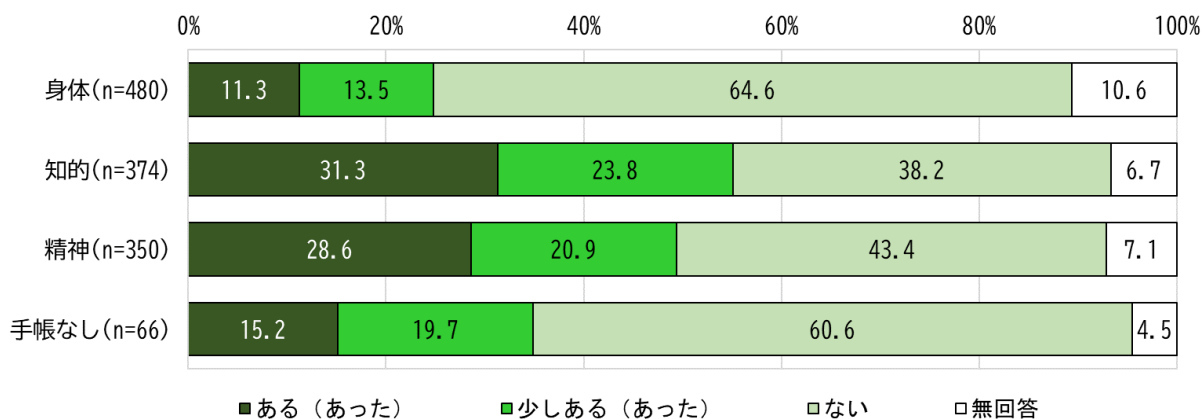
		n	どういった相談先があるかわからない	相談場所が遠い	相談する日時が合わない	プライバシー（個人情報）が守られるか不安	専門的な知識の不足や対応に不満	実際の支援につながらない、時間がかかる	自宅訪問の相談が受けられない	親身に話を聞いてもらえない	相談先が限られている（少ない）・気軽に相談できる場所がない	その他	特にない	無回答
	全体	1,284	29.8	4.8	4.2	9.3	7.1	10.0	1.1	3.4	16.8	3.0	40.3	14.3
身体	0～17歳	7	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3
	18～39歳	20	30.0	5.0	5.0	15.0	10.0	30.0	0.0	5.0	20.0	5.0	40.0	25.0
	40～64歳	70	37.1	4.3	4.3	8.6	2.9	10.0	1.4	4.3	15.7	4.3	47.1	24.3
	65歳以上	281	26.7	3.9	1.4	6.4	1.8	3.2	1.1	2.1	8.9	1.4	63.0	28.1
知的	0～17歳	149	34.2	6.0	8.1	8.1	15.4	18.1	0.7	1.3	27.5	0.7	32.2	2.0
	18～39歳	111	32.4	1.8	7.2	7.2	10.8	13.5	0.9	2.7	18.9	6.3	40.5	13.5
	40～64歳	70	22.9	4.3	8.6	10.0	11.4	12.9	2.9	7.1	17.1	2.9	54.3	21.4
	65歳以上	9	33.3	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	22.2
精神	0～17歳	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	69	26.1	8.7	4.3	13.0	11.6	10.1	1.4	7.2	26.1	5.8	36.2	5.8
	40～64歳	190	44.7	8.9	4.2	15.3	7.4	11.6	2.6	5.8	24.2	5.8	32.6	7.9
	65歳以上	59	33.9	1.7	1.7	18.6	6.8	6.8	0.0	3.4	18.6	0.0	40.7	15.3
手帳なし	0～17歳	49	40.8	8.2	8.2	8.2	14.3	20.4	0.0	4.1	28.6	4.1	26.5	0.0
	18～39歳	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
	40～64歳	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	75.0	25.0
	65歳以上	5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0

⑩権利擁護

問 20-1	あなたは、 ^{がい} 障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。	1 つに○
--------	---	-------

障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについて、すべてにおいて「ない」が最も多く、身体が 64.6%、知的が 38.2%、精神が 43.4%、手帳なしが 60.6%となっています。

また、「ある（あった）」と「少しある（あった）」を『ある（あった）』とすると、身体が 24.8%、知的が 55.1%、精神が 49.4%、手帳なしが 34.8%で、知的が最も多くなっています。



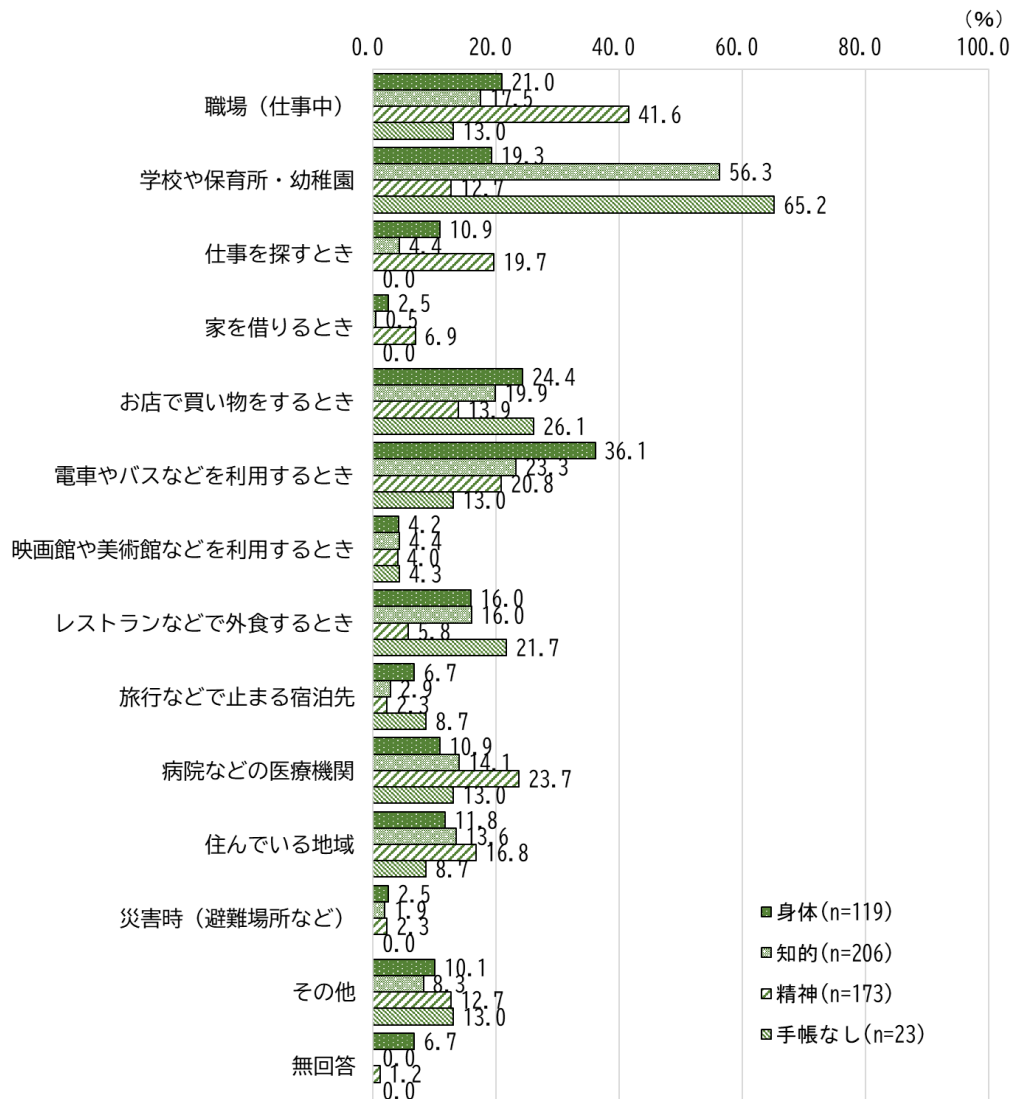
単位：％

		n	ある (あった)	少しある (あった)	ない	無回答
	全体	1,284	21.9	18.7	50.2	8.1
身 体	0～17歳	8	0.0	25.0	75.0	0.0
	18～39歳	25	48.0	28.0	20.0	4.0
	40～64歳	87	28.7	21.8	42.5	6.9
	65歳以上	360	4.7	10.3	72.8	12.2
知 的	0～17歳	152	22.4	24.3	51.3	2.0
	18～39歳	126	42.1	26.2	27.0	4.8
	40～64歳	85	32.9	20.0	31.8	15.3
	65歳以上	11	18.2	18.2	36.4	27.3
精 神	0～17歳	4	25.0	0.0	75.0	0.0
	18～39歳	73	34.2	24.7	37.0	4.1
	40～64歳	205	31.7	18.0	44.4	5.9
	65歳以上	68	13.2	26.5	45.6	14.7
手 帳 な し	0～17歳	49	16.3	20.4	61.2	2.0
	18～39歳	5	20.0	0.0	80.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	28.6	57.1	14.3

《問 20-1 で「ある（あった）」または「少しある（あった）」と回答した方にお聞きます。》

問 20-2	それはどのような場所（場面）でしたか。	すべてに○
--------	---------------------	-------

障^{がい}碍があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある人に、場所（場面）について聞いたところ、身体では「電車やバスなどを利用するとき」が最も多く 36.1%、知的では「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 56.3%、精神では「職場（仕事中）」が最も多く 41.6%、手帳なしでは「学校や保育所・幼稚園」が最も多く 65.2%となっています。



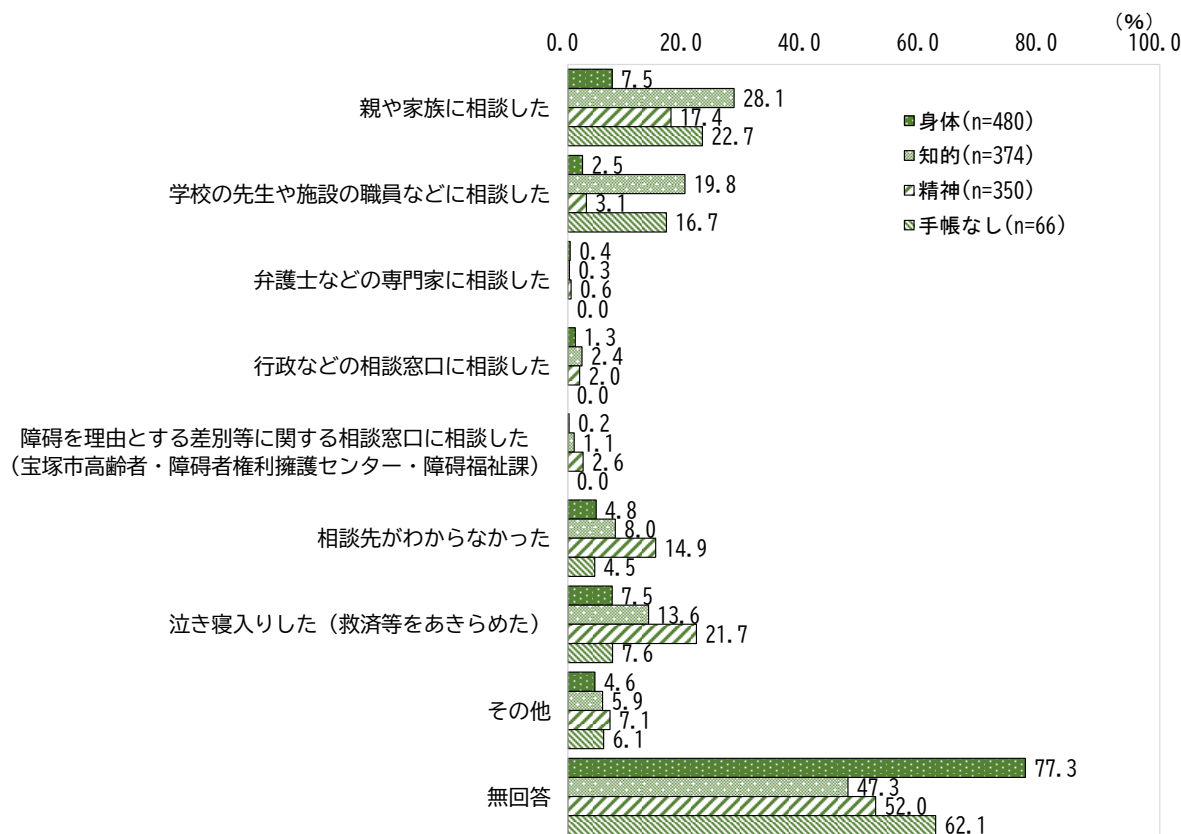
		n	職場（仕事中）	学校や保育所・幼稚園	仕事を探するとき	家を借りるとき	お店で買い物をするとき	電車やバスなどを利用するとき	映画館や美術館などを利用するとき	レストランなどで外食するとき	旅行などで止まる宿泊先	病院などの医療機関	住んでいる地域	災害時（避難場所など）	その他	無回答
全体		540	25.2	32.6	10.4	3.0	18.5	24.1	4.1	12.4	3.7	15.9	13.5	2.0	10.0	1.9
身体	0～17歳	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	19	15.8	36.8	5.3	5.3	36.8	31.6	10.5	36.8	10.5	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0
	40～64歳	44	29.5	22.7	15.9	2.3	27.3	36.4	4.5	13.6	6.8	6.8	6.8	2.3	9.1	4.5
	65歳以上	54	16.7	7.4	9.3	1.9	18.5	38.9	1.9	11.1	5.6	16.7	18.5	3.7	13.0	11.1
知的	0～17歳	71	0.0	74.6	0.0	0.0	25.4	22.5	4.2	19.7	2.8	16.9	14.1	0.0	9.9	0.0
	18～39歳	86	22.1	55.8	8.1	1.2	16.3	25.6	7.0	15.1	4.7	10.5	10.5	0.0	7.0	0.0
	40～64歳	45	31.1	26.7	4.4	0.0	20.0	20.0	0.0	13.3	0.0	17.8	17.8	8.9	8.9	0.0
	65歳以上	4	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	43	39.5	25.6	25.6	7.0	4.7	14.0	7.0	4.7	0.0	14.0	9.3	2.3	16.3	0.0
	40～64歳	102	47.1	7.8	19.6	7.8	16.7	24.5	2.9	7.8	2.0	27.5	14.7	2.0	12.7	1.0
	65歳以上	27	25.9	7.4	11.1	3.7	18.5	18.5	3.7	0.0	7.4	25.9	37.0	3.7	7.4	3.7
手帳なし	0～17歳	18	0.0	77.8	0.0	0.0	22.2	5.6	5.6	22.2	5.6	5.6	5.6	0.0	16.7	0.0
	18～39歳	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

《問 20-1 で「ある（あった）」または「少しある（あった）」と回答した方にお聞きます。》

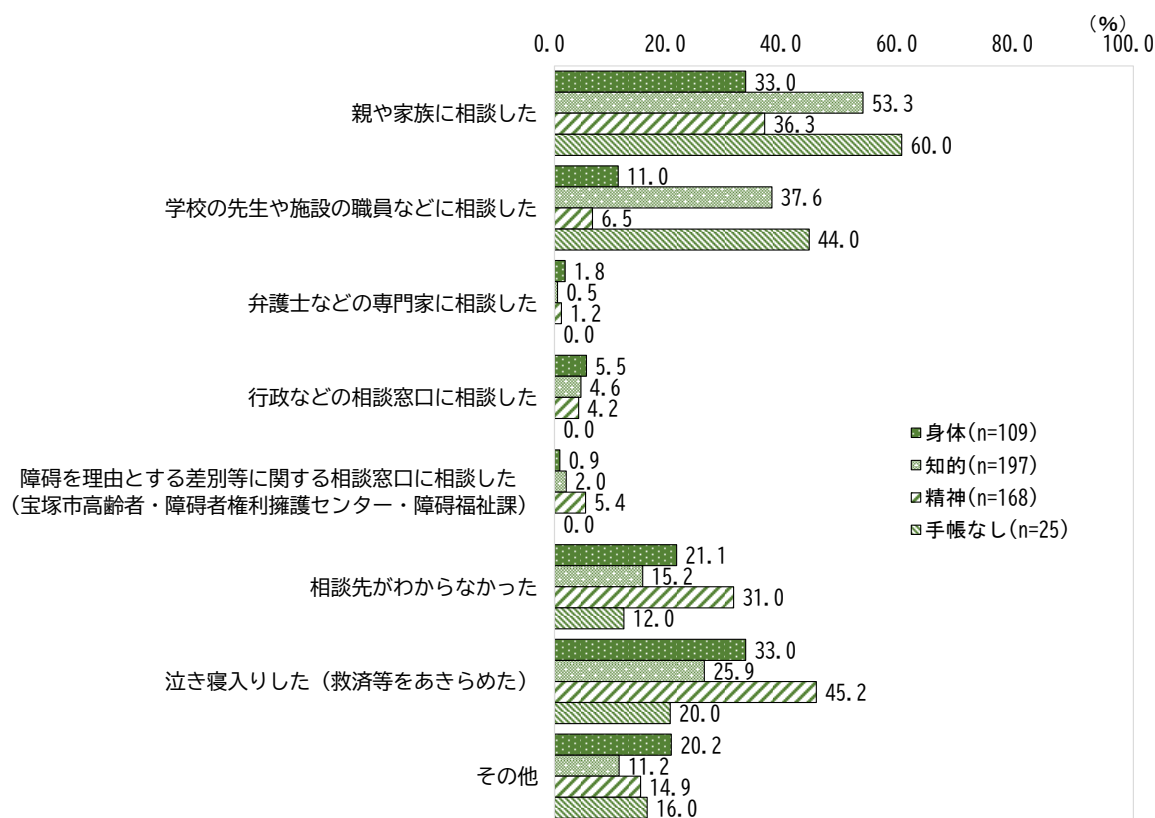
問 20-3	その時、あなたは、どのような対応をされましたか。	すべてに○
--------	--------------------------	-------

障^{がい}があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがある人に、その時の対応について聞いたところ、すべてにおいて「無回答」が最も多く、身体が 77.3%、知的が 47.3%、精神が 52.0%、手帳なしが 62.1%となっています。



単位：％											
			親や家族 に相談し た	学校の先生や施設 の職員な どに相談 した	弁護士な どの専門 家に相談 した	行政など の相談窓 口に相談 した	障害を理 由とする 差別等に 関する相 談窓口 に相談し た	相談先が わからな かった	泣き寝入 りした (救済等 をあきら めた)	その他	無回答
	全体	540	40.2	20.0	0.9	4.1	2.6	20.0	31.1	13.5	142.8
身体	0～17歳	8	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	18～39歳	25	32.0	20.0	0.0	4.0	0.0	16.0	20.0	8.0	36.0
	40～64歳	87	11.5	5.7	1.1	1.1	0.0	10.3	16.1	10.3	54.0
	65歳以上	360	4.7	0.3	0.3	1.1	0.3	2.8	4.7	3.1	85.8
知的	0～17歳	152	22.4	21.1	0.0	2.0	0.7	5.9	14.5	3.3	53.9
	18～39歳	126	36.5	23.8	0.0	4.0	1.6	10.3	12.7	8.7	35.7
	40～64歳	85	23.5	14.1	0.0	1.2	1.2	9.4	12.9	7.1	51.8
	65歳以上	11	45.5	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	54.5
精神	0～17歳	4	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	18～39歳	73	30.1	5.5	0.0	2.7	2.7	15.1	19.2	11.0	41.1
	40～64歳	205	16.6	2.9	0.5	1.0	2.4	17.6	24.9	6.3	51.7
	65歳以上	68	7.4	0.0	1.5	2.9	2.9	7.4	16.2	5.9	63.2
手帳なし	0～17歳	49	22.4	20.4	0.0	0.0	0.0	6.1	6.1	6.1	63.3
	18～39歳	5	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0
	40～64歳	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	60.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	42.9

また、「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、身体では「親や家族に相談した」「泣き寝入りした」が最も多くそれぞれ33.0%、知的では「親や家族に相談した」が最も多く53.3%、精神では「泣き寝入りした」が最も多く45.2%、手帳なしでは「親や家族に相談した」が最も多く60.0%となっています。

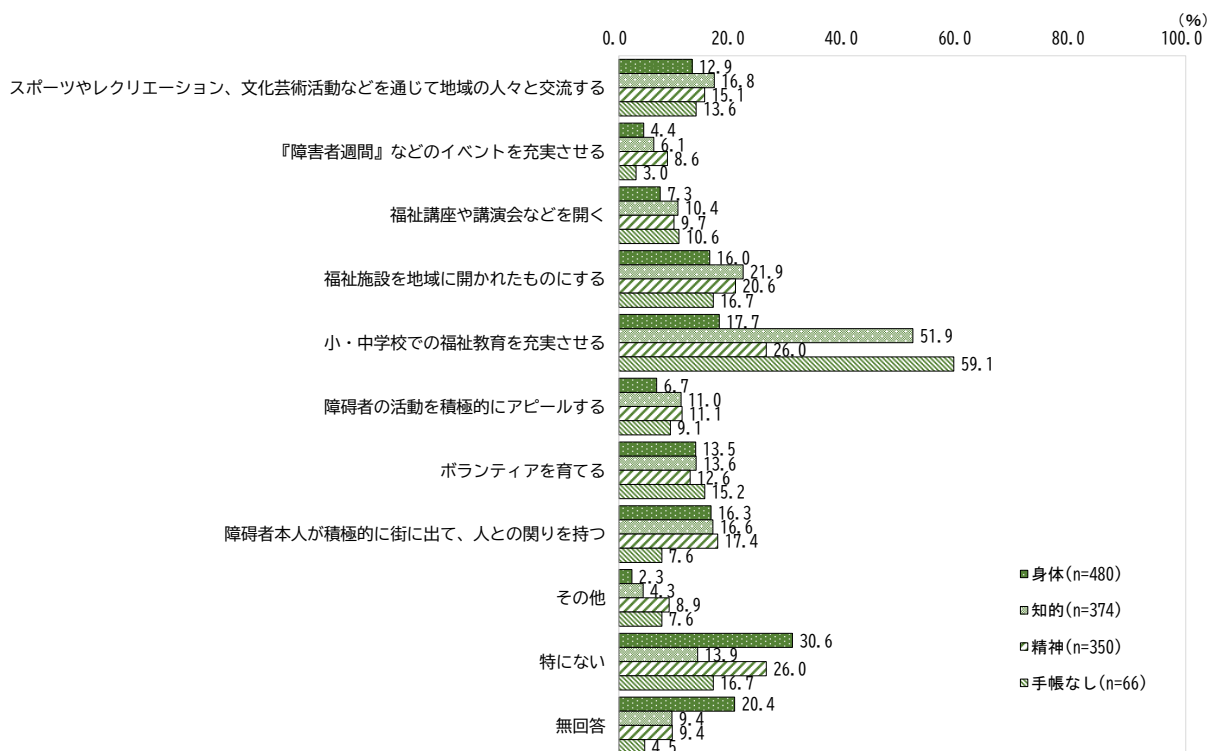


問 21

障害者に対する理解を深めるためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

3つまで○

障害者に対する理解を深めるために、今後力を入れるべきことについて、身体では「特にない」が最も多く 30.6%、知的では「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 51.9%、精神では「小・中学校での福祉教育を充実させる」「特にない」が最も多くそれぞれ 26.0%、手帳なしでは「小・中学校での福祉教育を充実させる」が最も多く 59.1%となっています。

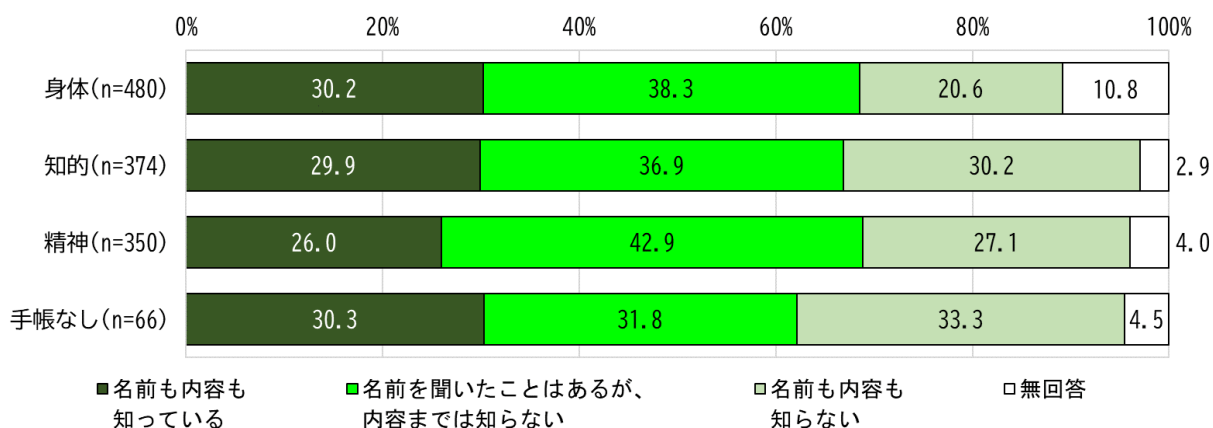


単位：%

		n	スポーツやレクリエーション、文化芸術活動などを通じて地域の人々と交流する	『障害者週間』などのイベントを充実させる	福祉講座や講演会などを開く	福祉施設を地域に開かれたものにする	小・中学校での福祉教育を充実させる	障害者の活動を積極的にアピールする	ボランティアを育てる	障害者本人が積極的に街に出て、人との関わりを持つ	その他	特にない	無回答
	全体	1,284	14.6	5.9	9.0	18.8	31.9	9.2	13.2	16.0	4.9	23.4	13.2
身体	0～17歳	8	12.5	0.0	0.0	25.0	37.5	25.0	12.5	25.0	0.0	25.0	12.5
	18～39歳	25	20.0	0.0	4.0	44.0	48.0	4.0	24.0	16.0	4.0	4.0	12.0
	40～64歳	87	12.6	8.0	9.2	19.5	26.4	10.3	19.5	18.4	2.3	28.7	6.9
	65歳以上	360	12.5	3.9	7.2	13.1	13.1	5.6	11.4	15.6	2.2	33.1	24.4
知的	0～17歳	152	13.8	7.2	7.9	15.1	74.3	12.5	9.2	17.1	5.9	9.2	2.0
	18～39歳	126	21.4	4.0	11.1	29.4	46.0	12.7	16.7	17.5	5.6	11.9	10.3
	40～64歳	85	15.3	7.1	15.3	23.5	22.4	5.9	18.8	15.3	0.0	22.4	18.8
	65歳以上	11	18.2	9.1	0.0	18.2	36.4	9.1	0.0	9.1	0.0	36.4	27.3
精神	0～17歳	4	25.0	25.0	50.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	23.3	5.5	9.6	32.9	37.0	8.2	6.8	15.1	11.0	21.9	5.5
	40～64歳	205	13.2	9.3	7.8	17.6	23.4	13.2	13.7	18.5	10.7	27.8	8.8
	65歳以上	68	11.8	8.8	13.2	16.2	20.6	8.8	16.2	17.6	0.0	26.5	16.2
手帳なし	0～17歳	49	10.2	2.0	12.2	16.3	75.5	6.1	14.3	8.2	6.1	14.3	2.0
	18～39歳	5	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3

問 22-1	あなたは、成年後見制度についてご存じですか。	1 つに○
--------	------------------------	-------

成年後見制度の認知度について、身体では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が最も多く 38.3%、知的では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が最も多く 36.9%、精神では「名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない」が最も多く 42.9%、手帳なしでは「名前も内容も知らない」が最も多く 33.3%となっています。

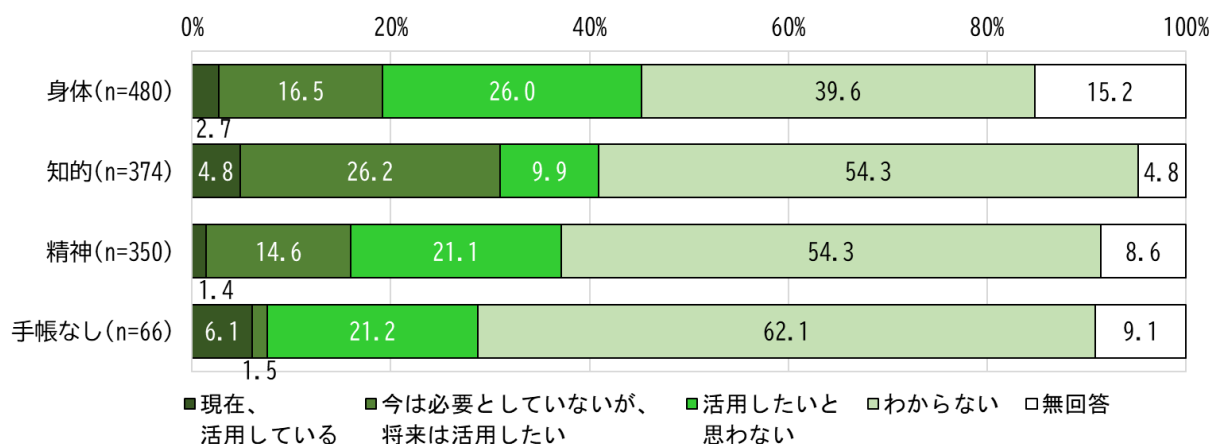


単位：％

		n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
	全体	1,284	28.7	38.4	25.6	6.1
身体	0～17歳	8	25.0	25.0	12.5	25.0
	18～39歳	25	48.0	36.0	16.0	0.0
	40～64歳	87	43.7	31.0	21.8	3.4
	65歳以上	360	25.8	40.6	20.8	12.8
知的	0～17歳	152	27.0	38.8	32.9	1.3
	18～39歳	126	27.8	41.3	28.6	1.6
	40～64歳	85	40.0	30.6	24.7	4.7
	65歳以上	11	18.2	9.1	54.5	18.2
精神	0～17歳	4	0.0	50.0	50.0	0.0
	18～39歳	73	26.0	31.5	41.1	1.4
	40～64歳	205	25.9	46.8	24.4	2.9
	65歳以上	68	27.9	42.6	19.1	10.3
手帳なし	0～17歳	49	26.5	38.8	34.7	0.0
	18～39歳	5	60.0	20.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	0.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	14.3	28.6	28.6

問 22-2	あなたは成年後見制度を活用したいと思いますか。	1 つに○
--------	-------------------------	-------

成年後見制度を活用したいと思うかについて、すべてにおいて「わからない」が最も多く、身体が 39.6%、知的が 54.3%、精神が 54.3%、手帳なしが 62.1%となっています。



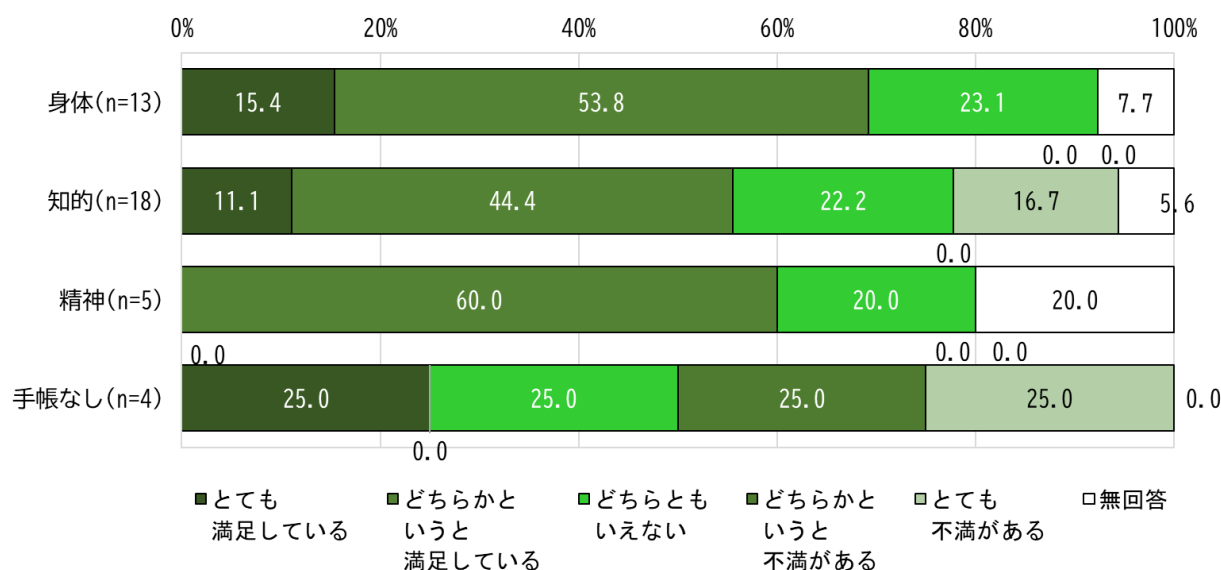
単位：%

		n	現在、活用している	今は必要としていないが、将来は活用したい	活用したいと思わない	わからない	無回答
	全体	1,284	3.1	17.8	19.5	48.6	9.9
身体	0～17歳	8	0.0	25.0	12.5	50.0	12.5
	18～39歳	25	8.0	48.0	12.0	32.0	0.0
	40～64歳	87	8.0	17.2	19.5	46.0	9.2
	65歳以上	360	1.1	13.9	28.9	38.3	17.8
知的	0～17歳	152	0.0	21.7	8.6	68.4	1.3
	18～39歳	126	4.8	36.5	7.1	47.6	4.0
	40～64歳	85	12.9	20.0	15.3	41.2	10.6
	65歳以上	11	9.1	18.2	18.2	36.4	18.2
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	73	1.4	16.4	21.9	57.5	2.7
	40～64歳	205	0.5	13.7	21.0	56.6	8.3
	65歳以上	68	4.4	16.2	22.1	41.2	16.2
手帳なし	0～17歳	49	2.0	0.0	20.4	71.4	6.1
	18～39歳	5	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	14.3	14.3	14.3	28.6	28.6

《問 22-2 で「現在、活用している」と回答した方にお聞きします。》

問 22-3	現在、活用している成年後見制度に満足していますか。	1 つに○
--------	---------------------------	-------

現在、成年後見制度を活用している人に、満足度について聞いたところ、身体では「どちらかという満足している」が最も多く 53.8%、知的では「どちらかという満足している」が最も多く 44.4%、精神では「どちらかという満足している」が最も多く 60.0%、手帳なしでは「とても満足している」「どちらともいえない」「どちらかという不満がある」「とても不満がある」が最も多くそれぞれ 25.0%となっています。



単位：%

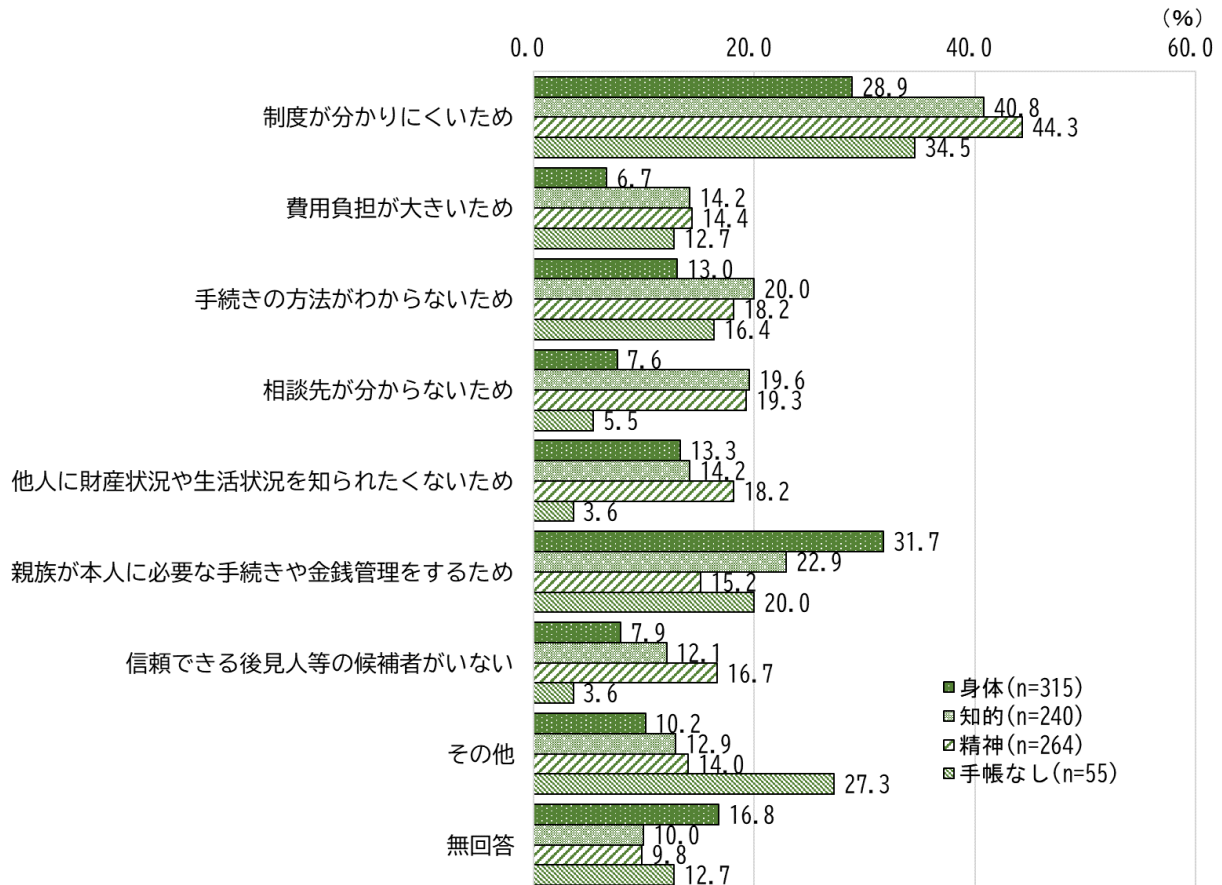
		n	とても満足している	どちらかという満足している	どちらともいえない	どちらかという不満がある	とても不満がある	無回答
	全体	41	12.2	43.9	22.0	2.4	9.8	7.3
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	7	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3
	65歳以上	4	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
知的	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	6	16.7	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0
	40～64歳	11	9.1	45.5	27.3	0.0	9.1	9.1
	65歳以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3
手帳なし	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

《問 22-2 で「活用したいとは思わない」または「わからない」と回答した方にお聞きます。》

問 22-4 それはどうしてですか。

すべてに○

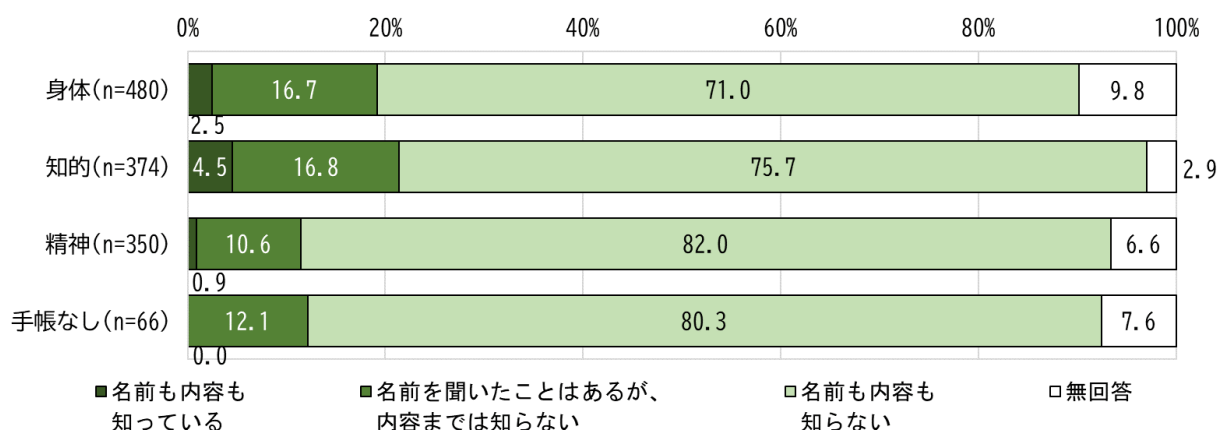
成年後見制度を活用したいとは思わない（わからないを含む）人に、その理由について聞いたところ、身体では「親族が本人に必要な手続きや金銭管理をするため」が最も多く 31.7%、知的では「制度が分かりにくい」が最も多く 40.8%、精神では「制度が分かりにくい」が最も多く 44.3%、手帳なしでは「制度が分かりにくい」が最も多く 34.5%となっています。



単位：%											
		n	制度が分 かりにくい ため	費用負担 が大きい ため	手続きの 方法がわ からない ため	相談先が 分からない ため	他人に財 産状況や 生活状況 を知られ たくない ため	親族が本 人に必要 な手続き や金銭管 理をする ため	信頼でき る後見人 等の候補 者がいな い	その他	無回答
身体	全体	928	35.0	10.8	15.7	13.5	13.6	22.2	10.8	12.4	11.9
	0～17歳	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0
	18～39歳	11	36.4	18.2	18.2	9.1	9.1	36.4	18.2	0.0	9.1
	40～64歳	57	36.8	8.8	10.5	7.0	19.3	21.1	12.3	12.3	14.0
	65歳以上	242	26.9	5.8	13.6	7.9	12.4	33.9	6.6	10.3	17.4
知的	0～17歳	117	42.7	8.5	17.9	20.5	8.5	16.2	9.4	17.9	7.7
	18～39歳	69	52.2	17.4	29.0	26.1	18.8	18.8	14.5	8.7	8.7
	40～64歳	48	22.9	25.0	12.5	8.3	20.8	39.6	16.7	8.3	18.8
	65歳以上	6	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	18～39歳	58	43.1	8.6	13.8	17.2	10.3	17.2	13.8	17.2	5.2
	40～64歳	159	45.9	15.1	21.4	19.5	21.4	11.9	18.9	15.7	10.7
	65歳以上	43	39.5	20.9	14.0	23.3	18.6	23.3	14.0	4.7	11.6
手帳なし	0～17歳	45	37.8	11.1	17.8	6.7	4.4	20.0	4.4	26.7	11.1
	18～39歳	4	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	40～64歳	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
	65歳以上	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

問 23	あなたは、『宝塚市障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。	1 つに○
------	------------------------------------	-------

『宝塚市障害者差別解消に関する条例』の認知度について、すべてにおいて「名前も内容も知らない」が最も多く、身体が71.0%、知的が75.7%、精神が82.0%、手帳なしが80.3%となっています。



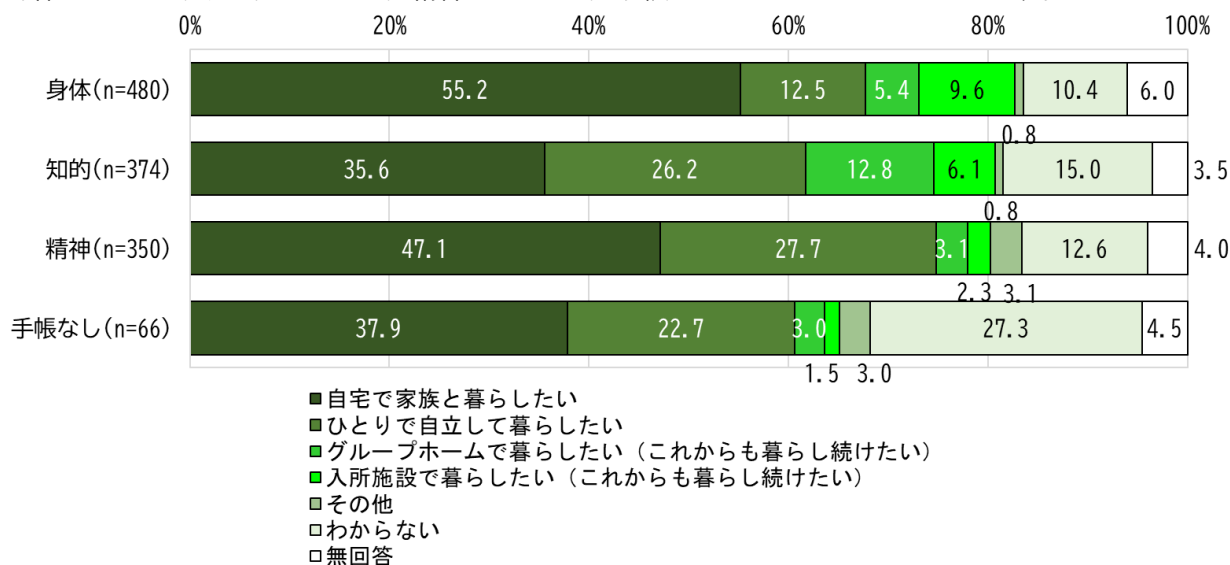
単位：％

		n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
	全体	1,284	2.5	14.6	75.1	6.5
身体	0～17歳	8	0.0	37.5	62.5	0.0
	18～39歳	25	0.0	20.0	80.0	0.0
	40～64歳	87	2.3	17.2	73.6	6.9
	65歳以上	360	2.8	15.8	70.0	11.4
知的	0～17歳	152	5.3	9.9	84.2	0.7
	18～39歳	126	4.8	18.3	73.8	2.4
	40～64歳	85	3.5	25.9	64.7	5.9
	65歳以上	11	0.0	27.3	63.6	9.1
精神	0～17歳	4	0.0	25.0	75.0	0.0
	18～39歳	73	0.0	9.6	84.9	5.5
	40～64歳	205	0.5	10.7	83.4	5.4
	65歳以上	68	2.9	10.3	75.0	11.8
手帳なし	0～17歳	49	0.0	10.2	85.7	2.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	40.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	14.3	57.1	28.6

⑪今後の暮らし

問 24①	あなたは、将来どのように暮らしたいと思いますか。	1 つに○
-------	--------------------------	-------

将来どのように暮らしたいと思うかについて、すべてにおいて「自宅で家族と暮らしたい」が最も多く、身体が 55.2%、知的が 35.6%、精神が 47.1%、手帳なしが 37.9%となっています。

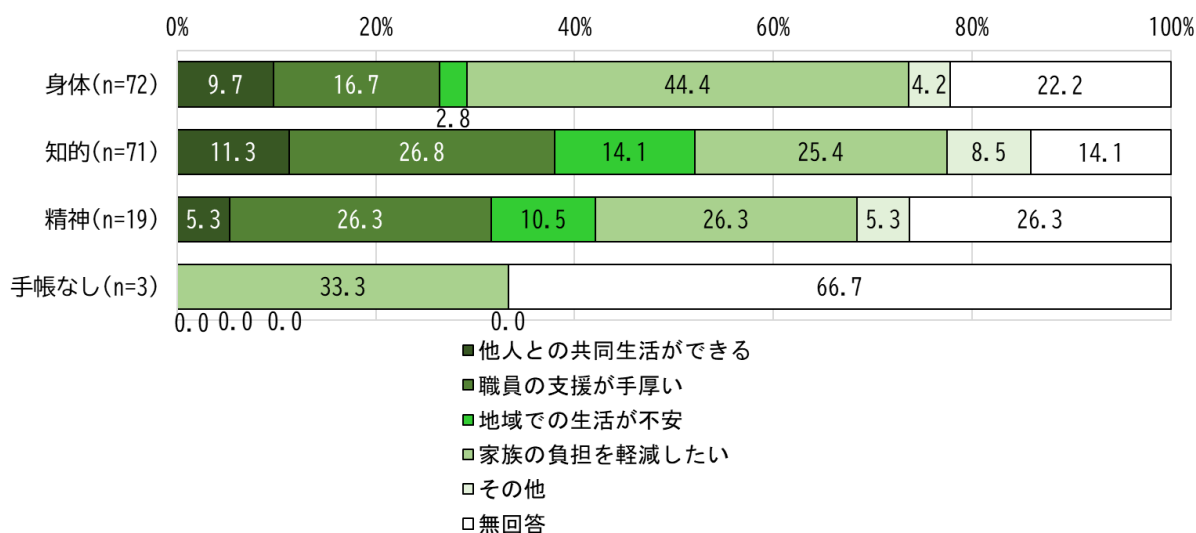


			単位：%						
		n	自宅で家族と暮らしたい	ひとりで自立して暮らしたい	グループホームで暮らしたい (これからも暮らし続けたい)	入所施設で暮らしたい (これからも暮らし続けたい)	その他	わからない	無回答
身体	全体	1,284	45.8	21.0	6.8	6.1	1.6	13.1	4.6
	0～17歳	8	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0
	18～39歳	25	44.0	20.0	20.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	55.2	16.1	10.3	8.0	1.1	3.4	5.7
	65歳以上	360	56.4	10.8	3.3	10.6	0.6	11.9	6.4
知的	0～17歳	152	34.2	32.2	5.9	1.3	0.0	24.3	2.0
	18～39歳	126	38.9	24.6	19.0	5.6	1.6	7.9	2.4
	40～64歳	85	35.3	17.6	17.6	15.3	1.2	7.1	5.9
	65歳以上	11	18.2	27.3	0.0	9.1	0.0	27.3	18.2
精神	0～17歳	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	52.1	26.0	5.5	1.4	5.5	6.8	2.7
	40～64歳	205	45.4	31.7	2.4	1.5	2.4	13.7	2.9
	65歳以上	68	45.6	17.6	2.9	5.9	2.9	16.2	8.8
手帳なし	0～17歳	49	34.7	24.5	4.1	0.0	2.0	32.7	2.0
	18～39歳	5	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	65歳以上	7	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3

《問 24-1 で「グループホームで暮らしたい（これからも暮らし続けたい）」または「入所施設で暮らしたい（これからも暮らし続けたい）」と回答した方にお聞きします。》

問 24②	グループホームや入所施設での生活を希望する理由は何ですか	1 つに○
-------	------------------------------	-------

グループホームや入所施設での生活を希望する理由について、身体では「家族の負担を軽減したい」が最も多く 44.4%、知的では「職員の支援が手厚い」が最も多く 26.8%、精神では「職員の支援が手厚い」「家族の負担を軽減したい」が最も多くそれぞれ 26.3%、手帳なしでは「無回答」が最も多く 66.7%となっています。



単位：％

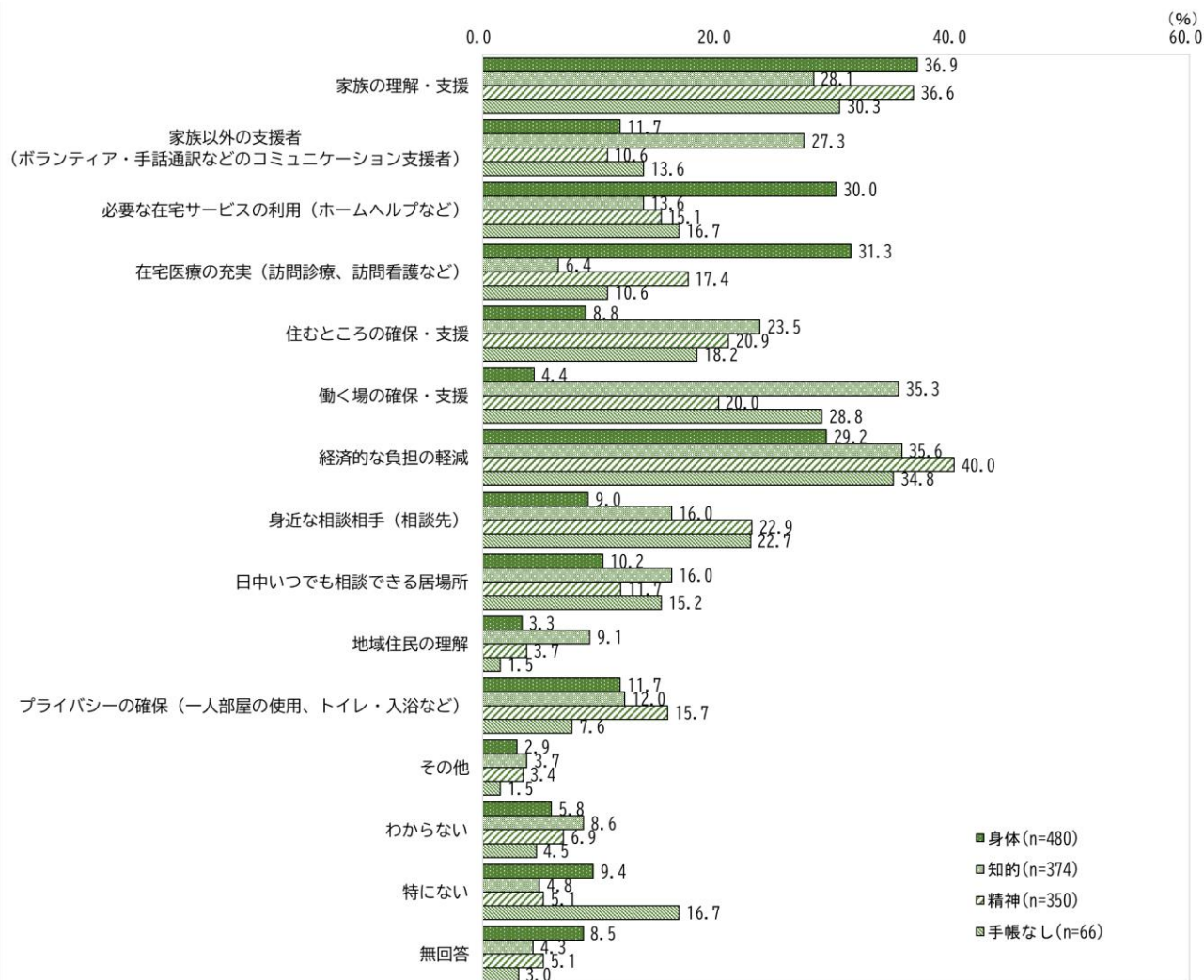
		n	他人との共同生活 ができる	職員の支 援が手厚 い	地域での 生活が不安	家族の負担を軽減 したい	その他	無回答
	全体	171	9.4	21.1	8.2	32.2	5.8	19.3
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	6	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3
	40～64歳	16	18.8	6.3	0.0	25.0	6.3	43.8
	65歳以上	50	6.0	20.0	2.0	54.0	4.0	14.0
知的	0～17歳	11	9.1	45.5	9.1	18.2	0.0	18.2
	18～39歳	31	6.5	22.6	19.4	25.8	9.7	16.1
	40～64歳	28	17.9	25.0	7.1	28.6	10.7	10.7
	65歳以上	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	5	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	40～64歳	8	0.0	25.0	12.5	25.0	12.5	25.0
	65歳以上	6	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0	16.7
手帳なし	0～17歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	18～39歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 25

仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような条件（支援）が必要と思いますか。

3 つまで○

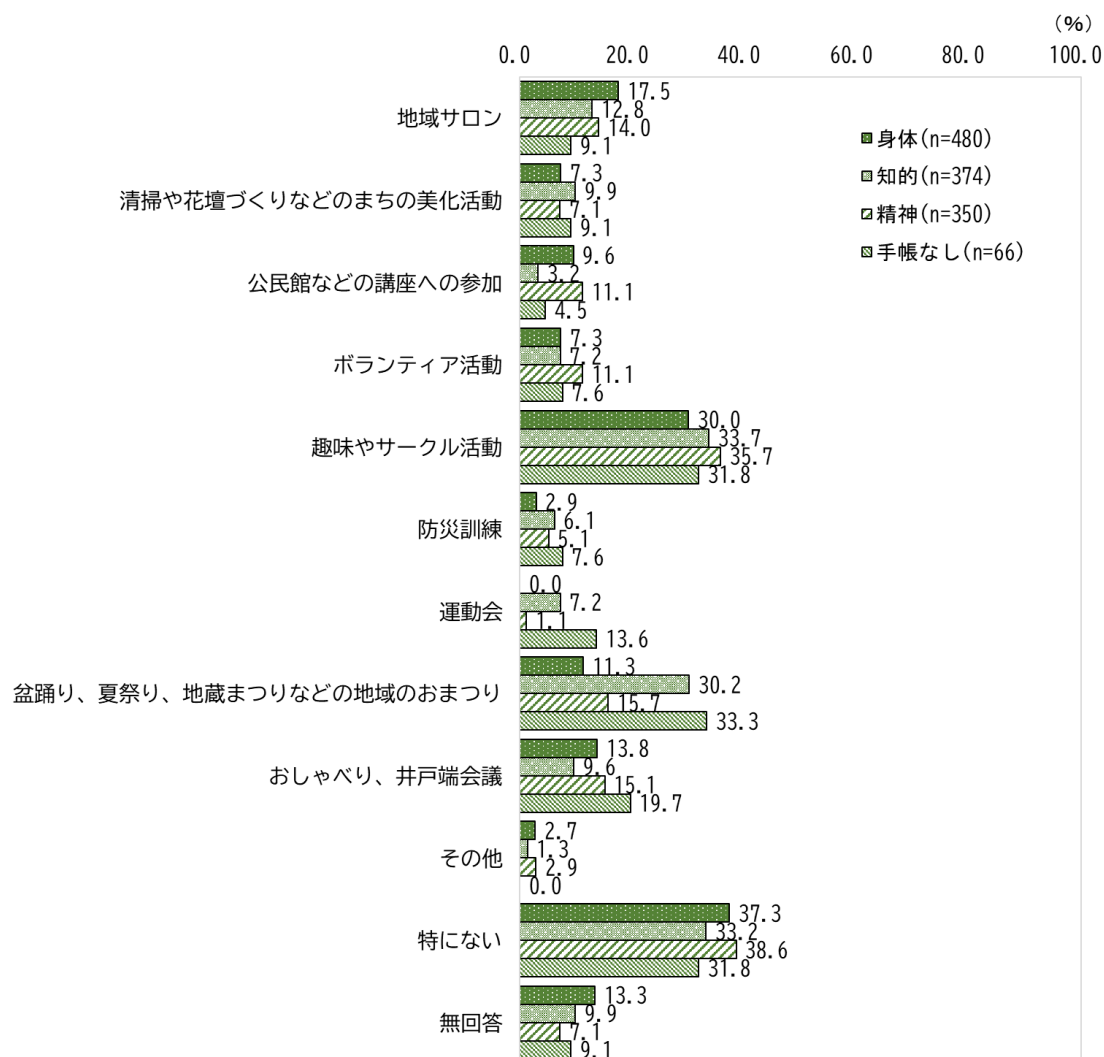
地域（グループホームを含む自宅）で生活していくために必要な条件（支援）について、身体では「家族の理解・支援」が最も多く 36.9%、知的では「経済的な負担の軽減」が最も多く 35.6%、精神では「経済的な負担の軽減」が最も多く 40.0%、手帳なしでは「経済的な負担の軽減」が最も多く 34.8%となっています。



		n	家族の理解・支援	家族以外の支援者 (ボランティア・手話通訳などのコミュニケーション支援者)	必要な在宅サービスの利用 (ホームヘルプなど)	在宅医療の充実 (訪問診療、訪問看護など)	住むところの確保・支援	働く場の確保・支援	経済的な負担の軽減	身近な相談相手 (相談先)	日中いつでも相談できる居場所	地域住民の理解	プライバシーの確保 (一人部屋の使用、トイレ・入浴など)	その他	わからない	特になし	無回答
身体	全体	1,284	33.5	15.9	20.2	18.8	16.7	18.8	34.0	15.4	12.5	5.0	12.5	3.2	6.8	7.2	5.9
	0～17歳	8	25.0	37.5	50.0	0.0	25.0	12.5	37.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5
	18～39歳	25	28.0	28.0	44.0	32.0	12.0	8.0	44.0	8.0	24.0	4.0	16.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	33.3	9.2	20.7	19.5	17.2	18.4	42.5	10.3	8.0	4.6	17.2	4.6	6.9	1.1	6.9
	65歳以上	360	38.6	10.6	30.8	34.7	6.1	0.6	24.7	8.9	9.7	3.1	10.3	2.2	5.8	11.9	9.2
知的	0～17歳	152	30.9	33.6	9.2	1.3	25.7	55.3	42.8	17.1	14.5	7.9	7.9	2.0	5.3	3.9	2.0
	18～39歳	126	28.6	25.4	18.3	9.5	22.2	27.8	33.3	19.8	15.1	10.3	15.9	5.6	7.9	4.8	4.0
	40～64歳	85	23.5	22.4	14.1	9.4	23.5	15.3	24.7	8.2	20.0	9.4	14.1	4.7	11.8	7.1	8.2
	65歳以上	11	18.2	0.0	18.2	18.2	9.1	0.0	45.5	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	36.4	0.0	9.1
	全体	374	30.9	33.6	9.2	1.3	25.7	55.3	42.8	17.1	14.5	7.9	7.9	2.0	5.3	3.9	2.0
精神	0～17歳	4	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	39.7	6.8	5.5	4.1	17.8	28.8	45.2	27.4	16.4	4.1	26.0	5.5	4.1	6.8	1.4
	40～64歳	205	37.1	10.2	13.7	15.6	26.3	21.5	42.0	22.4	11.7	3.4	14.1	2.9	7.8	3.4	4.9
	65歳以上	68	29.4	16.2	30.9	38.2	7.4	4.4	29.4	19.1	7.4	4.4	10.3	2.9	7.4	8.8	8.8
	全体	350	37.1	10.2	13.7	15.6	26.3	21.5	42.0	22.4	11.7	3.4	14.1	2.9	7.8	3.4	4.9
手帳なし	0～17歳	49	34.7	14.3	12.2	6.1	16.3	30.6	40.8	24.5	18.4	2.0	10.2	2.0	4.1	14.3	0.0
	18～39歳	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	28.6	42.9	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0
	全体	66	28.6	28.6	42.9	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0

問 26	仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような地域活動や行事に参加したいと思いますか。	3 つまで○
------	---	--------

地域（グループホームを含む自宅）で生活する上で参加したい地域活動や行事について、身体では「特にない」が最も多く 37.3%、知的では「趣味やサークル活動」が最も多く 33.7%、精神では「特にない」が最も多く 38.6%、手帳なしでは「盆踊り、夏祭り、地蔵まつりなどの地域のおまつり」が最も多く 33.3% となっています。

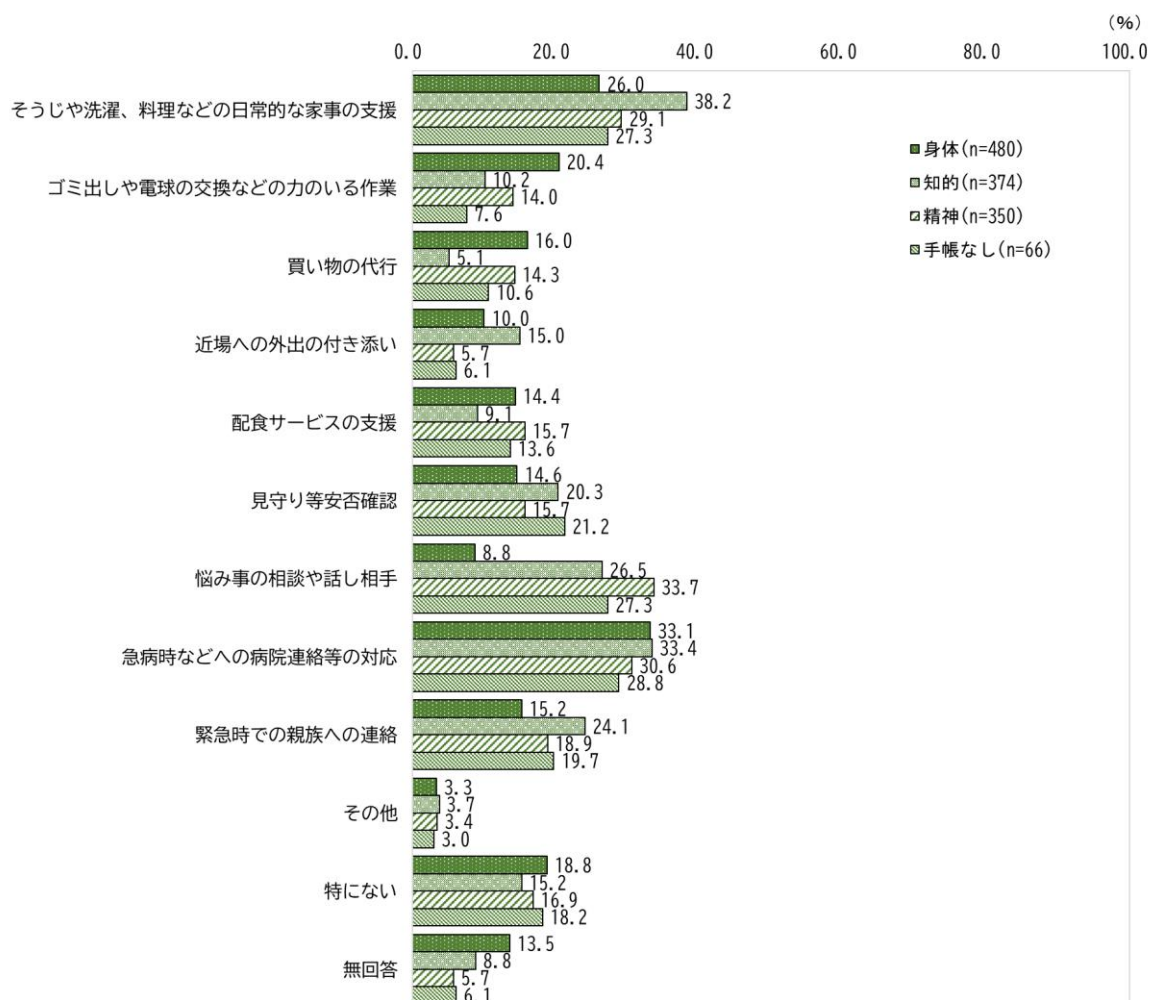


単位：%

		n	地域サロン	清掃や花壇づくりなどのまちの美化活動	公民館などの講座への参加	ボランティア活動	趣味やサークル活動	防災訓練	運動会	盆踊り、夏祭り、地蔵まつりなどの地域のおまつり	おしゃべり、井戸端会議	その他	特にない	無回答
	全体	1,284	14.6	8.0	7.8	8.3	32.4	4.7	3.1	19.0	13.1	2.2	35.7	10.3
身体	0～17歳	8	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5	0.0	37.5	12.5
	18～39歳	25	24.0	4.0	0.0	12.0	16.0	20.0	0.0	28.0	20.0	0.0	32.0	4.0
	40～64歳	87	9.2	10.3	13.8	11.5	32.2	2.3	0.0	12.6	8.0	3.4	35.6	16.1
	65歳以上	360	19.2	6.9	9.4	6.1	30.6	1.9	0.0	9.4	14.7	2.8	38.1	13.3
知的	0～17歳	152	11.2	8.6	2.6	5.9	44.1	4.6	11.2	38.2	7.2	2.6	23.7	7.2
	18～39歳	126	14.3	11.9	5.6	7.9	30.2	6.3	5.6	27.8	11.9	0.0	38.9	6.3
	40～64歳	85	12.9	9.4	1.2	8.2	22.4	9.4	3.5	20.0	10.6	1.2	40.0	18.8
	65歳以上	11	18.2	9.1	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	27.3	9.1	0.0	45.5	18.2
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	73	12.3	11.0	8.2	12.3	42.5	11.0	2.7	23.3	12.3	2.7	38.4	1.4
	40～64歳	205	13.7	7.8	13.2	11.7	34.6	4.9	1.0	13.2	13.2	2.9	40.0	7.8
	65歳以上	68	17.6	1.5	8.8	8.8	32.4	0.0	0.0	13.2	23.5	2.9	33.8	11.8
手帳なし	0～17歳	49	8.2	8.2	4.1	6.1	34.7	6.1	12.2	36.7	20.4	0.0	32.7	8.2
	18～39歳	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0

問 27	仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような支え合い活動があってほしいと思いますか。	3 つまで○
------	---	--------

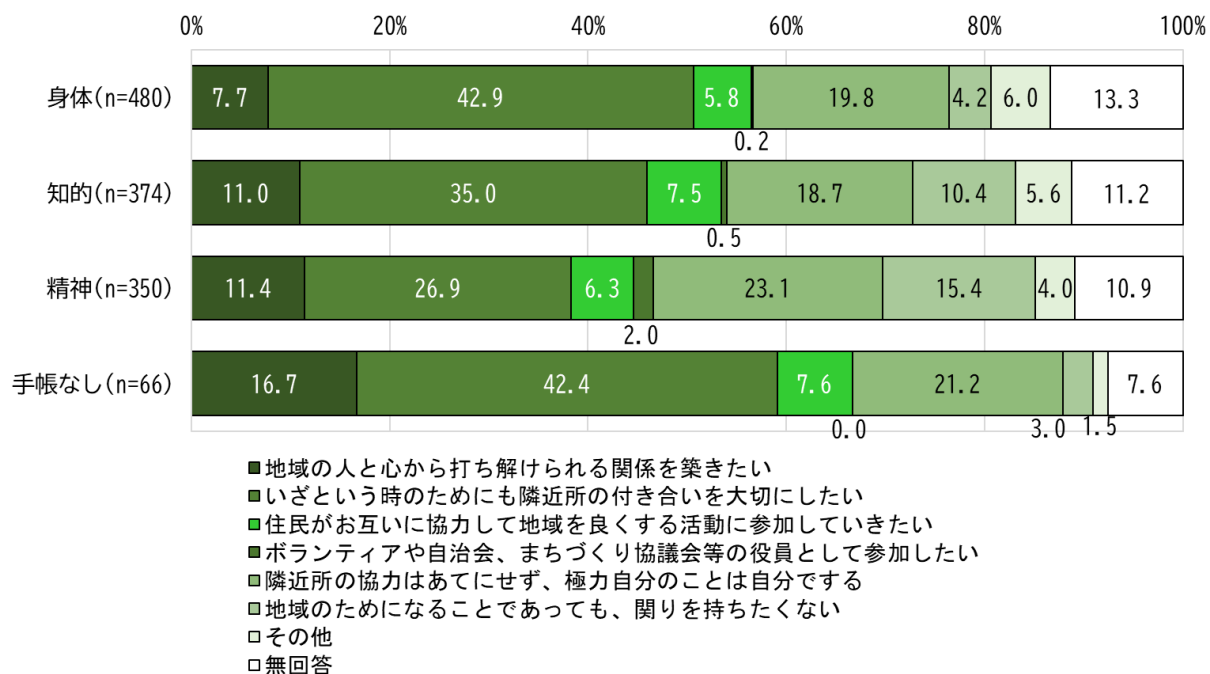
地域（グループホームを含む自宅）で生活していく上であってほしい支え合い活動について、身体では「急病時などへの病院連絡等の対応」が最も多く 33.1%、知的では「そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援」が最も多く 38.2%、精神では「悩み事の相談や話し相手」が最も多く 33.7%、手帳なしでは「急病時などへの病院連絡等の対応」が最も多く 28.8%となっています。



		n	そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援	ゴミ出しや電球の交換などの力のいる作業	買い物の代行	近場への外出の付き添い	配食サービスの支援	見守り等安否確認	悩み事の相談や話し相手	急病時などへの病院連絡等の対応	緊急時での親族への連絡	その他	特にない	無回答
全体		1,284	30.2	14.8	11.9	10.0	13.0	16.7	21.6	31.9	18.8	3.4	17.0	9.5
身体	0～17歳	8	37.5	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5	0.0	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5
	18～39歳	25	32.0	12.0	4.0	20.0	16.0	16.0	28.0	60.0	20.0	12.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	20.7	24.1	14.9	5.7	13.8	18.4	12.6	39.1	20.7	3.4	13.8	13.8
	65歳以上	360	26.7	20.3	17.2	10.0	14.4	13.1	6.7	29.7	13.6	2.5	21.1	14.2
知的	0～17歳	152	35.5	5.9	2.6	17.8	6.6	25.0	30.3	28.9	28.9	2.6	17.1	5.9
	18～39歳	126	40.5	14.3	5.6	11.1	11.1	16.7	28.6	34.1	23.0	4.8	13.5	7.1
	40～64歳	85	42.4	10.6	9.4	14.1	7.1	16.5	20.0	42.4	15.3	4.7	14.1	15.3
	65歳以上	11	18.2	18.2	0.0	27.3	36.4	27.3	0.0	18.2	36.4	0.0	18.2	18.2
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	18～39歳	73	23.3	11.0	11.0	1.4	11.0	9.6	45.2	28.8	23.3	5.5	20.5	1.4
	40～64歳	205	27.8	13.7	15.1	6.3	17.1	15.1	33.2	29.8	19.0	2.9	18.5	5.9
	65歳以上	68	41.2	19.1	14.7	8.8	17.6	23.5	23.5	33.8	14.7	2.9	7.4	10.3
手帳なし	0～17歳	49	24.5	6.1	10.2	4.1	14.3	28.6	32.7	32.7	24.5	4.1	14.3	4.1
	18～39歳	5	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0
	40～64歳	5	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	65歳以上	7	57.1	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0

問 28	あなたは、地域との関わりに対してどのようにお考えですか。	1 つに○
------	------------------------------	-------

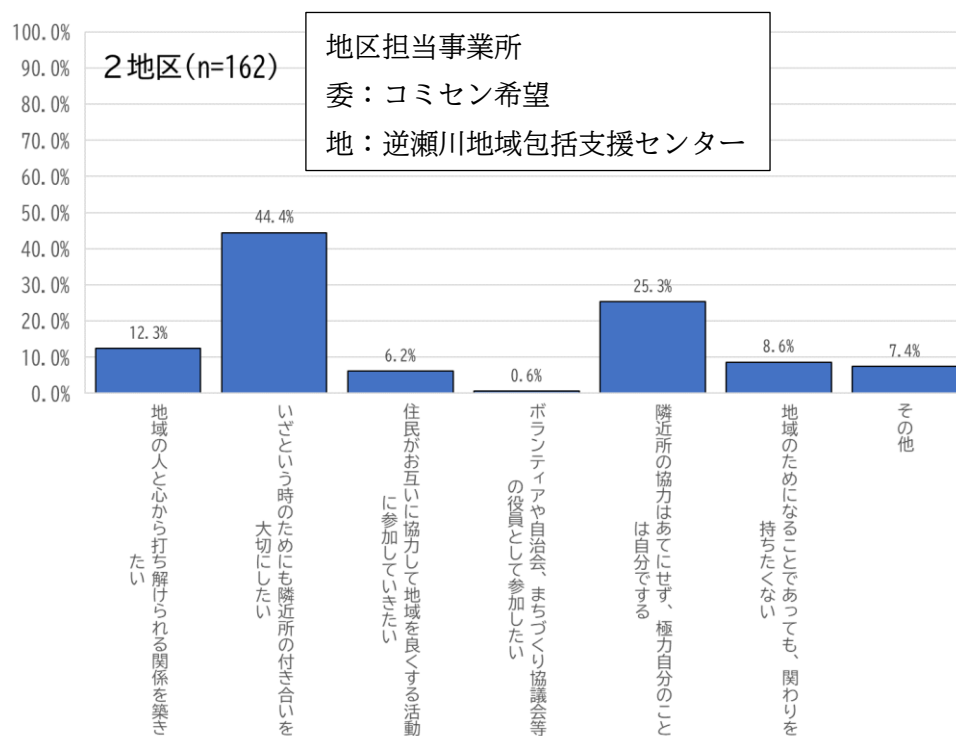
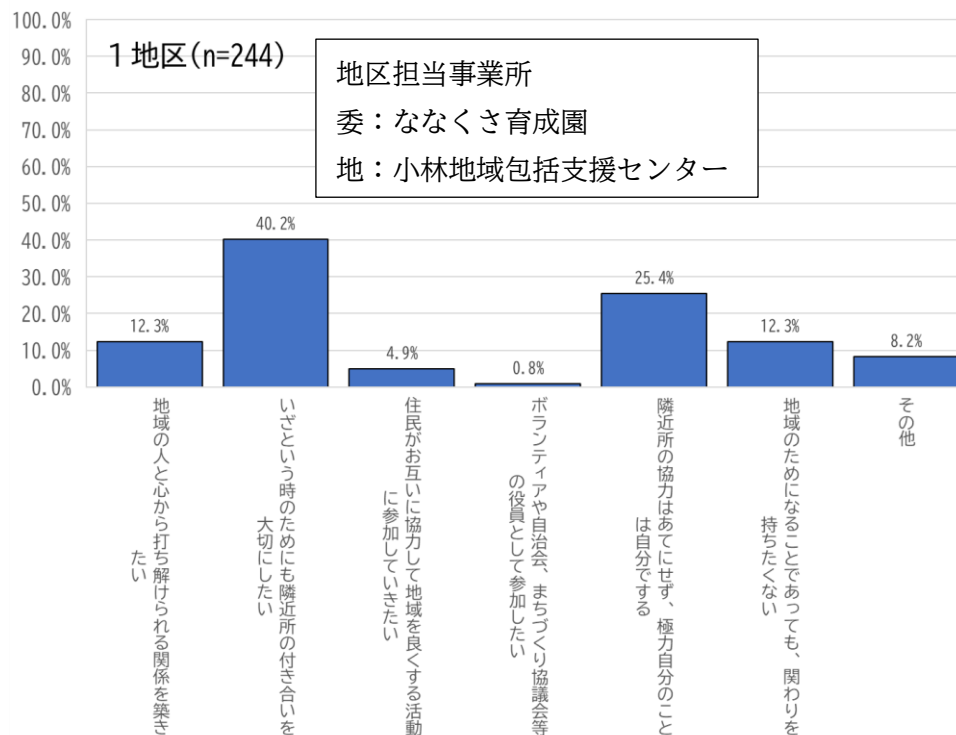
地域との関わりについて、すべてにおいて「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く、身体が42.9%、知的が35.0%、精神が26.9%、手帳なしが42.4%となっています。

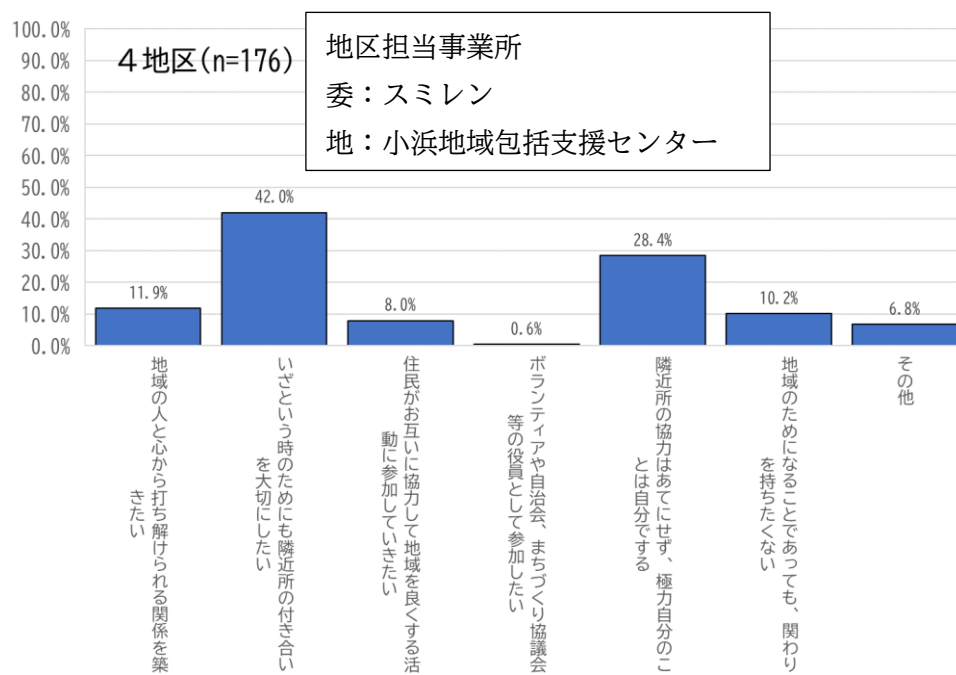
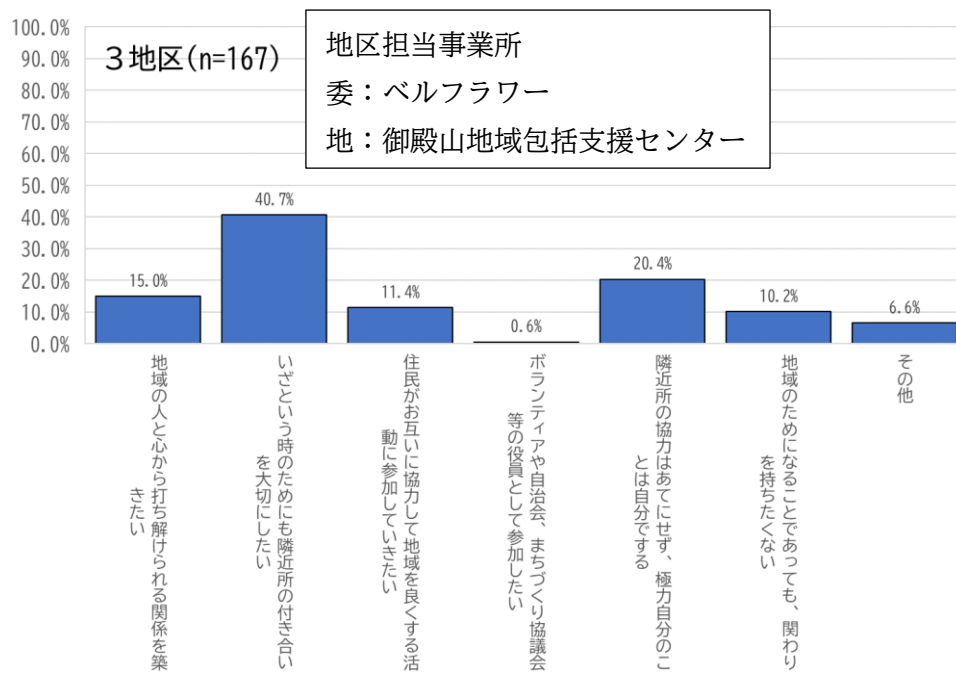


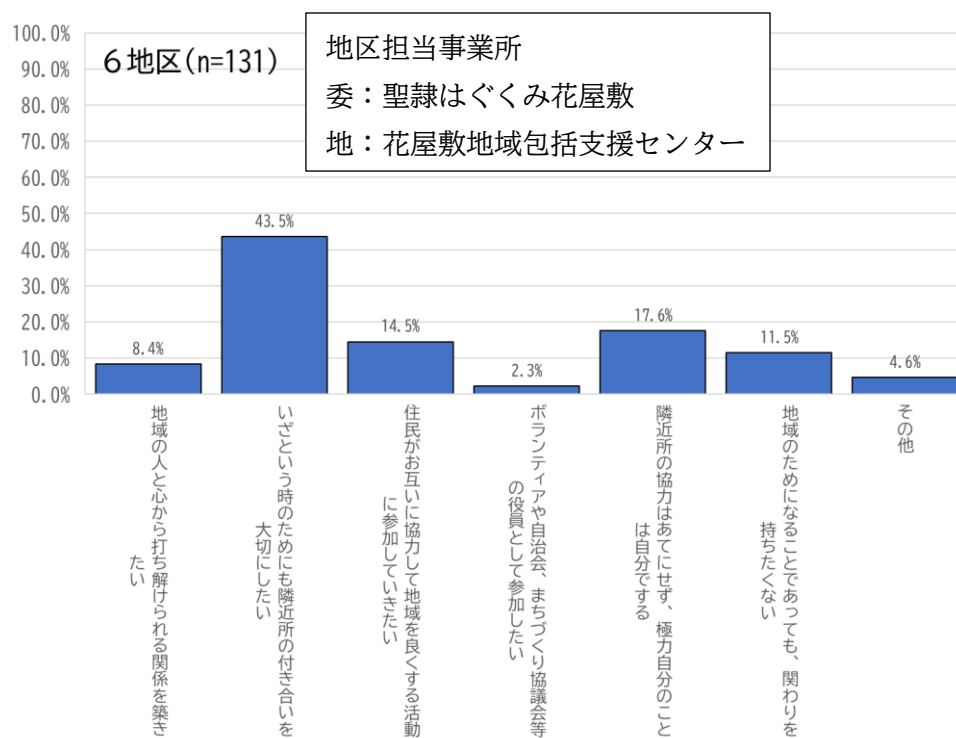
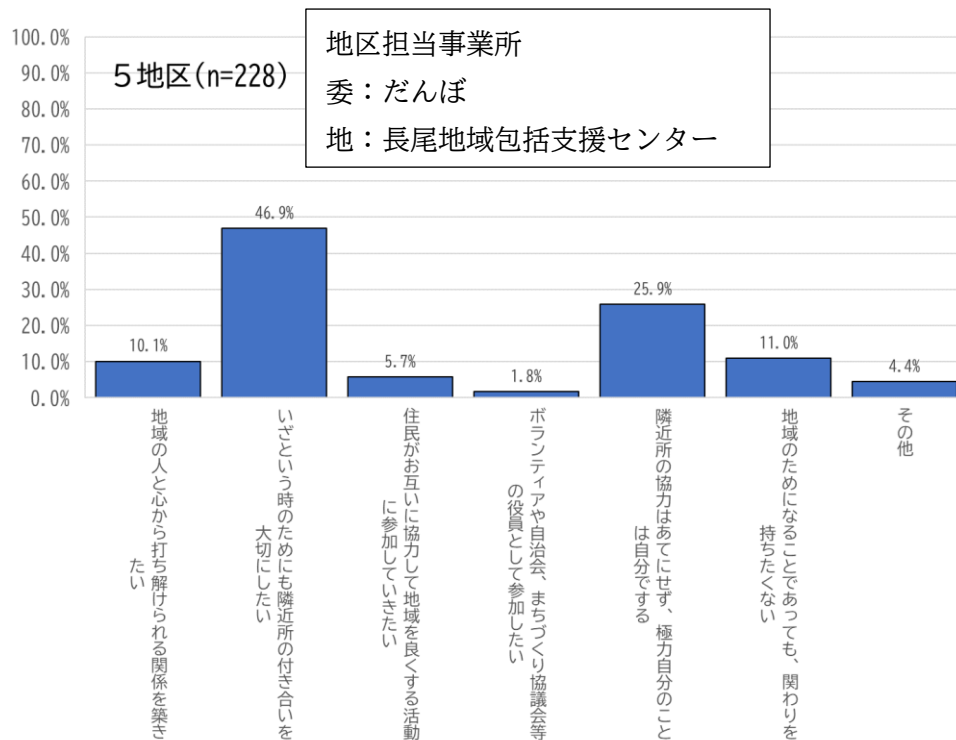
単位：％

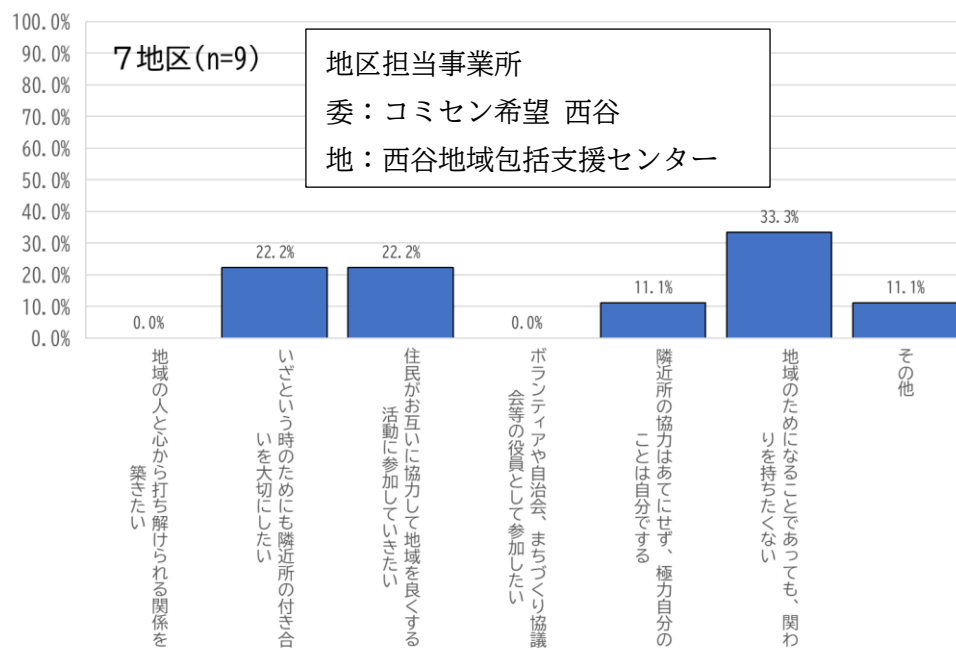
		n	地域の人と心から打ち解けられる関係を築きたい	いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい	住民がお互いに協力して地域を良くする活動に参加していきたい	ボランティアや自治会、まちづくり協議会等の役員として参加したい	隣近所の協力はあてにせず、極力自分のことは自分でする	地域のためになることであっても、関りを持ちたくない	その他	無回答
	全体	1,284	10.0	35.7	6.5	0.8	20.2	9.0	5.1	11.5
身体	0～17歳	8	12.5	37.5	0.0	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5
	18～39歳	25	8.0	56.0	8.0	0.0	12.0	8.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	10.3	39.1	5.7	0.0	23.0	6.9	2.3	12.6
	65歳以上	360	6.9	43.1	5.8	0.3	19.2	3.3	7.2	13.9
知的	0～17歳	152	8.6	40.1	9.2	0.7	20.4	6.6	4.6	9.9
	18～39歳	126	14.3	32.5	7.9	0.0	20.6	10.3	4.8	9.5
	40～64歳	85	9.4	31.8	4.7	1.2	14.1	17.6	5.9	15.3
	65歳以上	11	18.2	18.2	0.0	0.0	9.1	9.1	27.3	18.2
精神	0～17歳	4	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	4.1	28.8	9.6	2.7	23.3	21.9	1.4	8.2
	40～64歳	205	15.1	26.8	5.4	1.5	23.4	15.1	3.9	8.8
	65歳以上	68	8.8	25.0	4.4	2.9	22.1	8.8	7.4	20.6
手帳なし	0～17歳	49	18.4	49.0	8.2	0.0	16.3	2.0	2.0	4.1
	18～39歳	5	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0
	40～64歳	5	0.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0
	65歳以上	7	28.6	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	0.0	14.3

地域別に「特にない」及び「無回答」を除いた場合は、1地区、2地区、3地区、4地区、5地区、6地区では「いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい」が最も多く、それぞれ40.2%、44.4%、40.7%、42.0%、46.9%、43.5%、7地区では「地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない」が最も多く33.3%となっています。





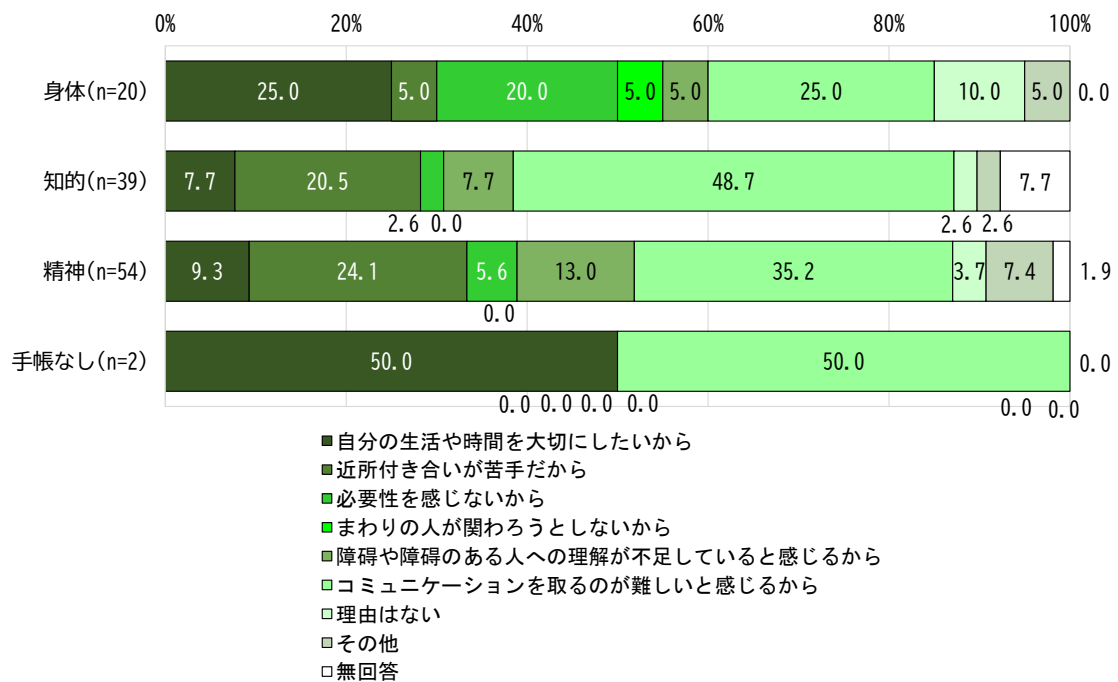




《問 28 で「地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない」と回答した方にお聞きします。》

問 29	地域との関わりを持ちたくないのはなぜですか。	1 つに○
------	------------------------	-------

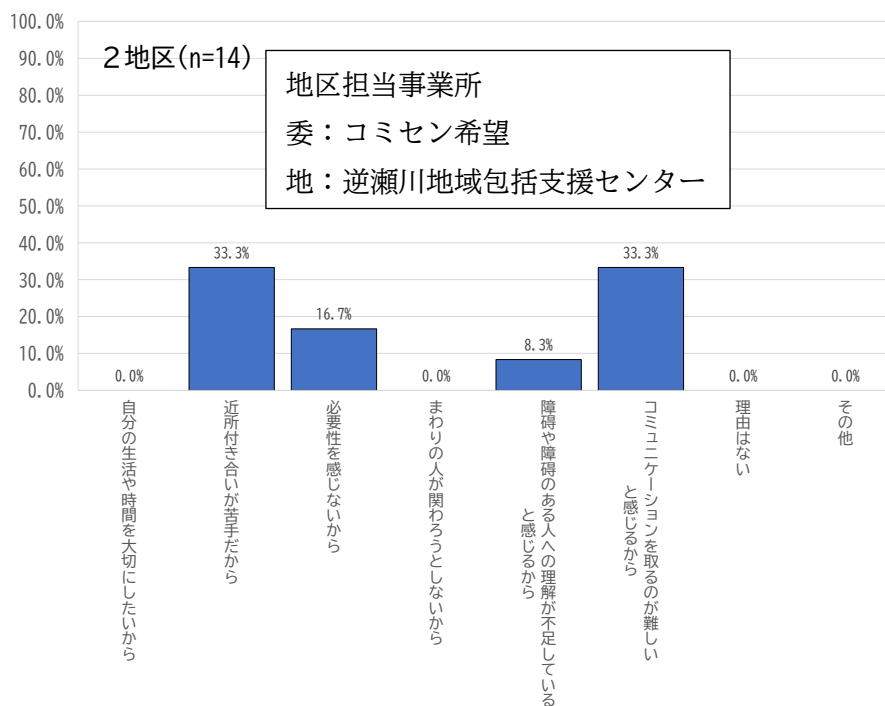
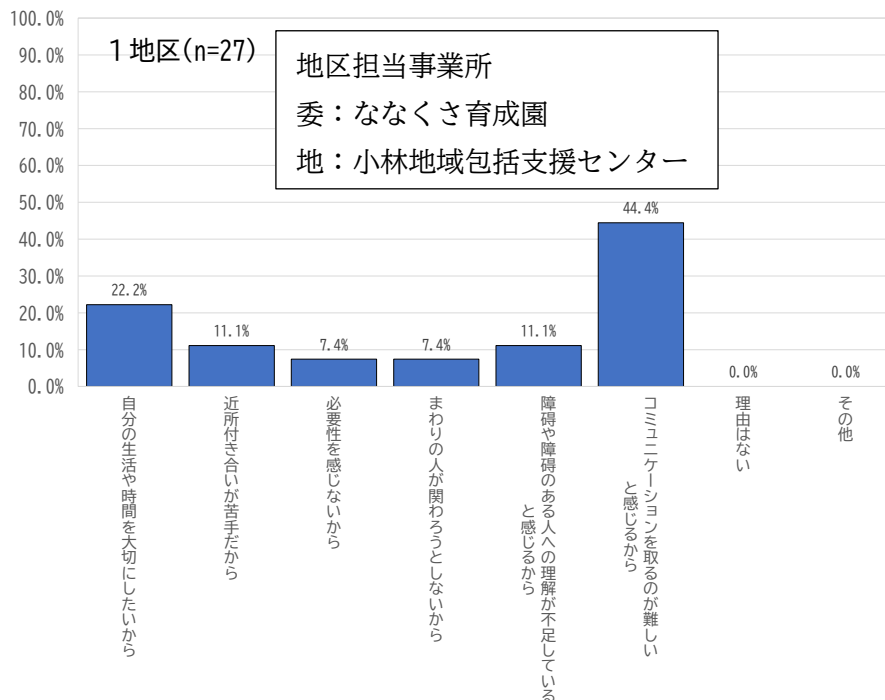
地域のためになることであっても、関わりを持ちたくないと考えている人に、その理由について聞いたところ、身体では「自分の生活や時間を大切にしたいから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多くそれぞれ 25.0%、知的では「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 48.7%、精神では「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く 35.2%、手帳なしでは「自分の生活や時間を大切にしたいから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多くそれぞれ 50.0%となっています。



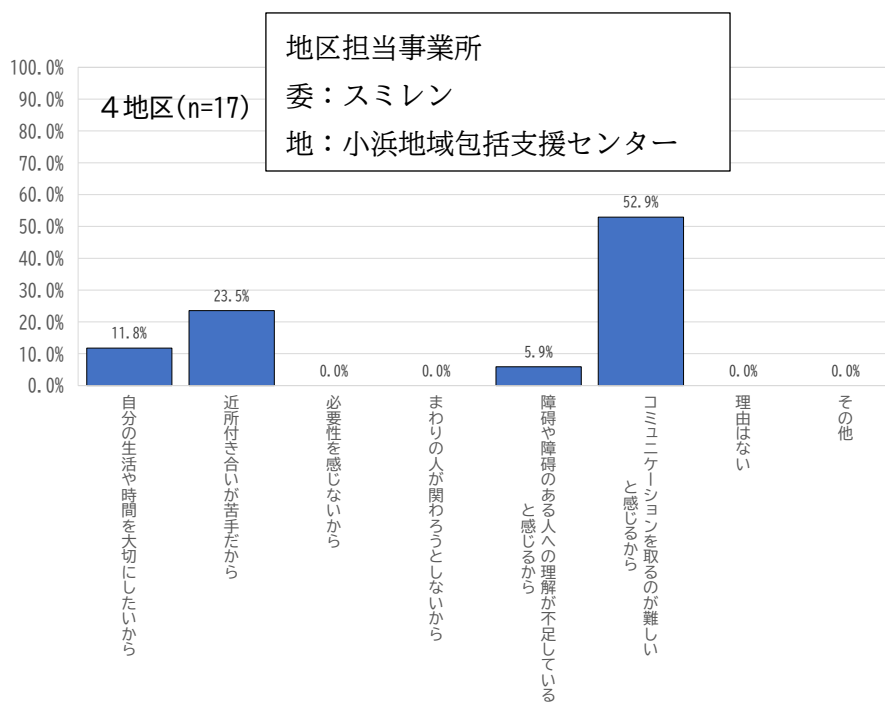
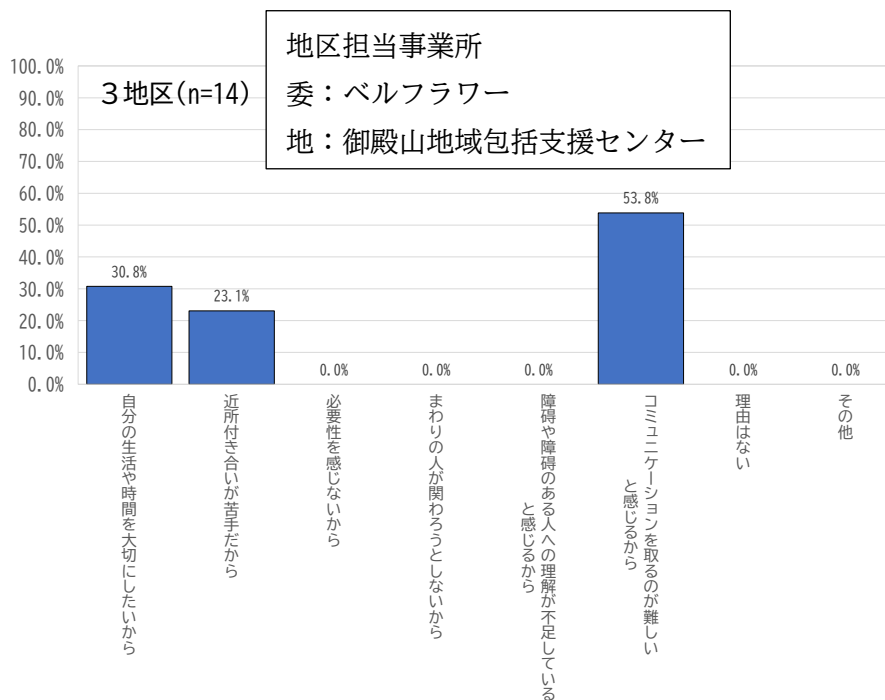
単位：%

		n	自分の生活や時間を大切にしたいから	近所付き合いが苦手だから	必要を感じないから	まわりの人が関わろうとしないから	障害や障碍のある人への理解が不足していると感じるから	コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから	理由はない	その他	無回答
	全体	123	11.4	17.9	6.5	0.8	8.9	35.8	4.1	4.9	3.3
身体	0～17歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	6	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0
	65歳以上	12	25.0	8.3	25.0	8.3	8.3	8.3	16.7	0.0	0.0
知的	0～17歳	10	10.0	30.0	0.0	0.0	10.0	30.0	0.0	0.0	20.0
	18～39歳	13	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7	61.5	7.7	0.0	0.0
	40～64歳	15	13.3	13.3	6.7	0.0	6.7	46.7	0.0	6.7	6.7
	65歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
精神	0～17歳	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	16	0.0	31.3	0.0	0.0	18.8	37.5	0.0	6.3	6.3
	40～64歳	31	12.9	22.6	6.5	0.0	12.9	38.7	3.2	3.2	0.0
	65歳以上	6	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0
手帳なし	0～17歳	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

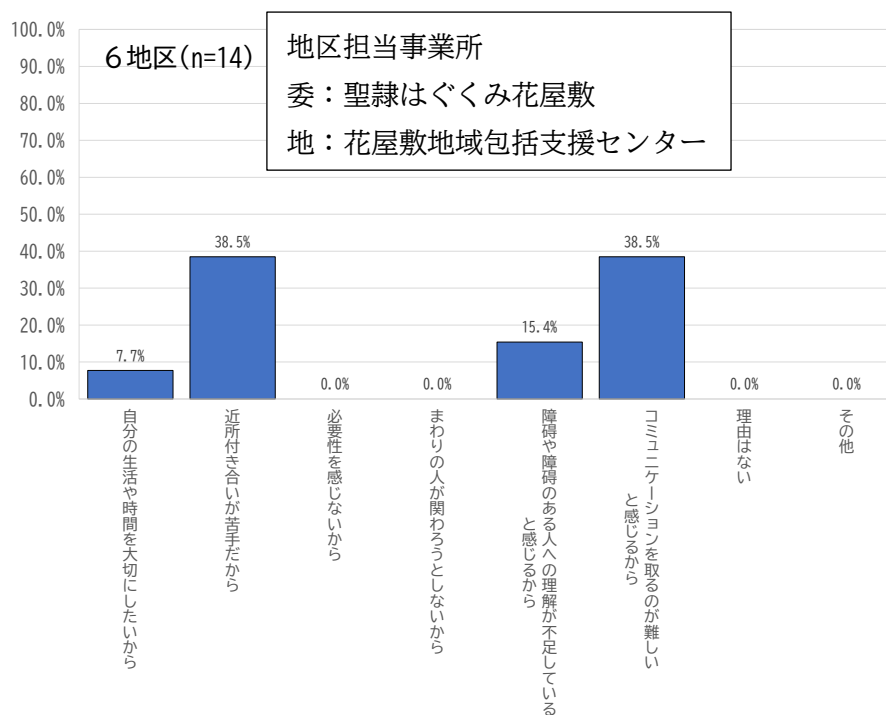
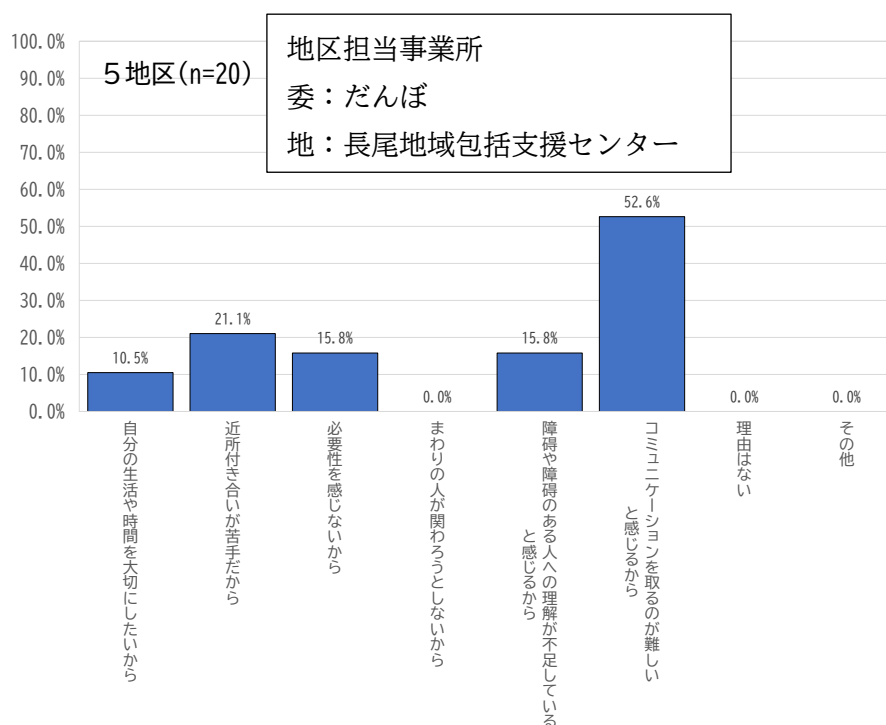
地域別に「理由はない」及び「無回答」を除いた場合は、1地区では「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く44.4%、2地区では「近所付き合いが苦手だから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多くそれぞれ33.3%となっています。

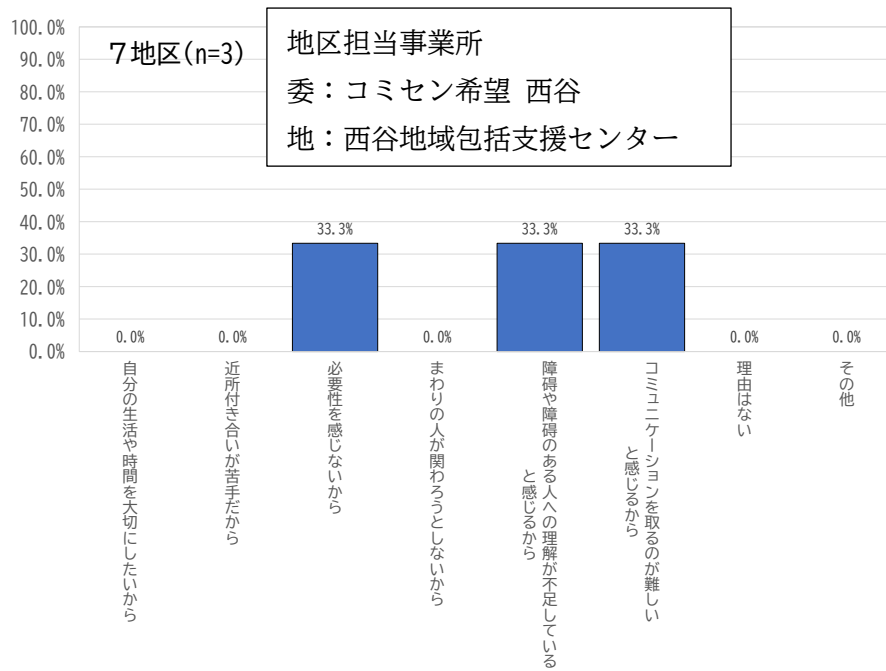


地域別に「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、3地区、4地区では「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多くそれぞれ53.8%、52.9%となっています。



地域別に「特になし」及び「無回答」を除いた場合は、5地区では「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多く52.6%、6地区では「近所付き合いが苦手だから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多くそれぞれ38.5%、7地区では「必要性を感じないから」「障^{がい}碍^{がい}や障^{がい}碍^{がい}のある人への理解が不足していると感じるから」「コミュニケーションを取るのが難しいと感じるから」が最も多くそれぞれ33.3%となっています。

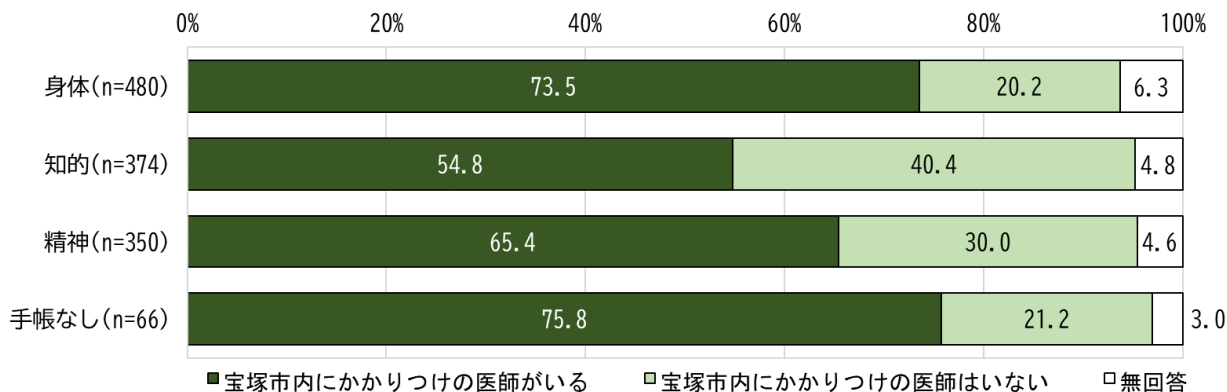




⑫保健・医療

問 30	あなたは、宝塚市内にかかりつけの医師はいますか。	1 つに○
------	--------------------------	-------

宝塚市内のかかりつけの医師の有無について、すべてにおいて「宝塚市内にかかりつけの医師がいる」の方が多く、身体が 73.5%、知的が 54.8%、精神が 65.4%、手帳なしが 75.8%となっています。



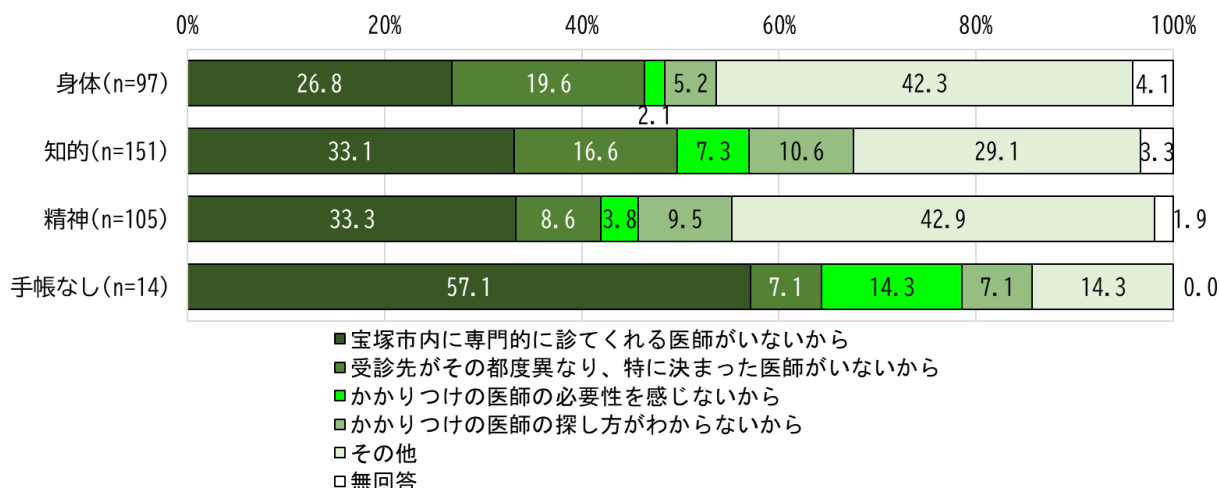
単位：％

		n	宝塚市内 にかかり つけの医 師がいる	宝塚市内 にかかり つけの医 師はいな い	無回答
	全体	1,284	65.2	28.6	5.1
身 体	0～17歳	8	50.0	50.0	0.0
	18～39歳	25	36.0	60.0	4.0
	40～64歳	87	63.2	29.9	6.9
	65歳以上	360	79.2	14.4	6.4
知 的	0～17歳	152	52.0	44.7	3.3
	18～39歳	126	46.8	48.4	4.8
	40～64歳	85	71.8	21.2	7.1
	65歳以上	11	54.5	36.4	9.1
精 神	0～17歳	4	75.0	25.0	0.0
	18～39歳	73	43.8	50.7	5.5
	40～64歳	205	68.8	27.3	3.9
	65歳以上	68	77.9	16.2	5.9
手 帳 な し	0～17歳	49	83.7	16.3	0.0
	18～39歳	5	40.0	60.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	71.4	14.3	14.3

《問 30 で「宝塚市内にかかりつけの医師はいない」と回答した方にお聞きします。》

問 31	宝塚市内にかかりつけの医師がいないのはなぜですか。	1 つに○
------	---------------------------	-------

宝塚市内にかかりつけの医師はいない人に、その理由について聞いたところ、身体では「その他」が最も多く 42.3%、知的では「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 33.1%、精神では「その他」が最も多く 42.9%、手帳なしでは「宝塚市内に専門に診てくれる医師がいないから」が最も多く 57.1%となっています。



単位：%

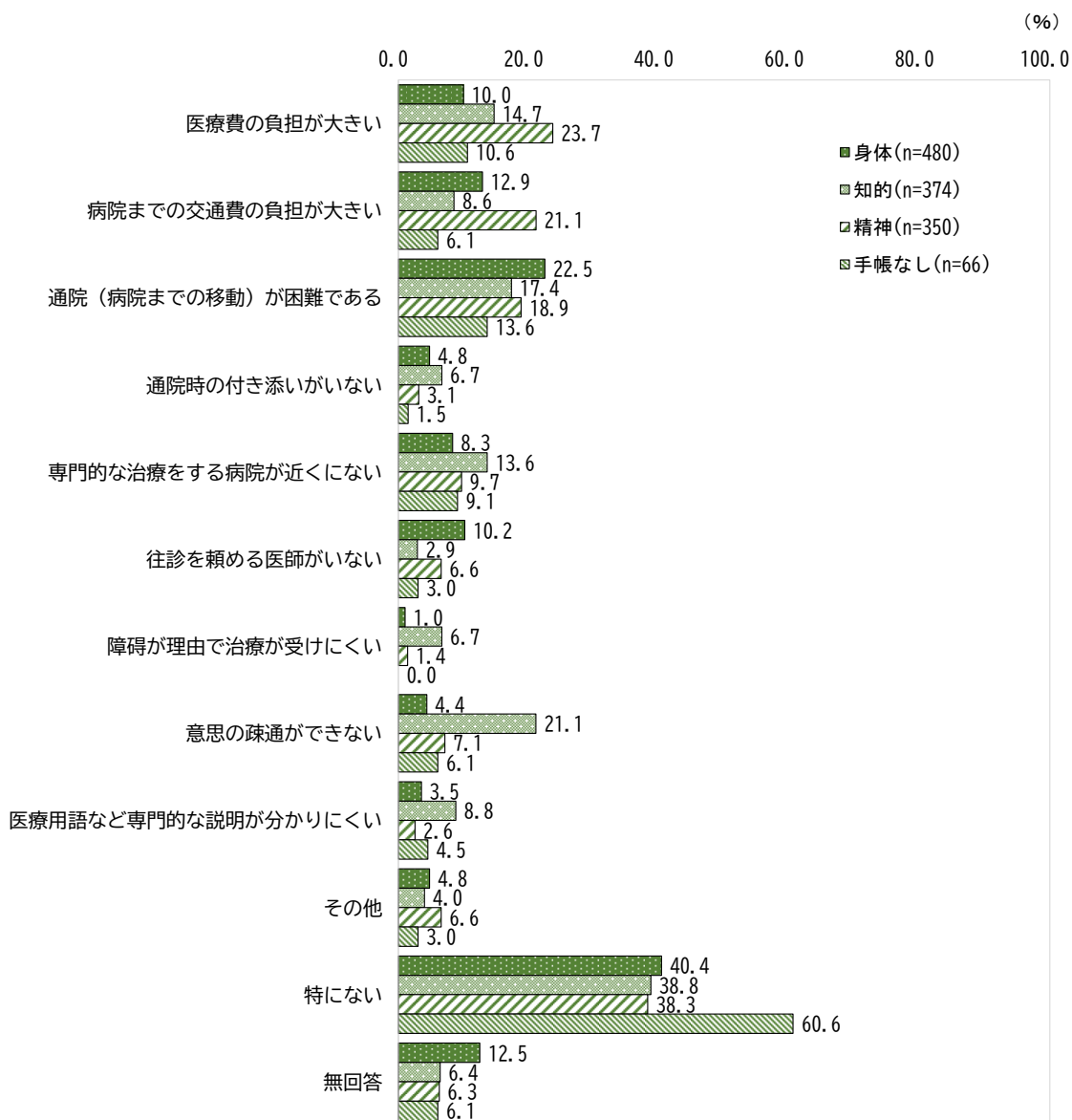
		n	宝塚市内に専門的に診てくれる医師がいないから	受診先がその都度異なり、特に決まった医師がいないから	かかりつけの医師の必要性を感じないから	かかりつけの医師の探し方がわからないから	その他	無回答
	全体	380	31.3	14.2	5.0	8.4	34.7	2.9
身体	0～17歳	8	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
	18～39歳	25	36.0	4.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	40～64歳	87	5.7	6.9	0.0	2.3	14.9	0.0
	65歳以上	360	2.5	3.3	0.6	0.6	6.4	1.1
知的	0～17歳	152	18.4	7.9	1.3	4.6	11.8	0.7
	18～39歳	126	14.3	7.1	7.1	6.3	11.9	1.6
	40～64歳	85	4.7	3.5	0.0	1.2	9.4	2.4
	65歳以上	11	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3	0.0
精神	0～17歳	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	19.2	0.0	2.7	8.2	19.2	1.4
	40～64歳	205	8.8	3.9	1.0	2.0	11.2	0.5
	65歳以上	68	4.4	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
手帳なし	0～17歳	49	14.3	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	18～39歳	5	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0
	65歳以上	7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 32

医療を受ける上で困っていることはありますか。

3 つまで○

医療を受ける上で困っていることについて、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 40.4%、知的が 38.8%、精神が 38.3%、手帳なしが 60.6%となっています。

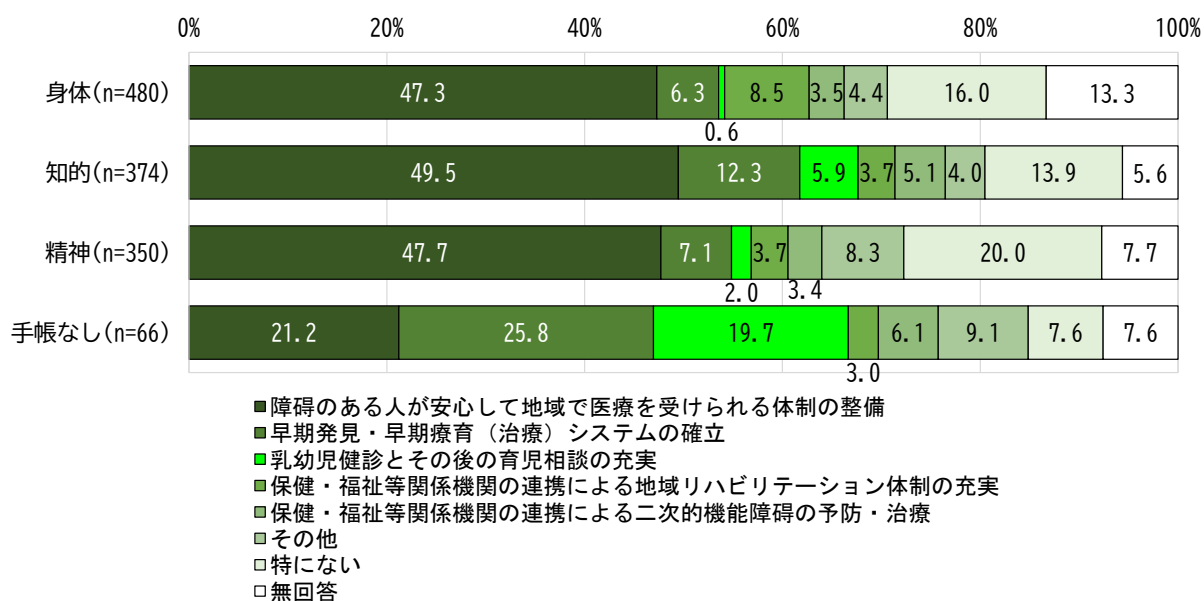


		n	医療費の負担が大きい	病院までの交通費の負担が大きい	通院（病院までの移動）が困難である	通院時の付き添いがいない	専門的な治療をする病院が近くにない	往診を頼める医師がいない	障碍が理由で治療が受けにくい	意思の疎通ができない	医療用語など専門的な説明が分かりにくい	その他	特にない	無回答
	全体	1,284	15.0	13.4	19.3	4.7	10.2	6.6	2.7	10.0	4.8	4.9	40.0	8.6
身体	0～17歳	8	37.5	12.5	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	18～39歳	25	4.0	12.0	40.0	20.0	12.0	12.0	4.0	24.0	0.0	4.0	28.0	8.0
	40～64歳	87	20.7	12.6	14.9	5.7	10.3	5.7	1.1	6.9	6.9	5.7	34.5	9.2
	65歳以上	360	7.2	13.1	22.5	3.6	7.2	11.4	0.8	2.5	3.1	4.7	43.6	13.3
知的	0～17歳	152	16.4	7.9	13.2	2.0	19.7	2.0	9.9	18.4	4.6	6.6	40.8	3.3
	18～39歳	126	18.3	9.5	18.3	8.7	9.5	3.2	5.6	21.4	11.9	2.4	38.9	5.6
	40～64歳	85	7.1	8.2	23.5	12.9	10.6	4.7	3.5	27.1	11.8	2.4	34.1	10.6
	65歳以上	11	9.1	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	45.5	27.3
精神	0～17歳	4	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
	18～39歳	73	23.3	24.7	16.4	2.7	16.4	1.4	1.4	8.2	2.7	6.8	41.1	4.1
	40～64歳	205	24.4	22.9	18.5	3.4	9.3	7.3	1.0	5.9	1.5	8.3	38.0	5.9
	65歳以上	68	20.6	13.2	23.5	2.9	2.9	10.3	2.9	10.3	5.9	1.5	36.8	10.3
手帳なし	0～17歳	49	8.2	2.0	14.3	0.0	10.2	2.0	0.0	6.1	6.1	2.0	65.3	4.1
	18～39歳	5	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	14.3

単位：%

問 33	あなたは、 ^が い障害のある人の保健・医療に関し、どのようなことが必要だと思いますか。	1 つに○
------	--	-------

^がい障害のある人の保健・医療に必要なことについて、身体では「^がい障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 47.3%、知的では「^がい障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 49.5%、精神では「^がい障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備」が最も多く 47.7%、手帳なしでは「早期発見・早期療育（治療）システムの確立」が最も多く 25.8%となっています。

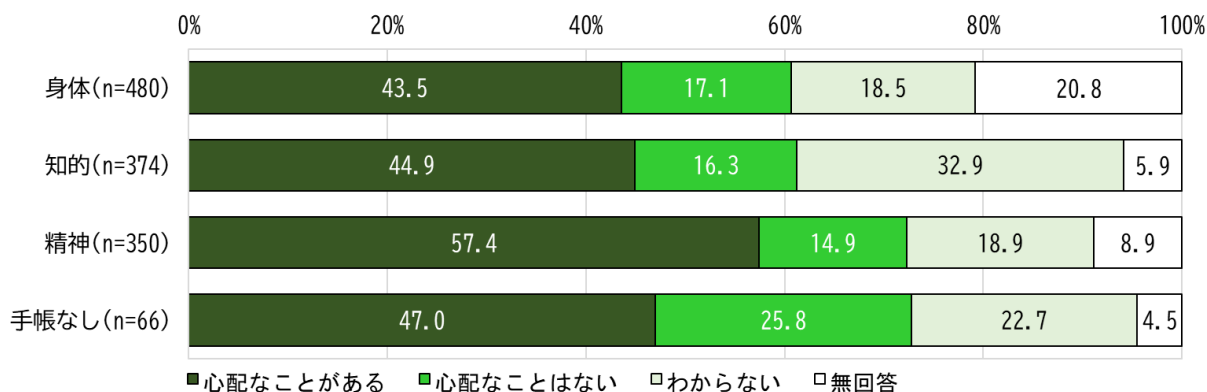


		n	障害のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備	早期発見・早期療育（治療）システムの確立	乳幼児健診とその後の育児相談の充実	保健・福祉等関係機関の連携による地域リハビリテーション体制の充実	保健・福祉等関係機関の連携による二次的機能障害の予防・治療	その他	特にない	無回答
全体		1,284	46.2	9.2	3.5	5.5	4.0	5.5	15.9	9.1
身体	0～17歳	8	25.0	0.0	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5
	18～39歳	25	60.0	4.0	8.0	12.0	4.0	0.0	12.0	0.0
	40～64歳	87	50.6	4.6	1.1	6.9	1.1	10.3	14.9	10.3
	65歳以上	360	46.1	6.9	0.0	8.3	3.9	3.1	16.7	15.0
知的	0～17歳	152	44.1	16.4	9.9	3.3	9.9	4.6	10.5	1.3
	18～39歳	126	56.3	11.9	2.4	4.0	1.6	4.0	13.5	6.3
	40～64歳	85	48.2	5.9	3.5	4.7	2.4	3.5	21.2	10.6
	65歳以上	11	54.5	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	18.2
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0
	18～39歳	73	39.7	11.0	4.1	5.5	5.5	11.0	20.5	2.7
	40～64歳	205	50.2	5.9	1.0	2.9	2.4	8.3	21.0	8.3
	65歳以上	68	51.5	7.4	1.5	4.4	2.9	4.4	16.2	11.8
手帳なし	0～17歳	49	14.3	30.6	26.5	2.0	6.1	8.2	4.1	8.2
	18～39歳	5	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0
	65歳以上	7	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

⑬災害対策

問 34	あなたは、災害が起こったときに心配なことはありますか。	1 つに○
------	-----------------------------	-------

災害が起こったときに心配なことがあるかについて、すべてにおいて「特にない」が最も多く、身体が 43.5%、知的が 44.9%、精神が 57.4%、手帳なしが 47.0%となっています。



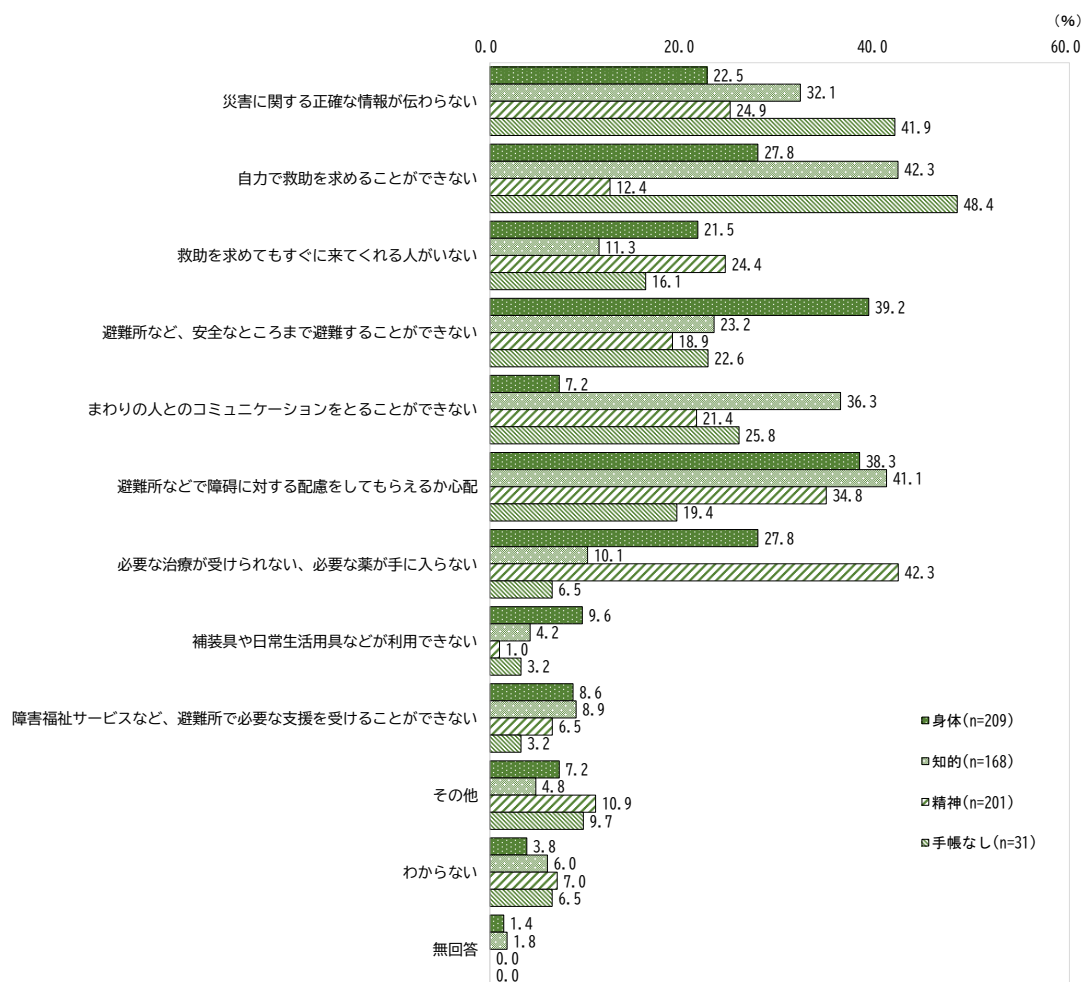
単位：％

		n	心配なことがある	心配なことはない	わからない	無回答
	全体	1,284	47.4	16.5	22.8	12.1
身体	0～17歳	8	62.5	12.5	0.0	25.0
	18～39歳	25	68.0	16.0	12.0	4.0
	40～64歳	87	48.3	14.9	20.7	16.1
	65歳以上	360	40.3	17.8	18.9	23.1
知的	0～17歳	152	43.4	17.8	35.5	3.3
	18～39歳	126	49.2	16.7	32.5	1.6
	40～64歳	85	40.0	15.3	28.2	16.5
	65歳以上	11	54.5	0.0	36.4	9.1
精神	0～17歳	4	50.0	25.0	0.0	25.0
	18～39歳	73	49.3	20.5	21.9	8.2
	40～64歳	205	61.5	14.1	18.0	6.3
	65歳以上	68	54.4	10.3	19.1	16.2
手帳なし	0～17歳	49	49.0	26.5	22.4	2.0
	18～39歳	5	20.0	60.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	20.0	20.0	40.0	20.0
	65歳以上	7	71.4	0.0	14.3	14.3

《問 34 で「心配なことがある」と回答した方にお聞きします。》

問 35	災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。	3 つまで○
------	--------------------------	--------

災害が起こったときに心配なことがある人に、心配なことについて聞いたところ、身体では「避難所など、安全なところまで避難することができない」が最も多く 39.2%、知的では「自力で救助を求めることができない」が最も多く 42.3%、精神では「必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない」が最も多く 42.3%、手帳なしでは「自力で救助を求めることができない」が最も多く 48.4%となっています。

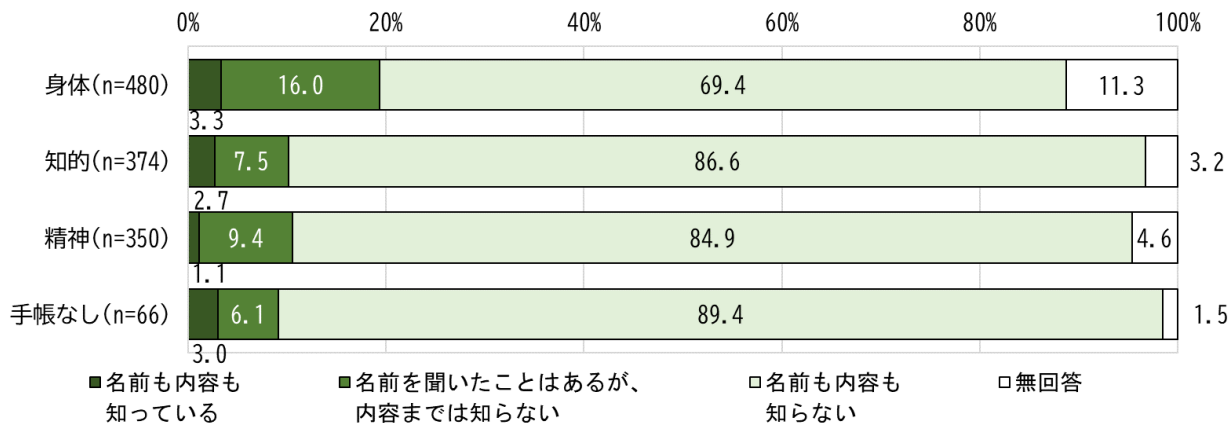


		n	災害に関する正確な情報が伝わらない	自力で救助を求めることができない	救助を求めてもすぐに来てくれる人がいない	避難所など、安全なところまで避難することができない	まわりの人とのコミュニケーションをとることができない	避難所などで障害に対する配慮をしてもらえるか心配	必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない	補装具や日常生活用具などが利用できない	障害福祉サービスなど、避難所で必要な支援を受けることができない	その他	わからない	無回答
	全体	643	25.5	26.3	18.4	25.8	19.8	35.0	25.2	4.7	7.3	7.5	5.3	0.9
身体	0～17歳	5	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0	60.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	17	0.0	47.1	17.6	47.1	23.5	41.2	5.9	23.5	11.8	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	42	14.3	23.8	16.7	21.4	9.5	28.6	38.1	0.0	7.1	9.5	4.8	0.0
	65歳以上	145	28.3	25.5	24.1	43.4	4.8	40.0	22.8	11.0	7.6	6.2	4.1	2.1
知的	0～17歳	66	27.3	39.4	6.1	27.3	30.3	47.0	3.0	6.1	7.6	7.6	9.1	3.0
	18～39歳	62	35.5	41.9	9.7	16.1	38.7	37.1	16.1	4.8	12.9	4.8	3.2	0.0
	40～64歳	34	29.4	50.0	20.6	23.5	50.0	41.2	14.7	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0
	65歳以上	6	66.7	33.3	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
精神	0～17歳	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	18～39歳	36	16.7	5.6	22.2	11.1	27.8	38.9	44.4	0.0	2.8	13.9	11.1	0.0
	40～64歳	126	25.4	11.9	21.4	16.7	22.2	35.7	46.8	0.8	9.5	11.9	6.3	0.0
	65歳以上	37	32.4	21.6	37.8	35.1	10.8	29.7	27.0	2.7	0.0	5.4	2.7	0.0
手帳なし	0～17歳	24	33.3	54.2	12.5	16.7	25.0	20.8	8.3	4.2	4.2	12.5	8.3	0.0
	18～39歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～64歳	1	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	5	60.0	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑭福祉全般

問 36	あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。	1 つに○
------	-----------------------------	-------

『宝塚市手話言語条例』の認知度について、すべてにおいて「名前も内容も知らない」が最も多く、身体が 69.4%、知的が 86.6%、精神が 84.9%、手帳なしが 89.4%となっています。



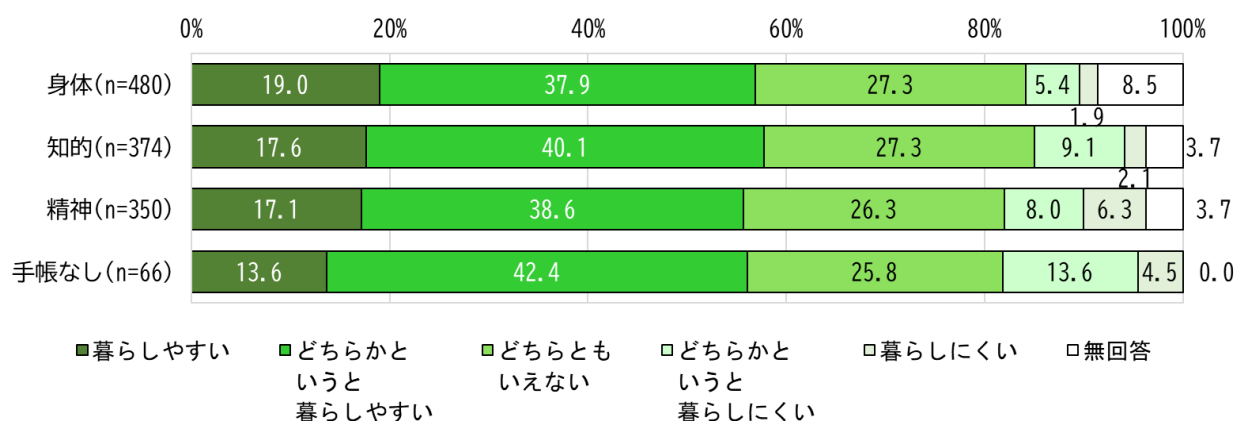
単位：％

		n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない	名前も内容も知らない	無回答
	全体	1,284	2.5	11.1	78.9	6.5
身体	0～17歳	8	0.0	12.5	75.0	12.5
	18～39歳	25	8.0	12.0	80.0	0.0
	40～64歳	87	1.1	16.1	78.2	4.6
	65歳以上	360	3.6	16.4	66.4	13.6
知的	0～17歳	152	1.3	5.9	92.8	0.0
	18～39歳	126	3.2	6.3	87.3	3.2
	40～64歳	85	4.7	11.8	75.3	8.2
	65歳以上	11	0.0	9.1	81.8	9.1
精神	0～17歳	4	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～39歳	73	0.0	9.6	90.4	0.0
	40～64歳	205	1.5	8.8	85.4	4.4
	65歳以上	68	1.5	11.8	76.5	10.3
手帳なし	0～17歳	49	4.1	4.1	91.8	0.0
	18～39歳	5	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	20.0	60.0	20.0
	65歳以上	7	0.0	14.3	85.7	0.0

問 37	総合的にみて、現在の宝塚市は、あなたにとって暮らしやすいまちですか。	1 つに○
------	------------------------------------	-------

宝塚市の暮らしやすさについて、すべてにおいて「どちらかという暮らしやすい」が最も多く、身体が 37.9%、知的が 40.1%、精神が 38.6%、手帳なしが 42.4%となっています。

また、「暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を『暮らしやすい』、「どちらかという暮らしにくい」と「暮らしにくい」を『暮らしにくい』とすると、身体では『暮らしやすい』が 56.9%、『暮らしにくい』が 7.3%で、『暮らしやすい』が 49.6 ポイント多く、知的では『暮らしやすい』が 57.8%、『暮らしにくい』が 11.2%で、『暮らしやすい』が 46.5 ポイント多く、精神では『暮らしやすい』が 55.7%、『暮らしにくい』が 14.3%で、『暮らしやすい』が 41.4 ポイント多く、手帳なしでは『暮らしやすい』が 56.1%、『暮らしにくい』が 18.2%で、『暮らしやすい』が 37.9 ポイント多くなっています。



単位：％

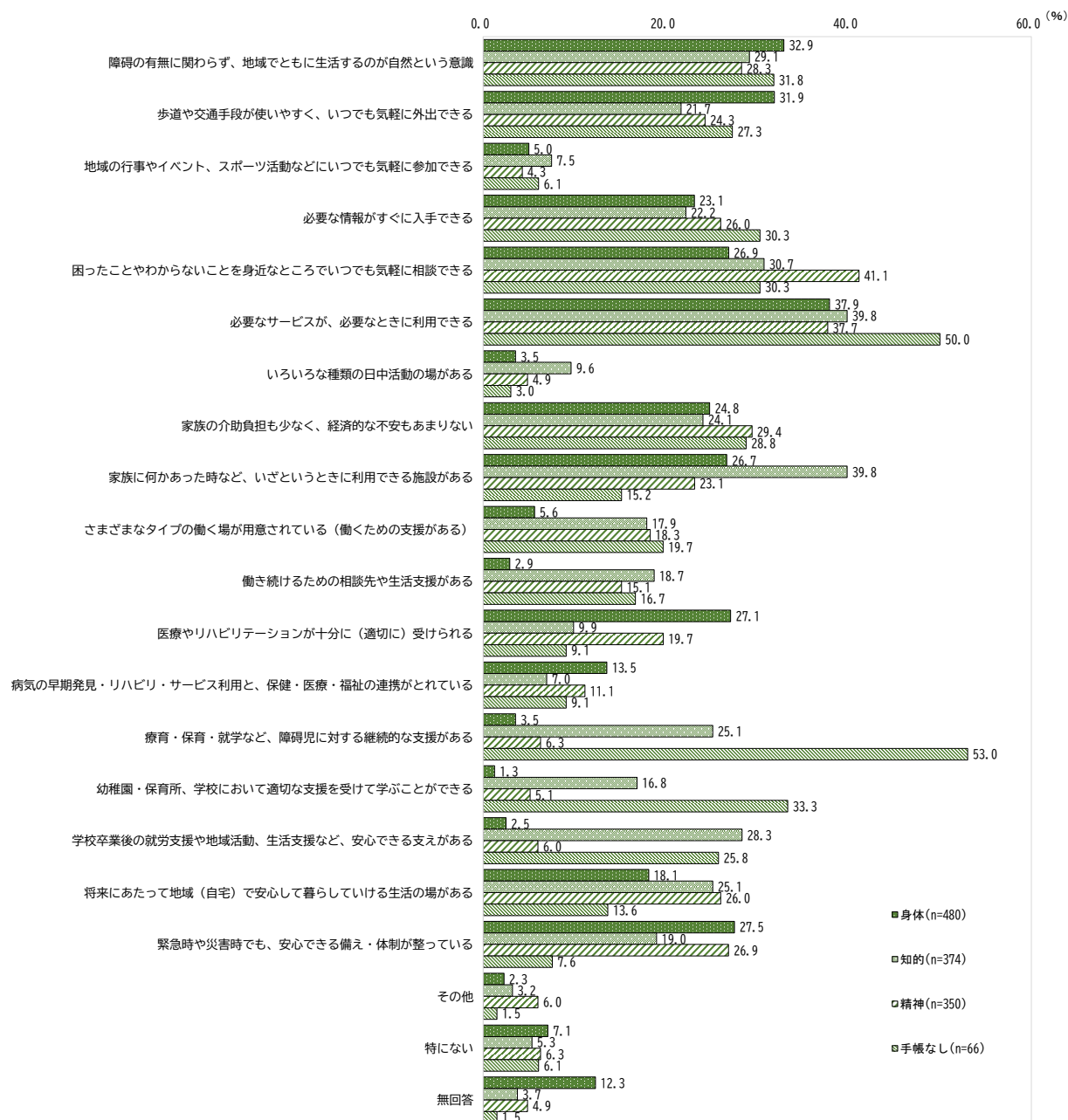
		n	暮らしやすい	どちらかという暮らしやすい	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくい	暮らしにくい	無回答
	全体	1,284	17.6	38.6	26.6	7.6	3.3	5.3
身体	0～17歳	8	0.0	25.0	37.5	12.5	0.0	25.0
	18～39歳	25	12.0	48.0	20.0	12.0	4.0	4.0
	40～64歳	87	14.9	35.6	29.9	8.0	5.7	5.7
	65歳以上	360	20.8	38.1	26.9	4.2	0.8	9.2
知的	0～17歳	152	15.8	34.9	28.3	15.1	3.9	2.0
	18～39歳	126	19.8	46.8	21.4	6.3	1.6	4.0
	40～64歳	85	17.6	38.8	34.1	3.5	0.0	5.9
	65歳以上	11	18.2	45.5	27.3	0.0	0.0	9.1
精神	0～17歳	4	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0
	18～39歳	73	16.4	41.1	27.4	6.8	8.2	0.0
	40～64歳	205	19.0	39.0	25.4	7.3	5.9	3.4
	65歳以上	68	13.2	35.3	27.9	10.3	4.4	8.8
手帳なし	0～17歳	49	10.2	42.9	24.5	18.4	4.1	0.0
	18～39歳	5	40.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0
	40～64歳	5	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0
	65歳以上	7	28.6	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0

問 38

障害のある人にとって暮らしやすいまちづくりのために、特に重要なことは何だと思いますか。

5つまで○

障害のある人にとって暮らしやすいまちづくりのため特に重要なことについて、身体では「必要なサービスが、必要なときに利用できる」が最も多く 37.9%、知的では「必要なサービスが、必要なときに利用できる」「家族に何かあった時など、いざというときに利用できる施設がある」が最も多くそれぞれ 39.8%、精神では「困ったことやわからないことを身近なところでいつでも気軽に相談できる」が最も多く 41.1%、手帳なしでは「療育・保育・就学など、障害児に対する継続的な支援がある」が最も多く 53.0%となっています。



単位：％

		n	障害の有無に関わらず、地域とともに生活するのが自然という意識	歩道や交通手段が使いやすい、いつでも気軽に外出できる	地域の行事やイベント、スポーツ活動など、いつでも気軽に参加できる	必要な情報がすぐに入手できる	困ったことやわからないことを身近なところでいつでも気軽に相談できる	必要なサービスが、必要ときに利用できる	いろいろな種類の日中活動の場がある	家族の介護負担も少なく、経済的な不安もあまりない	家族に何かあった時など、いざというときに利用できる施設がある	さまざまなタイプの働く場が用意されている（働くための支援がある）	働き続けるための相談先や生活支援がある
	全体	1,284	30.1	26.2	5.5	23.8	31.8	38.6	5.6	25.8	28.7	13.3	11.5
身体	0～17歳	8	25.0	50.0	0.0	12.5	25.0	37.5	0.0	37.5	37.5	12.5	0.0
	18～39歳	25	28.0	28.0	4.0	20.0	40.0	52.0	4.0	28.0	48.0	20.0	4.0
	40～64歳	87	33.3	34.5	3.4	33.3	26.4	40.2	5.7	26.4	26.4	18.4	5.7
	65歳以上	360	33.3	31.1	5.6	21.1	26.1	36.4	3.1	23.9	25.0	1.4	2.2
知的	0～17歳	152	21.7	19.1	7.2	28.3	27.0	40.8	7.9	26.3	33.6	26.3	15.1
	18～39歳	126	33.3	22.2	7.1	19.8	34.9	49.2	8.7	24.6	50.0	17.5	26.2
	40～64歳	85	36.5	25.9	8.2	15.3	34.1	25.9	14.1	20.0	35.3	5.9	11.8
	65歳以上	11	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	9.1	18.2	45.5	0.0	36.4
精神	0～17歳	4	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	18～39歳	73	19.2	17.8	5.5	21.9	35.6	34.2	5.5	35.6	20.5	28.8	20.5
	40～64歳	205	31.2	26.8	4.4	26.8	42.9	37.6	4.9	27.3	23.9	19.5	16.1
	65歳以上	68	30.9	23.5	2.9	29.4	44.1	44.1	4.4	27.9	25.0	4.4	7.4
手帳なし	0～17歳	49	26.5	26.5	6.1	32.7	34.7	53.1	4.1	28.6	12.2	22.4	18.4
	18～39歳	5	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0
	40～64歳	5	40.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	40.0	20.0	20.0
	65歳以上	7	57.1	42.9	0.0	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
		n	医療やリハビリテーションが十分に（適切に）受けられる	病気の早期発見・リハビリ・サービス利用と、保健・医療・福祉の連携がとれている	療育・保育・就学など、障害児に対する継続的な支援がある	幼稚園・保育所、学校において適切な支援を受けて学ぶことができる	学校卒業後の就労支援や地域活動、生活支援など、安心できる支えがある	将来にあたって地域（自宅）で安心して暮らしている生活の場がある	緊急時や災害時でも、安心できる備え・体制が整っている	その他	特にない	無回答	
	全体	1,284	18.8	10.6	13.1	8.5	12.1	21.9	23.5	3.5	6.2	7.1	
身体	0～17歳	8	25.0	12.5	37.5	0.0	25.0	37.5	12.5	0.0	0.0	12.5	
	18～39歳	25	36.0	16.0	16.0	8.0	16.0	16.0	44.0	4.0	4.0	0.0	
	40～64歳	87	24.1	8.0	3.4	0.0	1.1	24.1	32.2	3.4	9.2	4.6	
	65歳以上	360	27.2	14.7	1.9	1.1	1.4	16.4	25.6	1.9	6.9	15.0	
知的	0～17歳	152	7.9	1.3	45.4	37.5	48.0	23.7	10.5	4.6	0.7	2.0	
	18～39歳	126	11.1	10.3	15.9	4.8	20.6	33.3	20.6	1.6	5.6	1.6	
	40～64歳	85	12.9	11.8	5.9	0.0	7.1	17.6	29.4	3.5	11.8	9.4	
	65歳以上	11	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	36.4	0.0	18.2	9.1	
精神	0～17歳	4	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	
	18～39歳	73	15.1	11.0	15.1	12.3	15.1	26.0	16.4	8.2	8.2	0.0	
	40～64歳	205	18.0	11.7	4.4	2.4	3.4	29.8	32.2	5.9	4.4	4.9	
	65歳以上	68	29.4	10.3	1.5	4.4	2.9	14.7	22.1	2.9	8.8	10.3	
手帳なし	0～17歳	49	4.1	8.2	65.3	42.9	32.7	12.2	10.2	2.0	4.1	0.0	
	18～39歳	5	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	
	40～64歳	5	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
	65歳以上	7	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	

⑮自由意見

障害福祉サービスや行政の取り組みについて、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。	自由記述
---	------

①身体障害者手帳を持っている人

No	内容
1	本人は何一つ自分ではできず、家族に何かあれば全て介助をお願いしないといけないので、少しずつでも家族以外の人と接していきたいと思います。親が入院した時、安心して預けられるようになりたいです。※療育手帳も所持
2	休日の市立病院のバス停が遠くなるため、駐車場の坂が車イスや老人には負担が大きいです。バスの本数が少なく、早い時間に終了して困ります。※療育手帳も所持
3	精神障害者の作業所を増やして欲しいです。災害時の避難所数等を充実させて欲しいです。※精神障害者手帳も所持
4	障害者手帳があることを知らずにいる人がいます。私はたまたま 20 年位前に「手帳を取りなさい」と教えてくれた人がいました。
5	形のある施設等を作るのもいいですが、心のケアができる人達をもっと作るべきだと思います。
6	駐車場の身障者エリアに停めている健常者の車を厳しく取り締まってほしいです。
7	やっと歩いているのに、バスの本数が 2 時間に 1 本になり不便で、歩くにしても道路のデコボコが多すぎます。また、道幅の狭い所が多すぎます。
8	高齢障害者医療費助成制度は現行のまま継続して欲しいです。バスの便数が少なく、混雑時に着席できません。コミュニティバスの導入を検討願いたいです。
9	今は特にありません。
10	難しいですが、精神障害者をフォローする環境がもう少し広がると良いのではないかと思います。
11	通院時のタクシーの手配ができにくく、代金の負担が大きいです。歩けなくなり車いす生活なので、免除をもっとしてほしいです。
12	紙でないアンケートを希望します。
13	障害はありますが一般の方と同じように就労できています。昨今の物価上昇に対応するため、ここ 1 年ほど仕事上の努力と工夫を重ね、収入を増やすことができましたが、それにより市の医療費助成の所得要件に引っかかるようになりました。障害の原疾患の治療に高額な医療費がかかるため、私にとって死活問題です。

②療育手帳を持っている人

No	内容
1	利用できる日中一時支援の施設が少なく、使いたい日に使えないです。また、放課後等デイサービスも利用したい日に空きが無い、送迎の有無や範囲、利用可能時間等の問題から、伊丹市等に利用範囲を拡げています。
2	きょうだい児の行事の時に本人を一時保育に預けようとしても、枠が少ないのか断られることが多く、両親のどちらかが行事に参加できないことが多々あります。

No	内容
3	発達障害だと、就労しても一般雇用は精神的に厳しく、うつや適応障害等の二次障害になりやすいです。
4	妹や弟の通院時に留守番できないため本人も連れて行くが、病院でじっとしたり出来ないのも、そんな時にちょっと見ていてくれる場所があればと思います。急な大声や、座り込みも、嫌な顔や冷たい目をされない町になってほしいです。こういう事もすると理解して欲しいです。
5	健常者も障害者と一緒に学んでいける社会を望みますが、物理的に難しいことも多くあり、どうしても分けて教育をしないと、本人も苦しむ場合もあります。振り分けも必要だとは思いますが、インクルーシブ教育に私は大賛成です。
6	障害児向けのスポーツ教室が全然無く、健常児対象の場所に問い合わせ確認することは、中々気が重くできません。障害児教室があっても1つだけで、重度～軽度でレベルが違うのに、低いレベルのみのものだったりします。
7	家族としては、親亡き後にホーム入所を考えます。本人に聞いても「わからない」としか返答がなく、本人の考えはわかりません。
8	将来家族に何かあった時グループホームに入りたいが、障害が重たいことや病気もあり、看護師常駐のホーム等、入れる所が限られてしまいます。
9	現在、就労継続支援B型に通っていますが、一般就労への実現性はほぼありません。
10	特定の幼稚園や保育園だけでなく、どこでも医療的ケア児を受け入れる体制を整え、幼い頃から病気の子に対する理解と認識をさせていただきたいです。
11	放課後等デイサービスは市内の新規オープンが難しいと聞いていますが、重度向けの事業所は少ないです。より療育的・訓練的な事業所が市内にできたらと思います。
12	発達障害の子の親のサポートもしてほしいです。
13	発達外来やK式テストを受けられる医療機関が市内に一つしかなく、予約すら出来ないのに入学前にテスト結果を教育委員会に提出する必要があります。中学はインクルーシブを望んでも、人員不足だからと自己責任で通常級参加するしかない。サポートも人がよく変わり、支援のやりかわるため、生徒も混乱します。特別支援学校ではスクールバスがあるが、バス停が離れているので、結局バス停までの送迎が必要です。
14	市のホームページは分かりにくいです。情報を増やし、見やすくしてほしいです。
15	障害者(児)が安心して通える医療機関や支援学校の選択肢が少なく、増やしてほしいです。
16	親も本人もまずは自分達が出来ことは自分達で努力するのが基本姿勢だと思いますが、完全自立は難しく何らかのサポートを必要とする人達です。親亡き後、グループホーム等を差別なく障害者が利用できるようお願いします。
17	将来親が年老いた時に、子どもと一緒に生活できるホームが地域に欲しいです。
18	わが子はグループホームで生活していますが、親亡き後のことを考えると不安です。24時間365日支援があり、高齢化や病気になってもいつもの仲間と共に日々が送れば安心です。

No	内容
19	幼児の言語訓練を受けれる施設が少なく、放課後等デイサービスになるとほぼありません。所得制限を超えているため、医療費や療育費の負担も大きく十分なケアができてません。所得制限の撤廃を望みます。
20	療育手帳 B2 で、現在就活中です。比較的軽く見えにくい障害者に対する支援が、学校を卒業した後は薄いです。仕事も継続し生活していけるのか、不安です。
21	息子が家で大声を出すため困っていますが、私のストレスを聞いていただける所を知らず、どうしたらいいか分かりません。
22	どの事業所も数や人手が足りておらず、困った時や利用したい時に利用できないため、家族で何とかしようと我慢してしまう現状があります。日中一時支援やショートステイもいっぱい、利用を諦めました。
23	生活介護だけだと帰宅時間が早く、家族の誰かがいないといけなないので、自由に働いたり、用事を済ますことができません。
24	山手台地区に療育施設が無いいため、遠方に行かなくてはならず、時間や金銭の負担が大きいです。子どもにとっても、学校や家から遠く離れた所に行くので負担が大きいです。
25	重度知的障害者を受け入れる児童発達支援や放課後等デイサービスが少ないです。山本周辺にはよくあるが、宝塚駅や南口は少ないように思います。

③精神障害者保健福祉手帳を持っている人

No	内容
1	短時間・週数日で統合失調症の精神障害者の雇用してくれる所を増やしてほしいです。一人暮らしする際、住居の確保や情報提供をして欲しいです。
2	「てんかん」＝「すべて同じ」と理解されていると感じます。一人一人、原因や症状は違い、特に先天性と後天性では決定的に違います。
3	相談したくても、どこで適切なことを聞けるのかわかりません。具体的なことを教えていただける窓口があればと思います。
4	悩みを気軽に相談できる場等、介護者の心のケアにもっと取り組んでもらいたいです。
5	老老介護になった場合が心配です。
6	うつになった際、自分では調べられないため妻が全て調べてくれました。手帳や自立支援医療等、自分で調べないと知らないことだらけでした。自治体側からもっと発信があると、困った時に助かると思いました。
7	障害者雇用の促進が、まだまだ不十分だと思います。就労に時間がかかると生活に不安を覚えるので、分かりやすいパンフレットがあれば幸いです。
8	不登校児に対する支援やフリースクールの充実を望みます。
9	同じ障害を持つ方達と、交流や意見交換等をする場があればいいと思います。
10	会社勤めをしており、土・日曜日でも気軽に仕事の相談に乗ってもらえる相談機関が欲しいです。
11	障害者本人だけでなく、経済的支援や介助者の職場環境への配慮、子どもに対する育児フォロー等、家庭を対象としたフォローアップを拡充すべきだと思います。

No	内容
12	市役所の窓口に行かないと手続きできないことが多いため、インターネットサービスで手続きをできるようにして欲しい。
13	一時期ヘルプマークを利用していたが、利用対象範囲が広く、悪用事例がある等の理由で利用に抵抗があり、効果も感じませんでした。見た目に分かりづらく、変な目で見られる不安があり、肩身が狭く、傷つくことを言われ、理解されていないと孤立感や疎外感を感じる人が多いです。精神障害者は他者に攻撃する、犯罪者予備軍、何をするか分からず怖い、避けたいと思われることが多いようで、お互いのためにも気分障害に対する理解を持って欲しいです。
14	社会的な生きづらさや経済的な不安など、当事者になって初めて分かる様々な苦勞がありました。
15	病気についての知識を知れる場所や、同じ病気の人はどうやって病気に向き合いどうやって社会に復帰したのか等の体験談を聞ける機会があればいいと思います。
16	うつと ASD がありますが、ASD については成人後に知りました。「もっと早くに知っていれば」ということは非常に多いです。こういう障害もあることを周知すると、より早期に気づき、将来への対策を取りやすくなると考えます。

④障害者手帳を持っていないが、障害福祉サービス等受給者証を持っている人

No	内容
1	現在児童発達支援を利用していますが、必要と言われてから利用に至るまで約半年間がかかりました。全ての相談支援事業所に電話しましたが、支援計画作成を断られてしまいました。
2	日中一時より療育を増やしてほしいです。少しでも早期療育で力を伸ばしてできることを増やし、介護者の負担を減らしてほしいです。冠婚葬祭やきょうだい児のために、土日預けられる所が増えたらうれしいです。
3	子どもの発達障害を診てくれる医師が市内に不在なので、認定をスムーズに受けれるようにシステムを考慮してほしいです。療育施設の利用方法の知識が幼稚園や保育園から得られないので、流れだけでも周知されていればいいと思います。
4	児童発達支援事業所を見学している時に専門性に乏しいと思うこともあるので、底上げしてほしいと思います。
5	子どもの発達障害などを診察してくれる医療機関の充実や、ST 等の専門知識のある方に相談できる環境を増やしてほしいです。

⑤手帳の所持状況について未回答

No	内容
1	本人が小さい時に障害が分かり、相談先を探すにも苦勞し、未来の事を相談できる方がいなかった思い出があります。アンケートは本人に関する事ばかりでしたが、それを助けていた家族にも目を向けて欲しいです。
2	今はグループホームで生活していますが、病気や認知症になったら、ホームで生活出来なくなってしまう。終のホームがあったらよいのですが。

4. 資料編(調査票)

(1) 18歳以上の障害者手帳非所持者向け調査票

宝塚市福祉に関するアンケート調査 _____ 調査ご協力をお願い! _____ 日頃より宝塚市の福祉行政にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。 宝塚市では現在、令和6年度を初年度とする、第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の策定に向けた取り組みを進めています。そのため、市民の皆さまの障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるためのアンケート調査を実施することになりました。 この調査は、無記名で回答いただきますので、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。調査票は宝塚市個人情報保護条例にしたがい、適切な管理をいたします。 また、ご回答いただいた内容は、統計的な処理を行い、計画策定および施策推進のための基礎資料としてのみ使用し、その他の目的で使われることは一切ありません。調査の趣意をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。 令和6年8月 宝 塚 市 【 ご記入についてのお願い 】 ■ 宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合には、家族の方などが、ご本人の意向を尊重して記入してください。 ■ 回答は、あてはまる番号に“○”をつけてください(質問によっては、○の数が決まっている場合がありますのでご注意ください)。また、「その他」にあてはまる場合は、その内容を()内に具体的に記入してください。 ■ 回答したくない項目があれば、無理に回答いただくことなく構いません。 ■ 記入が終わりましたら、8月15日(火)までに 同封の返信用封筒に入れて、ご返送ください。(※切手はいりません) ＜アンケートについてのお問い合わせ先＞ 宝塚市健康福祉部 障害福祉課 電話：(0797) 77-2077 / FAX：(0797) 72-8086	◎「障」の表記について 平成31年(2019年)4月1日から、市で取り扱う公文書においては「障害」を「障^が」と表記することとしており、法令や制度、個別の名称などを除いては、「障^が」と表記しています。 「障^が」には「さまざまげ」や「バリア」の意味があり、このバリアは、個人の心身機能が原因で生じるものではなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な概念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。 本市は、この「障^が」の本来の意味について知識を普及させ、障^がの有無に関わらず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う「心のバリアフリー」を推進し、暮らしやすい社会の実現を図るため、「障^が」と表記します。
---	---

1 基礎的事項

問1 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください)

満 歳 (令和5年8月1日現在)

問2 あなたの家族・親族に、障害のある人がいますか。(1つに○)

*「家族・親族」とは、おおむね、父母・祖父母・子・孫・きょうだい・おじ・おば・いとことします。

1. 同居している家族・親族に障害のある人がいる (☐)
2. 家族・親族に障害のある人がいる (☐) が、同居はしていない (☐)
3. 家族・親族に障害のある人はいない (☐)

問3 あなたは、障害のある人の知り合いがいますか。(1つに○)

1. 自分が住んでいる地域にいる (☐)
2. いるが、自分の住んでいる地域にはいない (☐)
3. いない (☐)

問4 あなたは働いていますか。(1つに○)

1. 働いている (☐)
2. 働いていない (学生以外) (☐)
3. 学生 (☐)
4. その他 ()

2 障害者福祉への関心

問5 あなたは、障害のある人の福祉について関心をお持ちですか。(1つに○)

1. 非常に関心がある → 問6へ
2. ある程度関心がある → 問6へ
3. どちらともいえない → 問7へ
4. あまり関心がない → 問7へ
5. まったく関心がない → 問7へ

問6 問5で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします。どのような理由から、関心をお持ちですか。(該当するものすべてに○)

1. 自分が身体的・精神的に病弱であるから (☐)
2. 自分の身内や近所、知り合いに障害のある人がいる (☐) から
3. 福祉活動やボランティア活動をしている (☐) から
4. 保健・医療・福祉・教育に関係する職業についている (☐) から
5. まちなかやテレビなどで障害のある人のことをよく目にするから (☐)
6. 福祉に関する本などを読んで、関心を持ったから (☐)
7. その他 ()

3 障害のある人に対する理解

問7 あなたは、あなたが住む地域社会には障害のある人に対し、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。(1つに○)

1. あると思う → 問8へ
2. 少しはあると思う → 問8へ
3. ほとんどないと思う → 問9へ
4. わからない → 問9へ

問8 問7で「1. あると思う」「2. 少しはあると思う」と回答した方にお聞きします。以前と比べて、障害のある人に対する差別や偏見は、改善されていると思いますか。(1つに○)

1. かなり改善されている (☐)
2. 少しずつ改善されている (☐)
3. どちらともいえない (☐)
4. あまり改善されていない (☐)
5. 改善されていない (☐)
6. わからない (☐)

問9 あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域社会には障害のある人への対応や理解が足りないと思いますか。(1つに○)

1. 全然足りないと思う → 問10へ
2. 少し足りないと思う → 問10へ
3. 足りていると思う → 問11へ
4. わからない → 問11へ

問10 問9で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と回答した方にお聞きします。それはどんな場合ですか。(該当するものすべてに○)

1. 教育の機会 (☐)
2. 仕事や収入 (☐)
3. 近所づきあい (☐)
4. まちなかでの人の視線 (☐)
5. 地域の行事や集まり (☐)
6. 店員の対応や態度 (☐)
7. 行政職員などの対応や態度 (☐)
8. 病院での診察 (☐)
9. 交通機関や建築物の構造 (☐)
10. その他 ()

問 1 1 あなたは、障害のある人への市民の理解を深めるためには、何か必要であると思いますか。(3つまで○)

1. 障害や障害者問題に関する啓発の実
2. 障害への理解を目的とする市民団体への支援
3. 障害のある人へのボランティア活動の推進
4. 市民交流を通じての理解と参加の促進
5. 学校における福祉教育の実
6. 障害に関する講演会や学習会の開催
7. 障害のある人の積極的な社会への進出
8. 福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流
9. 障害のある人の地域のまちづくりへの参加
10. その他 ()
11. わからない
12. 理解を深める必要はない

4 障害のある人への支援・ボランティアなど

問 1 2 あなたは、今まで障害のある人へ、どのような支援を行ったことがありますか。(該当するものすべてに○)

1. 寄付や義金をした	5. 行事への参加の機会を設けた
2. 車いすを押すなど、移動を手伝った	6. 意思疎通支援(手話通訳など)を行った
3. 相談相手、話し相手になった	7. 支援をしたことがない
4. 入浴や買い物などを手伝った	8. その他 ()

問 1 3 あなたは、障害のある人の支援に関してどのような考えですか。
(1)～(3)のそれぞれについてお答えください。(それぞれ1つに○)

障害区分	(それぞれ1つに○)		
	1 困っているかどうかに関係なく、声かけなど積極的に支援したいと思う	2 困っていたり、支援を求められたら支援したいと思う	3 その他(支援方法がわからないなど)
(1) 身体障害のある人	1	2	3
(2) 知的障害のある人	1	2	3
(3) 精神障害のある人	1	2	3

問 1 4 あなたは、障害のある人を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。(1つに○)

1. ある	2. ないが関心はある	3. ない
問 1 6へ	問 1 5へ	問 1 5へ

問15 問14で「2. ないが関心はある」または「3. ない」と回答した方にお聞きします。活動に参加するためには何か必要ですか。(2つまで○)

1. ボランティア活動の情報	
2. 活動内容の分かりやすい説明	
3. 参加方法の分かりやすい説明	
4. 関心を引く活動内容	
5. 時間の余裕	
6. 交通費等、金銭的負担の軽減	
7. 一緒に活動する仲間	
8. 気軽に参加できる雰囲気	
9. 障害に対する知識や経験	
10. その他 ()	
11. ボランティア活動には関心がない	

問16 あなたは、障害のある人に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。(3つまで○)

1. コミュニケーション・情報支援 (手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等)	
2. 外出支援 (まちを案内したりする外出サポート)	
3. 移送サービス (車いすでも乗れる車の手配、運転、乗りの介助など)	
4. 配食サービス (食事作りや配達、またその際の声かけなど)	
5. 施設でのボランティア (話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等)	
6. 福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い	
7. 施設訪問等による交流事業	
8. スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動	
9. 専門的技能を生かした教育・学習・指導活動	
10. 悩み事の相談や話し相手	
11. その他 ()	
12. 特になし	

5 障害のある人の就労・教育

問17 あなたは、障害のある人が職場の同僚としてもっと雇用されるべきだと思いますか。(1つに○)

1. そう思う	4. あまり思わない
2. ある程度そう思う	5. まったく思わない
3. どちらともいえない	6. わからない

問18 現在、障害のある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、障害のある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。(3つまで○)

1. 障害に合った仕事であること	
2. 障害に合った勤務条件であること	
3. 賃金が妥当であること	
4. 障害のある人に配慮した設備が整っていること	
5. 職場で、障害のある人に対する支援があること	
6. 通勤手段があること	
7. 自宅で仕事ができること	
8. 障害に対する周囲の理解があること	
9. 通院などの保障があること	
10. 就労のための職業訓練が充実すること	
11. わからない	
12. その他 ()	

問19 障害のある子どもたちの就学環境は、次のどれが望ましいと思いますか。(1つに○)

1. 障害の有無にかかわらず共に学べる環境	
2. 障害の有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障害に応じた個々の教育的ニーズに適したサポート	
3. 普通学校の特別支援学級などでの、障害に応じたサポート	
4. 障害に応じた特別支援学校での専門的な教育	
5. 障害の有無に関わらず共に学び合える場 (インクルーシブ教育)	
6. 進路 (就労・進学) のサポート	
7. わからない	
8. その他 ()	

6 福祉のまちづくり

問20 以前と比較して、まちの環境は、障^障碍のある人が外出しやすく改善されていると思いますか。(1つに○)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. かなり改善されている | 4. あまり改善されていない |
| 2. 少しずつ改善されている | 5. 改善されていない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問21 まちで見かける人の行動で、特に問題があると思うことは何ですか。
(2つまで○)

- | |
|---|
| 1. 誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている
2. 歩道を道幅いっぱいには広がって歩く
3. ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している
4. 電車やバスで、障 ^障 碍のある人や、高齢者などに席を譲らない
5. 困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている
6. 障 ^障 碍のある方に対して、嫌な顔をしたり、迷惑そうにしたりする
7. 障 ^障 碍のある方に対して、シロシロ見る
8. 補助犬の同伴利用を拒否する(レストランなど)
9. 障 ^障 碍のある方の利用を拒否する(タクシーなど)
10. 障 ^障 碍のある方を「～である」と決めつける
11. 障 ^障 碍のある方を、蔑視する
12. わからない
13. その他()
14. 特にない |
|---|

7 宝塚市の障^障碍者施策

問22 あなたは、『宝塚市障^障碍者差別解消に関する条例』についてご存じですか。
(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 名前も内容も知らない |
|--|

問23 あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 名前も内容も知らない |
|--|

問24 あなたは、成年後見制度についてご存じですか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 名前も内容も知らない |
|--|

問25 あなたは、宝塚市は障^障碍のある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. とても暮らしやすい
2. どちらかというと暮らしやすい
3. どちらともいえない
4. どちらかというと暮らしにくい
5. 暮らしにくい
6. わからない |
|---|

問26 今後の宝塚市の障^障碍者施策において、障^障碍のある人をサポートする支援者は、行政以外では、次のうちどれが望ましいと思いますか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 家族や親類等
2. ご近所や地域組織等
3. NPOやボランティア等
4. 専門機関や事業者等
5. その他() |
|--|

問 27 今後の宝塚市の障^た碍者施策において、強化することが望ましい分野は、次のうちどれだと思いますか。(3つまで)

1. 労働・雇用
2. 教育・学習
3. 所得保障
4. 保健・医療
5. 総合的な相談体制
6. 権利擁護・虐待防止・差別解消
7. 道路や建築物等のバリアフリー
8. 情報バリアフリー
9. 社会参加
10. 政治参加
11. その他（

8 自由意見

問 28 障^{がい}碍者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

[illegible]

……ご協力ありがとうございました。

(2) 障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等受給者証所持者向け調査票

主なサービスの内容 (※回答の参考にしてください)

居宅介護	居宅において、入浴、排泄、食事の介護、移動、洗濯、掃除などを行います。
重度訪問介護	重度の身体障害又は重度の知的障害若しくは精神障害により行動上苦しい困難を有する人で、常時介護を受ける人に、居宅での入浴、排泄、食事などの介護、外出時の移動支援を行います。
同行援護	療育施設のある人が外出をする前に、療育計画書の支援や移動の支援を行います。
行動援護	自己判断能力が確保されている人が行動するときに、危険を回避するために必要な支援、外出支援などを行います。
重度障害者等居宅支援	介護の必要が著しく高い者（ALS=筋萎縮性側索硬化症、脳脊髄神経障害のある障害者のうち）に、居宅生活と移動の障害福祉サービスを適切に行います。
短期入所療養介護	自宅で生活する人が施設などの場合に、短期間、施設に移動施設で、入浴、排泄、食事の介護と療育介護を必要とする人に、医師監視で療育施設、療養上の看護、看護、介護及び日常生活の支援を行います。
生活介護	継続的な必要とする人に、通所し障害支援施設において、①入浴、排泄、食事の介護、②動作訓練、生産活動の機会、③その他のサービスを提供します。
施設入所支援	施設に入所する障害者のために、入浴、排泄、食事の介護などを行います。
自立訓練	自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練を行います。
就労移行支援	一般企業等への就労を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練を行います。
就労継続支援	一般企業等での就労が困難な人に、働く機会を提供するとともに、継続及び能力向上のために必要な訓練を行います。
就労定着支援	一般企業等へ就労した障害者のために、就労に伴う生活面の課題に対し、就労の継続を図るために、企業・自治体への訪問や業務により必要な連絡調整や指導、助言等を行います。
自立生活援助	施設、グループホームや施設等から一人暮らしを希望する人に、一人暮らしに必要な理解や生活方法を備えるために、定時訪問や訪問など必要な支援を行います。
共同生活援助（グループホーム）	共同生活を営むべき居宅において入居している人に、主として夜間において、共同生活を営む居宅で、継続的な日常生活上の援助を行います。

2

宝塚市福祉に関するアンケート調査

調査ご協力をお願い

日通より宝塚市の福祉行政に理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。
宝塚市では現在、令和6年度を初年度とする、第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の策定に向けた取り組みを進めています。そのため市民の皆さまの障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てるためのアンケート調査を実施することになりました。

この調査は、無記名で回答いただきますので、回答された方が特定されたり、個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。調査票は宝塚市個人情報保護条例にのっとり、適切な管理を行います。

また、ご回答いただいた内容は、統計的な処理を行い、計画策定および施策推進のための基礎資料としてのみ使用し、その他の目的で使われることは一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力 부탁드립니다。

令和5年8月

宝塚市

【ご記入についてお願い】

- 宛名のご本人が直接回答いただくことが難しい場合には、家族や介護されている方などが、ご本人の意向を尊重して記入してください。
- 回答は、あてはまる番号に“○”をつけてください（質問によっては、○の数が決まっている場合がありますのでご注意ください）。また、「その他」にあてはまる場合は、その内容を（ ）内に具体的に記入してください。
- 回答しにくい項目があれば、無理に回答いただくなくても構いません。
- 記入が終わりましたら、**8月15日（火）までに** 同封の返信用封筒に入れて、ご返送ください。（※切手はいりません）

＜アンケートについてのお問い合わせ・相談先＞

アンケートへの質問以外にも、ご記入にあたり支援が必要の方はご連絡ください。
宝塚市健康福祉部 障害福祉課
電話：(0797) 77-2077 / FAX：(0797) 72-8086

1

障害者生活支援事業	児童発達支援	未就学の障児向け、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の習得、集団生活への適応訓練を行います。
	医療型児童発達支援	未就学の障児向け、児童発達支援及び治療を行います。
	放課後等デイサービス	就学中の障児向け、放課後、又は週末等の長期休暇日に、生活能力の向上のため必要な訓練、社会との交流の促進等を行います。
	居宅訪問型児童発達支援	重度の障児等により外出が困難な障児向けに、居宅を訪問し発達支援を提供します。
地域生活支援事業	居宅訪問型児童発達支援	居宅を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援を行います。
	移動支援	屋外での移動が困難な障児等について、外出のための支援を行います。
地域生活支援事業	日中一時支援	障児等等の日中における活動の場を提供し、障児等の家族の就労支援や、障児等を日常的に介護している家族の一時的な休息の提供を行います。

◎「障(がい)」の表記について

平成31年(2019年)4月1日から、市で取り扱う公文書においては「障害」を「障(がい)」と表記することとしており、法令や制度、個別の名称などを除いては、「障(がい)」と表記することとしており、法令や制度、個別の名称などを除いては、「障(がい)」と表記しています。

「障(がい)」には「さまざま」や「バリア」の意味があり、このバリアは、個人の心身機能が原因で生じるものではなく、道路や施設、制度、慣習や差別的な概念など社会的障壁との相互作用によって創り出されているもので、この社会的障壁を取り除くことが大切です。

本市は、この「障(がい)」の本来の意味について知識を普及させ、障(がい)の無に聞かず、誰もが人格と個性を尊重し支え合う「心のバリアフリー」を推進し、暮らしやすい社会の実現を図るため、「障(がい)」と表記します。

■ まずはじめに、このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。 <1つに○>

1. 本人(この調査票が郵送された宛名の方)
2. 本人の家族
3. 家族以外の訪問者

※これ以降、この調査票が郵送された宛名の方を「あなた」と呼びますので、ご本人(この調査票の対象者)の状況などについて、お答えください。

※また、回答にあたっては、令和5年8月1日現在の状況でお答えください。

あなた(宛名ご本人)のことなどについて

問1 あなたの年齢をお答えください。(数字をご記入ください)

満 歳 (令和5年8月1日現在)

問2-1 現在、あなたはどこで生活していますか。 <1つに○>

1. 自宅(持ち家：戸建、分譲マンションなど) ※家族の所有含む
2. 自宅(民間の賃貸住宅：戸建、マンション、アパートなど)
3. 自宅(公営賃貸住宅)
4. グループホーム
5. 入所施設(入所中)
6. 病院(入院中) ※一時的に入院されている方は、6以外で選んでください
7. その他()

問2-2 現在、お住まいの市区はどちらですか。

次のページの地区別住所一覧表を参考に回答してください。 <1つに○>

1. 1地区
2. 2地区
3. 3地区
4. 4地区
5. 5地区
6. 6地区
7. 7地区

■ 地区別住所一覧表

地区	住所
1地区	伊予志4丁目2～7、大吹町、小林、鹿嶋、亀井町、光明町、御所の前町、駒の町、新堀和町、末成町、大成町、高司、高松町、谷口町、塔の町、東洋町、中野町、七川旭方丘、七川3丁目、七川北、七川台、七川橋台、七川橋元、七川中野町、七川旭方丘、七川西町、七川清風台、福井町、美幸町、大字鹿嶋
2地区	青葉台、伊予志(4丁目2～7を除く)、梅野町、逆瀬川、逆瀬台、青葉荘、末広町、千歳、長寿方丘、月見山、中洲、野上、光方丘、宝松苑、宝樹、南口、武庫山、紀葉方丘、社町、ゆずり葉台、湯本町、大字伊予志、大字小林、大字蔵入
3地区	旭町1丁目、泉方丘、川面、清荒神、御殿山、栄町、桜方丘、すみれ方丘、中山荘園、中山等3丁目4～6、米谷(1丁目13～14、21～40を除く)、雲の町、武庫川面、赤布、赤布方丘、赤布きよし方丘、赤布東の町、赤布山手町、赤布自由方丘、切畑字長尾山1～13番地、大字川面、大字米谷
4地区	安倉北、安倉中、安倉西、安倉南、旭町2～3丁目、景町、今里町、金井町、向月町、寿町、小浜、鶴の荘、量の荘、米谷1丁目(13～14、21～40)、三笠町、美座、弥生町
5地区	中筋、中筋山手(7丁目4～20を除く)、中山寺(3丁目4～6を除く)、平井、南ひばり方丘、山本中、山本西、山本野里、山本東、山本丸腰、山本南、長尾町、口谷西、口谷東、切畑字長尾山4番地
6地区	長尾台、中山、桜台、中山五月台、中山台、花屋敷荘園、花屋敷つつし方丘、花屋敷松方丘、花屋敷緑方丘、養雀丘、養雀丘山手、平井山荘、ふじ方丘、山手谷西、山手台東、山本台、中筋山手7丁目4～20、中筋字長尾山9番地、切畑字長尾山(1～3、5～8、10、17番地)
7地区	上佐喜利、下佐喜利、香谷新田、長谷、芝辻新田、大原野、波豆、境野、玉瀬、切畑、切畑字長尾山(1～8、10～13、17番地を除く)

問3 現在、あなたはどなたと一緒に住んでいますか。〈あてはまるものすべてに○〉

1. 父・母	5. 子ども(子どもの配偶者含む)
2. 祖父母	6. 入所施設やグループホーム、病院などで生活
3. きょうだい	7. いなし(ひとり暮らし)
4. 配偶者(夫または妻)	8. その他()

あなたの状況などについて

問4-1 現在お持ちの障害者手帳および等級(判定)をお答えください。
 〓お持ちの手帳すべてに○のうえ、それぞれのあてはまる等級(判定)に○

1. 身体障害者手帳	1. 1級	2. 2級	3. 3級
	4. 4級	5. 5級	6. 6級
2. 療育手帳	1. A	2. B1	3. B2
3. 精神障害者保健福祉手帳	1. 1級	2. 2級	3. 3級
4. 障害者手帳を持っていない			

【身体障害者手帳をお持ちの方にお聞きます】※お持ちでない方は問5へ

問4-2 主たる障害は何ですか。〈主なもの1つに○〉

1. 視覚障害	4. 肢体不自由
2. 聴覚・又は平行機能障害	5. 肢体不自由(医療的ケアが必要)
3. 音声・言語・そして小機能障害	6. 内部障害(1～5以外)

* 医療的ケアとは、日常的に行われる、たん吸引、経管栄養、気管切開部の衛生管理、インスリン注射等の医療行為をいう。

【すべての方にお聞きします】

問5 あなたは、医師等から次の診断を受けていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

1. 難病（特定疾患）*1
2. 高次脳機能障害*2
3. 発達障害*3
4. 強度行動障害*4
5. いずれも受けていない

- *1 難病（特定疾患）とは、関節リウマチやギラン・バレー症候群などの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。
- *2 高次脳機能障害とは、一般に外傷性脳損傷、脳血管障害等により、脳に損傷を受けその後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくいか合わない」などの症状があります。
- *3 発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などをいいます。
- *4 強度行動障害とは、直接的な他害（噛み付き、頭突き等）や、間接的な他害（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が、著しい頻度と形式で出現している状態をいいます。

【40歳以上の方にお聞きします】（※40歳未満の方は問7-1へ）

問6 あなたは現在、介護保険の要介護認定を受けていますか。受けている方は、あてはまる要介護度をお答えください。＜1つに○＞

1. 受けていない
2. 要支援1
3. 要支援2
4. 要介護1
5. 要介護2
6. 要介護3
7. 要介護4
8. 要介護5
9. わからない

介護の状況について

問7-1 あなたは、ふだんの生活の中で、何らかの介護や支援を必要としていますか。

1. はい（必要）
2. いいえ（必要ない）→次のページの間8-1へ

→【「1. はい（必要）」とお答えの方にお聞きします】

問7-2 どのような場面で介護や支援が必要ですか。＜あてはまるものすべてに○＞

1. 食事
2. 排泄（トイレ）
3. 入浴
4. 家の中の移動
5. 着替え（衣履の着脱）
6. 寝返り、起き上がり
7. 外出（通学・通勤、通院を含む）
8. 家事（調理、洗濯、そうじなど）
9. 他者との長時間接触
10. 薬・服薬の管理
11. お金の管理
12. 見守り
13. その他（ ）

問7-3 あなたが介護・支援してくれる主な人は誰ですか。

＜最もよく関わっている人に○を1つ＞

1. 同居している家族
2. 別居している家族
3. サービス事業所の職員（ホームヘルパーなど）
4. 入所施設や病院の職員
5. ボランティア
6. 手話通訳者・要約筆記者
7. 近所の人、知人
8. その他（ ）

問7-4 （3～8をお答えの方は、次のページの間8-1へ）

【問7-3で「1. 同居している家族」または「2. 別居している家族」とお答えの方にお聞きします】

問7-4 主にあなたが介護・支援してくれる方は何歳ですか。＜1つに○＞

1. 29歳以下
2. 30～39歳
3. 40～49歳
4. 50～59歳
5. 60～69歳
6. 70歳以上

問7-5 主にあなたを介助・支援してくれる方の健康状態や身体の状態についてお伺いします。〈あてはまるものすべてに○〉

1. 健康である
2. 健康とはいえない(定期的に通院等)
3. 要介護認定を受けている
4. 障害者手帳を持っている
5. その他 ()
6. わからない

外出の状況について

問8-1 あなたはだんだん、どのくらいの頻度で外出していますか。〈1つに○〉
※通院・通学、病院への通院、施設への通所を含みます。

1. ほぼ毎日(週に5日以上)
2. 週に3~4日
3. 週に1~2日
4. 月に1~3日
5. 月に1日未満
6. 外出は全くしない ⇒IIページの問9-1へ

→ 問8-1で「1. ほぼ毎日(週に5日以上)」~「5. 月に1日未満」のいずれかをお答えの方にお聞きします

問8-2 外出する際に、付き添ってくれる人は必要ですか。〈1つに○〉

1. はい(必要)
2. いいえ(特に必要ない)

問8-3 外出する時に困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 付き添ってくれる人の確保ができない
2. バス停や電車の駅などが近くにない、本数が少ない
3. 電車やバスの乗り降りが困難
4. 公共交通機関の費用負担が大きい
5. 道路や駅などが障害者に配慮されていない(バリアフリー化がされていない)
6. 点字ブロックや音の出る信号機の整備が不十分
7. 公共サイン(盲点字表示や案内板)など、外出先で情報を得るための配慮がされていない
8. 外出先の建物の設備が利用しにくい(トイレやエレベーターなど)
9. 暑道越えができない
10. 福祉タクシーや福祉車両の予約がとりにくい
11. 周囲の自覚になる
12. 発作など突然の身体の変化が心配
13. 困った時にどうすればいいのかわからない
14. その他 ()
15. 知らない

)

日々の過ごし方について

問9-1 あなたは毎日、日中は主にどのように過ごしていますか。＜1つに○＞

1. 通園・通学している
2. 一般就労している
(会社勤め、自営業、パート・アルバイトなどで収入を得ている)
3. ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
4. 福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型も含む)
5. 家事等をしている
6. 病院などのデイケアに通っている
7. リハビリテーションを受けている
8. 自宅で過ごしている(※1～7以外)
9. 入所している施設や病院等で過ごしている
10. その他()

問9-2 あなたは、休日の日中は主にどのように過ごしていますか。＜1つに○＞

1. ほとんど自宅にいる
2. ほとんど入所している施設や病院等で過ごしている
3. たまに外出している
4. 頻繁に外出している

→【問9-2で「3. たまに外出している」「4. 頻繁に外出している」とお答えの方にお聞きします】

問9-3 主な外出の目的は何ですか。＜主なものを2つまでに○＞

1. ボランティア
2. スポーツ活動
3. 文化芸術活動
4. 買い物
5. その他()

- 問9-1で「1. 通園・通学している」とお答えの方 ⇒以下の問10-1へ
- 問9-1で「2. 一般就労している」とお答えの方 ⇒14ページの問11-1へ
- 問9-1で「3. ～「10」のいずれかをお答えの方 ⇒15ページの問12-1へ

通園・通学の状況について

問10-1 現在、通園・通学しているところはどこですか。＜1つに○＞

1. 保育所、幼稚園、障害児通園施設
2. 小学校・中学校(特別支援学校)
3. 小学校・中学校(通常級)
4. 特別支援学校(小・中・学部)
5. 特別支援学校(高等部)
6. 高等学校
7. 大学、専門学校、職業能力開発校
8. その他()

問10-2 学校・園生活を送る上での課題は、次のどれですか。＜主なものを3つまでに○＞

1. 通園・通学が大変
2. 学習サポート体制が不十分
3. 学習・学校生活に必要な設備が不十分
4. 校内・園内での介助が不十分
5. 連絡指導が不十分
6. 福祉教育が不十分
7. 友達ができない
8. 教職員への理解が得られない
9. 児童・生徒(またはその保護者)の理解が得られない
10. 家族の同伴を求められる
11. 医療的ケアが必要な児童に対する体制が不十分
12. その他()
13. 特になし

問10-3 学校卒業後の進路はどうお考えですか。＜最も希望に近いもの1つに○＞

1. 会社員、団体職員などとして働きたい（正規雇用）
2. パート・アルバイト、派遣・契約社員などとして働きたい（非正規雇用）
3. 自営業（家族従業員など）で働きたい
4. 自宅でできる仕事したい（内職・インターネットを活用したものなど）
5. 作業所や就労継続支援を利用して働きたい（福祉的就労）
6. 就労移行支援を利用して働きたい（福祉的就労）
7. 職業訓練校等で就労のための訓練を受けたい
8. 進学したい
9. その他（ ）
10. 働きたいとは思わない（働けない）
11. わからない（まだ考えられない）

問10-4 あなたは、障害のある児童・生徒の教育・育成に関し、どのようなことが必要であると思いますか。＜主なもの2つまでに○＞

1. 障害への理解を深めるため、すべての児童・生徒に対する人権教育の推進
2. 児童・生徒の個々のニーズに応じた学習指導の充実
3. スロープなど、児童・生徒の障害に配慮した施設整備
4. 障害のある児童・生徒の支援ができる教師の育成や配置
5. 教育・保健・医療・福祉などの関係機関の連携
6. 早期発見・早期療育システムの確立
7. 障害のある児童・生徒の保護者に対する支援
8. 障害のある児童・生徒のきょうだい児に対する支援
9. 児童・生徒が地域との繋がりを育てる機会を設ける
10. 障害の発現に関わらず共に学び合える場（インクルーシブ教育）
11. 進路（就労・進学）の支援
12. その他（ ）
13. 特になし

⇒ 回答後、17ページの問13へ

仕事の状況や今後の希望について

問11-1 あなたは現在、どのように一般就労していますか。＜1つに○＞

1. 会社員、団体職員（正規雇用）
2. パート・アルバイト、派遣・契約社員（非正規雇用）
3. 自営業（家族従業員など）
4. 自宅でできる仕事（内職など）
5. その他（ ）

問11-2 一般就労しながら利用したい就労系サービス等はありませんか。＜1つに○＞

1. 就労継続支援A型
2. 就労継続支援B型
3. 就労移行支援
4. 自立訓練（機能訓練・生活訓練）

* 令和6年4月から、一般就労中の障害者であっても、就労に必要な知識や能力の向上のための支援を一時的に必要とする人については、過去の利用実績に関わらず一定の要件を満たせば就労移行支援及び就労継続支援の利用対象者になります。

問11-3 現在の職場に就いたのは、障害や疾患の診断を受けた後でしたか。＜1つに○＞

1. 診断を受けた後
2. 診断を受ける前
3. わからない、覚えていない

問11-4 現在の職場に就くために、次の種類の支援を利用しましたか。

＜あてはまるものすべてに○＞

1. ハローワーク
2. 市役所の窓口
3. 宝塚市障害者就業・生活支援センター「あとむ」
4. 国や県の支援センター
5. 通っていた学校
6. 就労移行支援事業所
7. そのほかの福祉施設
8. 市内の福祉団体
9. いずれも利用していない

⇒ 回答後、17ページの問13へ

サービスの利用について

問13 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。＜1つに○＞

1. 区分1
2. 区分2
3. 区分3
4. 区分4
5. 区分5
6. 区分6
7. 受けていない
8. わからない

問14 サービスの利用状況および利用意向についてお聞きます。

(サービスの詳細は調査票2ページと3ページの「主なサービスの内容」を参考にしてください)

(1) 現在利用中のサービスはありますか。＜あてはまるものすべてに○＞

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 【介護給付】 | 13. 就労継続支援B型 |
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 14. 就労定着支援 |
| 2. 重度訪問介護 | 15. 自立生活援助 |
| 3. 同行援護 | 16. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 4. 行動援護 | 【障害児通所支援給付】 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 17. 児童発達支援 |
| 6. 短期入所 (ショートステイ) | 18. 医療型児童発達支援 |
| 7. 療養介護 | 19. 放課後等デイサービス |
| 8. 生活介護 | 20. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 9. 施設入所支援 | 21. 保育所等訪問支援 |
| 【訓練等給付】 | 【その他】 |
| 10. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) | 22. 移動支援 |
| 11. 就労移行支援 | 23. 日中一時支援 |
| 12. 就労継続支援A型 | 24. 1～23のサービスは利用していない |

(2) 使いたいときに使えないサービスはありますか。＜あてはまるものすべてに○＞

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 【介護給付】 | 13. 就労継続支援B型 |
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 14. 就労定着支援 |
| 2. 重度訪問介護 | 15. 自立生活援助 |
| 3. 同行援護 | 16. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 4. 行動援護 | 【障害児通所支援給付】 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 17. 児童発達支援 |
| 6. 短期入所 (ショートステイ) | 18. 医療型児童発達支援 |
| 7. 療養介護 | 19. 放課後等デイサービス |
| 8. 生活介護 | 20. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 9. 施設入所支援 | 21. 保育所等訪問支援 |
| 【訓練等給付】 | 【その他】 |
| 10. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) | 22. 移動支援 |
| 11. 就労移行支援 | 23. 日中一時支援 |
| 12. 就労継続支援A型 | 24. 特になし |

(3) 今後、新たに利用を始めたり、時間・日数を増やしたいと思うサービス (現在利用中を含む) はどれですか。＜主なもの3つまでに○＞

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 【介護給付】 | 13. 就労継続支援B型 |
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) | 14. 就労定着支援 |
| 2. 重度訪問介護 | 15. 自立生活援助 |
| 3. 同行援護 | 16. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 4. 行動援護 | 【障害児通所支援給付】 |
| 5. 重度障害者等包括支援 | 17. 児童発達支援 |
| 6. 短期入所 (ショートステイ) | 18. 医療型児童発達支援 |
| 7. 療養介護 | 19. 放課後等デイサービス |
| 8. 生活介護 | 20. 居宅訪問型児童発達支援 |
| 9. 施設入所支援 | 21. 保育所等訪問支援 |
| 【訓練等給付】 | 【その他】 |
| 10. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) | 22. 移動支援 |
| 11. 就労移行支援 | 23. 日中一時支援 |
| 12. 就労継続支援A型 | 24. 特になし |

問15-1 サービスを利用する際、または利用しようとした際に、あなたは、困ったり、不便だ
と思うことはありますか。＜主なものを3つまでに○＞

1. サービスに関する情報が少ない
2. サービスに関する情報の取得・アクセスが困難
(例：事業所の場所や新開設情報など)
3. 何かに利用できるのかわからない
4. 利用したい内容のサービスがない
5. サービスの利用方法がわかりづらい
6. サービス利用のための手続きが大変
7. 利用できる回数や日数が少ない
8. 住んでいる地域にサービス事業所が少ない
9. 事業所との利用日時等の調整が大変
10. サービスの質に不満がある
11. 自分に合う事業所が見つからない
12. 事業所に要望を伝えづらい
13. 事業所の担当者やスタッフが、事業所の負担が大きすぎる
14. 経済的負担が大きすぎる
15. 他人を家に入れることに抵抗がある
16. その他
17. 待たない

→ 【問15-1で「8. 住んでいる地域にサービス事業所が少ない」とお答えの方にのみお聞きします】
問15-2 住んでいる地域にサービスはどれですか。＜主なものを3つまでに○＞

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 居宅介護（ホームヘルプ） 2. 重度訪問介護 3. 同行介護 4. 行動介護 5. 重度障害者等包括支援 6. 短期入所（ショートステイ） 7. 療養介護 8. 生活介護 9. 施設入所支援 <p>【訓練等給付】</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 自立訓練（機能訓練、生活訓練） 11. 就労移行支援 12. 就労継続支援A型 | <ol style="list-style-type: none"> 13. 就労継続支援B型 14. 就労定着支援 15. 自立生活援助 16. 共同生活援助（グループホーム） 17. 障害者通所支援（障害者通所支援給付） 18. 介護型居宅介護支援 19. 放課後等デイサービス 20. 居宅訪問型介護型居宅介護支援 21. 保育所等訪問支援 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 22. 移動支援 23. 日中一時支援 |
|---|--|

情報の入手・相談について

問16 あなたは、だん、障にすることや福祉サービスなどに関する情報について、十分
に得られていると思いますか。＜1つに○＞

1. 十分得られている
2. 必要なものは得られている
3. どちらともいえない
4. あまり得られていない
5. ほとんど得られていない
6. わからない

問17 だん、どこから情報を得ていますか。＜あてはまるものすべてに○＞

1. 市の広報
2. 市のホームページ
3. 市役所（福祉担当など）
4. 市内の相談支援事業所
5. 市や県の公的機関
6. 至彦市社会福祉協議会
7. 民生委員・児童委員
8. 障害者相談員
9. 学校や保育所、幼稚園など
10. 医療機関（病院など）
11. ケアマネジャー
12. 福祉施設（職員・スタッフなど）
13. サービス事業所（ホームヘルパーなど）
14. ボランティア活動センター
15. 障害者の団体や家族会
16. インターネット（ホームページ）
17. SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）
18. テレビ・ラジオ、新聞・雑誌
19. 家族や親せき
20. 友人・知人、近所の人
21. その他
22. 入手する手段がない

問18 あなだは、悩みごとや困りごとがあったとき、だれに（どこに）相談していますか。
くあてはまるものすべてに○>

1. 市役所の担当窓口

2. 市内の相談支援事業所

3. 市や県の公的機関の相談窓口

4. 宝塚市社会福祉協議会

5. 民生委員・児童委員

6. 障害者相談員

7. 学校や教育委員会

8. 医療機関（ケースワーカーなど）

9. ケアマネジャー

10. ピアカウンセリング・ピアサポーター

11. 福祉施設（職員・スタッフなど）

12. サービス事業所（ホームヘルパーなど）

13. ボランティア活動センター

14. 障害者等の団体や家族会

15. 家族や親せき

16. 友人・知人、近所の人

17. その他（ ）

18. （相談したいが）相談先がない

19. インターネットやSNSで知り合った不特定の人

20. 相談しない（相談したいと思わない）

問19 悩みごとや困りごとを相談する場合に不便に感じることがありますか。
く主なもの3つまでに○>

1. どういった相談先があるかわからない

2. 相談場所が遠い

3. 相談する日時が合わない

4. プライバシー（個人情報）が守られるか不安

5. 専門的な知識の不足や対応に不満

6. 実際の支援につながらない、時間がかかる

7. 自宅訪問の相談が受けられない

8. 親身に話を聞いてもらえない

9. 相談先が傾いている（少ない）・気軽に相談できる場所がない

10. その他（ ）

11. 特になし

21

権利擁護について

問20-1 あなだは、障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。
く1つに○>

1. ある（あった）

2. 少しある（あった）

3. ない ⇒次のページの問21へ

問20-2 それはどのような場所（場面）でしたか。くあてはまるものすべてに○>

1. 職場（仕事場）

2. 学校や保育所・幼稚園

3. 仕事を探すとき

4. 家を借りるとき

5. お店で買い物をするとき

6. 電車やバスなどを利用するとき

7. 映画館や美術館などを利用するとき

8. レストランなどで外食するとき

9. 旅行などで泊まる宿泊先

10. 病院などの医療機関

11. 住んでいる地域

12. 災害時（避難場所など）

13. その他（ ）

問20-3 その時、あなたは、どのような対応をされましたか。くあてはまるものすべてに○>

1. 親や家族に相談した

2. 学校の先生や施設の職員などに相談した

3. 弁護士などの専門家に相談した

4. 行政などの相談窓口と相談した

5. 障害を理由とする差別等に関する相談窓口（宝塚市高齢者・障害者権利擁護センター・障害福祉課）に相談した

6. 相談先がわからなかった

7. 泣き寝入りした（救済等をあきらめた）

8. その他（ ）

22

156

【すべての方にお聞きします】

問21 障^{しょう}碍^{がい}者^{しや}に^{たい}対^{たい}す^す理^り解^{かい}を^{めい}深^{ふか}め^るる^{ため}に^は、今^{こん}後^ごど^のよ^うな^こと^に力^{ちから}を^い入^いれ^るべ^きだ^と思^{おも}いますか。く^まな^もの³つ^まで^に○>

1. スポーツやレクリエーション、文化芸術活動などを通じて地域のひと々と交流する
2. 『障 害 者 週 間』などのイベントを充実させる
3. 福祉講座や講演会などを開く
4. 福祉施設を地域に開かれたものにする
5. 小・中学校での福祉教育を充実させる
6. 障害者の活動を積極的^{そだて}にアピールする
7. ボランティアを育てる
8. 障害者本人が積極的^{きんごう}に街に出て、人との関わりを持つ
9. その他（ ）
10. 多くない

問22-1 あなたは、成年後見制度についてご存じですか。＜1つに○＞

1. 名前も内容も知っている
なまえ も ないぶつ も しって いる
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
なまえ を きいた ことは ある が、 ないぶつ までは しら ない
3. 名前も内容も知らない
なまえ も ないぶつ も しら ない

問22-2 あなたは成年後見制度を活用したいと思いますか。〈1つに○〉

1. 現在、活用している ⇒ 次のページの問22-3へ
いま、ひきよう かいぎょう
2. 今は必要としていないが、将来は活用したい ⇒ 次のページの問23へ
いまはひきようとしていないが、しやうらいはかいぎょう
3. 活用したいと思わない ⇒ 次のページの問22-4へ
ひきようしたいと思わない
4. わからない

23

【問22-2で「1. 現在、活用している」とお答えの方にお聞きます】

問22-3 現在、活用している成年後見制度に満足していますか。〈1つに○〉

1. とても満足まんぞくしている
2. どちらかというどちらかと満足まんぞくしている
3. どちらともいえない
4. どちらかというどちらかと不満ふまんがある
5. とても不満ふまんがある

↑ かいとうこ 回答後、問23へ

問22-2で「3. 活用したいとは思わない」または「4. わからない」とお答えの方にお聞きます

問22-4 それはどうですか。〈あてはまるものすべてに〇〉

1. 制度がわかりにくいいため せいどが わかりにくい
2. 費用負担が大きいため ひようふたん が 大きい
3. 手続きの方法がわからないため てきづきの ほうほう が わからない
4. 相談先がわからないため さだまへが わからない
5. 他人に財産状況や生活状況を知られたくないため たにん に ざさんじょう けい や せいかいじょう けい を しられたくない
6. 親族が本人に必要な手続きや金銭管理をするため いそぐ けい ゑん に ひつやう な てきづき や きんせんかんり を する
7. 信頼できる後見人等の候補がない しんらい できる けいけん ひとら の 候補 が ない
8. その他 その他

【すべての方にお聞きします】

問23 あなたは、『宝塚障害者差別解消に関する条例』についてご存じですか。

2015

1. 名前も内容も知らない なまえ ないよう
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない なまえ きこ ないよう
3. 名前も内容も知らない なまえ ないよう

今後の暮らしについて

問24-1 あなたは、将来どのように暮らしたいと思いますか。
＜あなたの希望に最も近いもの1つに○＞

- 1. 自宅で家族と暮らしたい
- 2. ひとりで自立して暮らしたい
- 3. グループホームで暮らしたい (これからも暮らし続けたい)
- 4. 入所施設で暮らしたい (これからも暮らし続けたい)
- 5. その他 ()
- 6. わからない

→ 【問24-1で「3. グループホームで暮らしたい (これからも暮らし続けたい) または「4. 入所施設で暮らしたい (これからも暮らし続けたい)」とお答えの方にお願いします】

問24-2 グループホームや入所施設での生活を希望する理由は何ですか。
＜あなたの希望に最も近いもの1つに○＞

- 1. 他人との共同生活ができる
- 2. 職員との交流が手厚い
- 3. 地域での生活が不安
- 4. 家族の負担を軽減したい
- 5. その他 ()

【すべての方にお聞きします】

問25 仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような条件（支援）が必要だと思いますか。＜主なものを3つまでに○＞

- 1. 家族の理解・支援
- 2. 家族以外の支援者（ボランティア・手話通訳などのコミュニケーション支援者）
- 3. 必要な在宅サービスの利用（ホームヘルプなど）
- 4. 在宅医療の充実（訪問診療、訪問看護など）
- 5. 住むところの確保・支援
- 6. 働く場の確保・支援
- 7. 経済的な負担の軽減
- 8. 身近な相談相手（相談先）
- 9. 日中いつでも利用できる居場所
- 10. 地域住民の理解
- 11. フライバジーの確保（一人部屋の使用、トイレ・入浴など）
- 12. その他 ()
- 13. わからない
- 14. 特にない

問26 仮にあなたが地域（グループホームを含む自宅）で生活していくと考えた場合、どのような地域活動や行事に参加したいと思いますか。＜主なものを3つまでに○＞

- 1. 地域サロン*
- 2. 清掃や花壇づくりなどのまちの美化活動
- 3. 公民館などの講座への参加
- 4. ボランティア活動
- 5. 趣味やサークル活動
- 6. 防災訓練
- 7. 運動会
- 8. 盆踊り、夏祭り、地蔵まつりなどの地域のおまつり
- 9. おしゃべり、井戸端会議
- 10. その他 ()
- 11. 特にない

* 地域サロンとは、地域住民の方々が気軽に集まり、仲間づくりや社会参加を目的に、地域の方々により運営されるものです。

問27 仮にあなたが地域（グループホームを含む）で生活していくと考えると、考えた場合、どのような支え合い活動があったらよいと思いますか。＜主なもの3つまでに○＞

1. そうじや洗濯、料理などの日常的な家事の支援
2. ゴミ出しや電球の交換などの方々のいる作業
3. 食料の代行
4. 近隣への外出の付き添い
5. 配食サービスの支援
6. 見守り等安全確認
7. 悩み事の相談や話し相手
8. 急病時などへの病院連絡等の対応
9. 緊急時での親族等への連絡
10. その他（ ）
11. 特になし

問28 あなたは、地域との関わりに対してどのようにお考えですか。＜1つに○＞

1. 地域のひとと心から打ち解けられる関係を築きたい
2. いざという時のためにも隣近所の付き合いを大切にしたい
3. 住民がお互いに協力して地域を良くする活動に参加していきたい
4. ボランティアや自治会、まちづくり協議会等の役員として参加したい
5. 隣近所の協力はあてせず、極力自分のことは自分でする
6. 地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない
7. その他（ ）

⇒次のページの問30へ

【問28で「6. 地域のためになることであっても、関わりを持ちたくない」とお答えの方にお聞きます】

問29 地域との関わりを持ちたくないのはなぜですか。＜1つに○＞

1. 自分の生活や時間を大切にしたいから
2. 近所付き合いが苦手だから
3. 必要性を感じないから
4. まわりの人が関わりとうしないから
5. 障壁や障壁のある人への理解が不足していると感じること
6. コミュニケーションを取るのが難しいと感じること
7. 理由はない
8. その他（ ）

保健・医療について

問30 あなたは、宝塚市内にかりつけの医師はいませんか。＜1つに○＞

1. 宝塚市内にかりつけの医師がいる
2. 宝塚市内にかりつけの医師はいない

⇒次のページの問32へ

⇒問31へ

【問30で「2. 宝塚市内にかりつけの医師はいない」とお答えの方にお聞きます】

問31 宝塚市内にかりつけの医師がないのはなぜですか。＜1つに○＞

1. 宝塚市内に専門に診てくれる医師がいなくて
2. 受診先がその都度異なり、特に決まった医師がいなくて
3. かりつけの医師の必要性を感じないから
4. かりつけの医師の探し方がわからないから
5. その他（ ）

【すべての方にお聞きします】

問32 医療を受ける上で困っていることはありますか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 医療費の負担が大さい
2. 病院までの交通費の負担が大さい
3. 通院（病院までの移動）が困難である
4. 通院時の付き添いがいない
5. 専門的な治療をする病院が近くにない
6. 往診を頼める医師がいない
7. 障 碍が理由で治療を受けにくい（診療科名： ）
8. 意思の疎通ができない
9. 医療用語など専門的な説明が分かりにくい
10. その他（ ）
11. 特になし

問33 あなたは、障 碍のある人の保健・医療に関し、どのようなことが必要だと思いますか。＜1つに○＞

1. 障 碍のある人が安心して地域で医療を受けられる体制の整備
2. 早期発見・早期療 育（治療）システムの確立
3. 乳幼児健診とその後の育児相談の充 実
4. 保健・福祉等関係機関の連携による地域リハビリテーション体制の充 実
5. 保健・福祉等関係機関の連携による二次的機能障 害の予防・治療
6. その他（ ）
7. 特になし

災害対策について

問34 あなたは、災害が起こったときに心配なことはありますか。＜1つに○＞

1. 心配なことがある ⇒問35へ
2. 心配なことはない ⇒次のページの問36へ
3. わからない

【問34で「1. 心配なことがある」とお答えの方にお聞きします】

問35 災害が起こった場合、どのようなことが心配ですか。＜主なもの3つまでに○＞

1. 災害に関する正確な情報伝わらない
2. 自力で救助を求めることができない
3. 救助を求めてもすぐに来てくれる人がいない
4. 避難所など、安全なところまで避難することができない
5. まわりの人とのコミュニケーションをとることができない
6. 避難所などで障 碍に対する配慮をしてももらえないか心配
7. 必要な治療が受けられない、必要な薬が手に入らない
8. 補装具や日常生活用具などが利用できない
9. 障 害福祉サービスなど、避難所などで必要な支援を受けることができない
10. その他（ ）
11. わからない

福祉全般について

問36 あなたは、『宝塚市手話言語条例』についてご存じですか。<1つに○>

1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことはあるが、内容までは知らない
3. 名前も内容も知らない

問37 総合的にみて、現在の宝塚市は、あなたにとって暮らしやすいまちづくりのために、特に重要なことは

1. 暮らしやすい
2. どちらかという暮らしやすい
3. どちらともいえない
4. どちらかという暮らしにくい
5. 暮らしにくい

問38 障壁のある人にとって暮らしやすいまちづくりのために、特に重要なことは

何だと思いますか。(○は主なもの5つまで)

1. 障壁の有無にかかわらず、地域でともに生活するのが自然という意識
2. 歩道や交通手段が使いやすく、いつでも気軽に外出できる
3. 地域の行事やイベント、スポーツ活動などにも気軽に参加できる
4. 必要な情報がすぐに入手できる
5. 困ったことやわからないことを身近なところでいつでも気軽に相談できる
6. 必要なサービスが、必要に応じて利用できる
7. いろいろな種類の日中活動の場がある
8. 家族の介助負担も少なく、経済的な不安もあまりない
9. 家族に何かあったときなど、いざというときに利用できる施設がある
10. さまざまなタイプの働く場が用意されている（働くための支援がある）
11. 働き続けるための相談先や生活支援がある
12. 医療やリハビリテーションが十分に（適切に）受けられる
13. 病気の早期発見・リハビリ・サービス利用と、保健・医療・福祉の連携がとれている
14. 療育・保育・就学など、障壁児に対する継続的な支援がある
15. 幼稚園・保育所、学校において適切な支援を受けて学ぶことができる
16. 学校卒業後の就労支援や地域活動、生活支援など、安心して受け入れられる
17. 将来にあたって地域（自宅）で安心して暮らしていきける生活の場がある
18. 緊急時や災害時でも、安心して暮らせる備え・体制が整っている
19. その他（ ）
20. 特になし

■ 障害福祉サービスや行政の取り組みについて、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。記入もれがないかを確認いただき、返信用封筒に入れ、お近くの郵便ポストに投函してください。（※切手不要）

宝塚市障^{がい}碍者差別解消に関する条例

宝塚市条例第38号

宝塚市^{がい}障害者差別解消に関する条例

目次

前文

第1章 総則（第1条—第6条）

第2章 障害^{がい}を理由とする差別を解消するための施策

第1節 普及啓発（第7条・第8条）

第2節 障害^{がい}を理由とする差別の解消のための手続（第9条—第13条）

第3節 宝塚市障害^{がい}を理由とする差別の解消に関する調整委員会（第14条）

第3章 宝塚市障害者差別解消支援地域協議会（第15条）

第4章 雑則（第16条・第17条）

第5章 罰則（第18条）

附則

全ての市民は、障害の有無にかかわらず、基本的人権を享有するかけがえない個人としての尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活が保障される権利を有しています。

宝塚市は、平成11年に「シンシアのまち宝塚」を宣言し、全国に先駆けて、身体障害者補助犬支援事業に取り組むなど、人にやさしいまちづくりを推進してきました。しかしながら、保育、教育、就労、医療、移動、生活環境、情報、防災など様々な場面で障害のある人への差別が依然として存在しています。

ここに、宝塚市は、全ての市民が障害を理由とする差別の解消に取り組むことにより、障害のある人もない人も共に住みよいまち宝塚を実現するため、この条例を制定します。

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、障害を理由とする差別の解消に関して基本理念を定め、市、市民及び事業者の責務を明らかにするとともに、障害を理由とする差別を解消するための施策を定めることにより、障害を理由とする差別の解消を推進し、もって障害がある者の人権を尊重し、障害の有無にかかわらず、住みよい地域社会を実現することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- （1） 障害者身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難治性疾患その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であって、障害及び社会的障壁により、継続的又は断続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。
- （2） 社会的障壁障害がある者にとって日常生活又は社会生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のものをいう。
- （3） 障害を理由とする差別障害を理由とする不当な差別的取扱いを行うこと又は合理的配慮の提供をしないことをいう。
- （4） 障害を理由とする不当な差別的取扱い客観的にやむを得ないと認められる特別な事情なく、障害又は障害に関連する事由により障害者を区別し、排除し、又は制限すること、障害者に条件をつけることその他の不利益な取扱いをいう。

- (5) 合理的配慮の提供障害者が現に日常生活又は社会生活において、社会的障壁の除去を必要とすることが認識される場合において、当該障害者が障害者でない者と同等の権利を行使するため、その実施が相当と認められる範囲を超えた過重な負担を課すこととなるものを除き、必要かつ適切な変更、調整等を行うことをいう。
- (6) 行政機関等障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号。以下「障害者差別解消法」という。）第2条第3号に規定する行政機関等をいう。
- (7) 事業者市内において商業その他の事業を行う者（行政機関等を除く。）をいう。
- (8) 市民市内に居住し、通勤し、又は通学する者をいう。

（基本理念）

第3条 障害を理由とする差別の解消は、全ての障害者が障害者でない者と等しく、基本的人権を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを前提としつつ、次に掲げる事項を旨として図られなければならない。

- (1) 全ての障害者は、社会を構成する一員として経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されること。
- (2) 全ての障害者は、どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々との共生を妨げられないこと。
- (3) 全ての障害者は、言語その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会が拡大される必要があること。
- (4) 障害を理由とする差別の多くが、障害及び障害者に対する誤解、偏見その他の理解の不足から生じていることを踏まえ、全ての市民が障害及び障害者に対する知識及び理解を深める必要があること。
- (5) 合理的配慮の提供は、障害の特性並びに社会的障壁の除去が求められる具体的場面及び状況に応じて異なり、多様かつ個別性の高いものであり、障害者が現に置かれている状況を踏まえ、双方の建設的対話による相互理解を通じて、代替措置の選択も含め、合理的な範囲で、柔軟に行われる必要があること。
- (6) 差別を解消するための取組は、当該差別をした者を一方的に非難するのではなく、障害の有無にかかわらず、共に学び合い、共に協力していくことを基本とすること。

（差別の禁止）

第4条 何人も、障害を理由とする差別をしてはならない。

（市の責務）

第5条 市は、第3条に規定する基本的な理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、障害を理由とする差別を解消するための施策を総合的かつ計画的に実施するものとする。

（市民及び事業者の責務）

第6条 市民及び事業者は、基本理念にのっとり、障害及び障害者に対する知識及び理解を深めるとともに、市が実施する障害を理由とする差別を解消するための施策に協力するよう努めなければならない。

第2章 障害を理由とする差別を解消するための施策

第1節 普及啓発

（市民及び事業者への啓発）

第7条 市は、障害及び障害者に対する知識及び理解を深めることを市民及び事業者に求め、市民及び事業者が障害を理由とする差別を解消し、合理的配慮の提供を円滑に行うことができるよう、その普及啓発を行うものとする。

（職員研修）

第8条 市（地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第3章の規定の適用を受ける市の経営する企業を除く。）は、障害者差別解消法第10条に規定する職員対応要領を定め、その適切な実施に関する職員研修を行うものとする。

第2節 障害を理由とする差別の解消のための手続

（相談）

第9条 障害者、その家族又は支援者及び事業者は、市に対し、障害を理由とする差別に該当すると思われる事案について相談することができる。

2 市は、前項の規定による相談があったときは、次に掲げる業務を行うものとする。

- （1） 相談を受けた事案に係る事実の確認及び調査を行うこと。
- （2） 必要な情報の提供を行うこと。
- （3） 関係者間の調整を行うこと。
- （4） 関係行政機関への連絡調整を行うこと。

3 市は、障害者の権利擁護のために必要な援助を行う事業所に対し、前項各号に掲げる業務の全部又は一部を委託することができる。この場合において、市は、当該受託事業所と共同して相談業務を行うものとする。

（助言又はあっせんの申立て）

第10条 障害者、その家族又は支援者は、障害を理由とする差別を受けたと思われる事案（行政機関等又は事業者が市内で行う事業におけるものに限る。以下「差別事案」という。）に関して、市長に対し、当該差別事案を解決するために必要な助言又はあっせんの申立てをすることができる。

2 前項の障害者の家族及び支援者は、申立てをすることが当該障害者の意に反することが明らかであると認められるときは、申立てをすることができない。

3 第1項の申立ては、前条第1項の規定による相談を経た後でなければ、これを行うことができない。ただし、正当な理由があるときは、この限りでない。

4 差別事案が次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の申立てをすることができない。

- （1） 行政庁の行った処分 of 取消し又は変更を求めるものであるとき。
- （2） 申立ての原因となる事実のあった日（継続する行為にあっては、その行為の終了した日）から3年を経過しているものであるとき（その間に申立てをしなかったことにつき正当な理由があるときを除く。）。

（調査）

第11条 市長は、前条第1項の申立てがあったときは、その申立てに係る事実について、必要な調査を行うことができる。この場合において、調査の対象者は、正当な理由があるときを除き、これに協力しなければならない。

（助言又はあっせん）

第12条 市長は、前条の調査が終了したときは、第14条第1項に規定する宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会（同項を除き、以下「調整委員会」という。）に対して、当該調査の結果を添えて、助言又はあっせんの手続を開始するよう求めるものとする。

2 調整委員会は、前項の規定による求めがあったときは、次に掲げる場合を除き、助言又はあっせんの手続を開始するものとする。

（1）助言又はあっせんの必要がないと認めるとき。

（2）当該差別事案がその性質上助言又はあっせんをするのに適当でないと認めるとき。

3 調整委員会は、助言又はあっせんのために必要があると認めるときは、当該差別事案の関係者に調整委員会への出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

4 調整委員会は、助言又はあっせんの手続の開始後においても、第2項各号のいずれかに該当することが明らかになったときは、当該手続を中止することができる。

5 調整委員会は、第1項の規定による求めにより助言又はあっせんを行ったときは、市長に対して、その旨を報告するものとする。

6 調整委員会は、第2項各号のいずれかに該当するとして、助言又はあっせんを行わないときは、市長に対して、その旨を報告するものとする。

（勧告及び公表）

第13条 調整委員会は、障害を理由とする差別をしたとされる者が、正当な理由があるときを除き、前条のあっせんを受諾せず、又はこれを受諾したにもかかわらずあっせんに従わないときは、当該障害を理由とする差別をしたとされる者に対して、必要な措置をとるよう勧告することを市長に求めることができる。

2 市長は、調整委員会から前項の規定による勧告を求められたときは、当該障害を理由とする差別をしたとされる者に必要な措置をとるよう勧告することができる。

3 市長は、前項の規定による勧告をしようとするときは、あらかじめ当該勧告を受ける者に対しその旨を通知し、かつ、その者に対し意見を述べる機会を与えなければならない。

4 市長は、第2項の規定による勧告を受けた者が、正当な理由なく当該勧告に従わないときは、その旨を公表することができる。

5 市長は、前項の規定による公表をしようとするときは、あらかじめ当該公表に係る者に対しその旨を通知し、かつ、その者に対し意見を述べる機会を与えなければならない。

第3節 宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会

（調整委員会）

第14条 市は、差別事案に関する申立てに係る助言又はあっせんを行うため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づく市長の附属機関として宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会を設置する。

2 調整委員会は、委員7人以内をもって組織する。

3 委員は、職務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

4 この条例に定めるもののほか、調整委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、執行機関の附属機関設置に関する条例（昭和41年条例第1号）の定めるところによる。

第3章 宝塚市障害者差別解消支援地域協議会

第15条 市は、障害者差別解消法第17条第1項の規定に基づき、宝塚市障害者差別解消支援地域協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

第4章 雑則

（施策の実施状況の確認及び評価）

第16条 市は、この条例に基づく施策の実施状況を確認し、及び評価した上で公表し、施策に反映するものとする。

2 市は、施策の実施状況の確認及び評価をするに当たっては、協議会において協議を行うものとする。

（委任）

第17条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、別に市長が定める。

第5章 罰則

第18条 第14条第3項に違反した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成29年1月1日から施行する。ただし、第10条から第14条まで及び第18条並びに附則第4項の規定は、平成29年7月1日から施行する。

（検討）

2 市長は、この条例の施行後3年を目途として、この条例の施行の状況、社会情勢の推移等を勘案し、必要があると認めるときは、この条例の規定について検討を加え、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

3 市長は、前項の規定による検討を加えるに当たっては、協議会において協議を行うものとする。（執行機関の附属機関設置に関する条例の一部改正）

4 執行機関の附属機関設置に関する条例（昭和41年条例第1号）の一部を次のように改正する。第1条の表市長の部宝塚市介護老人福祉施設等事業者選考委員会の項の次に次のように加える。

宝塚市障害を理由とする差別の解消に関する調整委員会	宝塚市障害者差別解消に関する条例（平成28年条例第38号）第10条第1項に規定する差別事案を解決するために必要な助言又はあっせんに関する事務	7人以内	知識経験者3人以内 事業主を代表する者 2人以内 障害者その他障害を理由とする差別の解消に関して理解のある者2人以内
---------------------------	--	------	---

宝塚市手話言語条例

宝塚市条例第37号

宝塚市手話言語条例

私たちは、言語を使うことにより、他者とコミュニケーションを図り、社会生活を営み、さらに、知識を蓄え、文化を創造してきました。

手話もまた、音声言語である日本語とは異なる独自の体系を持つ言語であり、ろう者によって使われ、育まれてきました。障害者の権利に関する条約や障害者基本法においても、手話は言語の一つとして、明記されています。

しかし、今なお、手話は言語である、との認識は十分にされておらず、手話を使用しやすい環境が整えられているとはいえません。

全ての市民が心豊かに共に生きる地域社会を実現していくためには、市民が相互に人格と個性を尊重するとともに、市、市民及び事業者全てが言語を含めた市民の中にある多様性を理解することが大切です。

ここに、私たちは、手話は言語であることを認識し、手話への理解に努め、手話を使用しやすい環境づくりを推進することにより、インクルーシブな地域社会の実現を目指すことを決意し、この条例を制定します。

(目的)

第1条 この条例は、手話への理解の促進及び手話の普及に関する基本理念を定め、市の責務並びに市民及び事業者の役割を明らかにするとともに、市が推進する施策を定めることにより、全ての市民が相互に人格及び個性を尊重し、心豊かに共に生きる地域社会を実現することを目的とする。

(基本理念)

第2条 手話への理解の促進及び手話の普及は、手話は音声言語である日本語とは異なる独自の体系を持つ言語であるとの認識に基づき、市民が手話により意思疎通を図る権利を有すること及びその権利を尊重することを基本として行われなければならない。

(市の責務)

第3条 市は、前条に規定する基本的な理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、手話への理解の促進及び手話の普及を図り、市民が手話を使用しやすい環境を整備するため、必要な施策を推進するものとする。

(市民及び事業者の役割)

第4条 市民及び事業者は、基本理念に対する理解を深め、市が推進する施策に協力するよう努めるものとする。

(施策の推進)

第5条 市は、次に掲げる施策を推進するものとする。

- (1) 手話に係る研修及び啓発（学校教育におけるものを含む。）に関すること。
- (2) 手話による情報発信及び情報取得に関すること。
- (3) 手話による意思疎通支援に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、手話への理解の促進及び手話の普及に関し市長が必要があると認めること。

(意見の聴取)

第6条 市長は、前条に掲げる施策の実施状況、見直しその他手話への理解の促進及び手話の普及に関し必要な事項について、広く市民、事業者、知識経験者その他市長が必要があると認める者に意見を聴くものとする。

(委任)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に市長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。